

青少年のネット利用実態把握を 目的とした調査

令和元年度最終報告書

令和3年4月
一般財団法人LINEみらい財団

調査概要

はじめに

本調査結果の要点

結果詳細

1. 携帯電話の保有状況と利用実態
2. ネットリテラシーの程度とネットトラブル対策
3. ネット上での暴力的表現等に関する分析
4. ネット上での出会いに関する分析
5. 情報モラル教育に関する分析

Appendix

6. サービス別利用状況
7. サービス利用の経年変化（高校生）
8. LINEで経験したトラブルの傾向（高校生）
9. 勉強時間・睡眠時間等の生活時間と携帯電話等の利用時間との相関分析（高校生）

調査概要 1

調査目的	<ul style="list-style-type: none">・神奈川県内の情報モラル教育の促進策（教材制作、指導法開発等）に資する情報収集及び検証・青少年のネット利用実態に関する継続調査（経年変化）
調査手法	郵送調査
調査対象者	神奈川県の小学校（6校）、中学校（5校）、高等学校（4校）
回答数 （有効回答数）	小学生1,679名(有効回答1,641名)、中学生1,881名(有効回答1,866名)、高校生3,465名(有効回答3,129名) 合計7,025名（有効回答6,636名）
質問数	小学生30問、中学生30問、高校生51問
主な質問項目	<ul style="list-style-type: none">・生活時間や学習環境など・携帯電話等の利用状況・ネットサービスの利用状況・ネット利用に関してのメリット（高校生のみ）・ネット利用に関してのデメリット・家庭内ルールの有無や順守割合・ネット利用のマナーや法的理解度・情報モラル教育の経験や気づきの有無・LINE利用に伴うトラブルなど（高校生のみ）
調査時期	2019年10月～12月
過去実施状況	平成28年度、平成29年度、平成30年度
調査主体	LINE株式会社 一般財団法人 LINEみらい財団※

※ 2020年4月より、LINE株式会社からLINEみらい財団に調査主体が移管

調査概要 2

全体で7,025の回答（うち有効回答数は6,636名）となりました。有効回答の性別は男性52.6%、女性47.0%、性別未記入は0.4%です。

	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	未記入 無効	合計
合計	450	587	604	628	631	607	1,143	1,073	913	389	7,025
男性	229	288	309	353	331	305	620	582	476	14	3,507
女性	219	294	293	273	299	296	520	487	435	13	3,129
未記入	2	5	2	2	1	6	3	4	2	362	389

	小学生	中学生	高校生
合計	1,679	1,881	3,465
有効回答	1,641	1,866	3,129

※小学生と中学生は、学年が未記入のものを無効としました。

高校生は、学年もしくは特定の質問で2の回答を指定したものの2と回答されなかったものを無効としました。

エビデンスに基づいて、子どもたちの学習を支援する

上記はLINEみらい財団が情報モラル教育を実践するひとつの指針となります。

本報告書はそのエビデンスの核となるものであり、おかげさまで昨年度に続きリリースすることができました。アンケート調査に賛同をいただいた神奈川県内の小中高15校の先生方、そしてアンケートに真摯に向き合って回答いただいた児童・生徒のみなさまにはこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

LINE株式会社は、2018年5月21日に、神奈川県警察および神奈川県教育委員会と、インターネット利用に起因した、いじめや非行・被害、トラブル等を防止するため、情報モラルの向上と規範意識の醸成を図ることを目的に、「インターネットに起因した非行・被害等の防止対策に関する協定」（以下、「本協定」といいます）を締結いたしました。

すでに神奈川県警察ではインターネット利用に起因したトラブルの防止のための指導を児童生徒に実施しているほか、学校現場では、教員自らによる情報モラル教育が行われています。しかし、情報モラル教育は、道徳や倫理にまつわる人格育成の領域から、インターネットの技術やビジネスモデル、法律・セキュリティといった専門分野まで広範に及ぶことから、学校現場での実践にあたっては一部難しさも存在します。そこで、児童・生徒のより良い学びにつなげるために、本協定では、県内の多くの情報モラル指導者が使える教材を目指し、本調査結果等のエビデンスを

集めながら教材制作を進めています。

本調査では、携帯電話等の保有率やネットの利用状況といった利用実態面を経年で比較している他、今回は、神奈川県内の情報モラル教育の促進策（教材制作、指導法開発等）に資する情報収集及び検証のために、県内の情報モラル教育の実施状況、受講後の児童生徒の気づきの内容、教育内容と気づきの関係等、教育部分を積極的に調査・分析いたしました。本報告書が情報モラル教育に関わる方々の一助となれば幸いです。

平成の時代が終わり、令和という新しい時代に入りました。

少子高齢化にともなう社会構造の変化やAI、IoTなどの言葉に象徴される超情報化社会の到来を目の前にして、我々大人は子どもたちのために、次なる社会を生き抜く資質・能力を育成するための教育環境を整備する責務があります。そして、新型コロナウイルスの影響や、GIGAスクール構想による1人1台端末や通信ネットワーク環境等の整備の進展により、今後は学校現場での学び方が変わることでしょう。それゆえ今後は情報モラル教育の必要性が更に高まり、その手法や内容も変容することが予想されます。

LINEみらい財団は、インターネットを子どもたちが賢く適切に使えるように、今後も情報モラル教育の推進に尽力してまいります。

本調査結果の要点

本調査結果の要点①

本調査では、青少年のネット利用実態把握のため、様々な視点からデータを収集・分析いたしました。本報告書では、その中から「ネット上での暴力的表現等」「ネット上での出会い」「情報モラル教育」の3つを重要なテーマと設定いたしました。ここでは特徴的な傾向を中心に、以下の通りまとめています。

サマリー

1. ネット上での暴力的表現等

- ① 暴力的表現等の加害経験と被害経験の割合 (P9)
 - ▶ 加害経験の頻度、被害経験の頻度ともに中学1年生、高校1年生で高くなる傾向
- ② 暴力的表現等の被害経験と加害経験の関係 (P10)
 - ▶ 被害経験の頻度が高いと加害経験の頻度も高くなる傾向
- ③ 携帯電話利用のマナー意識及び家庭内ルールの遵守の程度と暴力的表現等の加害行為との関係 (P11)
 - ▶ マナー意識・ルール遵守の程度が低いと加害経験の頻度は高くなる傾向

2. ネット上での出会い

- ① ネット上で知り合った友達数と性別 (P13)
 - ▶ 学年が上がるにつれて増える傾向 (中1で大きく増加)。主に同性間で知り合う傾向
- ② ネット上で知り合った友達の年齢層と実際に出会った経験 (P14)
 - ▶ 高校生がネットで知り合った友達の約7割は高校生同士。知り合った友達と実際に会った経験は約6割
- ③ ネット上で最も親しくなった人と知り合ったきっかけのサービスと相手の年齢層 (P15)
 - ▶ 中学生、高校生になると同じ学校の生徒以外はSNS上で交友関係が広がる傾向
- ④ SNS上での顔写真利用とメッセージ受信頻度 (P16,17)
 - ▶ 中学生の約2割がSNS上で顔写真を公開。知らない人からのメッセージの受信頻度は、学年が上がると高くなる傾向 (特に中1で大きく増加)。そして、SNS上で顔写真を公開するほど、メッセージの受信頻度は高くなる傾向
- ⑤ 写真を要求された場合の行動 (P18)
 - ▶ 断るとの回答が最も多い。写真を送付するとの回答は小学校高学年から高くなる傾向

3. 情報モラル教育

① 情報モラル教育の内容と受講後の気づき (P20)

▶ 「長時間利用」の受講経験は他の学年と比べ特に小学生が高い。その他のテーマ（出会い、コミュニケーション、個人情報）の受講経験は、学年問わず高い傾向。気づきの有無は、学年問わず7割前後の児童生徒が、気づきがあったと回答。

② 情報モラル教育における教育内容と、気づきの内容との関係 (P21)

▶ 教育内容問わず全体的には、知識獲得面の割合が最も高く、最も少ないのが行動変容面。

③ 教育内容ごとの効果検証 (P22,23)

▶ 「ネット上での出会い」をテーマにした教育の受講経験があると、知らない人から写真を送れと言われたときに「断る」を選択する割合が特に小学生で高くなる傾向となり、フィルタリングの設定率は特に中学生、高校生で高くなる傾向

▶ 「ネット上でのコミュニケーション」をテーマにした教育経験があると、暴力的発言等の加害行為に関して、特に中学生で経験率が低くなる傾向となり、知らない人から写真を送れと言われたときに「断る」を選択する割合が特に小学生で高くなる傾向。

▶ 「ネット上の個人情報」をテーマにした教育の受講経験があると、知らない人から写真を送れと言われたときに「断る」を選択する割合が、特に小学生で高い傾向だが、SNS上で自分の顔写真を掲載することに関しては、教育を受けてない児童・生徒との差がなかった。

4. その他

① トラブル時の相談先 (P25)

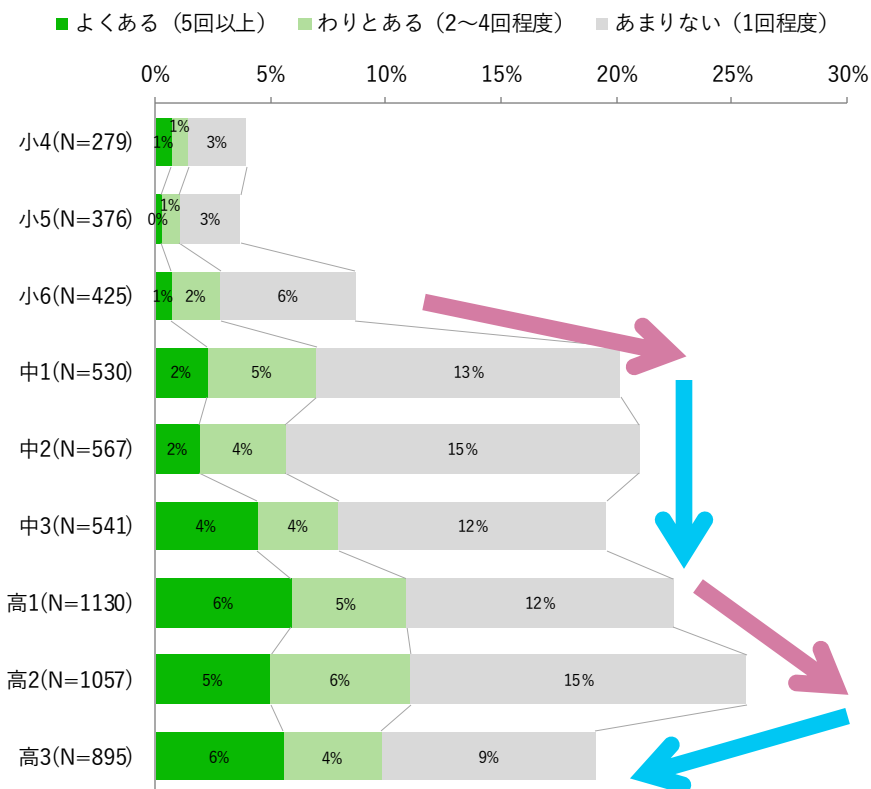
▶ 各学年3割前後がトラブルにあっても「相談しなかった」と回答

1. ネット上での暴力的表現等

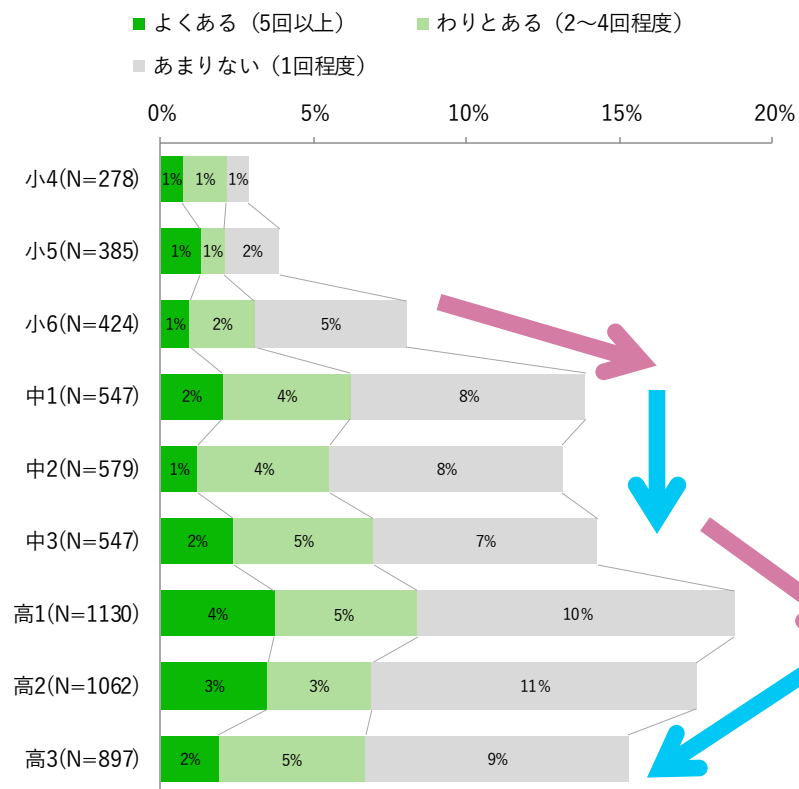
① 暴力的表現等の加害経験と被害経験の割合

本調査では、暴力的表現や悪口、いやなこと（以下、「暴力的表現等」といいます）のこの1年間での加害経験及び被害経験の有無について学年別に集計いたしました。加害経験、被害経験ともに中学校1年生で大幅に高くなり、高校1年生でさらに高くなる傾向となります。

問.この1年間で、あなたは、暴力的表現（「殴るぞ」など）や、悪口やいやなこと（画像を含む）などを、ネット(SNS、メッセージサービス等)に書き込んだり、送ったりしたことがありますか。



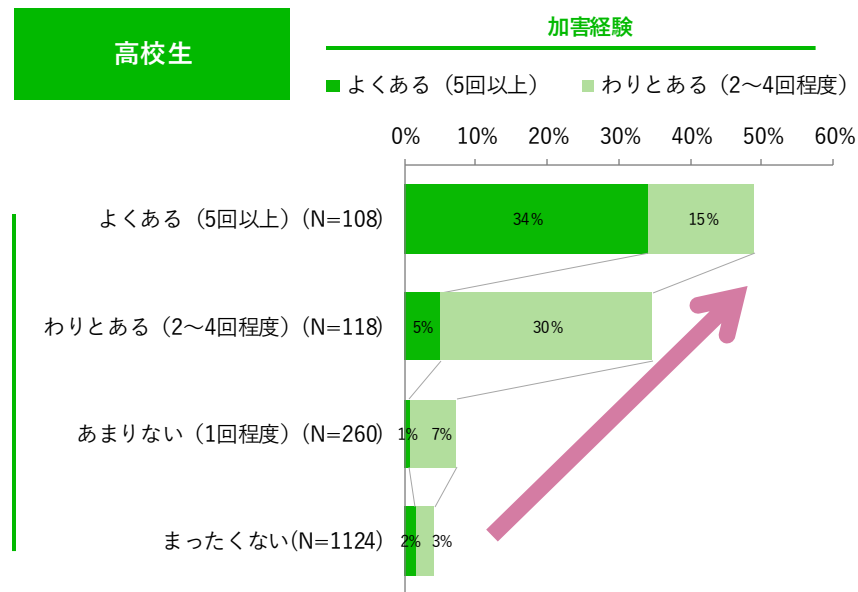
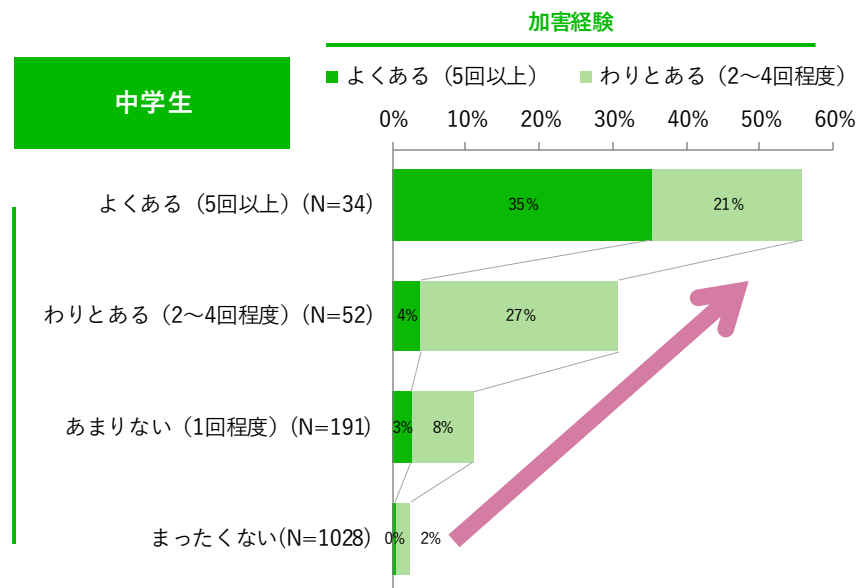
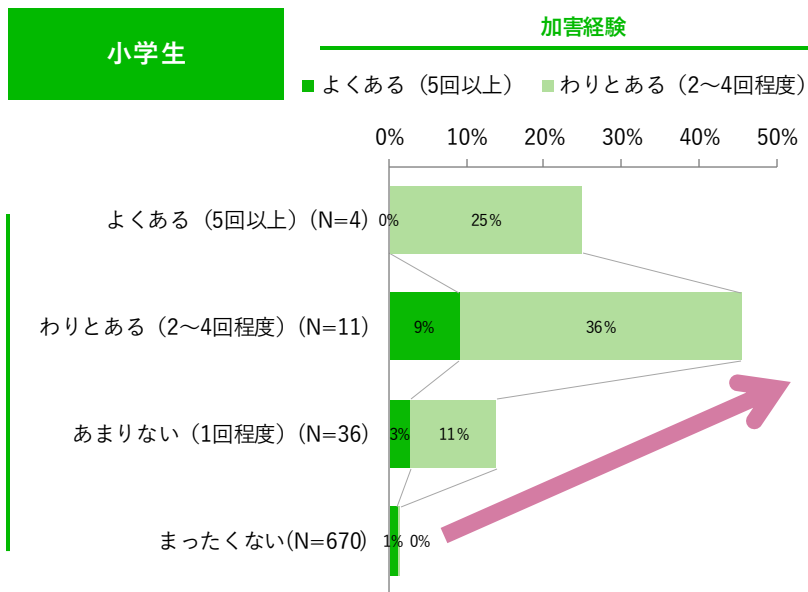
問. この1年間にネット上で、暴力的表現（「殴るぞ」などや、悪口やいやなことを含む）を書き込まれたりしたことがありますか。



1. ネット上での暴力的表現等

② 暴力的表現等の被害経験と加害経験の関係

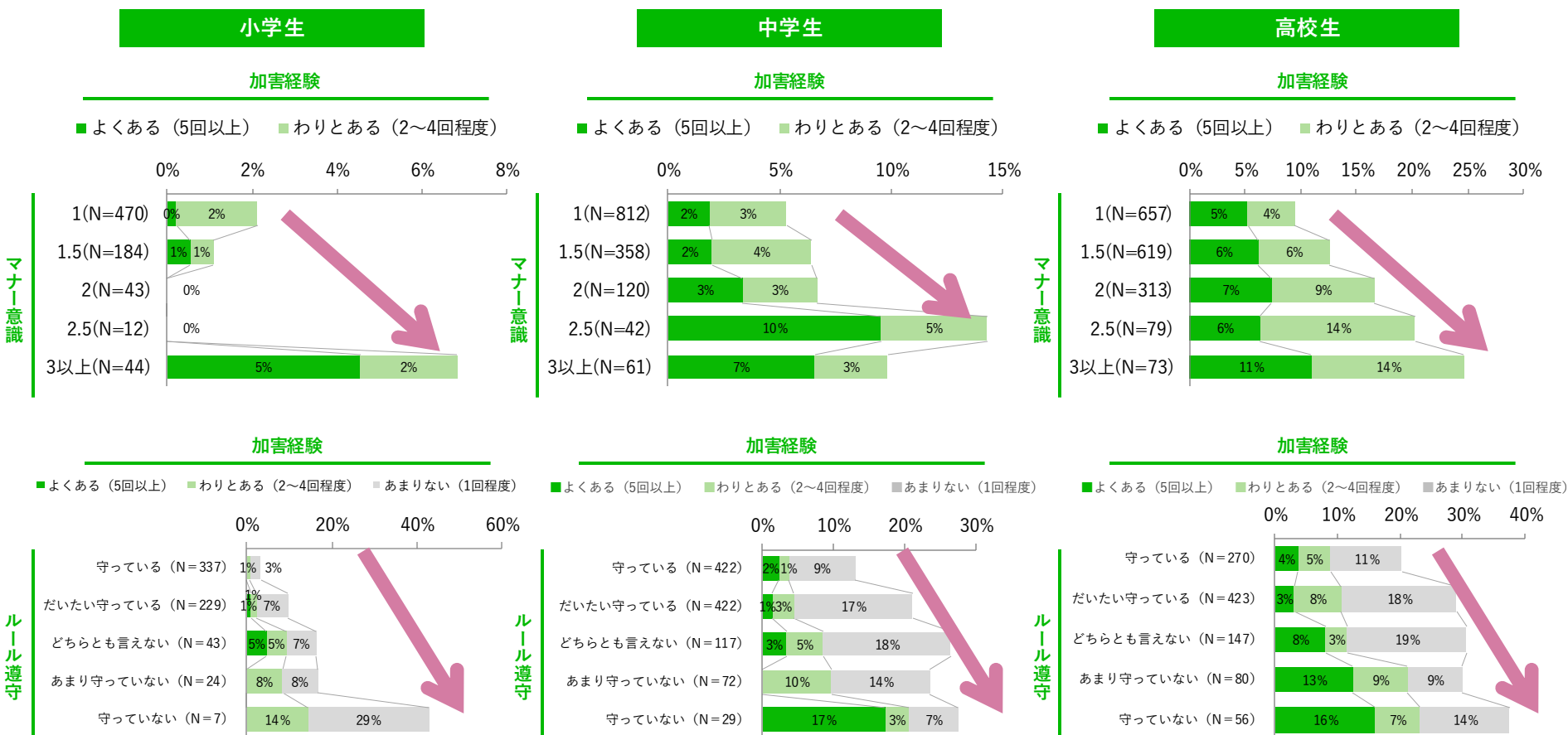
暴力的表現等の被害経験と加害経験を比較すると、小学生・中学生・高校生ともに、被害経験の頻度が高いと加害経験の頻度も高まる傾向にあります。



1. ネット上での暴力的表現等

③ 携帯電話利用のマナー意識及び家庭内ルールへの順守の程度と暴力的表現等の加害行為の関係

携帯電話利用のマナー意識*と暴力的表現等の加害経験との関係及び、家庭内ルールへの順守割合と暴力的表現等の加害経験との関係においては、小学生・中学生・高校生ともに、マナー意識・ルール遵守の程度が低いと加害経験の頻度は高くなる傾向にあります。



*マナー意識の得点は、問の各設問への回答に関して、1.とても悪い、2.少し悪い、3.あまり悪くない、4.全く悪くない、5.わからないを、それぞれの選択肢の番号を数値として利用し、平均値をマナー意識として利用した。得点が高いほど、マナー違反に対して「悪くない・わからない」という割合が高くなる。

1. ネット上での暴力的表現等

考察

- ・ 暴力的表現等の加害経験と被害経験の割合においては、加害経験、被害経験ともに中1、高1で高くなりますが、携帯端末等の持ち始めや校種の変更による新たな人間関係が始まるタイミング（特に中1）で暴力的表現等が発生しやすいため、小学校高学年、中1あたりでの情報モラル教育の必要性は高いといえます。
- ・ 被害経験の頻度が高いと加害経験の頻度も高まる傾向からは、ネット上では加害行為へのハードルが比較的低いとも考えられます。マナー意識やルール順守が加害経験の発生と関係しているため、道徳教育等による倫理観、規範意識の醸成の重要性が示唆されました。

※もっと詳しく知りたい方へ

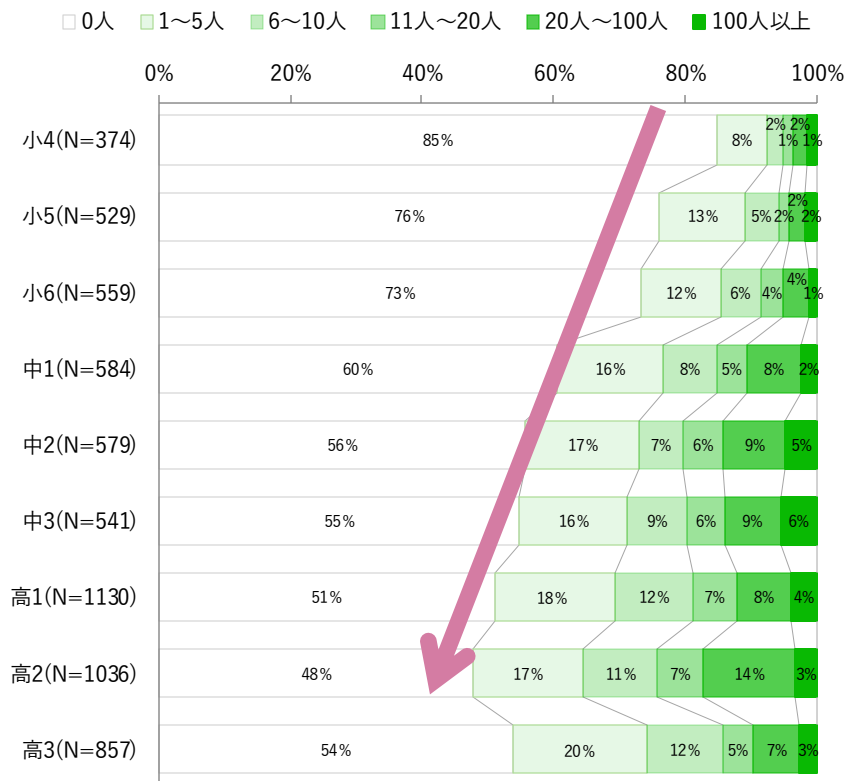
「ネット上での暴力的表現等」に関するデータの詳細は、本報告書P41～49にまとめておりますので、そちらも合わせてご参照ください。

2. ネット上での出会い

① ネット上で知り合った友達数と性別

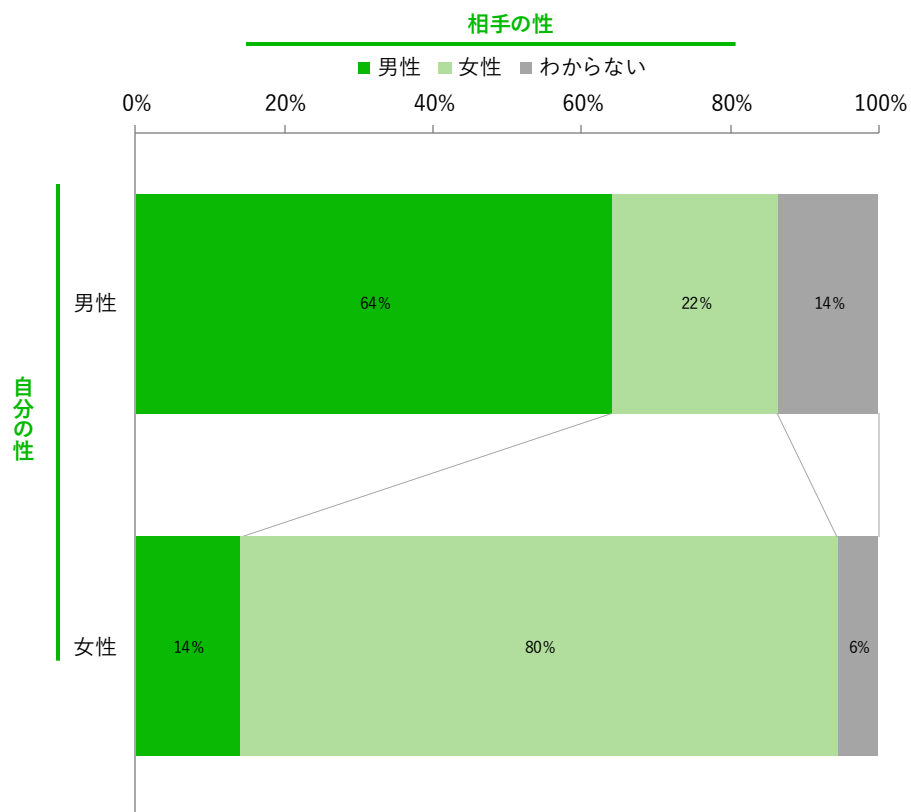
ネットで知り合った友達数は、学年が上がるにつれて増える傾向があり、小6では0人が73%ですが、中1で60%、高1で51%です。出会う属性は性別ごとで見ると、同性間で知り合う傾向にあります（男性間では64%と、女性間では80% ※高校生データ）。

問：あなたには、ネットがきっかけで知り合った友達は何人ぐらいいますか。



(縦軸) 本人の性別

(横軸) 問：ネットで知り合って、最も親しくなった友達はどのような人ですか。

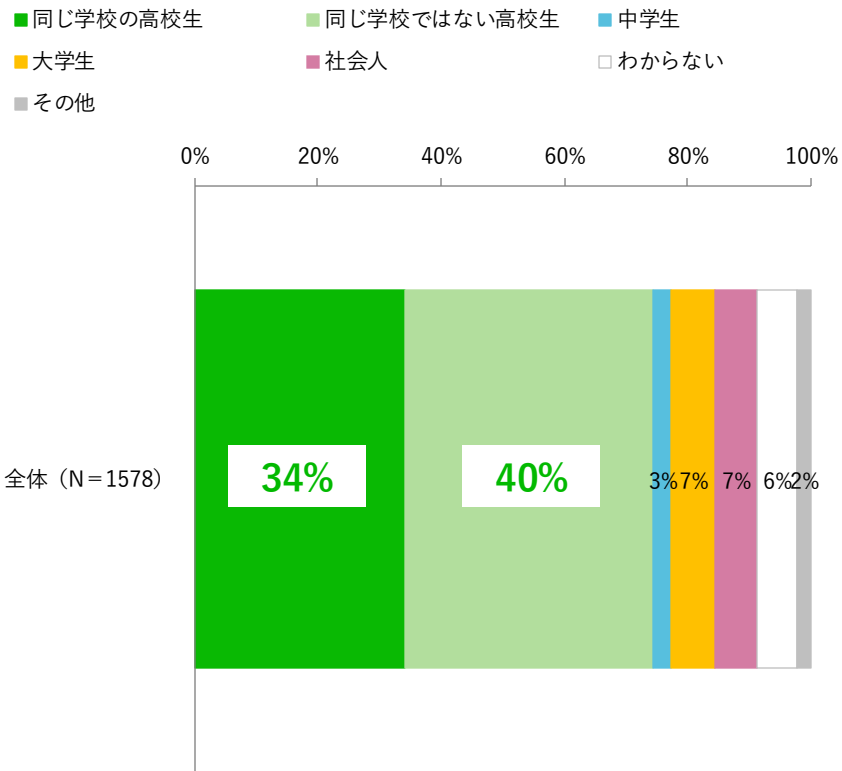


2. ネット上での出会い

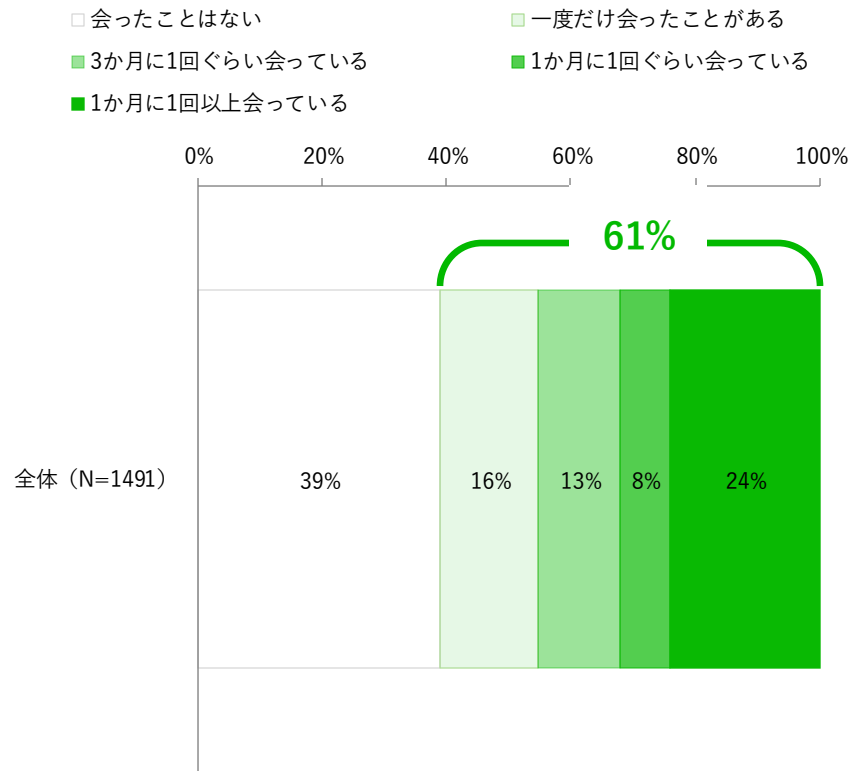
② ネット上で知り合った友達の年齢層と実際に出会った経験（高校生）

ネットで知り合った友達の年齢層は同じ学校の高校生が34%、別の高校の高校生が40%と同年代の高校生と知り合う割合が高くなっています。ネットで知り合った友達と実際に出会った経験は61%となっています。

問：ネットで知り合って、最も親しくなった友達はどのような人ですか。



問：ネットで知り合った友達の中で、最も親しい人との1年間に会ったことはありますか。

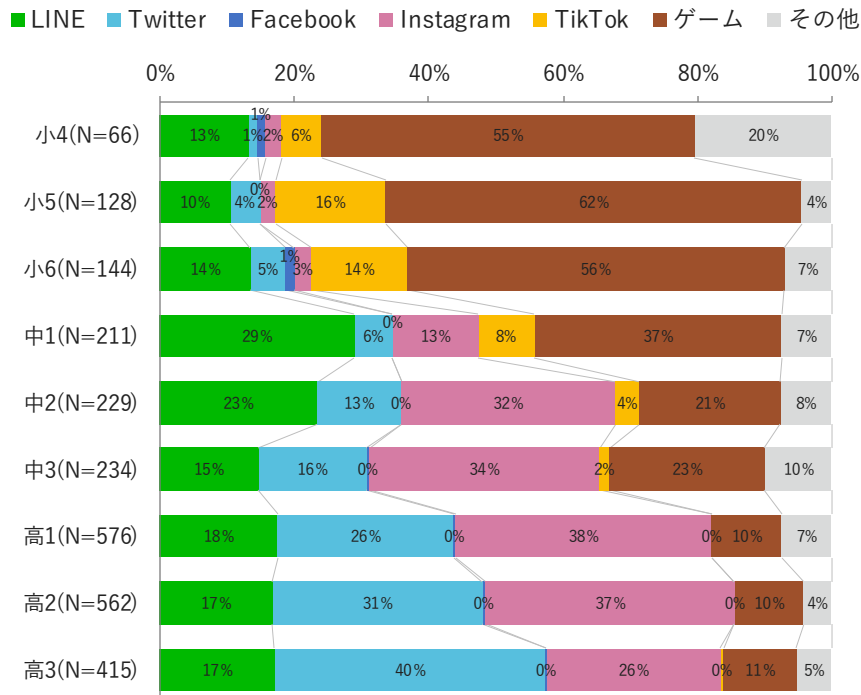


2. ネット上での出会い

③ ネット上で最も親しくなった人と知り合ったきっかけのサービスと相手の年齢層

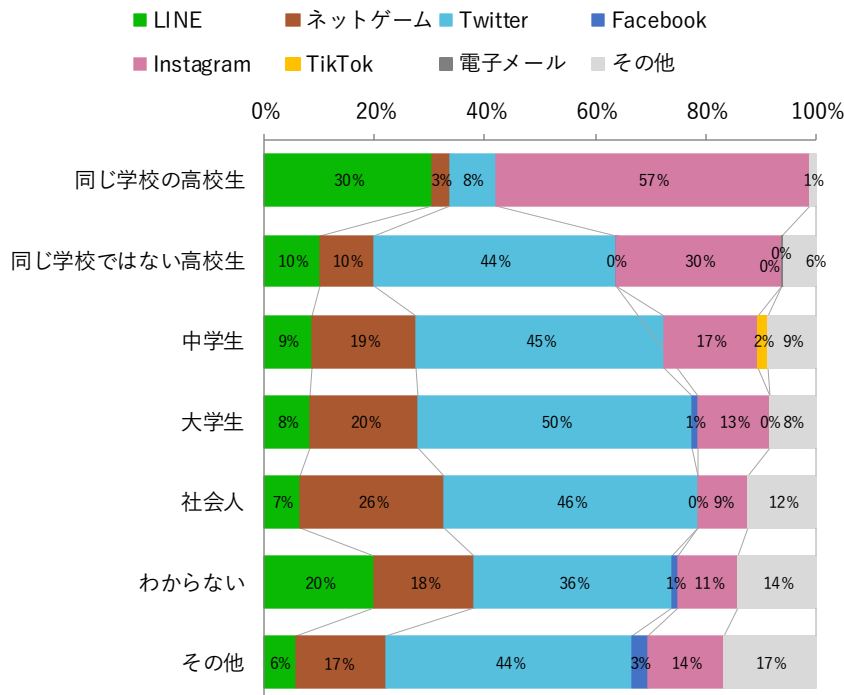
ネット上で最も親しくなった人と知り合ったきっかけとなるサービスは、小学生はゲーム、中学生からはInstagram、高校生になるとTwitterの割合が多くなります。出会った相手の年齢層ときっかけとなったサービスを比較すると、同じ高校の高校生はInstagramが多く、他の高校や大学生・社会人などはTwitterが多くなっています（※高校生データ）。

問：ネットがきっかけで知り合った友達の中で、「最も親しくなった人」と知り合ったきっかけのサービスはどれですか。



問：ネットがきっかけで知り合った友達の中で、「最も親しくなった人」と知り合ったきっかけのサービスはどれですか。

問：ネットで知り合って、最も親しくなった友達はどのような人ですか。

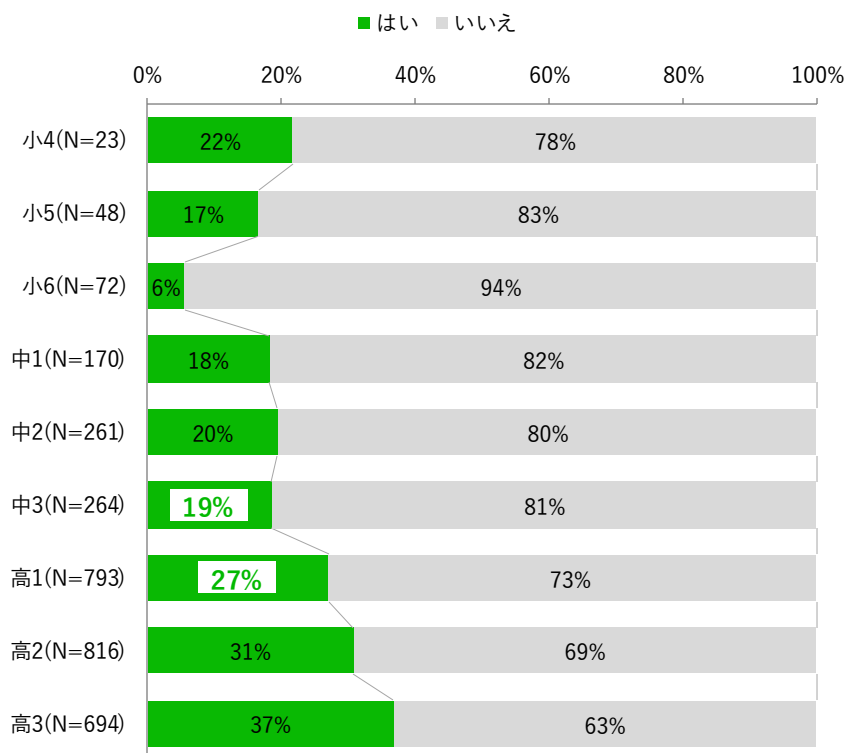


2. ネット上での出会い

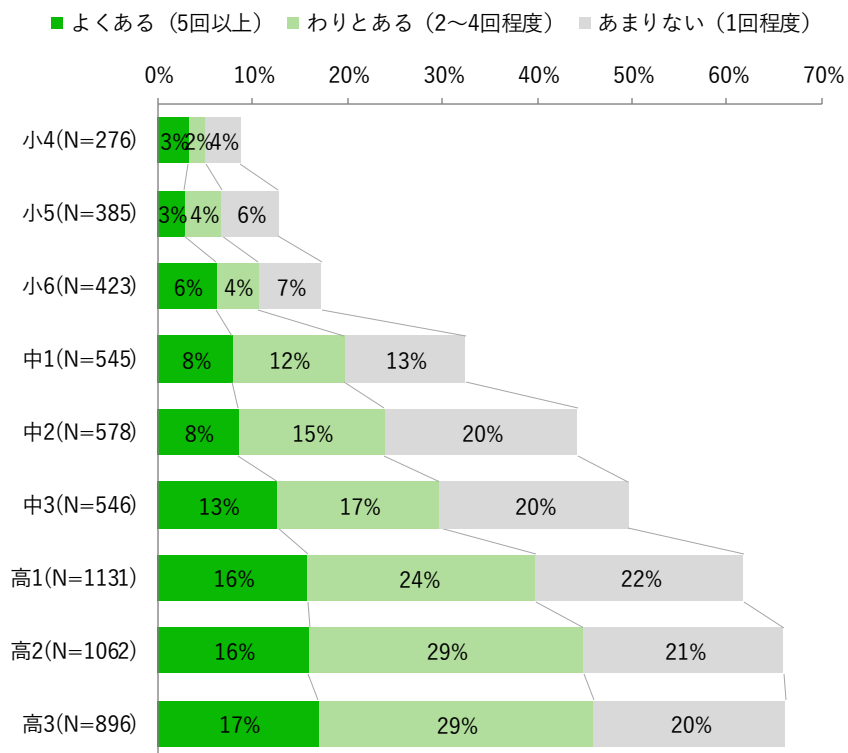
④ SNS上での顔写真利用とメッセージ受信頻度

SNS上での顔写真の公開割合は、高校進学時（中3で19%から高1で27%）に大きく増加しています。知らない人からのメッセージの受信頻度は、学年が上がるにつれ高くなる傾向で、特に中1で大きく増加します。知らない人からのメッセージの受信頻度は、自分の顔写真をプロフィールに使っている人ほど、小学生、中学生、高校生ともに高まる傾向となります。

SNS利用のうち「プロフィール画面に自分の顔写真を使っている」



問：この1年間にネット上で、知らない人からメッセージが届いたことがありますか。



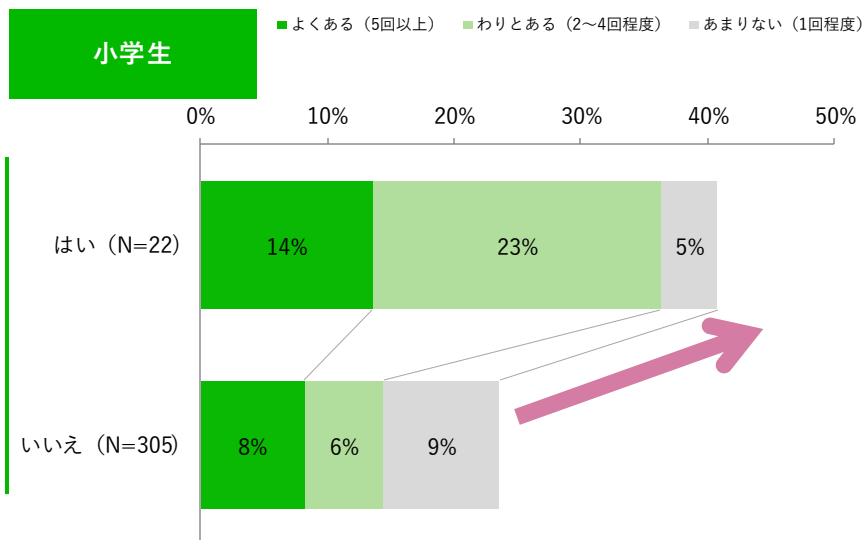
本調査結果の要点⑪

SNS上での顔写真利用とメッセージ受信頻度との関係

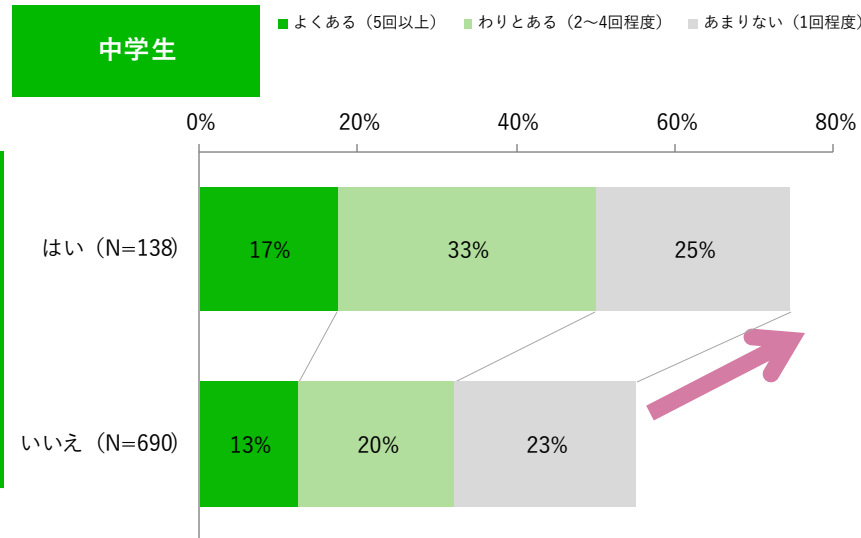
(メッセージ受信頻度) 問：この1年間にネット上で、知らない人からメッセージが届いたことがありますか。

(顔写真利用) 問：あなたは、SNSやメッセージサービスで、自分の個人情報を公開していますか。(プロフィール画面の自分の顔写真)

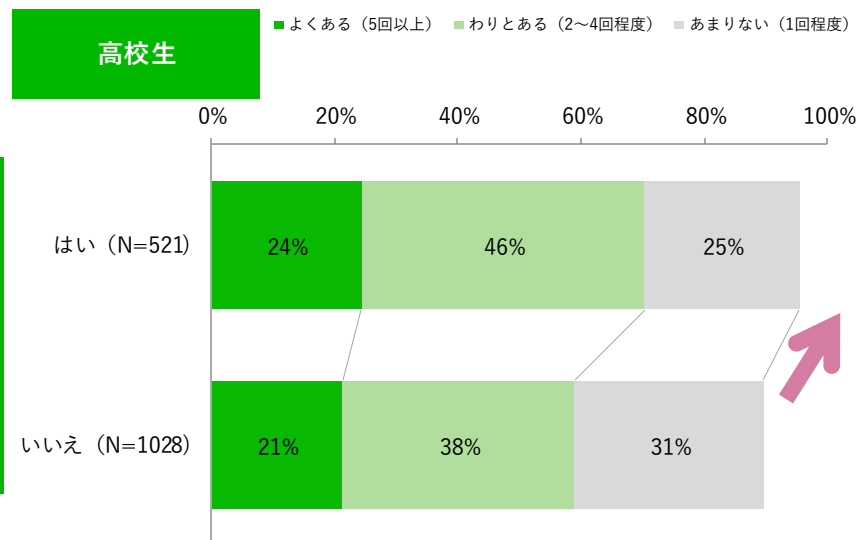
メッセージ受信頻度



メッセージ受信頻度



メッセージ受信頻度

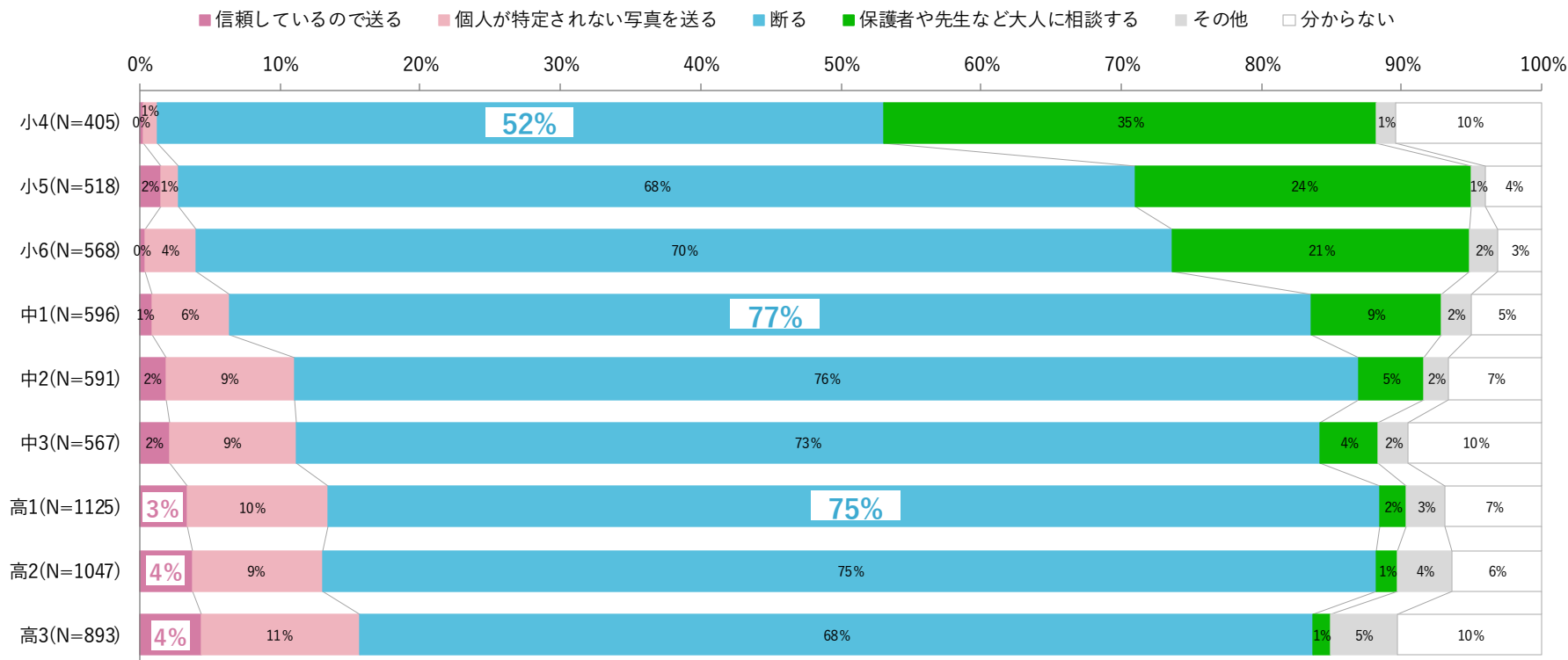


2. ネット上での出会い

⑤ 写真を要求された場合の行動

「断る」と回答したのは、小4で52%、中1で77%、高1で75%と小学生から中学生までは上昇するものの、それ以降は75%前後で推移しています。一方「信頼しているので送る」と回答したのは、高1で3%、高2で4%、高3で4%と低いものの、高校生では一定の割合でいます。

問. ネット上で親しくなった人から自分の写真を要求されたら、どうしますか？



2. ネット上での出会い

考察

特に中学生からSNSの使用率が高まり、中1からネットで知り合う機会が増え、高校生では6割程度が実際に会うことから、中学生段階から出会いに伴うリスクへの意識醸成は必要といえます。また、顔写真の公開する人ほど知らない人からのメッセージの受信頻度は高まることから、個人情報（特に顔写真）を掲載することの影響やリスクについても認識する必要があると考えられます。

※もっと詳しく知りたい方へ

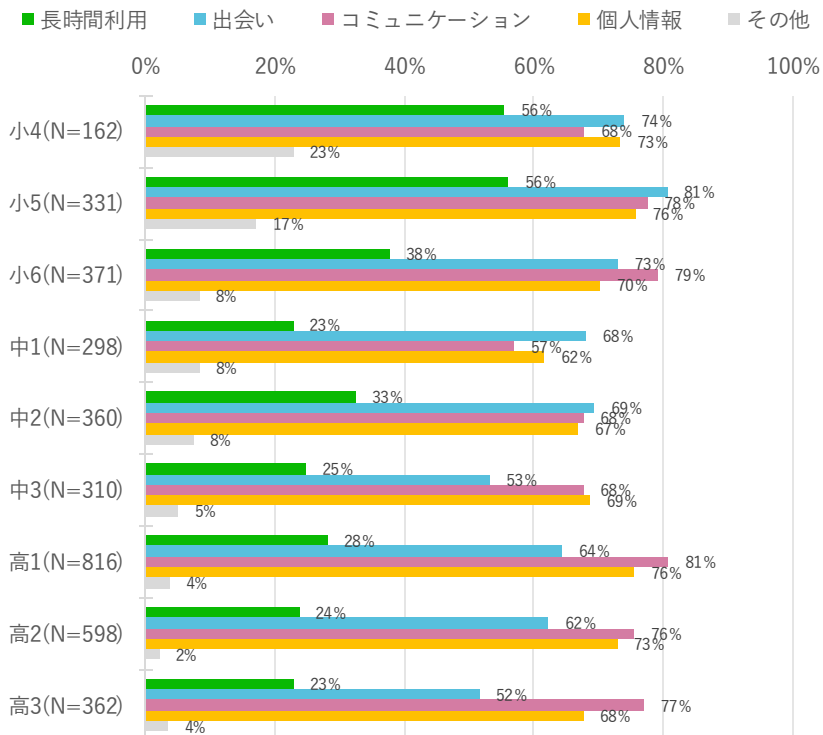
「ネット上での出会い」に関するデータの詳細は、本報告書P50～67にまとめておりますので、そちらも合わせてご参照ください。

3. 情報モラル教育

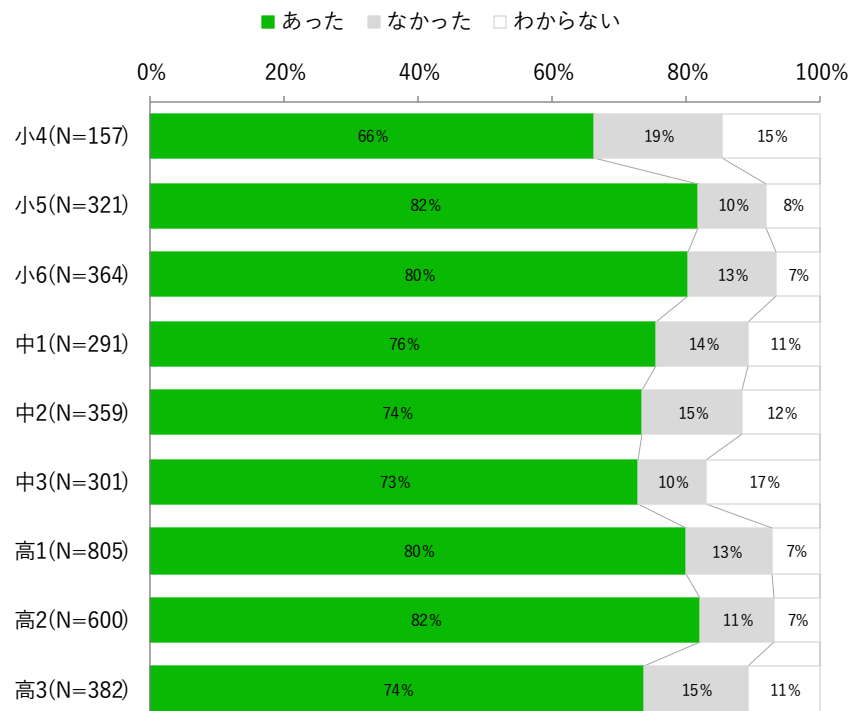
① 情報モラル教育の内容と受講後の気づき

「長時間利用」をテーマとした実施率は他の学年と比べ小学生に多い傾向です（約6割）。その他のテーマ（出会い、コミュニケーション、個人情報）は学年問わず5割～8割あたりで実施されています。受講後の気づきの有無は、各学年7割～8割の児童生徒が、気づきがあったと回答しています。

問25.受けた講習は、どのような内容でしたか。



問：講習を受けて、気づいたことはありました（受講経験者を抽出）

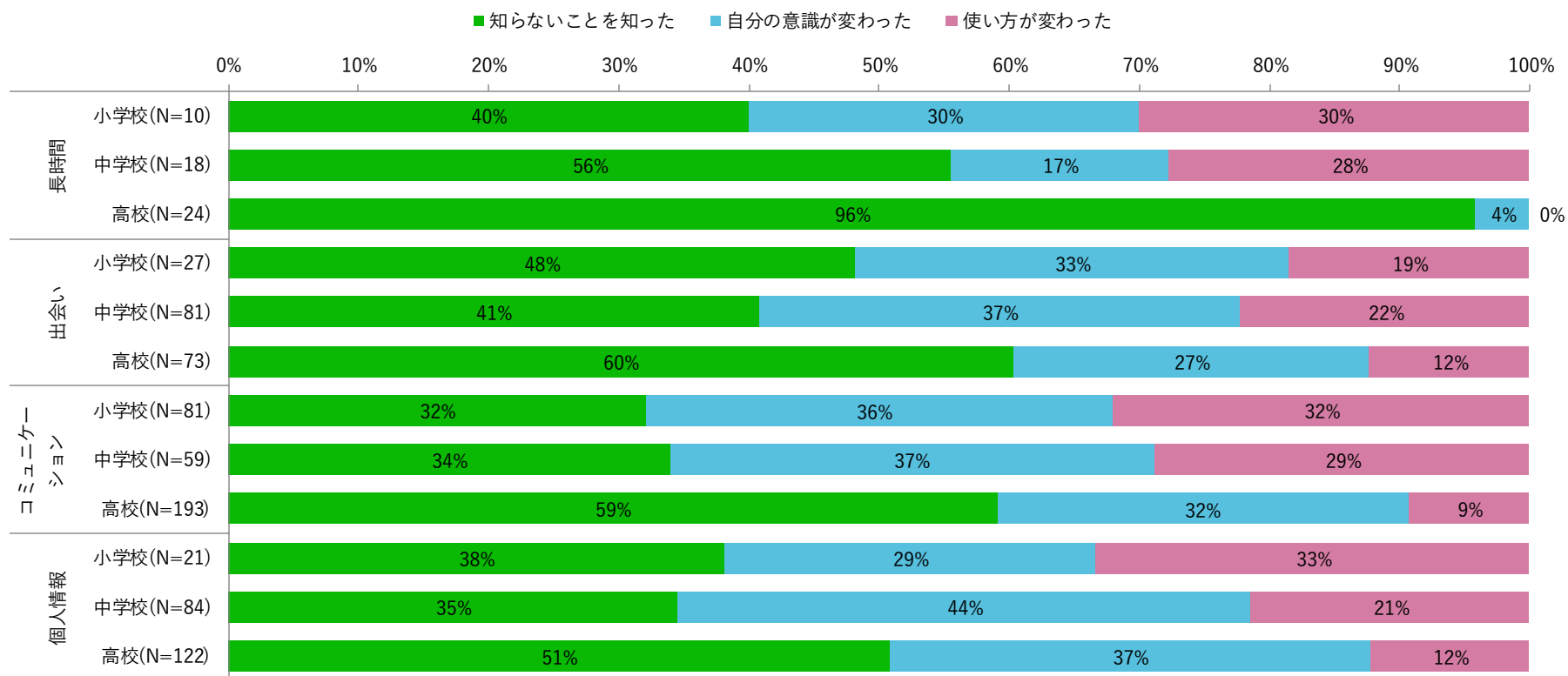


3. 情報モラル教育

② 情報モラル教育における教育内容と、気づきの内容との関係

教育内容問わず全体的には、「知らないことを知った」という知識獲得面の割合が最も高く、次いで「自分の意識が変わった」という意識変容面と続き、最も少ないのが「使い方が変わった」とする行動変容面でした。特に高校生にその傾向が強くなっています。

問：受けた講習は、どのような内容でしたか。
 問：講習を受けて、気づいたことはありましたか。

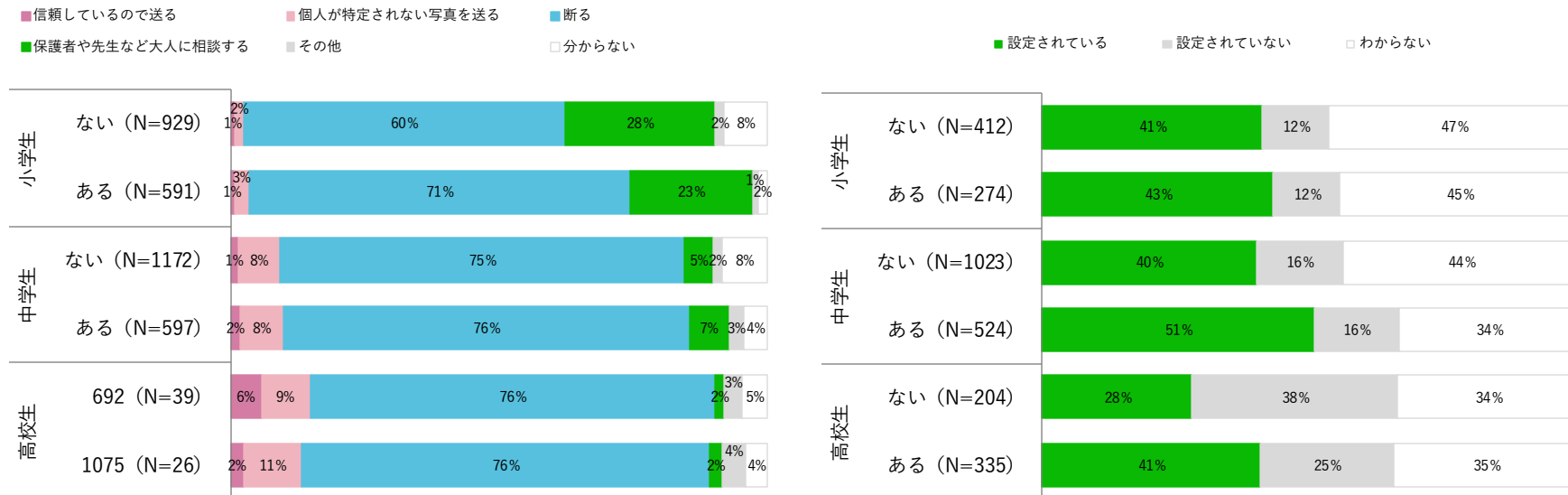


3. 情報モラル教育

③ 教育内容ごとの効果検証

「ネット上での出会い」

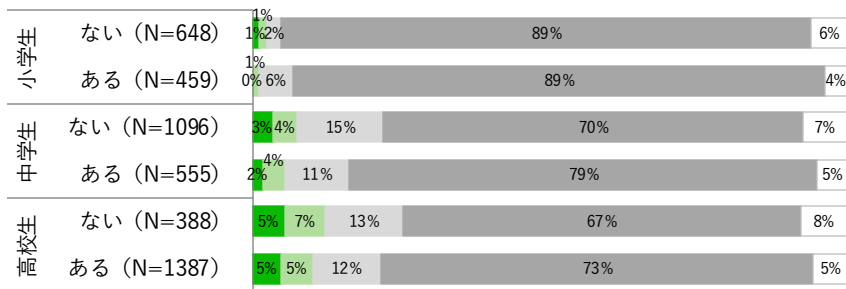
「ネット上での出会い」をテーマにした教育の受講経験があると、知らない人から写真を送れと言われたときに「断る」を選択する割合が特に小学生で高くなる傾向となり、フィルタリングの設定率が特に中学生、高校生で高くなる傾向となりました。



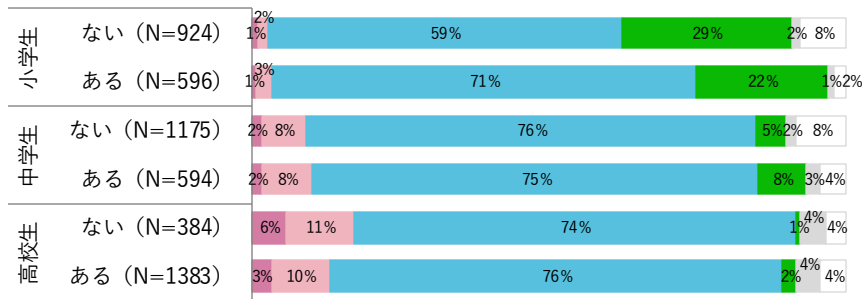
「ネット上でのコミュニケーション」

「ネット上でのコミュニケーション」をテーマにした教育の受講経験があると、暴力的発言等の加害行為に関して、特に中学生で経験率が低くなる傾向となり、知らない人から写真を送れと言われたときに「断る」を選択する割合が特に小学生で高くなる傾向となりました。

■ よくある（5回以上） ■ わりとある（2～4回程度） ■ あまりない（1回程度） ■ まったくない ■ わからない



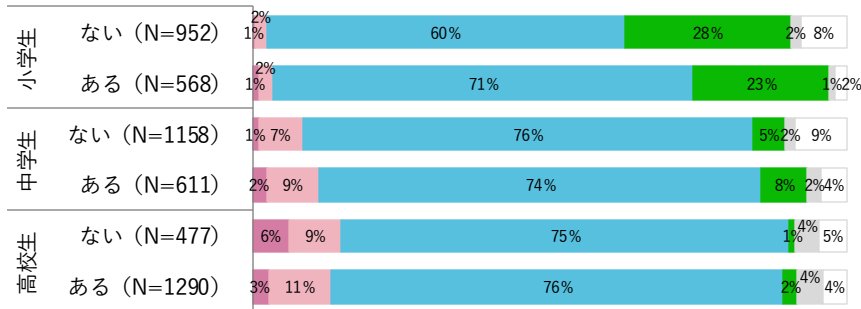
■ 信頼しているので送る ■ 個人が特定されない写真を送る ■ 断る
■ 保護者や先生など大人に相談する ■ その他 ■ 分からない



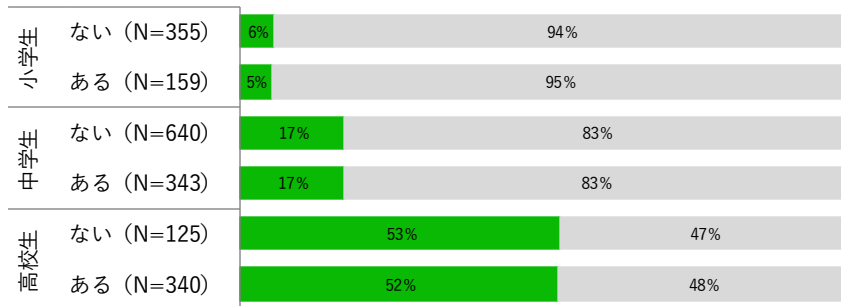
「ネット上での個人情報」

「ネット上の個人情報」をテーマにした教育の受講経験があると、知らない人から写真を送れと言われたときに「断る」を選択する割合が特に小学生で高くなる傾向となりました。SNS上で自分の顔写真を掲載することに関しては、教育を受けてない児童・生徒との差はありませんでした。

■ 信頼しているので送る ■ 個人が特定されない写真を送る ■ 断る
■ 保護者や先生など大人に相談する ■ その他 ■ 分からない



■ はい ■ いいえ



3. 情報モラル教育

考察

本調査では、「出会い」「コミュニケーション」といった具体的な教育テーマと暴力的表現等や写真の要求に対する行動といった関連データとの関係性を見ることができました。

今回の調査結果だけでは、教育実践の効果があったとまでは断定できないものの、教育受講の有無で差が生じる等、一定の傾向を把握することができました。

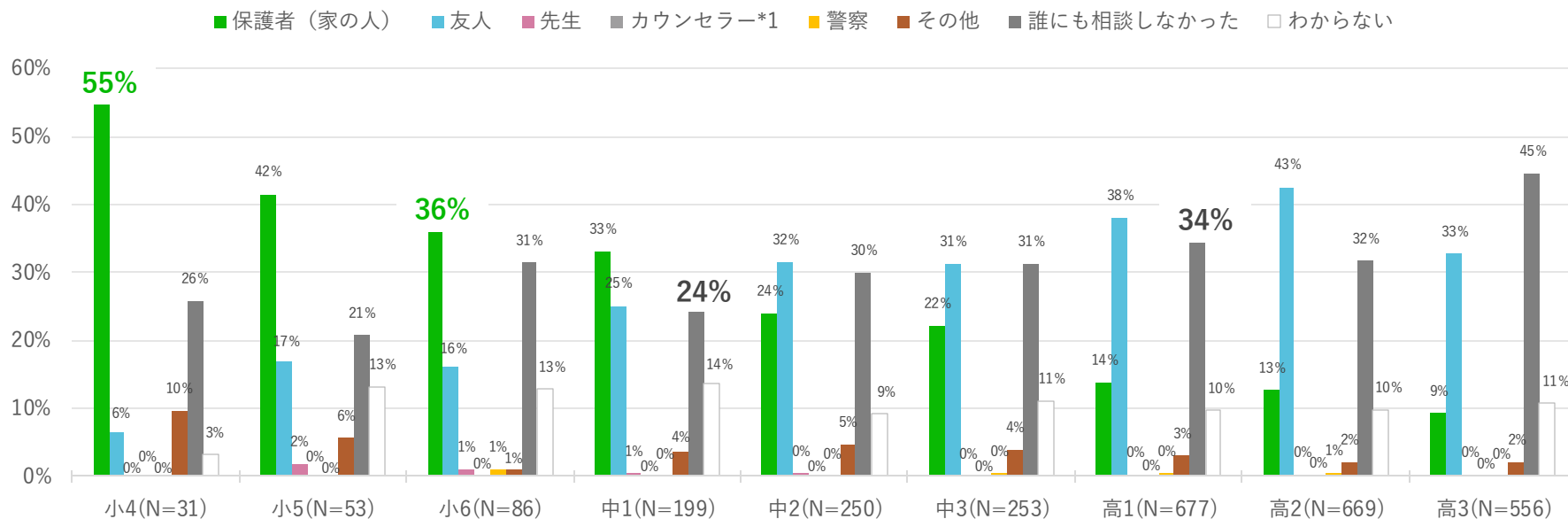
特に、ネット上での出会いリスクに関連する、写真の要求に対する行動やフィルタリングの設定に関しては、校種の影響はあるものの、教育の有無により十分な差が認められ、今後の県内の情報モラル教育施策の基礎情報となりえるでしょう。

※もっと詳しく知りたい方へ

「情報モラル教育」に関するデータの詳細は、本報告書P68～89にまとめておりますので、そちらも合わせてご参照ください。

4. その他

トラブルがあった時の最初の相談先は、小学生の頃は保護者（小4で55%、小6で36%）が多いものの、「誰にも相談しなかった」の割合は（中1で24%、高1で34%）となり、学年が上がると高くなる傾向があります。



考察

各学年3割前後がトラブルにあっても「相談しなかった」と回答していることに関しては、被害拡大を防ぐためにも、その要因を探る必要があります。例えば、「相談することの大切さ」は理解していたとしても、誰に相談すればよいか判断できない場合や、事案の内容によっては相談しにくいことが一因として考えられます。

5. 今後の検討課題

行動変容を促進する教材や指導手法の研究

これまでの情報モラル教育は、トラブル事例等を見せてリスク意識を喚起することに主眼が置かれていましたが、それだけだと、適切な行動の仕方を具体的に理解するまでには至らないことが予想されます。

そこで、児童生徒の規範意識や自律的な判断をもって、具体的かつ適切な行動に至るための情報の提供や教育手法について考えていく必要があります。特に、GIGAスクール構想等ICT活用を前提とした時代に入り、活用のみならずトラブルになったときの対応力を身につける必要性が増しています。

結果詳細

データの確認方法

本報告書では、クロス集計での数値を用いて、統計的な分析（カイ二乗検定や相関分析※という分析手法）を行いました。

本調査は、児童・生徒を対象にし、2つの集団の値を比較しています。

一般に大人数を対象とした調査では、母集団全体を直接調査することは困難であるため、一部を抽出して調査をします。

一般にこのような調査では、二つの母集団の間に差がなくても、サンプリングエラー（抽出に伴う偶然の誤差）によって差が生じることがあります。

そのため、二つのサンプルの間の差が、誤差とみなせる水準を超えるほどの大きな差（有意差）かどうかを確認するために、統計分析を行いました。

分析の結果については、視覚的にわかるように、グラフに右にあるような色分けしたマークを付けています。

（補足：文中での表記について）

本報告書では、統計分析カイ二乗検定の結果、P値が5%以上（有意差なし）の場合は文中では「差がない」と表記しています。

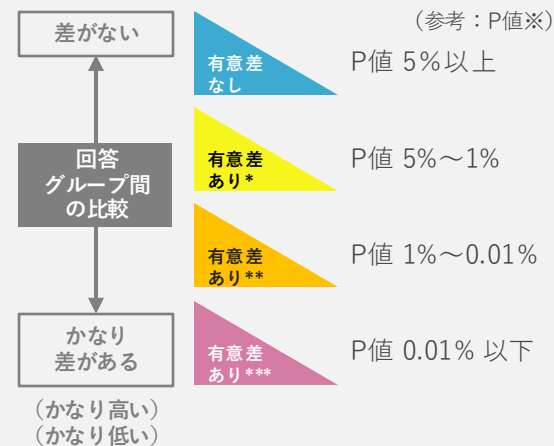
P値が5%未満（有意差あり）の場合はP値が5%～1%は「やや差がある（やや高い・やや低い）」、1%～0.01%は「差がある（高い・低い）」、0.01%以下は「かなり差がある（かなり高い・かなり低い）」と表記しています。

相関分析は、相関係数の絶対値が0～0.2の場合相関なし、0.2～0.4は弱い相関、0.4～0.8は相関、0.8以上は強い相関と表記します。

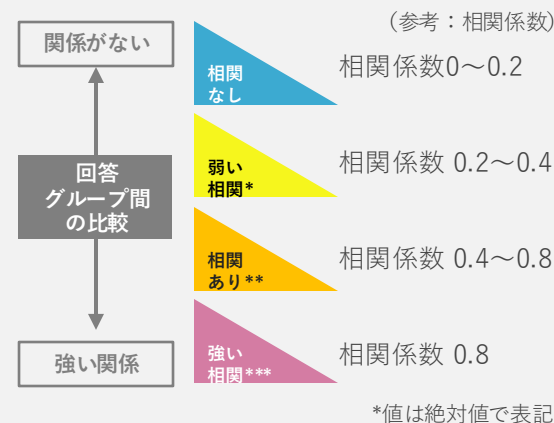
※ カイ二乗検定、相関分析の具体的な内容に関しては、統計学関連の書籍やWeb情報等をご参照ください。

例：蓑谷千鳳彦，『統計学の話（第4版）』，東京図書，2002年

カイ二乗検定結果の色分け



相関分析結果の色分け



※ P値とは、発生確率を知るための指標で、本調査では回答グループ間の差がどの程度あるかどうかを知るためのものとなります（pとはprobabilityの略です）。

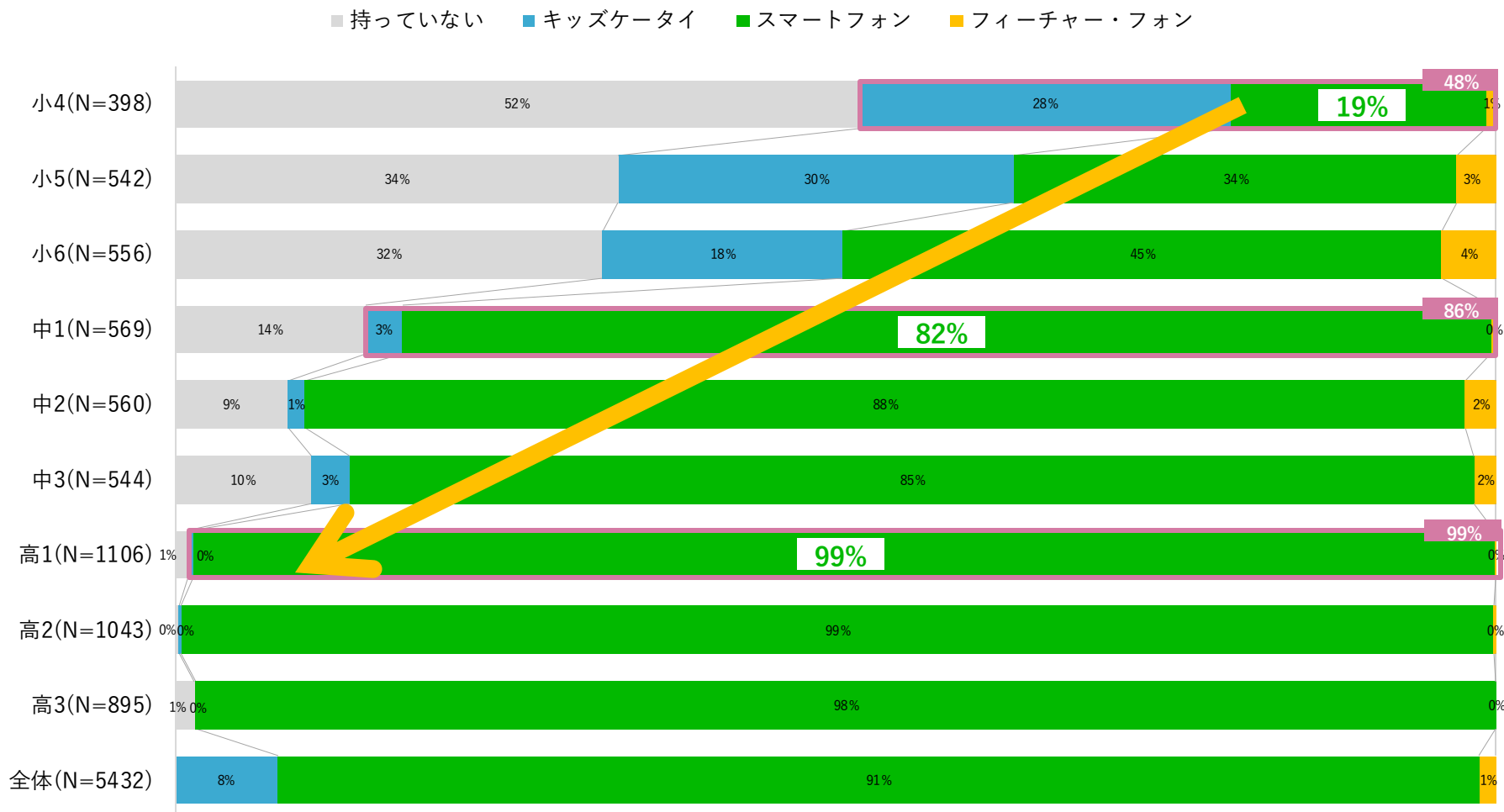
※ 有意差とは、偶然の結果（誤差）ではない意味のある差であることを示すものです。

1 携帯電話の保有状況と利用実態

1 - 1 携帯電話の保有率およびその種類<学年別>

小4では携帯電話の所持率は48%ですが、中1では86%、高1では99%となっています。携帯電話の種類は、スマートフォンだと、小4では19%で、中1・高1ではそれぞれ82%・99%です。

問：あなたは現在、自分専用の携帯電話を持っていますか。
 問：あなたが持っている携帯電話の種類はどのようなものですか

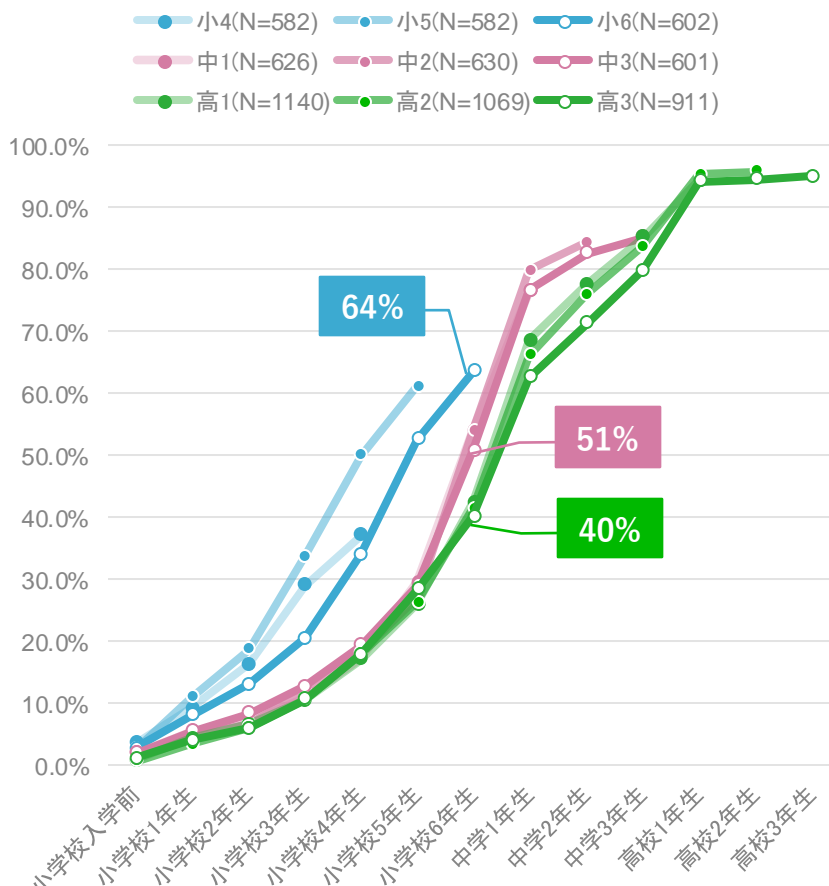
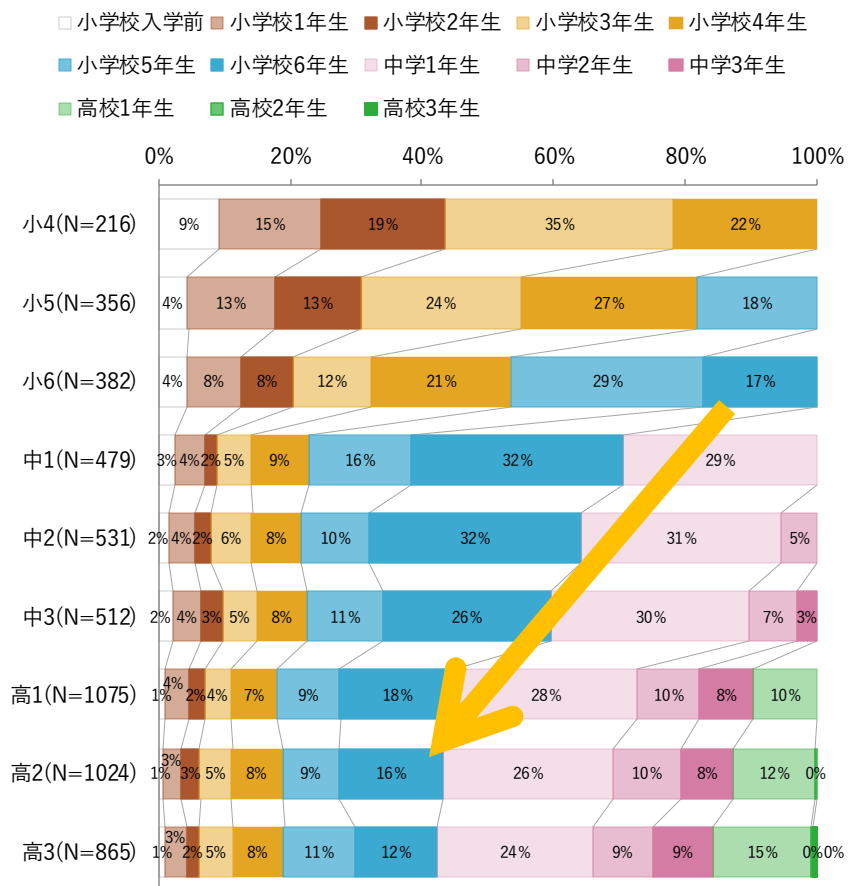


1-2 携帯電話を持ち始めた時期＜学年別および累計＞

携帯を持ち始めた時期を今の小6、中3、高3と比較すると、小6の時点での所有率は今の小6が64%、今の中3が小6の時点での所持率は51%、今の高3が小6の時点での所持率は40%と、持ち始めた時期は年々早くなっています。

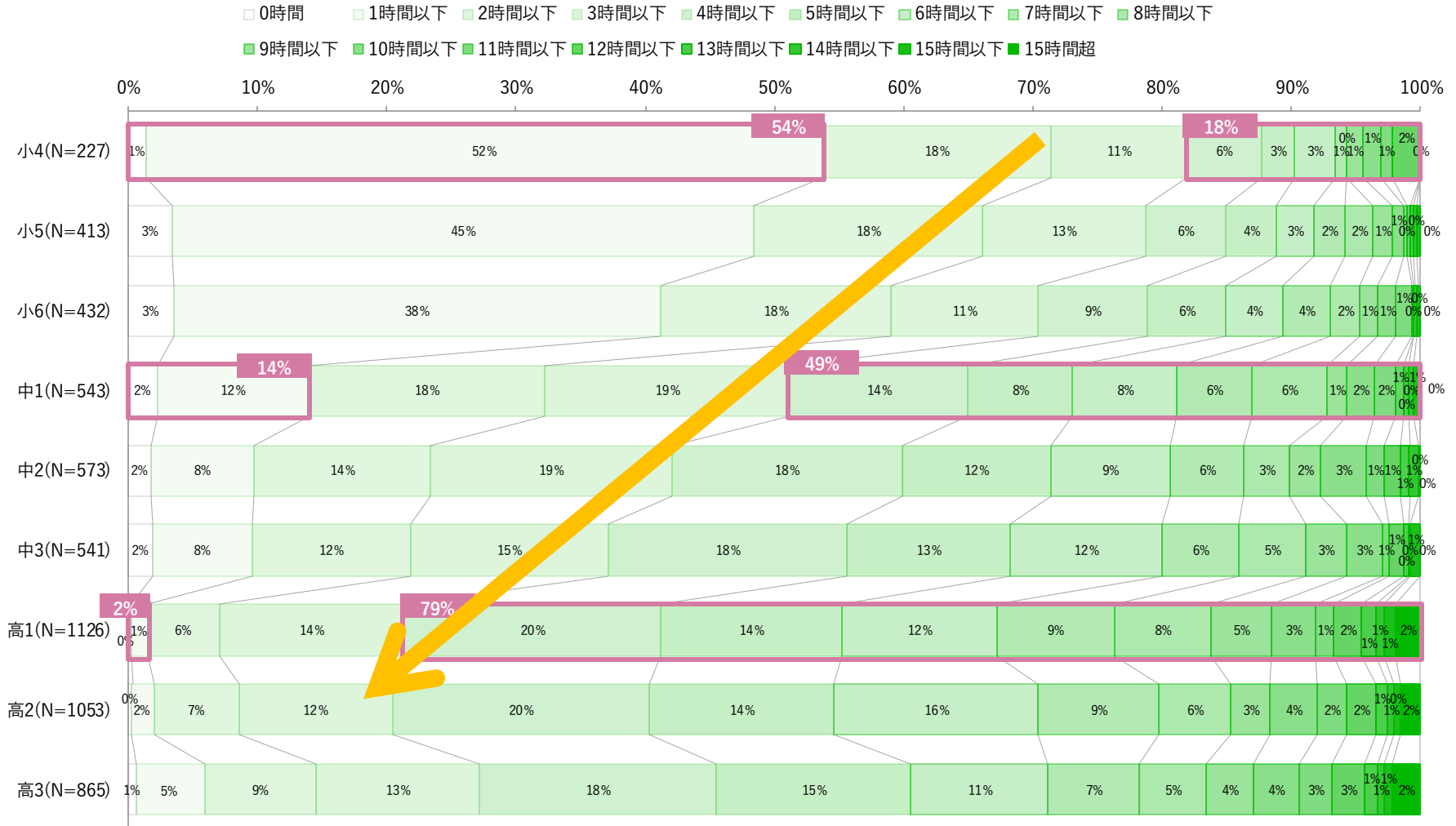
問：携帯電話を初めて持ったのは、いつですか。

左図の値を累計



1-3 携帯電話の利用時間<学年別>

携帯電話の利用時間は小4では1時間以下(0時間含む)が54%と過半数ですが、中1では14%、高1では2%と少なくなっています。一方、3時間超は、小4では18%ですが、中1では49%、高1では79%となっています。



問. あなたは携帯電話を1日に何時間ぐらい使っていますか」の値を、(平日×5+休日×2)/7 で計算した値

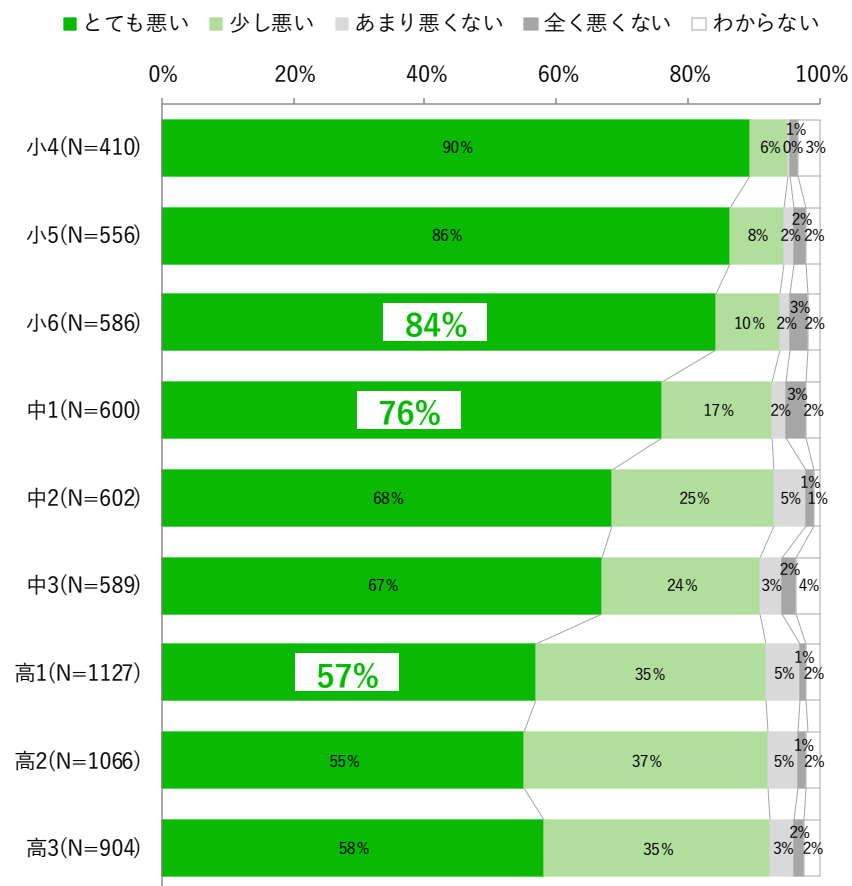
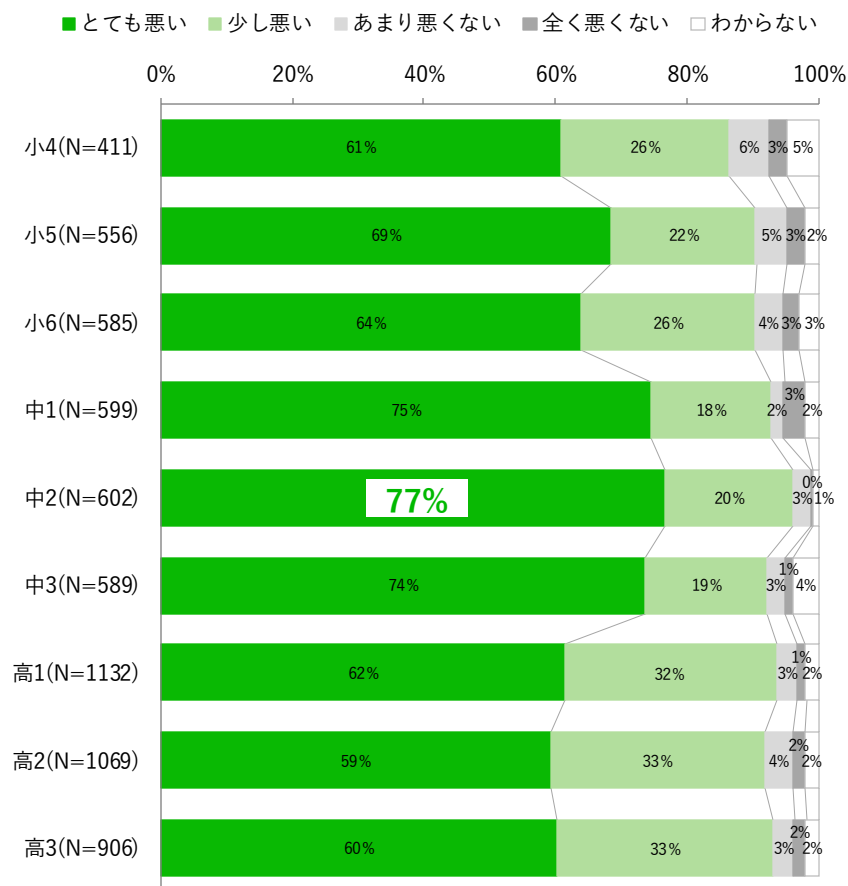
2 ネットリテラシーの程度とネットトラブル対策

2-1 携帯電話の利用マナーの意識<学年別>

携帯電話利用のマナー意識に関して、「電車やバスの中で通話すること」は、中学生で「とても悪い」（中2で77%）が高くなる傾向があります。「携帯電話を使いながら歩いたり、自転車を運転をすること」を「とても悪い」と答える割合は、小6で84%ですが、中1で76%、高1で57%と低くなる傾向があります。

問.あなたは、携帯電話の利用のマナーについて、次のような行動をどう思いますか。
*3 電車やバスの中で通話すること

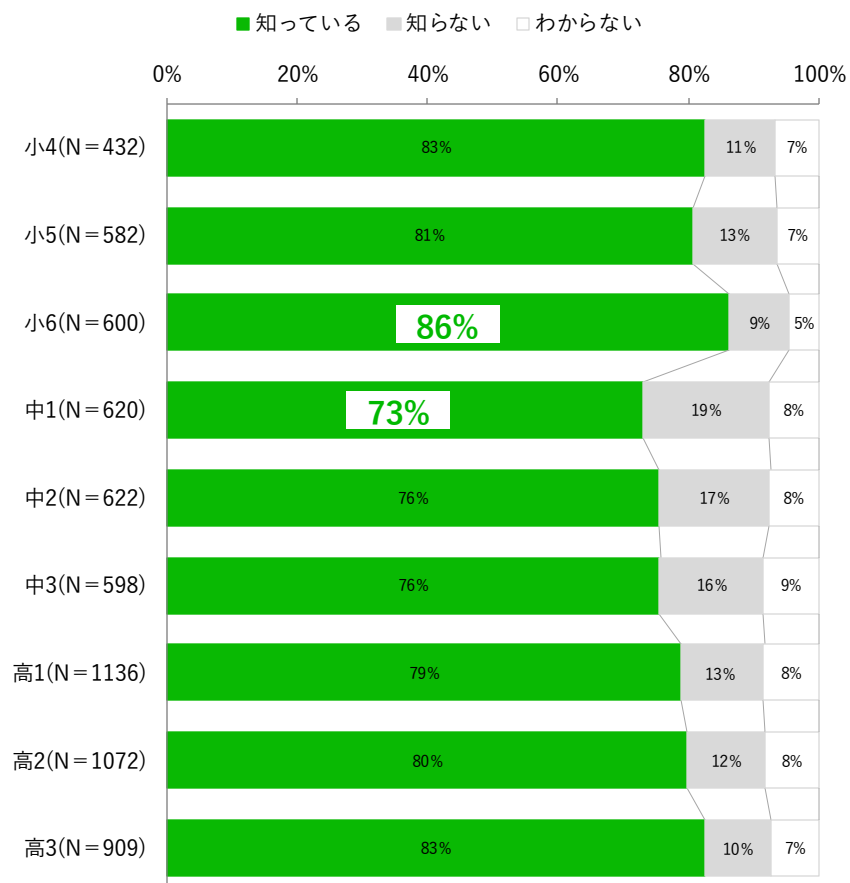
問.あなたは、携帯電話の利用のマナーについて、次のような行動をどう思いますか。
*4 携帯電話を使いながら歩いたり、自転車の運転をすること



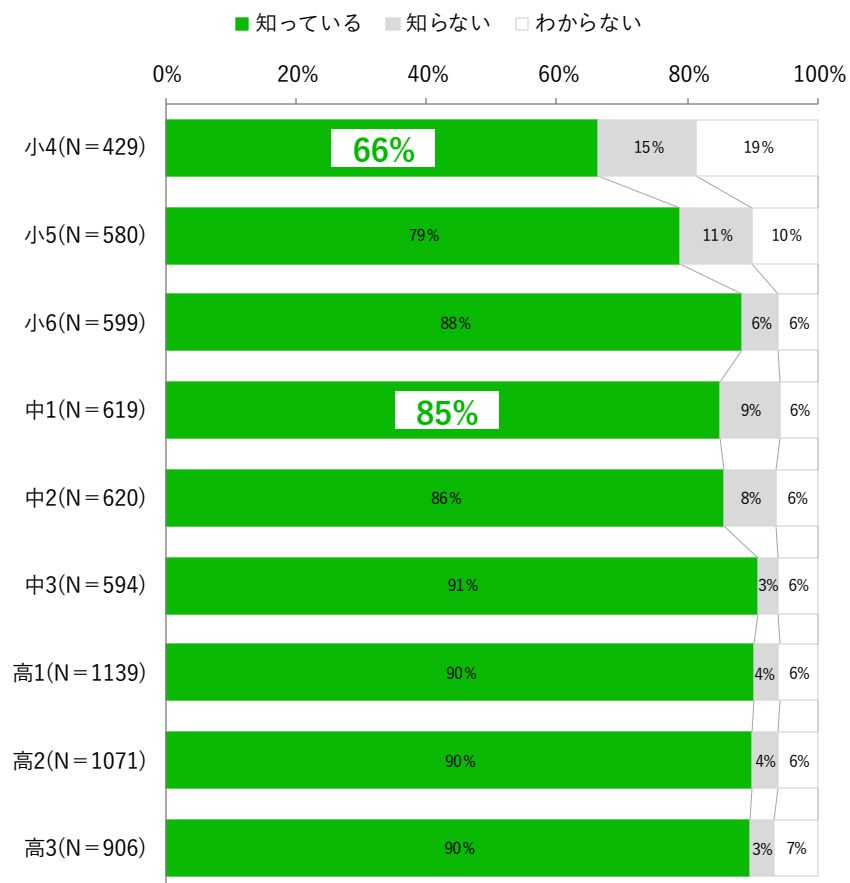
2-2 法的理解度 <学年別>

法的理解度は、悪口などが犯罪にあたる可能性があることを「知っている」という回答が校種別では小学生が他より高い傾向にあり（小6で86%と最も高い）、中1で73%と最も低くなっています。他人の写真を勝手に掲載することが権利侵害になる可能性を「知っている」という回答は、小学生が他の校種より低い傾向にあり（小4で66%と最も低い）、以降中学生・高校生では85%を超えています。

問：ネットに、他人の悪口などを書き込んだり、いやがらせのメッセージを送ったりすることは、その内容によっては犯罪にあたることを知っていますか。



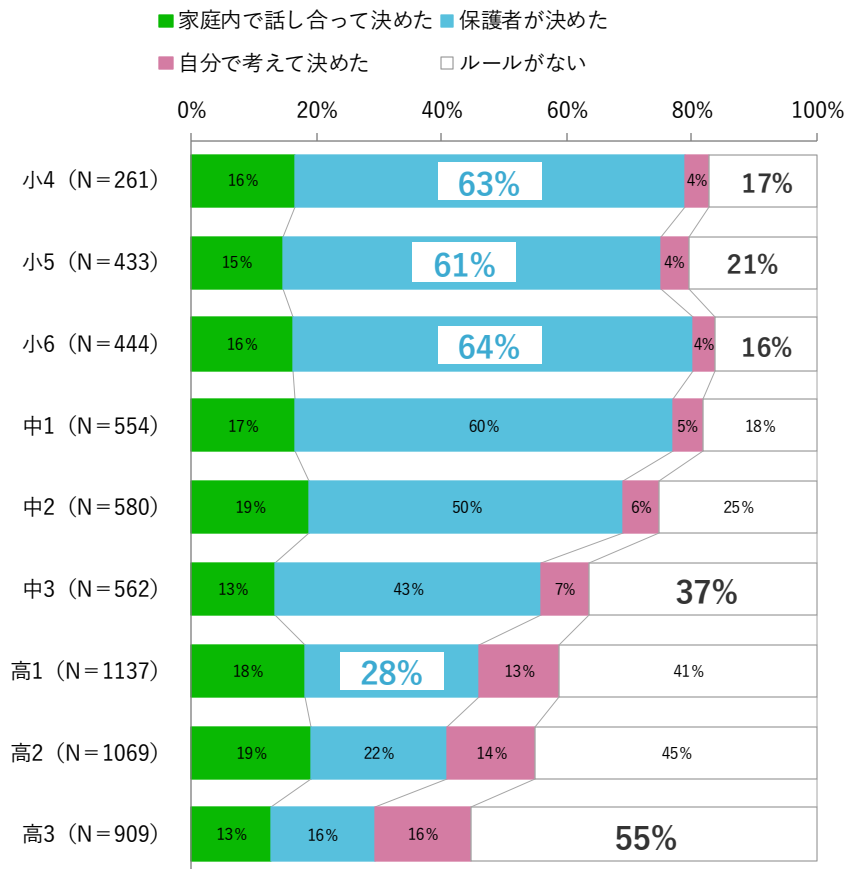
問：他人の写真を勝手に撮ることやその画像をネットに掲載することは、他人の権利を侵害する可能性があることを知っていますか。



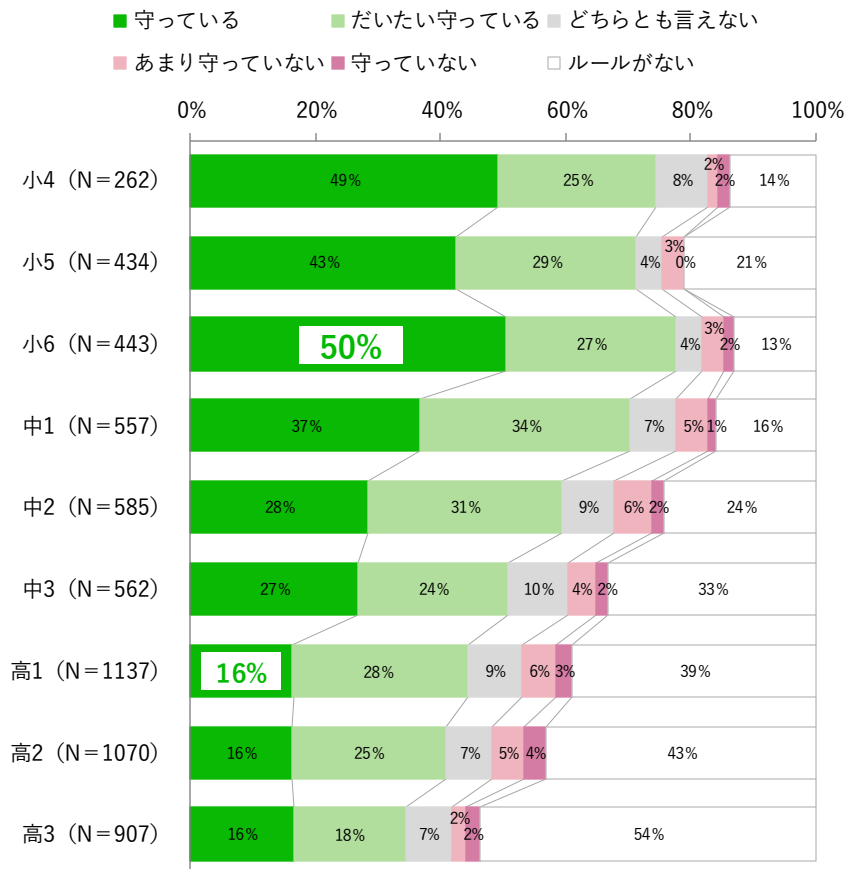
2-3 家庭内ルールの決め方や順守割合<学年別>

家庭内ルールの決め方は、「保護者が決めた」が多く、小4で63%、小5で61%、小6で64%と小学生では6割近くになっていますが学年があがるにつれて減り、高1では28%となっています。一方、「ルールがない」という回答は、小4で17%、小5で21%、小6で16%と2割程度ですが、中3では37%、高3では55%と、学年があがるにつれて割合が高くなっています。ルールを守っている割合も、小6では50%ですが、高1では16%と、学年が上がるにつれて割合が低くなっています。

問.携帯電話やパソコンを利用するときの家庭でのルールは、どのように決めましたか。



問.あなたは家庭内で決められた携帯電話やパソコンを利用するときのルールを守っていますか。



2-4 家庭内ルールへの順守割合とルールの決め方<校種別>

家庭内ルールの順守割合を、家庭内ルールの決め方で比較すると、家庭内で話し合っただけの方がルール順守する割合が、小中高ともに高い傾向にあり、特に小学生、高校生では有意な差となっています。

(ルールの決め方) 問: 携帯電話やパソコンを利用するときの家庭でのルールは、どのように決めましたか。

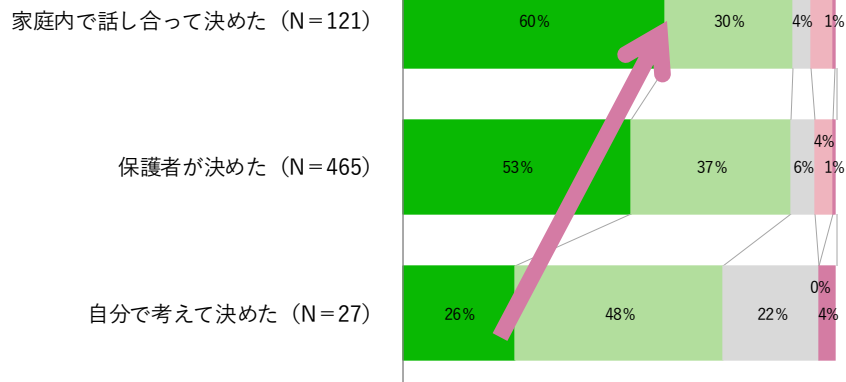
(家庭内ルールの順守割合) 問: あなたは家庭内で決められた携帯電話やパソコンを利用するときのルールを守っていますか。

小学生

有意差あり**

ルール順守

- 守っている
- だいたい守っている
- どちらとも言えない
- あまり守っていない
- 守っていない



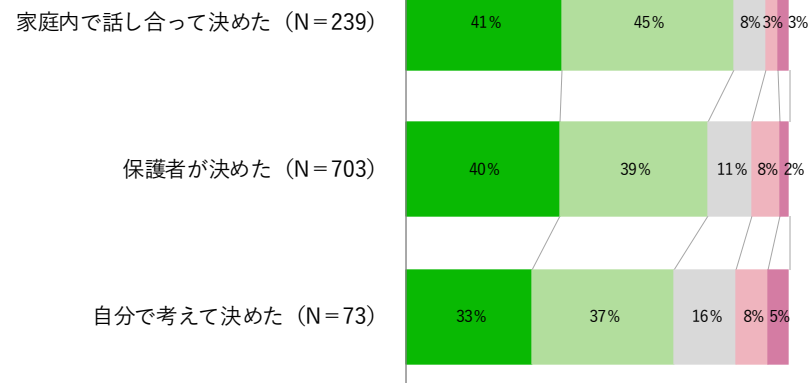
中学生

有意差なし

ルール順守

- 守っている
- だいたい守っている
- どちらとも言えない
- あまり守っていない
- 守っていない

決め方



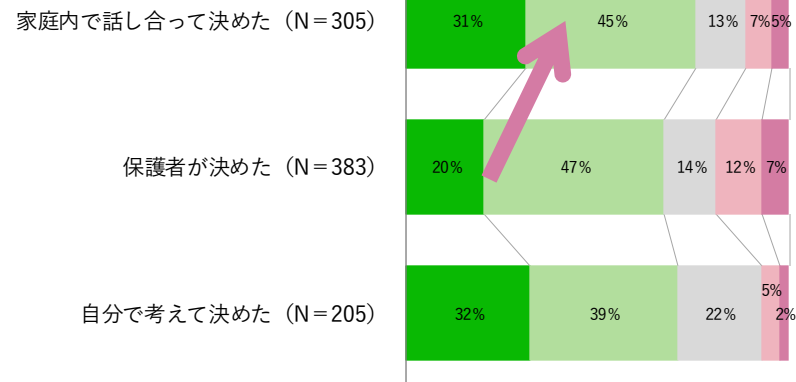
高校生

有意差あり***

ルール順守

- 守っている
- だいたい守っている
- どちらとも言えない
- あまり守っていない
- 守っていない

決め方



2-5 家庭内ルールの順守割合と携帯電話の利用時間<校種別>

スマートフォンなどの携帯電話の利用時間を、家庭内ルールの順守割合で比較すると、ルールを順守していないほど、小中高ともに利用時間が長くなる傾向にあります。

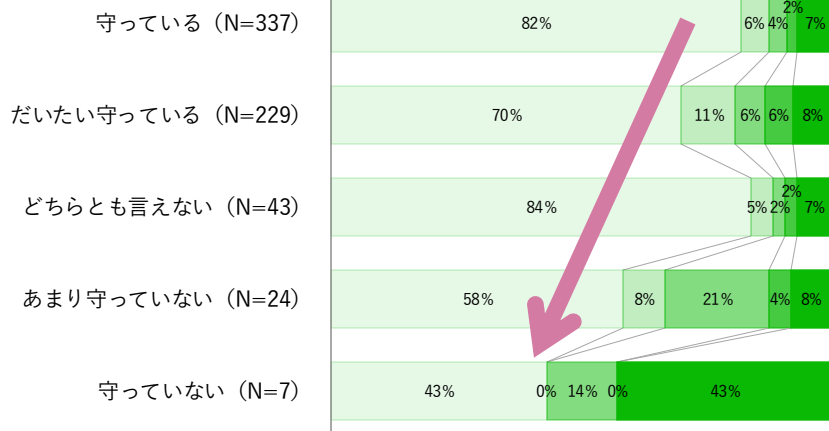
(利用時間) 問：あなたは携帯電話を1日に何時間ぐらい使っていますか。

(家庭内ルールの順守割合) 問：あなたは家庭内で決められた携帯電話やパソコンを利用するときのルールを守っていますか。

有意差あり**
小学生

利用時間

3時間以下 4時間以下 5時間以下
6時間以下 6時間以上



有意差あり**
中学生

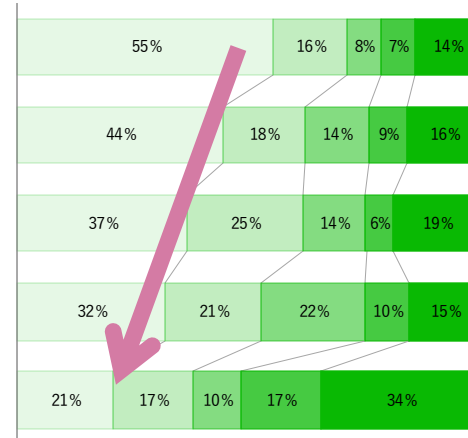
中学生

ルール順守

守っている (N=422)
だいたい守っている (N=422)
どちらとも言えない (N=117)
あまり守っていない (N=72)
守っていない (N=29)

利用時間

3時間以下 4時間以下 5時間以下
6時間以下 6時間以上



有意差あり*
高校生

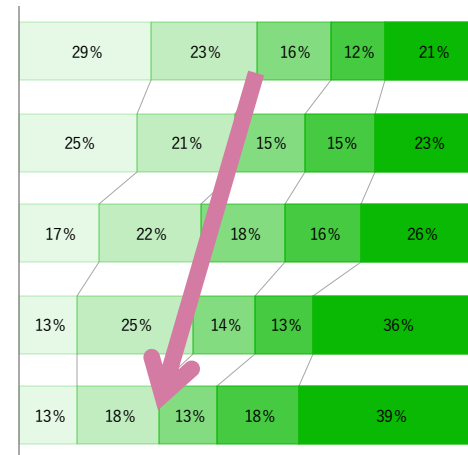
高校生

ルール順守

守っている (N=270)
だいたい守っている (N=423)
どちらとも言えない (N=147)
あまり守っていない (N=80)
守っていない (N=56)

利用時間

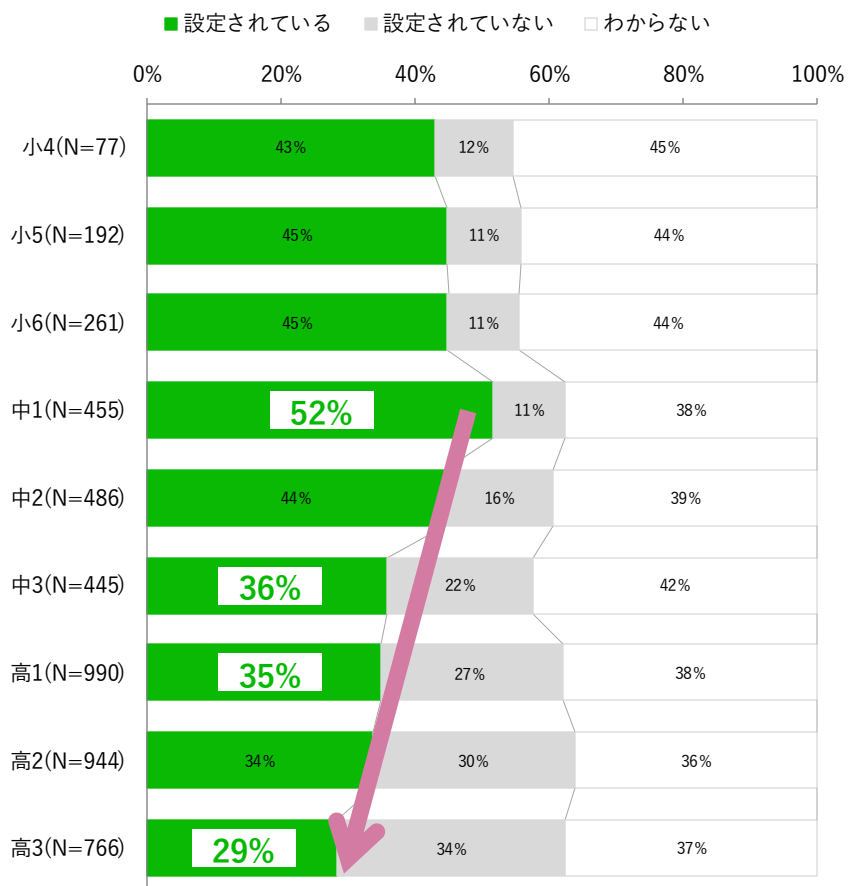
3時間以下 4時間以下 5時間以下
6時間以下 6時間以上



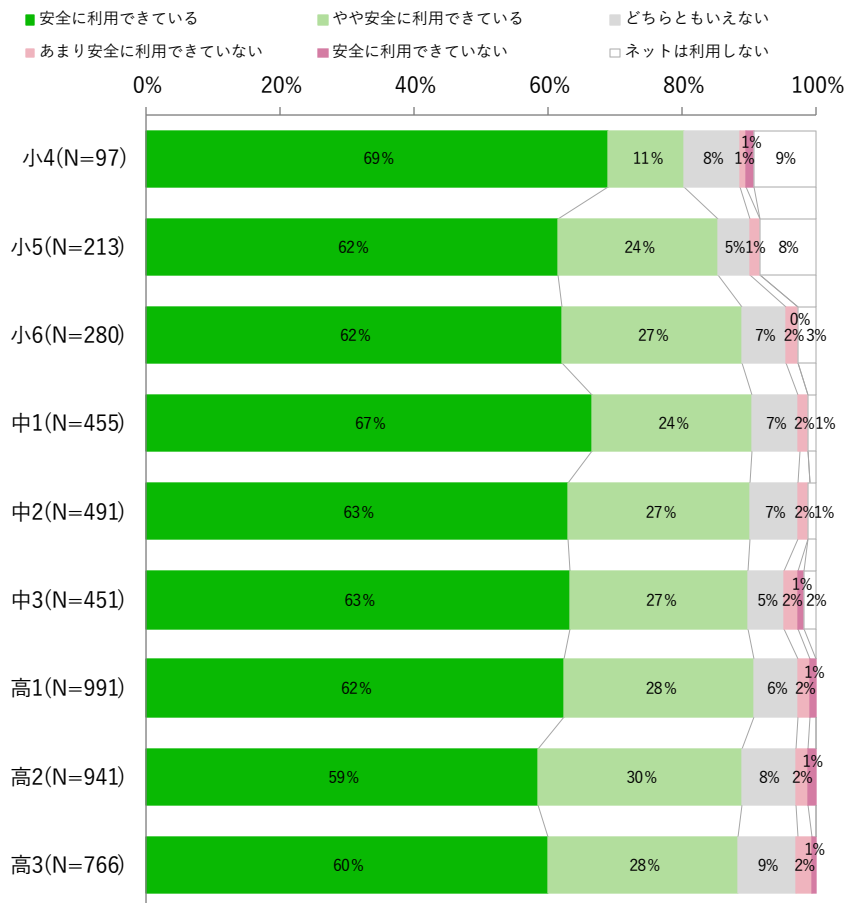
2-6 フィルタリングの利用率と安全意識<学年別>

フィルタリングの設置割合は、中学生以上になると学年が上がるにつれて（中1で52%、中3で36%、高1で35%、高3で29%）低くなる傾向があります。安全意識は学年を通じて大きな変化はありません。

問：あなたの携帯電話には、フィルタリング(有害なサイトが見られないようにする機能)が設定されていますか。



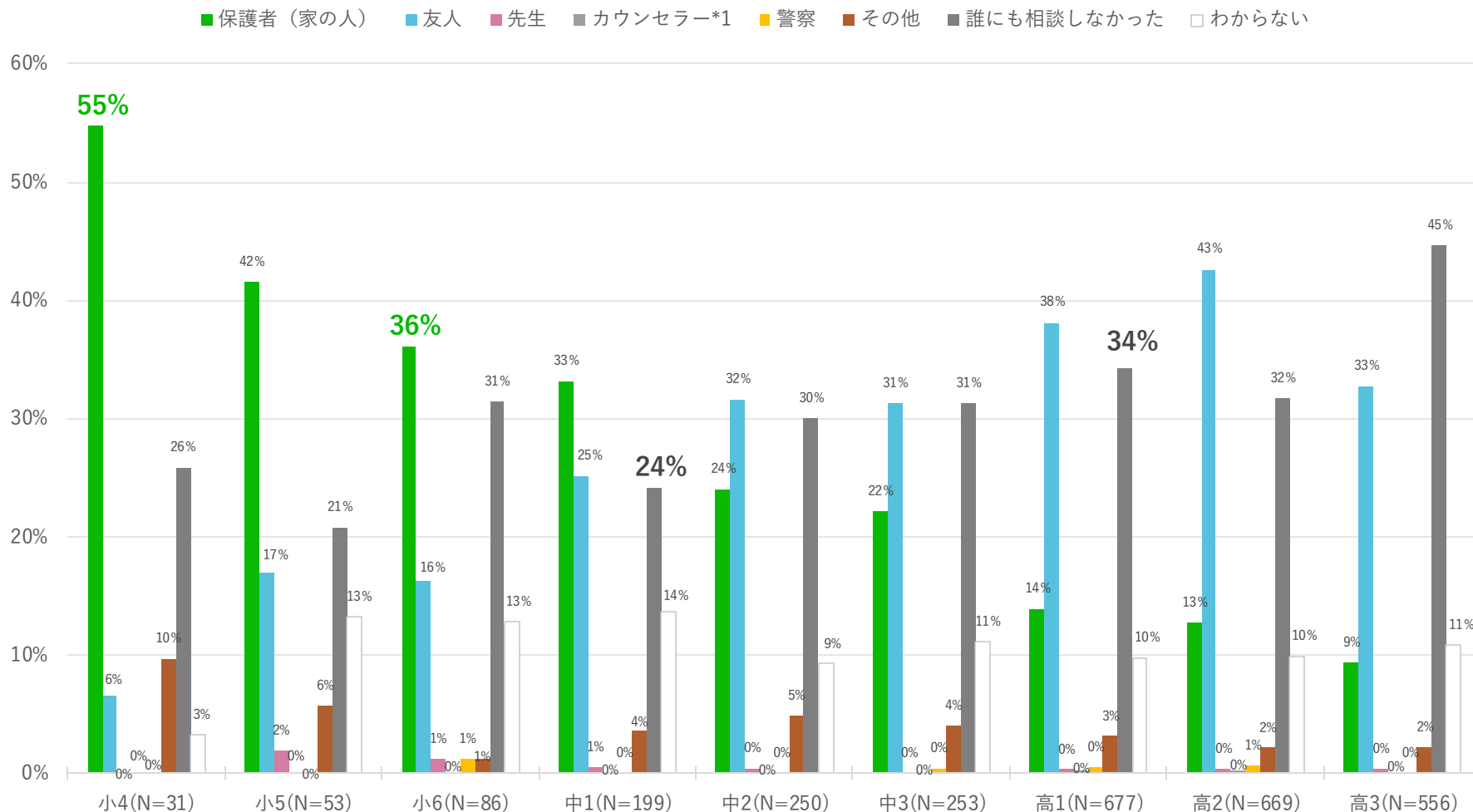
問：あなたはネットを安全に利用できていると思いますか。



2-7 トラブル時の相談先<学年別>

トラブルがあった時の最初の相談先は、小学生の頃は保護者（小4で55%、小6で36%）が多いものの、「誰にも相談しなかった」の割合は学年が上がるごとに（中1で24%、高1で34%）高くなる傾向があります。

問：あなたは、ネットで、困ったことがあったとき、最初に誰に相談しましたか。



*1 先生以外の相談員（スクールカウンセラーなど）

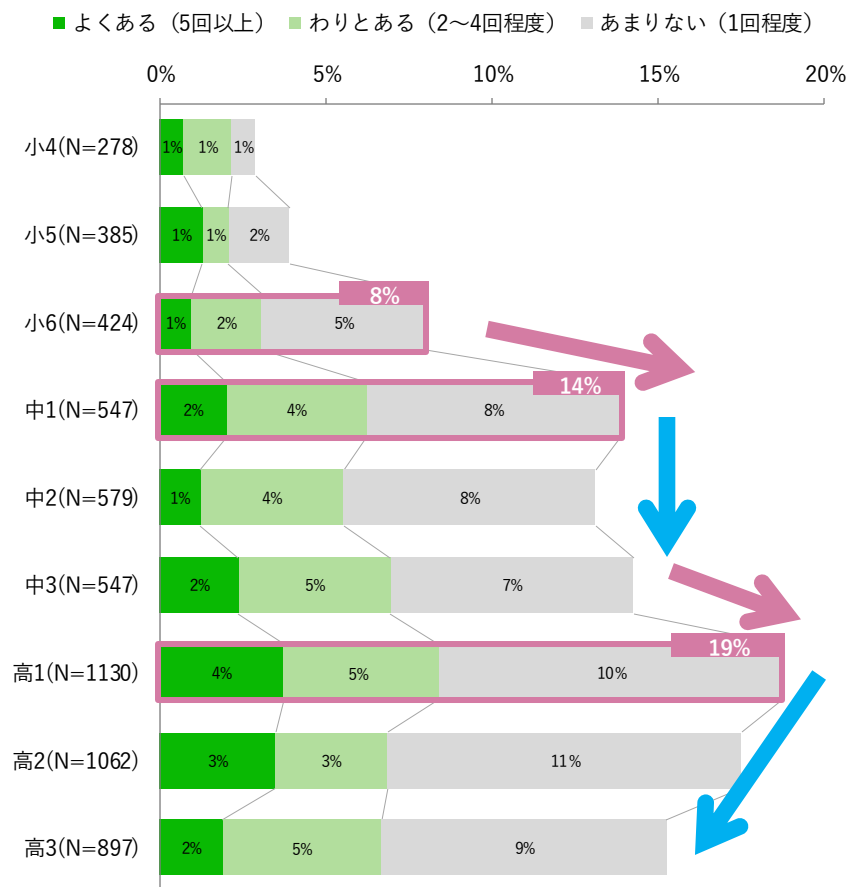
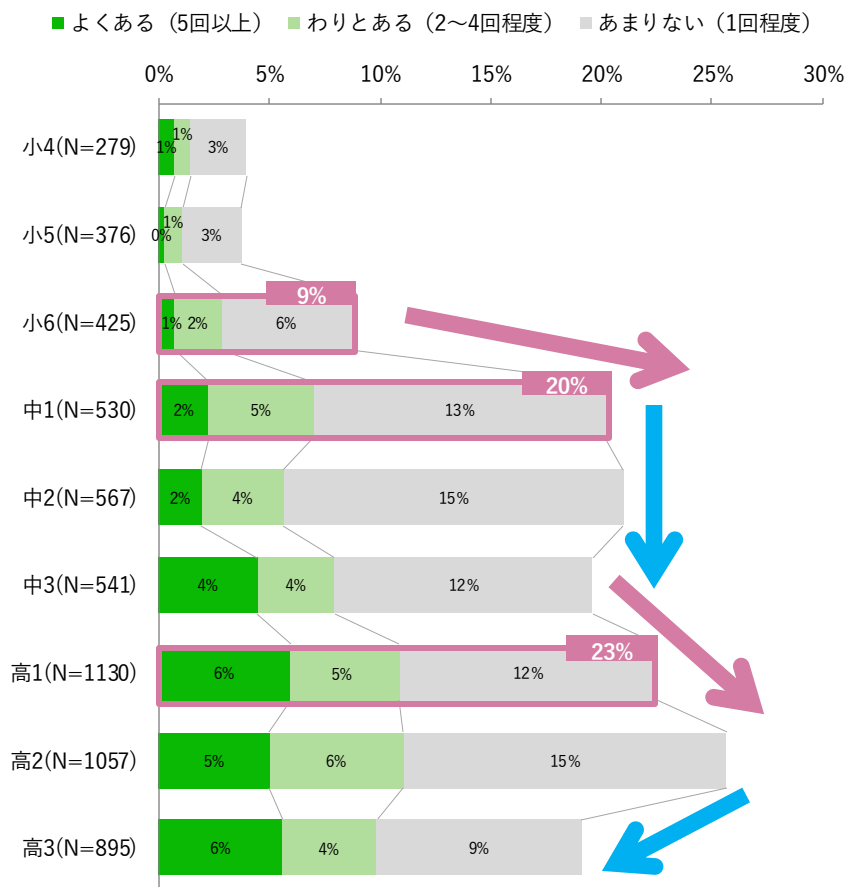
3 ネット上での暴力的表現等に関する分析

3-1 暴力的表現等の加害経験と被害経験<学年別>

暴力的表現等の加害経験と被害経験は、中学校1年生で大幅に上昇し、高校1年生でさらに高くなる傾向があります。加害経験は「よくある」「わりとある」「あまりない」の合計で、小6で9%、中1で20%、高1で23%となっています。被害経験も同様で、小6で8%、中1で14%、高1で19%となっています。

(加害経験) 問：この1年間で、あなたは、暴力的表現(「殴るぞ」など)や、悪口やいやなこと(画像を含む)などを、ネット(SNS、メッセージサービス等)に書き込んだりしたことはありますか

(被害経験) 問：この1年間にネット上で、暴力的表現(「殴るぞ」などや、悪口やいやなことを含む)を書き込まれたりしたことがありますか。



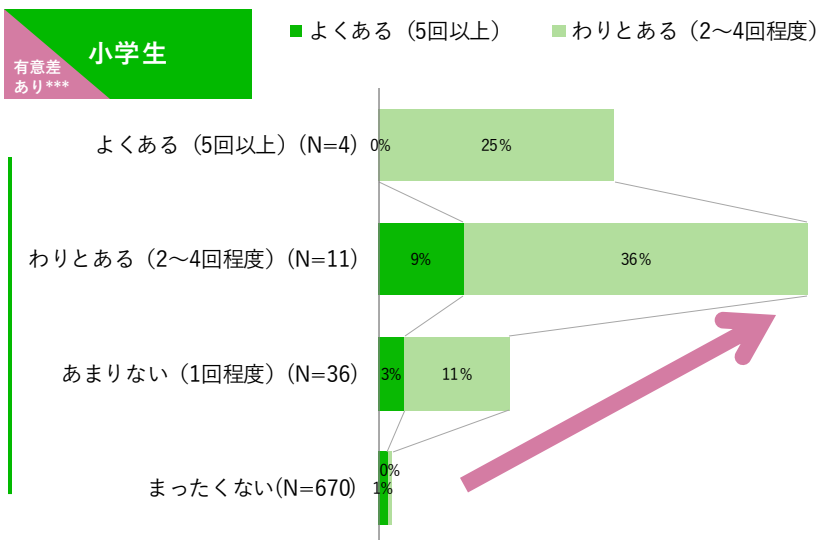
3-2 暴力的表現等の被害経験と加害経験 < 校種別 >

暴力的表現等の被害経験と加害経験を比較すると、小学生・中学生・高校生ともに、被害経験の頻度が高いと加害経験の頻度もかなり高い傾向にあります。

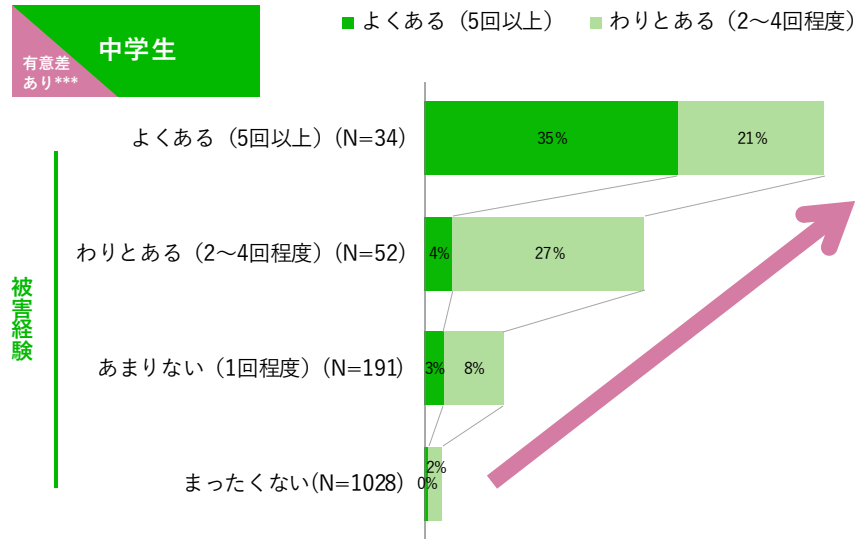
(被害経験) 問：この1年間にネット上で、暴力的表現(「殴るぞ」などや、悪口やいやなことを含む)を書き込まれたりしたことがありますか。

(加害経験) 問：この1年間で、あなたは、暴力的表現(「殴るぞ」など)や、悪口やいやなこと(画像を含む)などを、ネット(SNS、メッセージサービス等)に書き込んだりしたことはありますか。

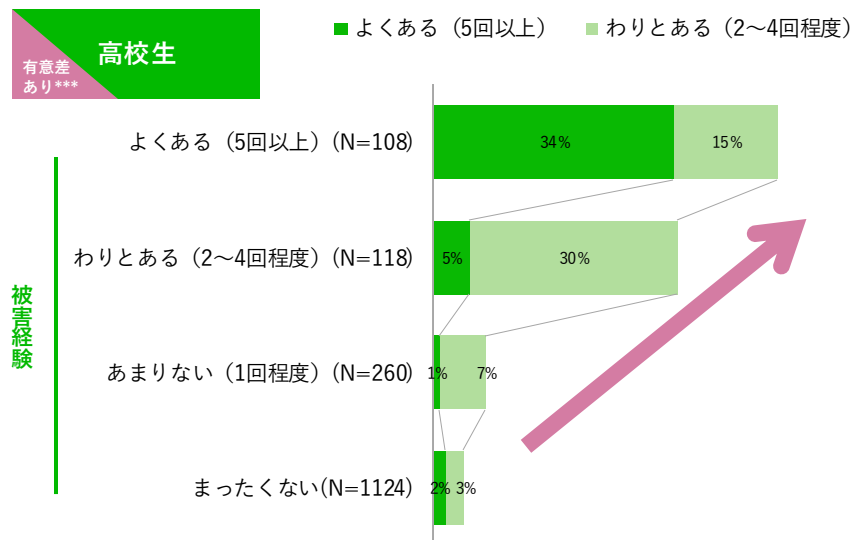
加害経験



加害経験



加害経験

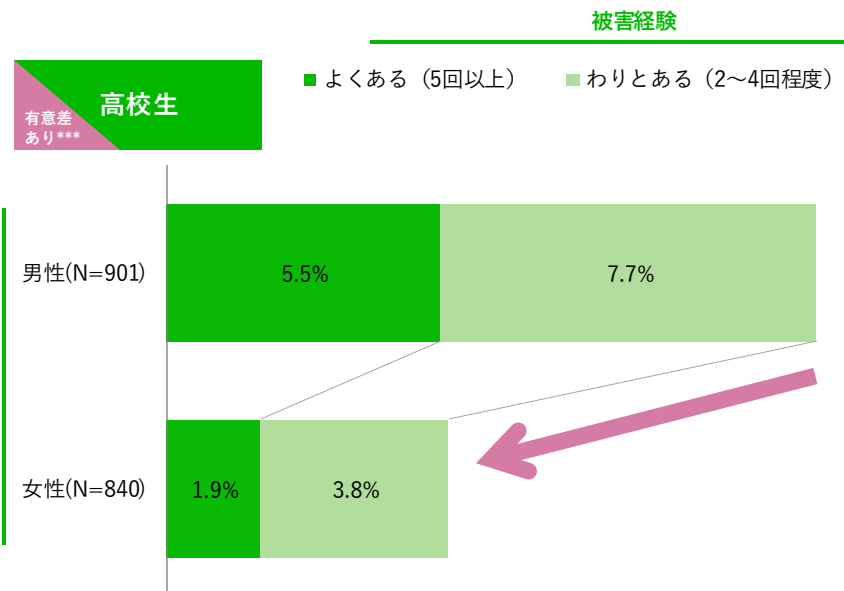
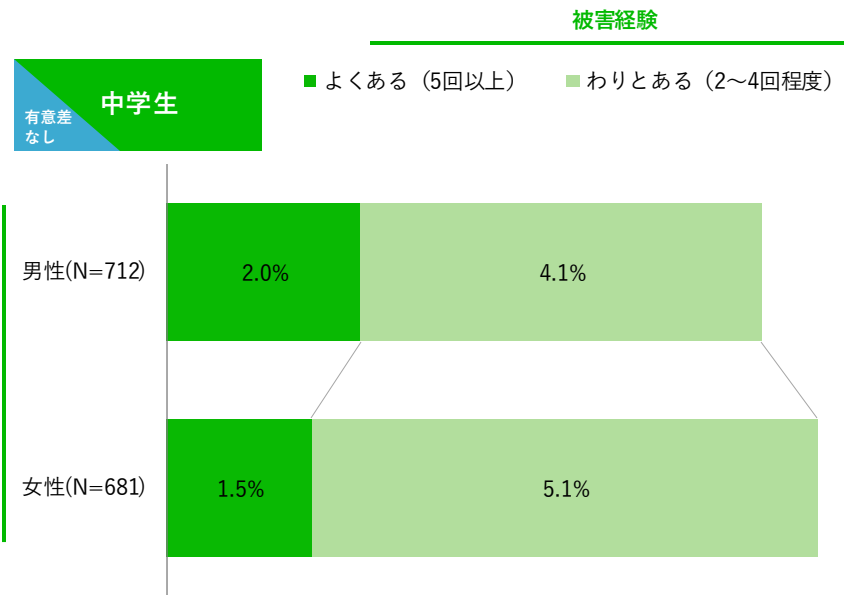
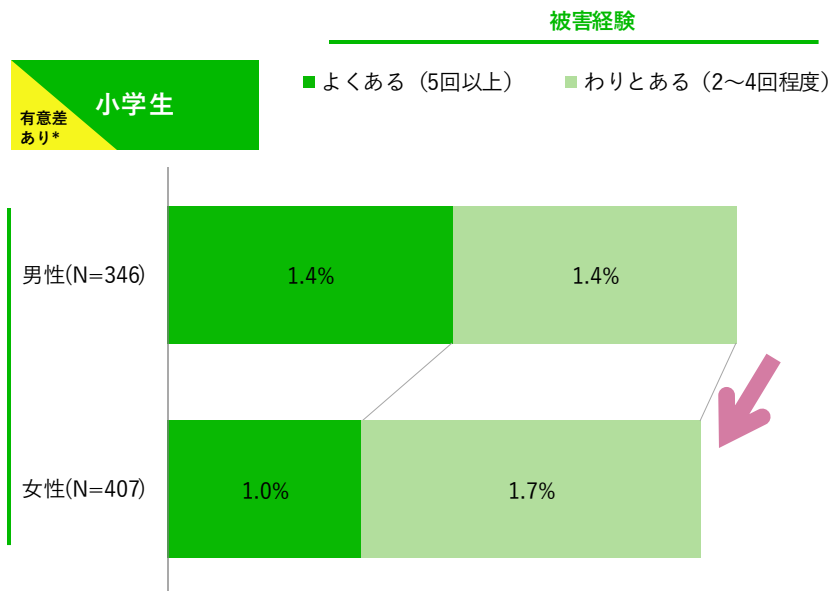


3-3 暴力的表現等の被害経験と性別 <校種別>

暴力的表現等の被害経験の頻度を性別で比較すると、小学生は男子がやや高く、高校生では男子がかなり高い結果となっています。

(被害経験) 問：この1年間にネット上で、暴力的表現(「殴るぞ」などや、悪口やいやなことを含む)を書き込まれたりしたことがありますか。

(性別) 性別

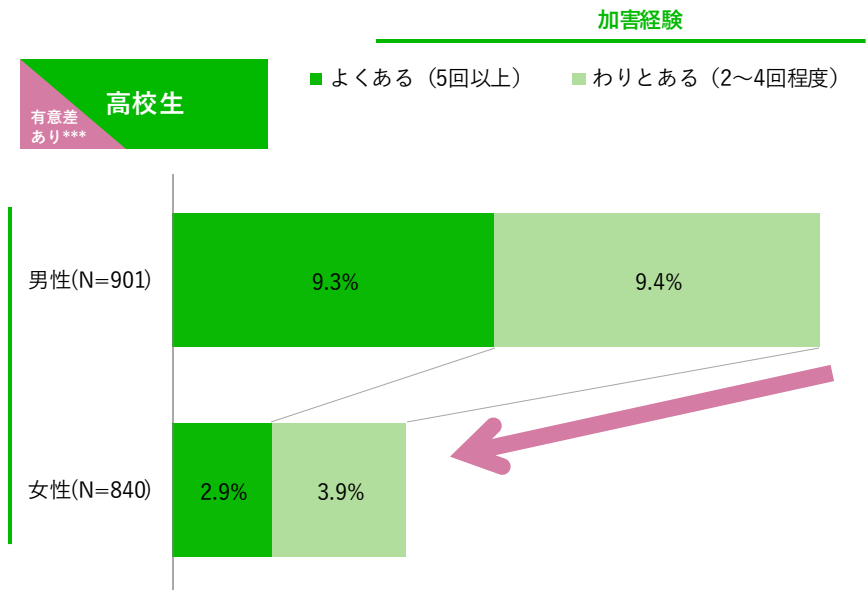
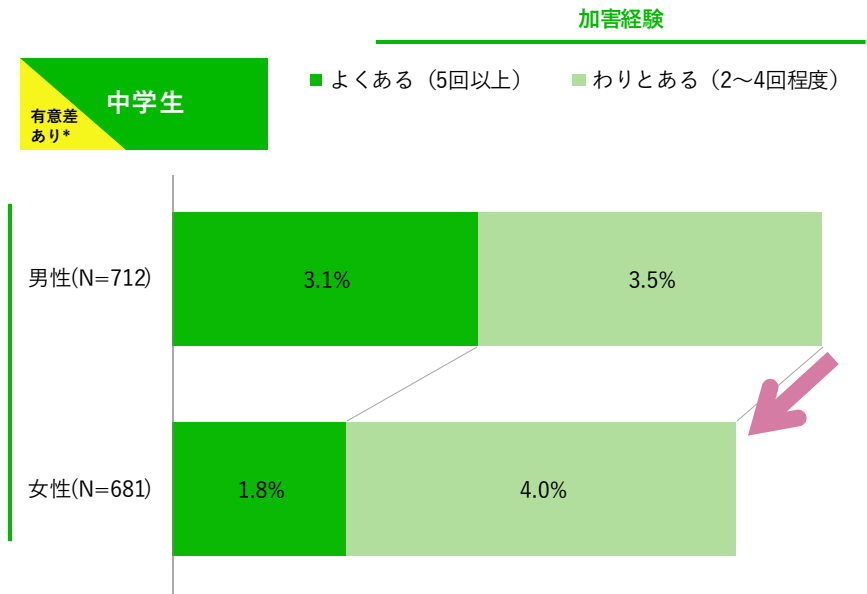
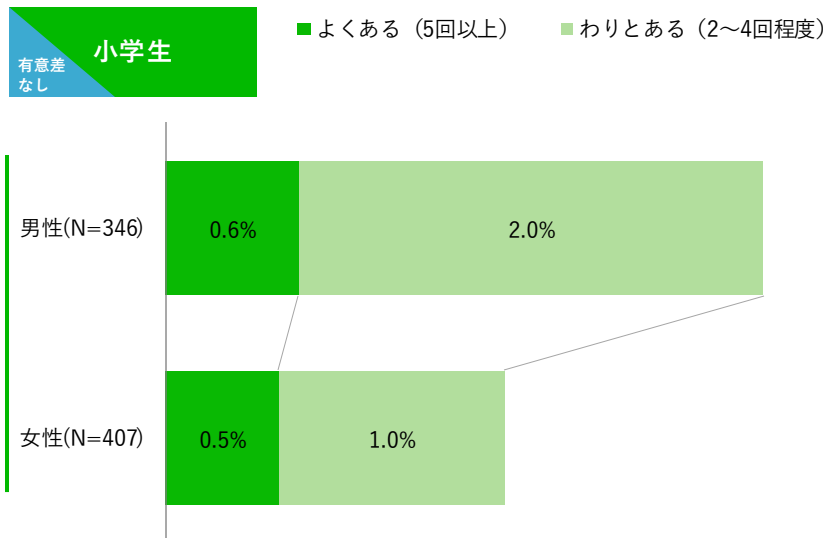


3-4 暴力的表現等の加害経験と性別 <校種別>

暴力的表現等の加害経験の頻度は、中学生では男子がやや高く、高校生では男子がかなり高い結果となっています。

(加害経験) 問：この1年間で、あなたは、暴力的表現（「殴るぞ」など）や、悪口やいやなこと（画像を含む）などを、ネット(SNS、メッセージサービス等)に書き込んだりしたことはありますか。

(性別) 性別

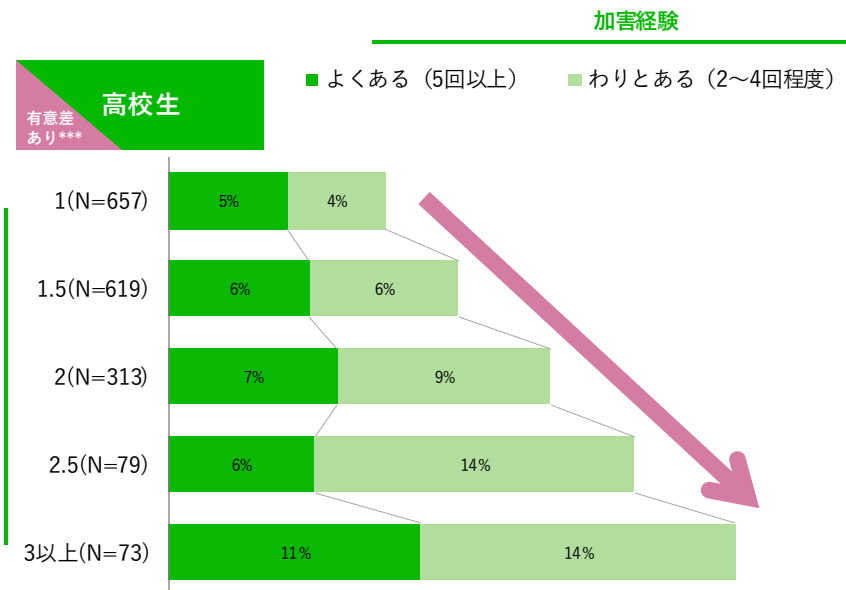
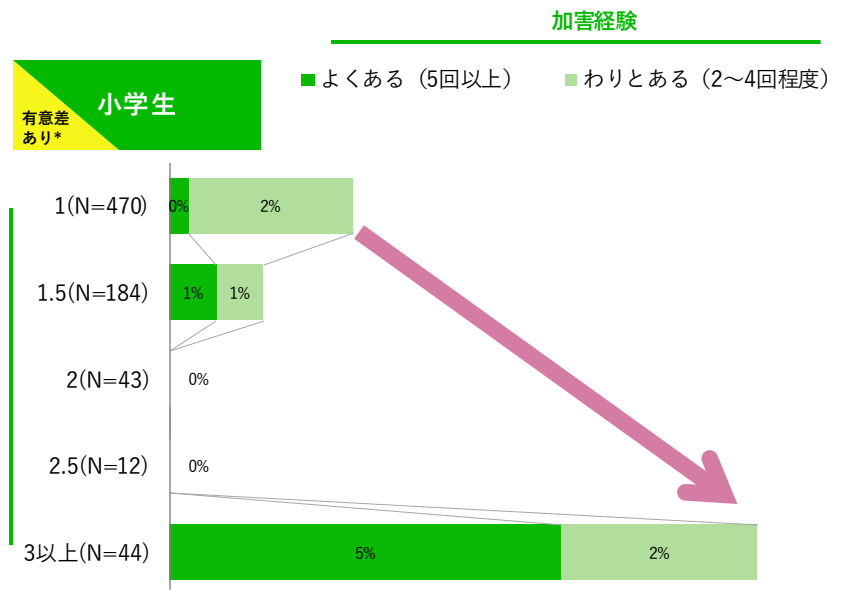
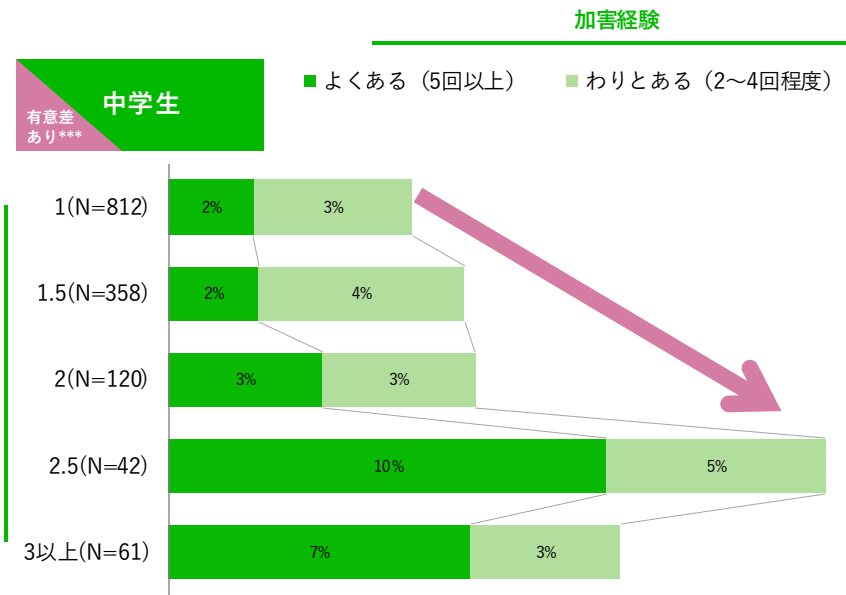


3-5 携帯電話利用のマナー意識と暴力的表現等の加害経験 <校種別>

携帯電話利用のマナー意識（解答番号を得点化して平均値を利用*1）の度合いと暴力的表現等の加害経験の頻度を比較すると、マナー意識が低い（得点が高い）と、加害経験の頻度は、小学生でやや高く、中学生と高校生でかなり高くなります。

（加害経験）問：この1年間で、あなたは、暴力的表現（「殴るぞ」など）や、悪口やいやなこと（画像を含む）などを、ネット(SNS、メッセージサービス等)に書き込んだり、したことはありますか。

（マナー意識）問：あなたは、携帯電話の利用のマナーについて、次のような行動をどう思いますか。



*1 マナー意識の得点は、問の各設問をの回答に関して、1.とても悪い、2.少し悪い、3.あまり悪くない4.全く悪くない5.わからないを、それぞれの選択肢の番号を数値として利用し平均値をマナー意識として利用した。得点が高いほど、マナー違反に対して「悪くない・わからない」という割合が高くなる

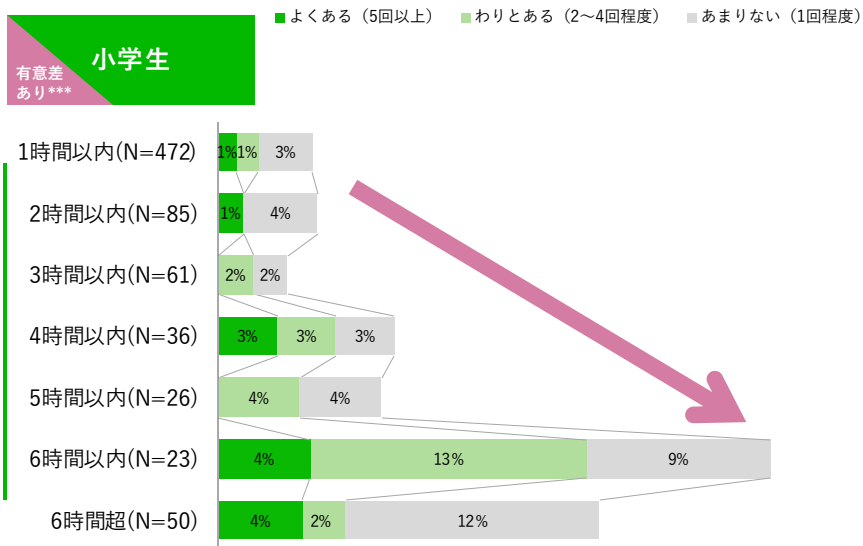
3 - 6 携帯電話の利用時間と暴力的表現等の被害経験 <校種別>

スマートフォン等の携帯電話の利用時間と暴力的表現等の被害経験の頻度を比較すると、携帯電話の利用時間が長くなるほど、被害経験の頻度が小学生と中学生でかなり高く、高校生でも高くなる傾向があります

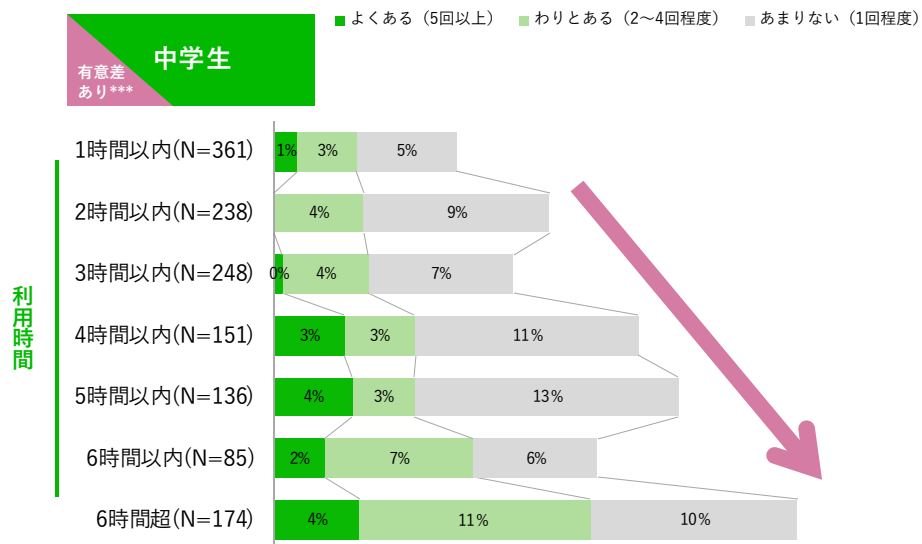
(被害経験) 問：この1年間にネット上で、暴力的表現(「殴るぞ」などや、悪口やいやなことを含む)を書き込まれたりしたことがありますか。

(利用時間) 問：あなたは携帯電話を1日に何時間ぐらい使っていますか。

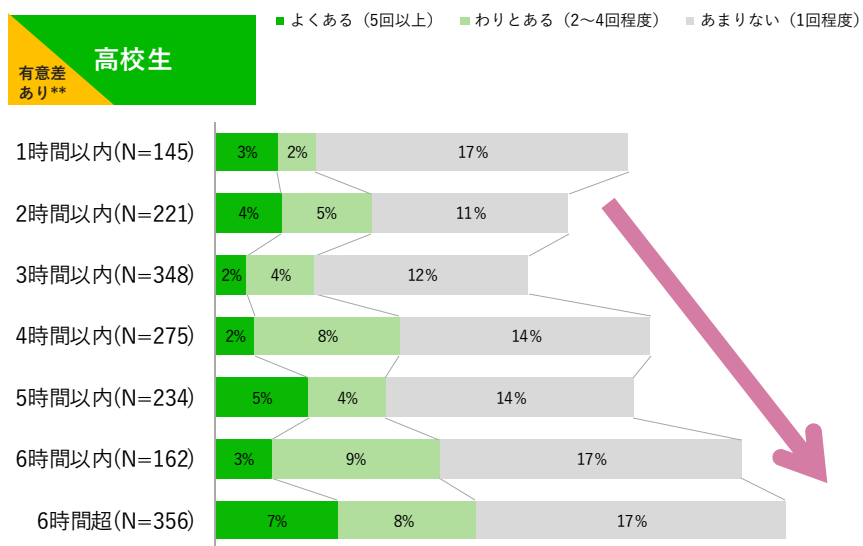
被害経験



被害経験



被害経験



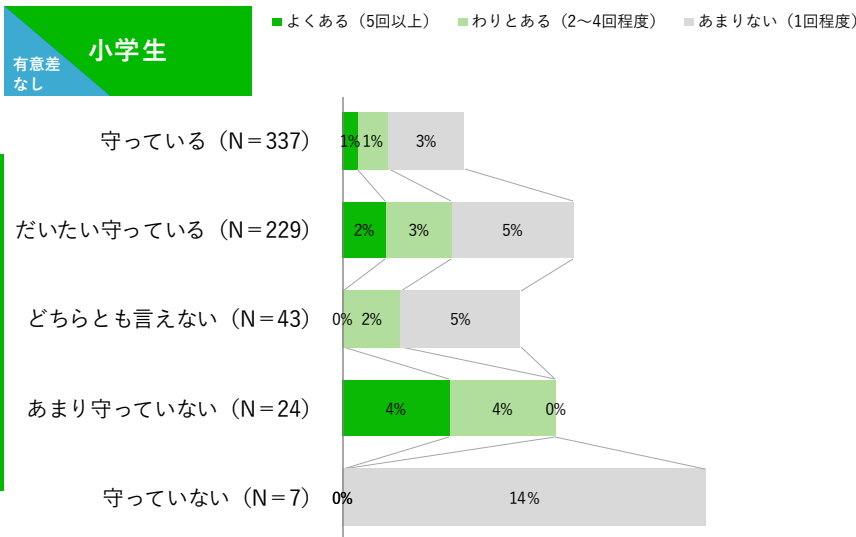
3-7 家庭内ルールの順守割合と暴力的表現等の被害経験 <校種別>

暴力的表現等の被害経験の頻度を家庭内ルールの順守割合で比較すると、ルールの順守割合が低いほど、中学生では被害経験の割合が高く、高校生ではやや高くなります。

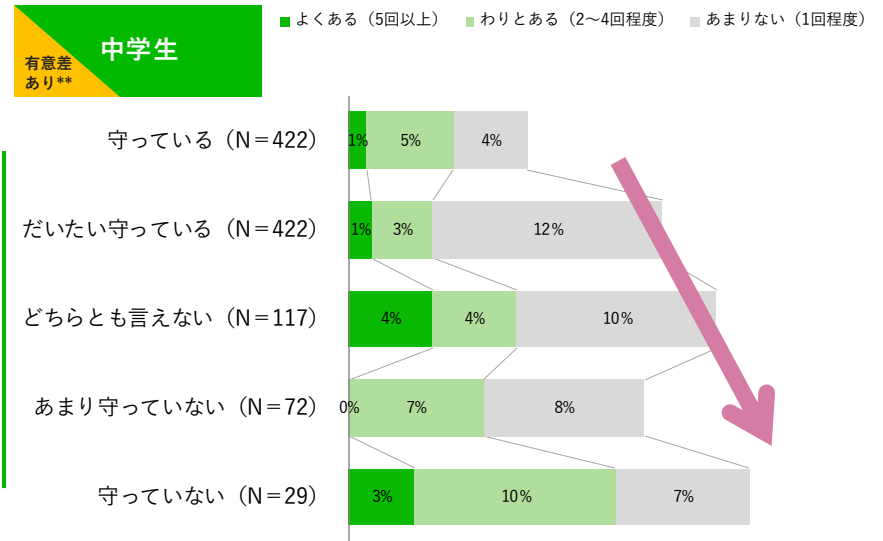
(被害経験) 問：この1年間にネット上で、暴力的表現(「殴るぞ」などや、悪口やいやなことを含む)を書き込まれたりしたことがありますか。

(家庭内ルールの順守割合) 問：あなたは家庭内で決められた携帯電話やパソコンを利用するときのルールを守っていますか。

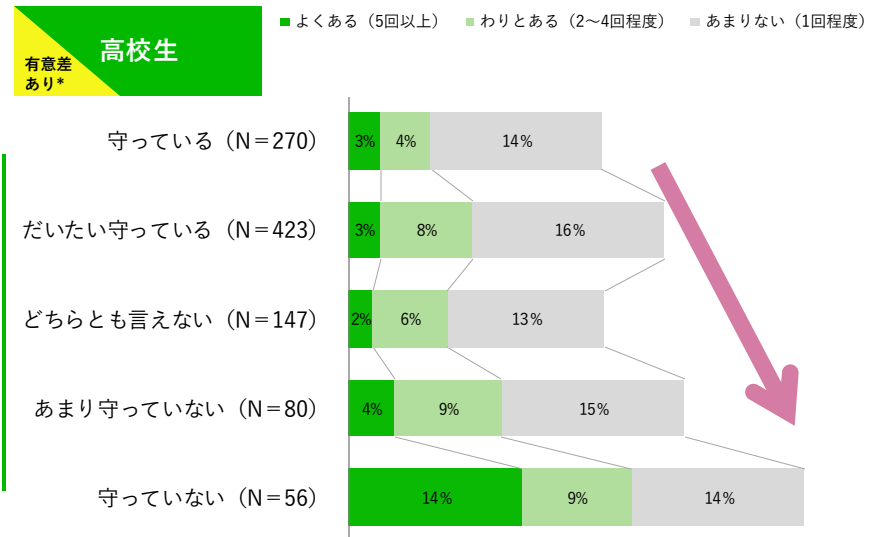
被害経験



被害経験



被害経験



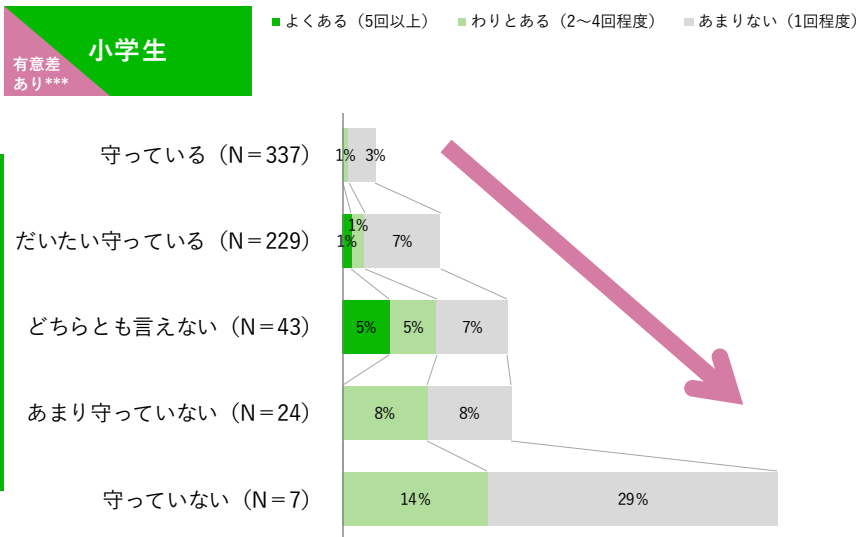
3-8 家庭内ルールの順守割合と暴力的表現等の加害経験 <校種別>

暴力的表現等の加害経験の頻度を、家庭内ルールの順守割合で比較すると、ルールの順守割合が低いほど、小学生では加害経験の割合がかなり高く、中学生と高校生では高くなります。

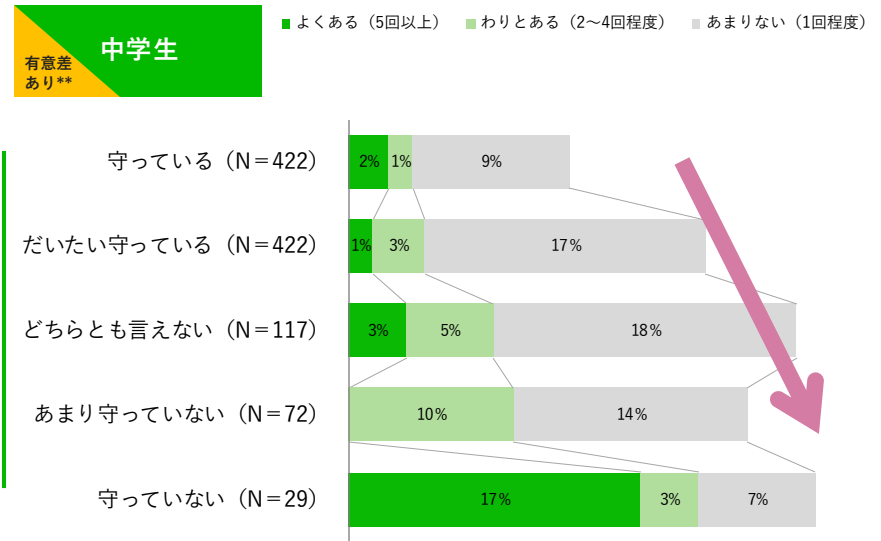
(加害経験) 問: この1年間で、あなたは、暴力的表現(「殴るぞ」など)や、悪口やいやなこと(画像を含む)などを、ネット(SNS、メッセージサービス等)に書き込んだりしたことはありますか。

(家庭内ルールの順守割合) 問: あなたは家庭内で決められた携帯電話やパソコンを利用するときのルールを守っていますか。

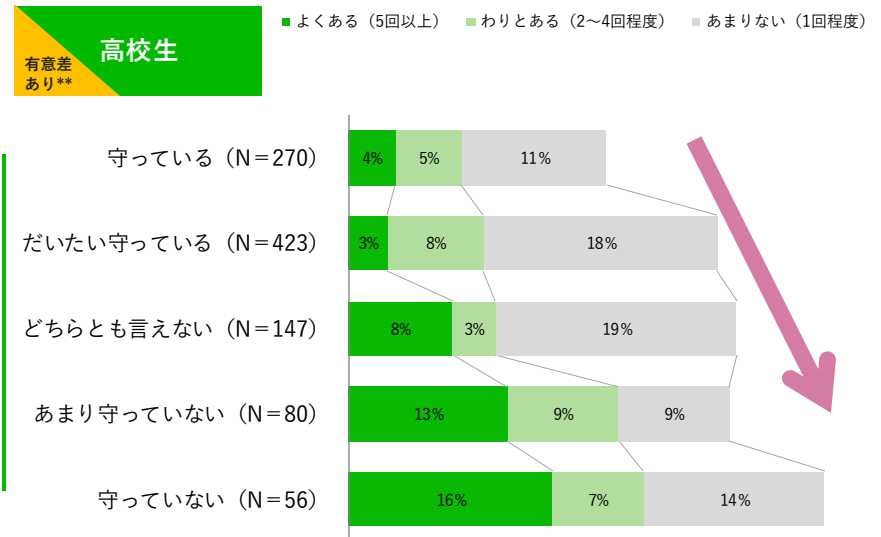
加害経験



加害経験



加害経験

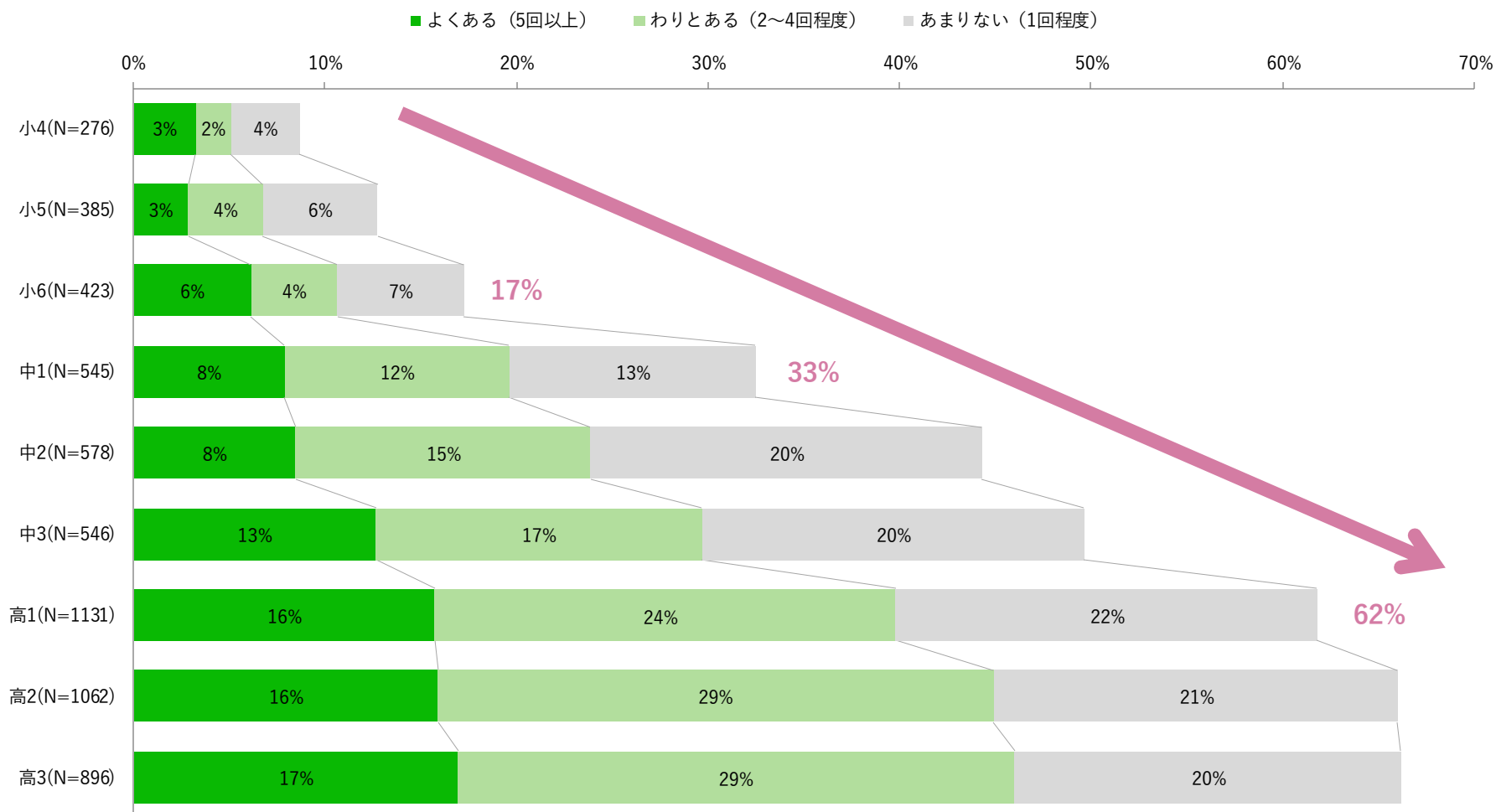


4 ネット上での出会いに関する分析

4-1 知らない人からのメッセージの受信経験<学年別>

知らない人からのメッセージの受信は、学年があがるにつれ高くなる傾向となります。「よくある（5回以上）」、「わりとある（2～4回程度）」、「あまりない（1回程度）」の合計は、知らない人からのメッセージの受信経験は小6で17%、中1で33%、高1で62%です。

問：この1年間にネット上で、知らない人からメッセージが届いたことがありますか。

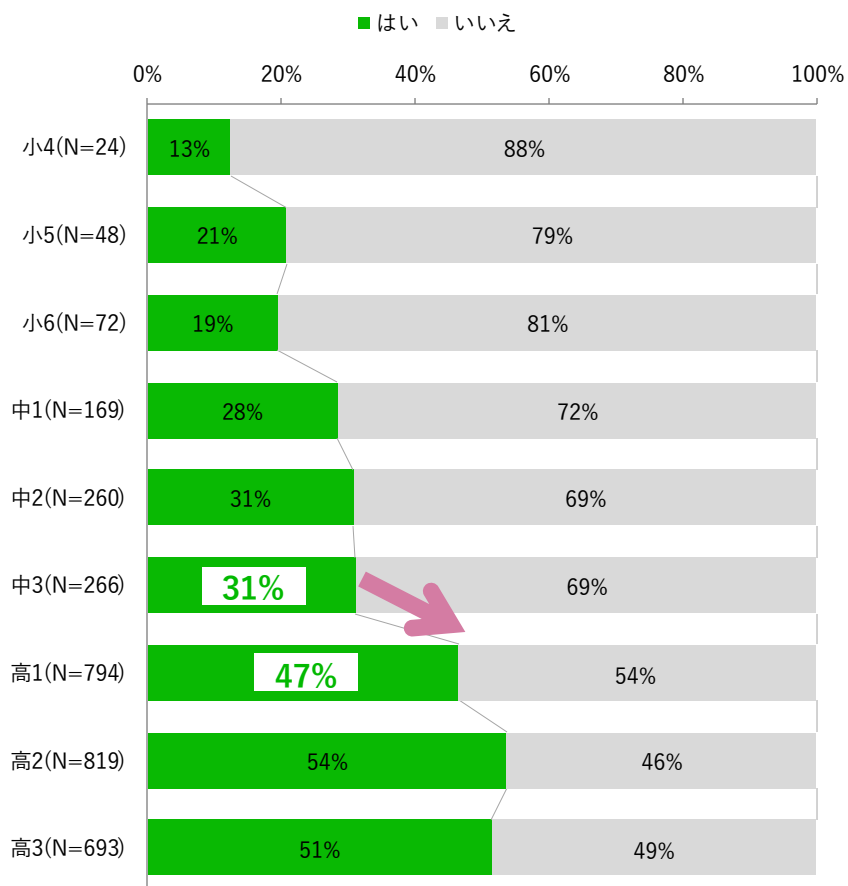


4-2 SNSやメッセージサービスでの本名の公開<学年別>

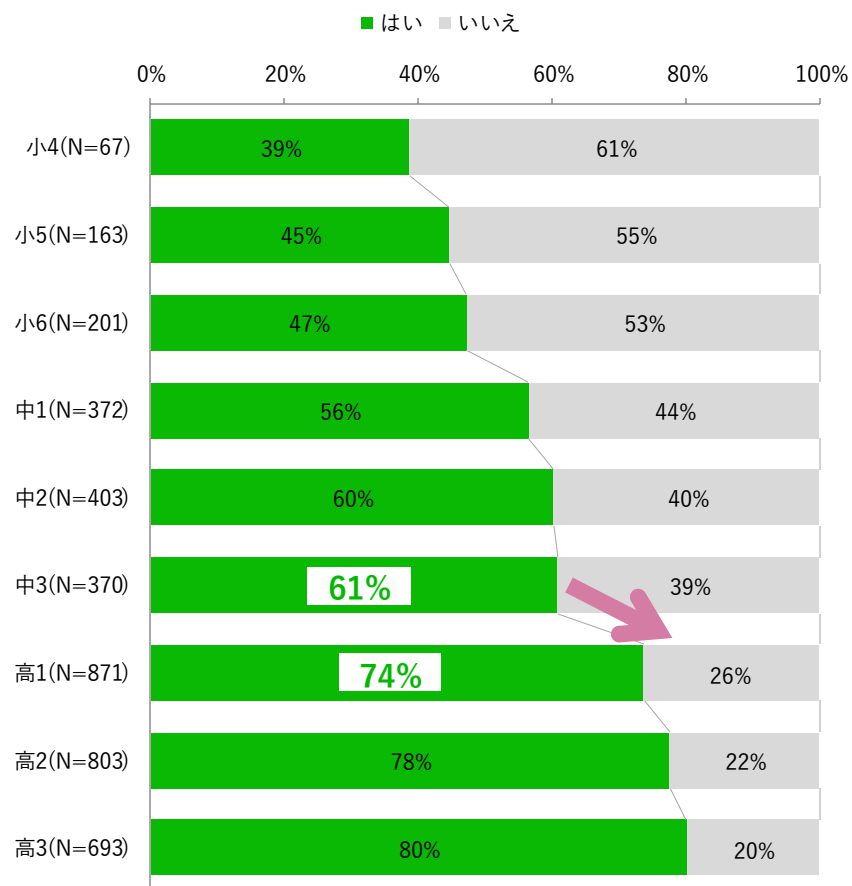
SNSやメッセージサービスでの本名の公開割合は、学年が上がるにつれて高くなる傾向です。特に高校進学時に、SNSでは中3で31%から高1で47%、メッセージサービスでは中3で61%から高1で74%と大幅に高くなります。

全体的に、SNSよりもメッセージサービスの方が本名の公開割合は高くなっています。

SNSを利用のうち「本名を公開している」



メッセージサービス利用のうち「本名を公開している」

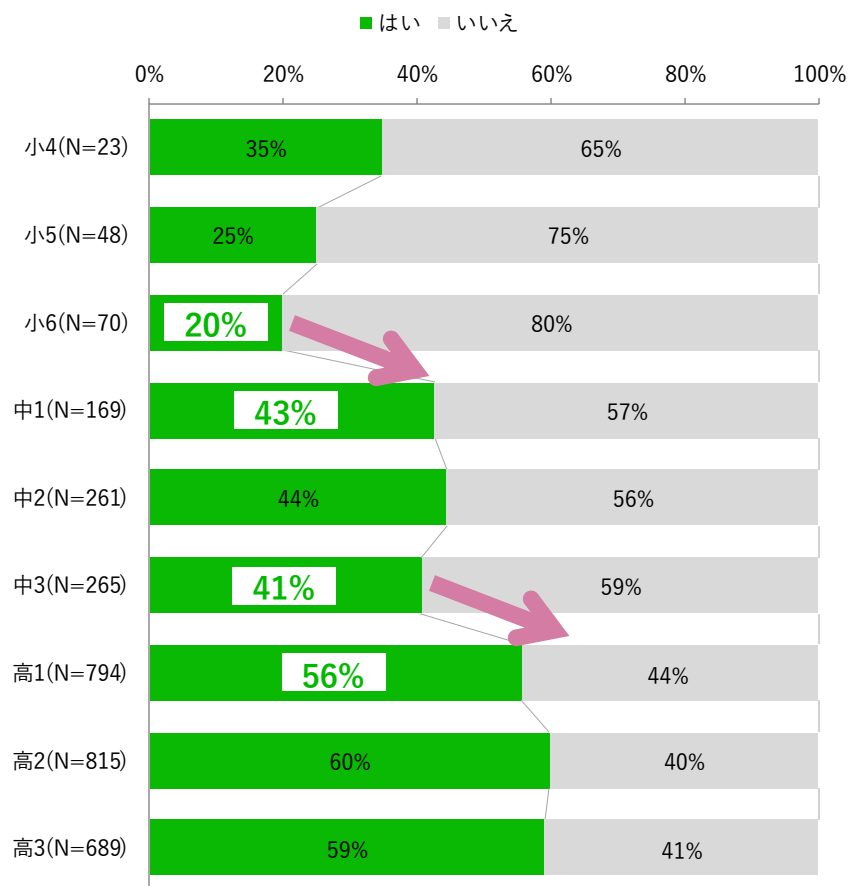


4-3 SNSやメッセージサービスでのニックネームの公開<学年別>

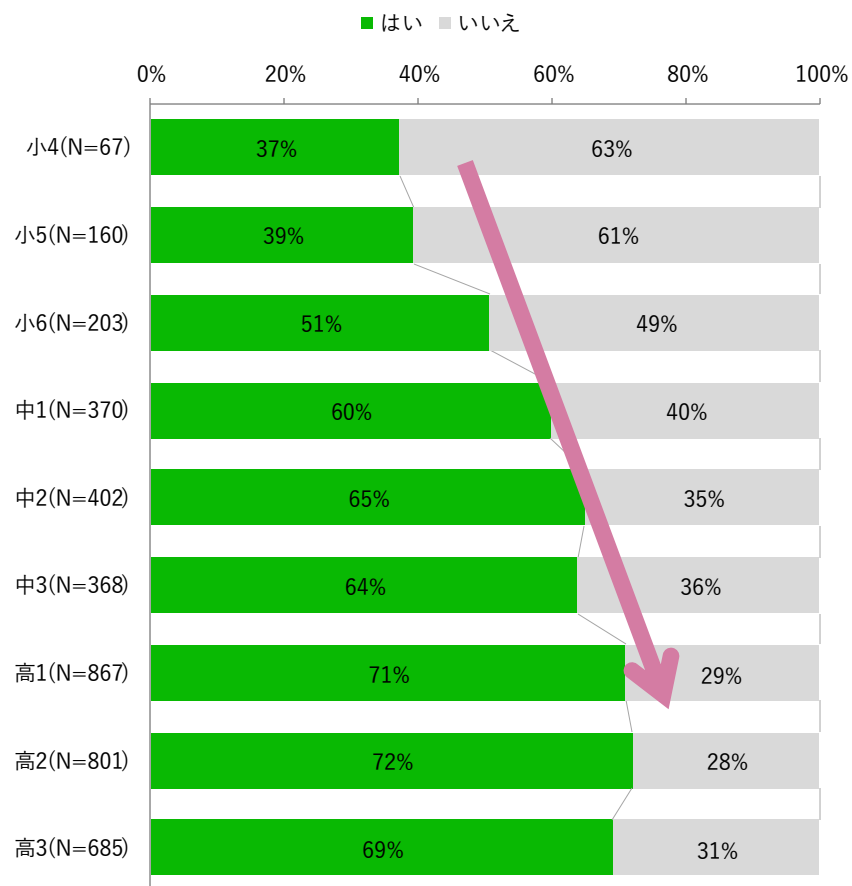
SNSやメッセージサービスでのニックネームの公開割合は、学年が上がるにつれて高くなる傾向です。特にSNSでは中学校進学時（小6で20%から中1で43%）と、高校進学時（中3で41%から高1で56%）に高くなります。

全体的に、SNSよりもメッセージサービスの方がニックネームの公開割合は高くなっています。

SNS利用のうち「ニックネームを公開している」



メッセージサービス利用のうち「ニックネームを公開している」

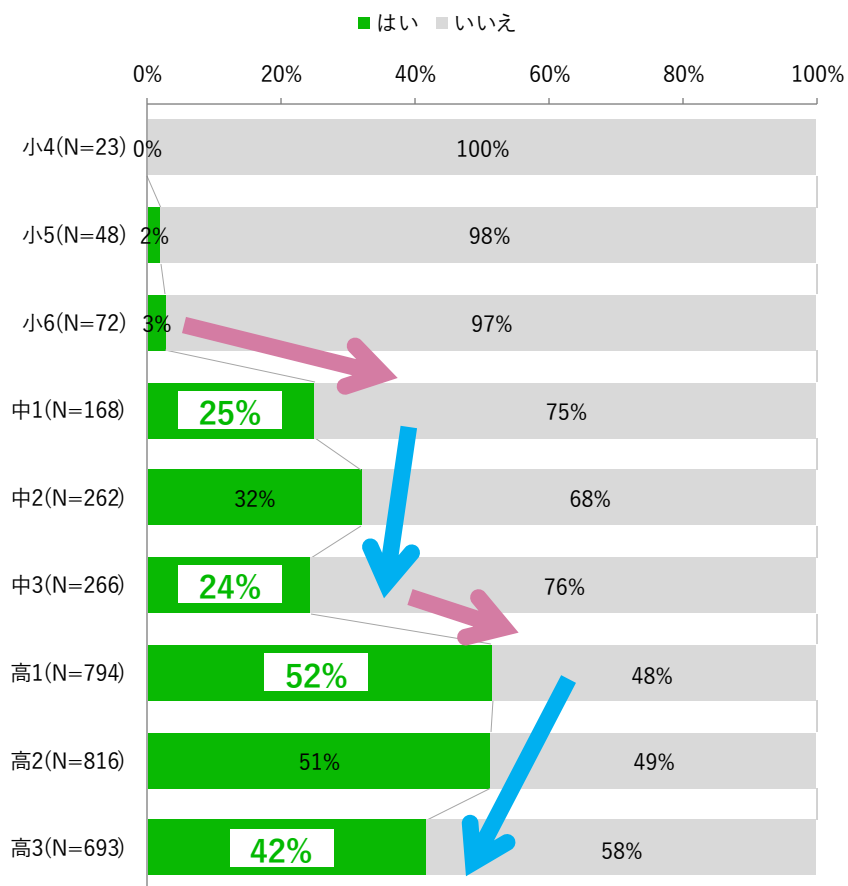


4-4 SNSやメッセージサービスでの学校名・部活名の公開<学年別>

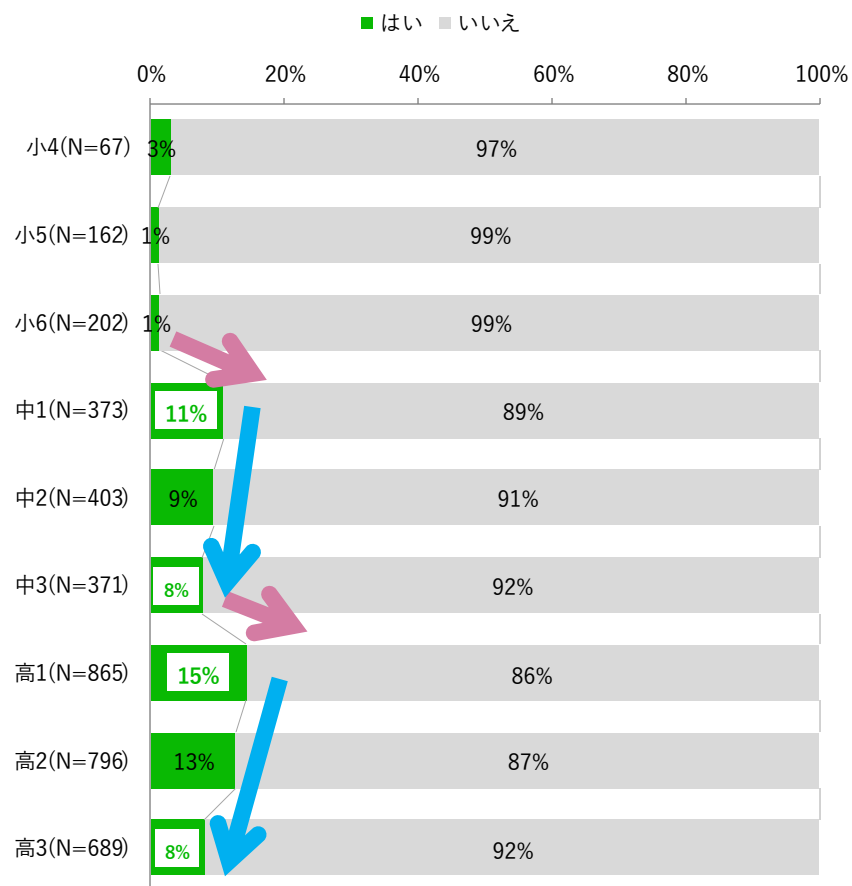
学校名・部活名の公開割合は、SNSでは中学校進学時（小6で3%から中1で25%）と高校進学時（中3で24%から高1で52%）に大幅に高くなりますが、中学生、高校生ともに最高学年になると割合が低くなる（中3で24%、高3で42%）傾向にあります。メッセージサービスでは中学校進学時（小6で1%から中1で11%）と高校進学時（中3で8%から高1で15%）に高くなりますが、中学生、高校生ともに学年が上がるにつれて割合が低くなる（中1で11%から中3で8%、高1で15%から高3で8%）傾向にあります。

全体的にメッセージサービスよりもSNSの方が公開割合はかなり高くなっています。

SNS利用のうち「学校名・部活名を公開している」



メッセージサービス利用のうち「学校名・部活名を公開している」

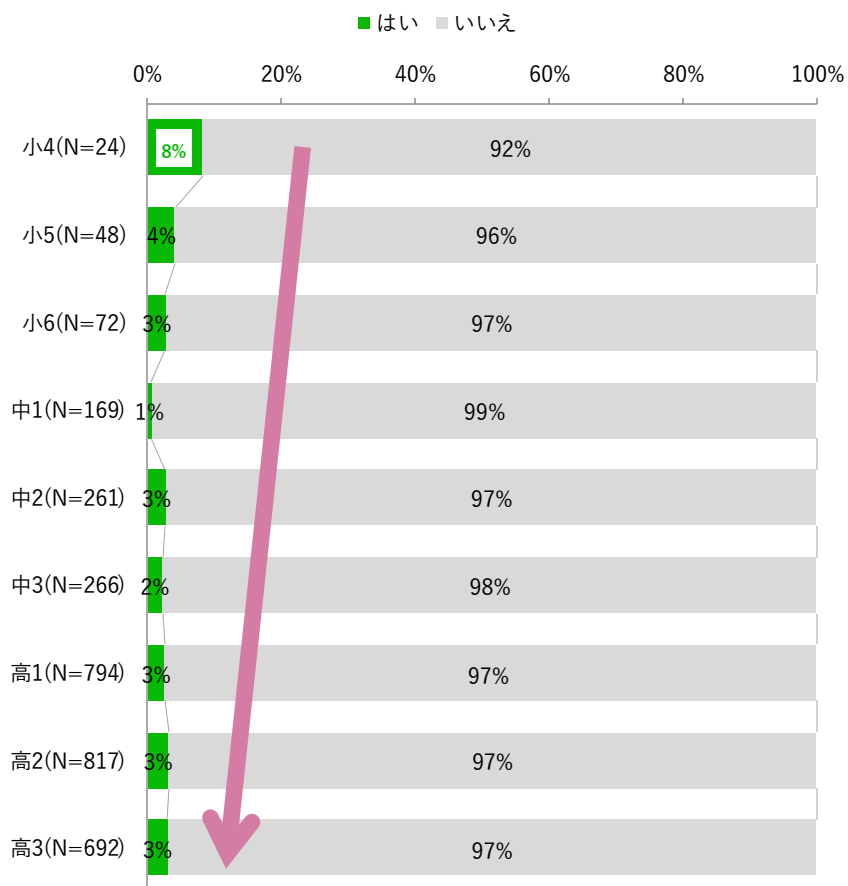


4-5 SNSやメッセージサービスでのメアドやLINE IDの公開<学年別>

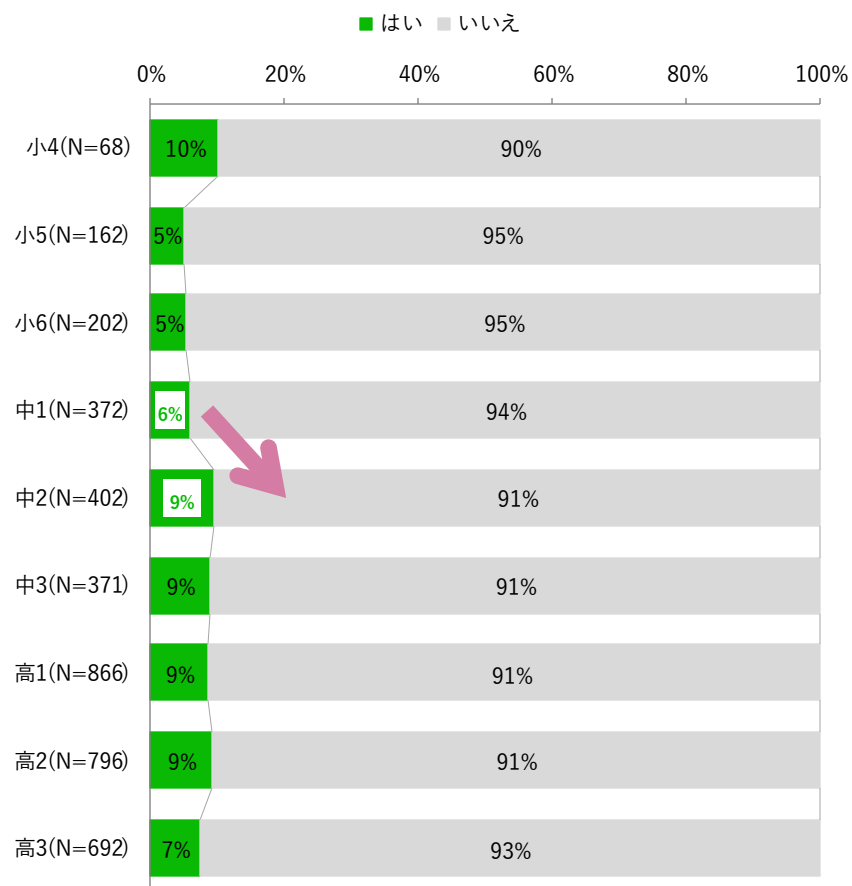
メールアドレスやLINE IDの公開割合は、SNSでは小4で8%と最多ですが、その他の学年では5%以下の割合となっています。一方でメッセージサービスでは、中1（6%）から中2（9%）と増加しています。

全体的にSNSよりもメッセージサービスの方がメールアドレスやLINE IDの公開割合は高くなっています。

SNS利用のうち「メールアドレスやLINEのIDを公開している」



メッセージサービス利用のうち「メールアドレスやLINEのIDを公開している」

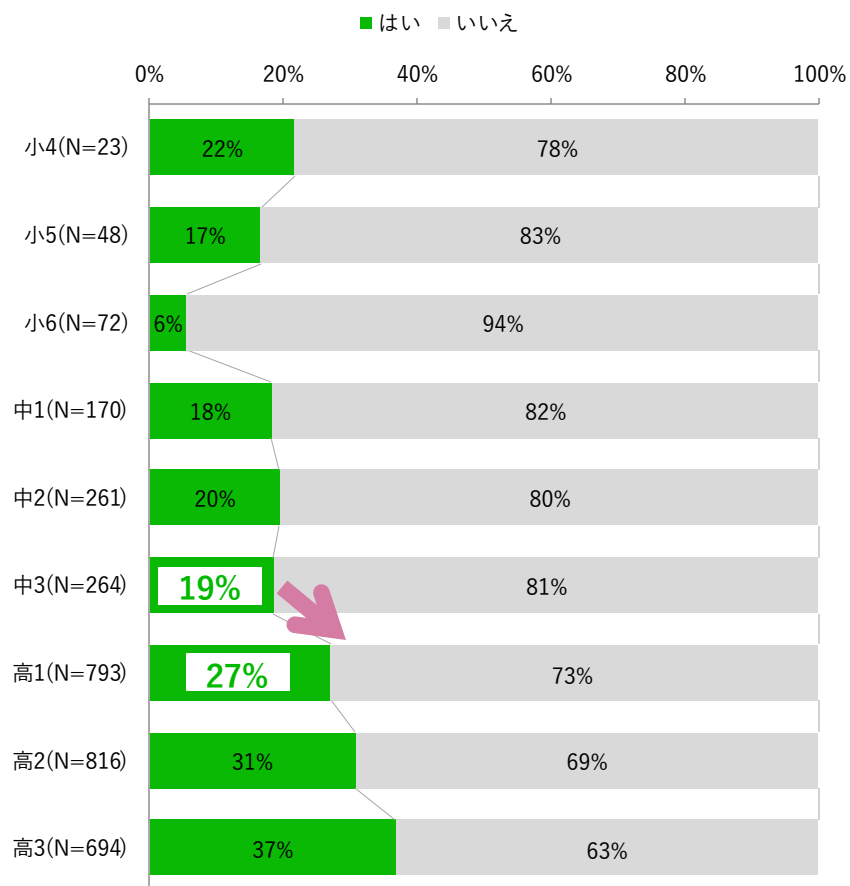


4-6 SNSやメッセージサービスでの顔写真の公開<学年別>

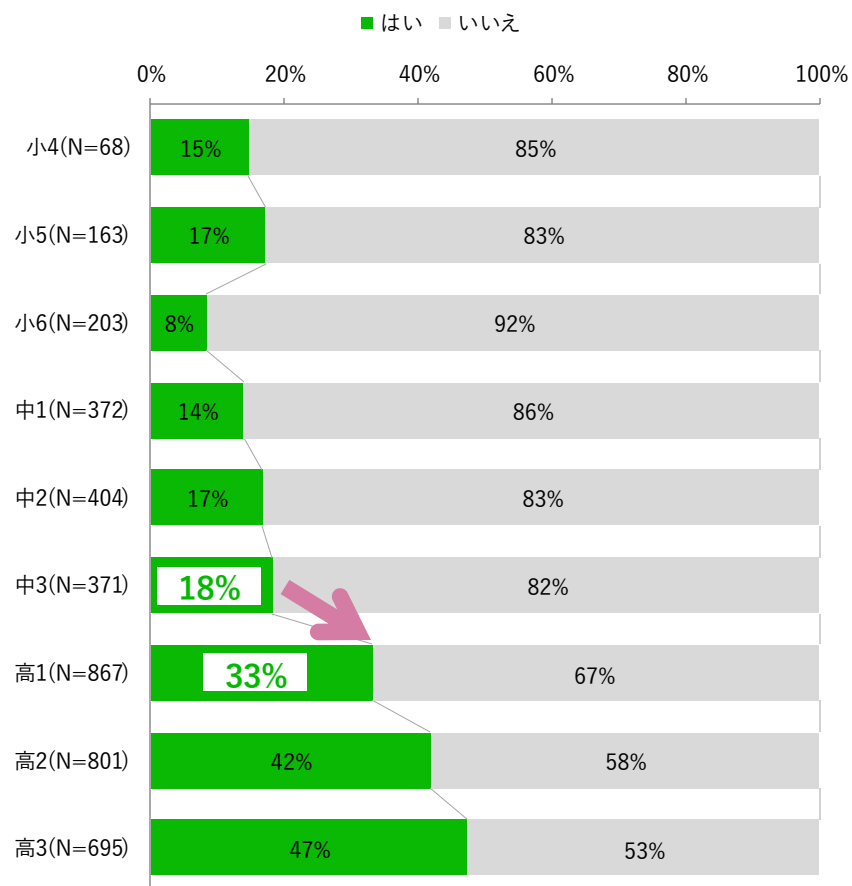
顔写真の公開割合は、高校進学時に、SNS（中3で19%から高1で27%）、メッセージサービス（中3で18%から高1で33%）ともに大きく増加しています。

全体的には、顔写真の公開割合において、両者に大きな差はない結果となりました。

SNS利用のうち「顔写真を公開している」



メッセージサービス利用のうち「顔写真を公開している」



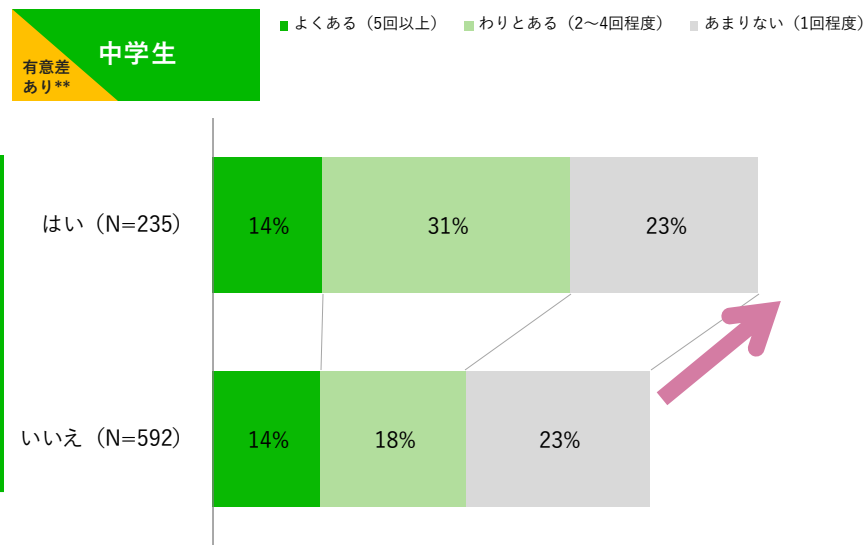
4 - 7 SNS上での本名記載とメッセージ受信頻度 <校種別>

知らない人からのメッセージの受信経験の頻度は、本名を使っている人と使っていない人では、使っているほうが、中学生では高くなり、高校生ではやや高くなる結果となりました。

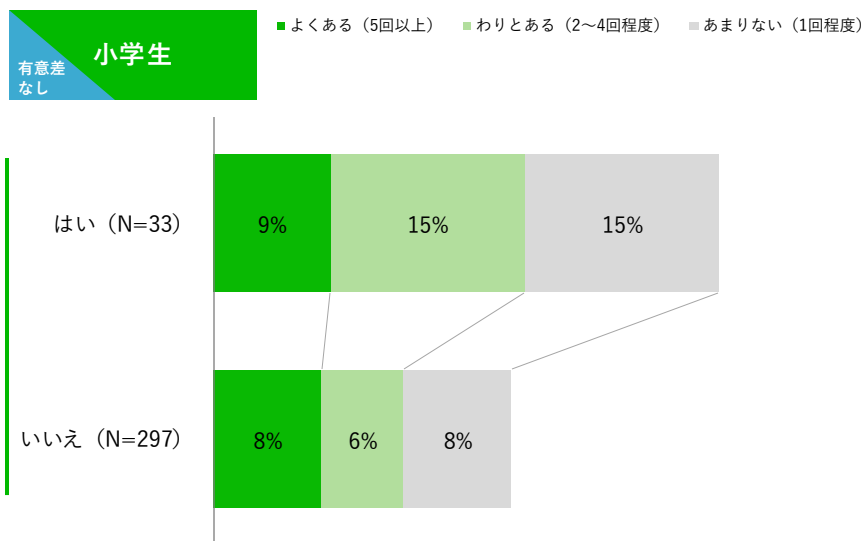
(メッセージ受信頻度) 問：この1年間にネット上で、知らない人からメッセージが届いたことがありますか。

(本名記載) 問：あなたは、SNSやメッセージサービスで、自分の個人情報を公開していますか。(本名)

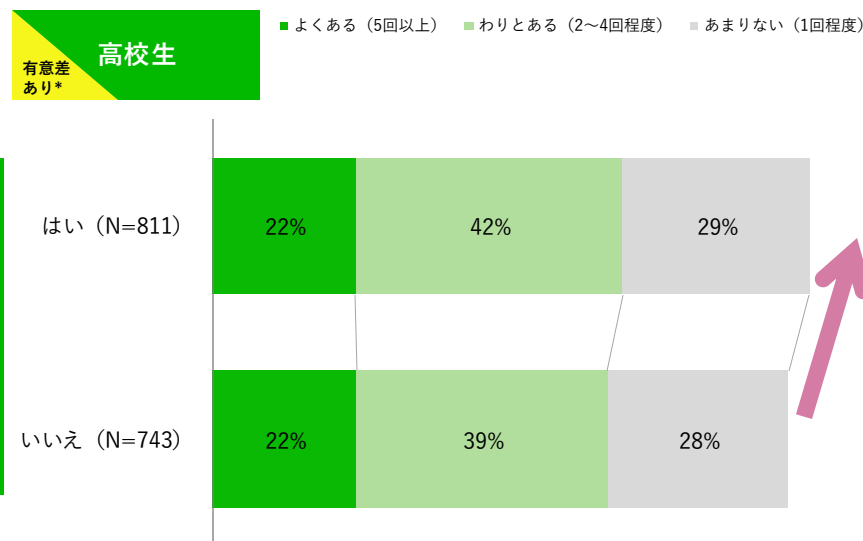
メッセージ受信頻度



メッセージ受信頻度



メッセージ受信頻度



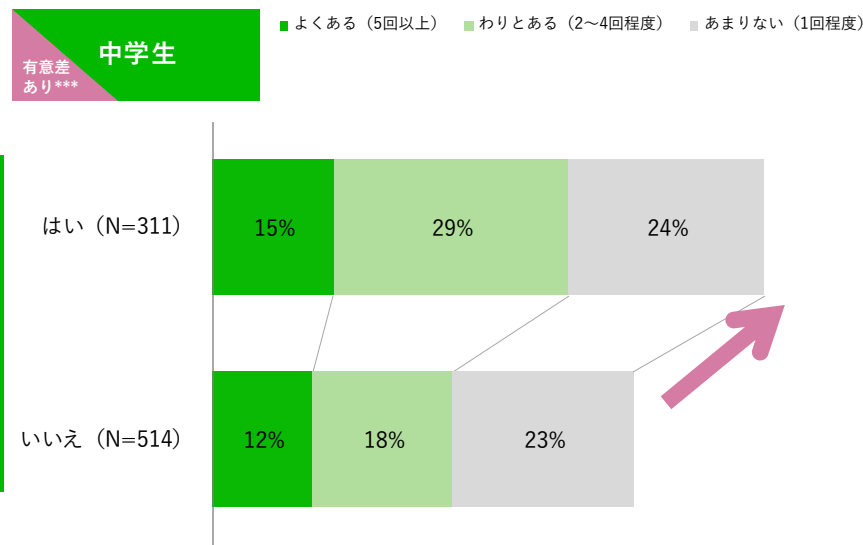
4-8 SNS上でのニックネーム利用とメッセージ受信頻度<校種別>

知らない人からのメッセージの受信経験の頻度は、ニックネームを使っている人ほど、小学生と中学生ではかなり高くなり、高校生ではやや高くなります。

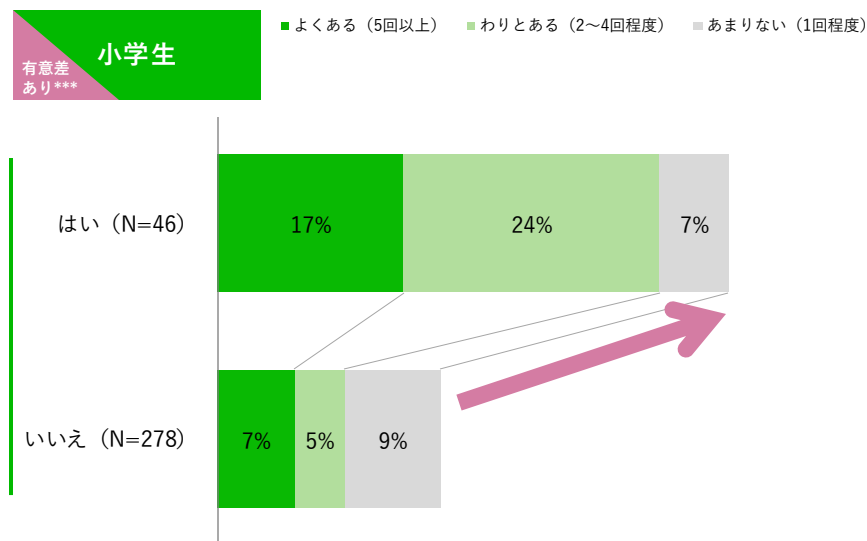
(メッセージ受信頻度) 問：この1年間にネット上で、知らない人からメッセージが届いたことがありますか。

(ニックネーム利用) 問：あなたは、SNSやメッセージサービスで、自分の個人情報を公開していますか。(ニックネーム)

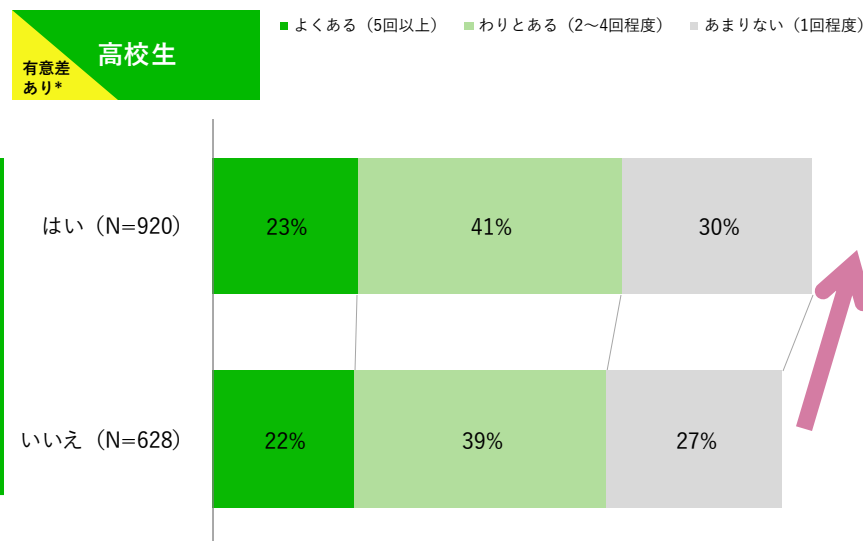
メッセージ受信頻度



メッセージ受信頻度



メッセージ受信頻度



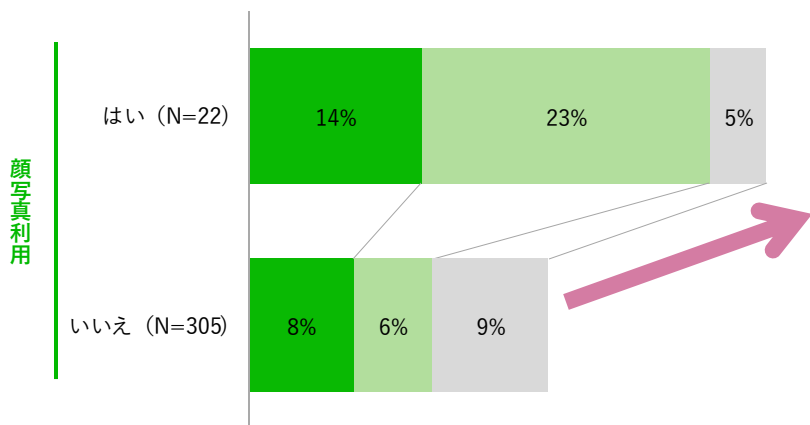
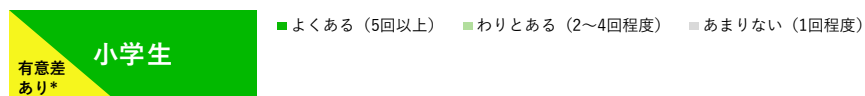
4-9 SNS上での顔写真利用とメッセージ受信頻度<校種別>

知らない人からのメッセージの受信経験の頻度は、自分の顔写真をプロフィールに使っている人ほど、小学生ではやや高くなり、中学生では高くなり、高校生ではかなり高くなります。

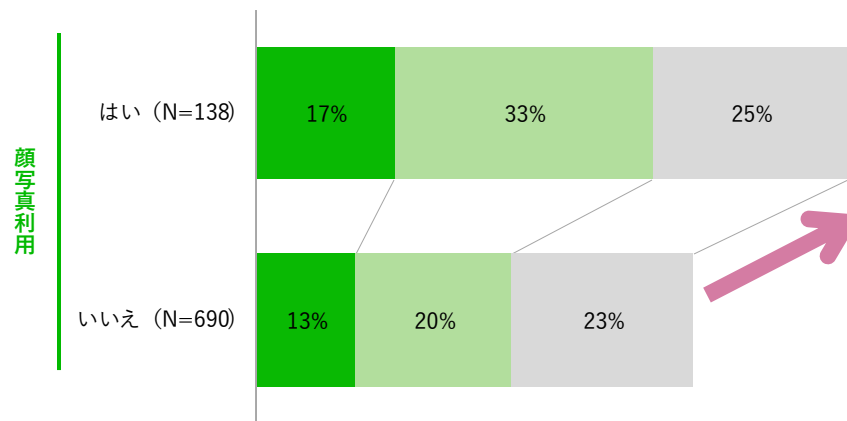
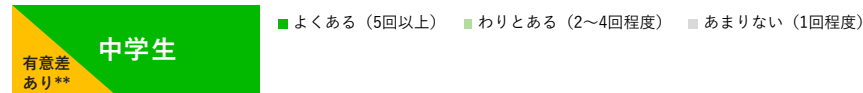
(メッセージ受信頻度) 問: この1年間にネット上で、知らない人からメッセージが届いたことがありますか。

(顔写真利用) 問: あなたは、SNSやメッセージサービスで、自分の個人情報を公開していますか。(顔写真)

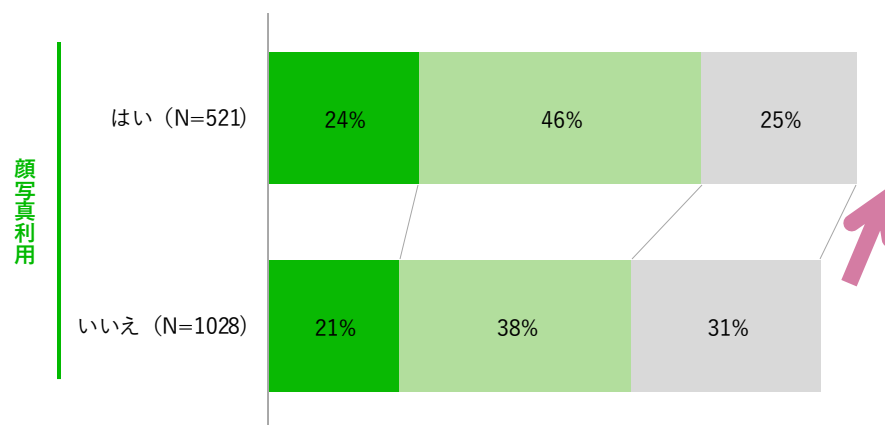
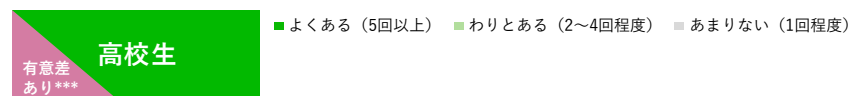
メッセージ受信頻度



メッセージ受信頻度



メッセージ受信頻度



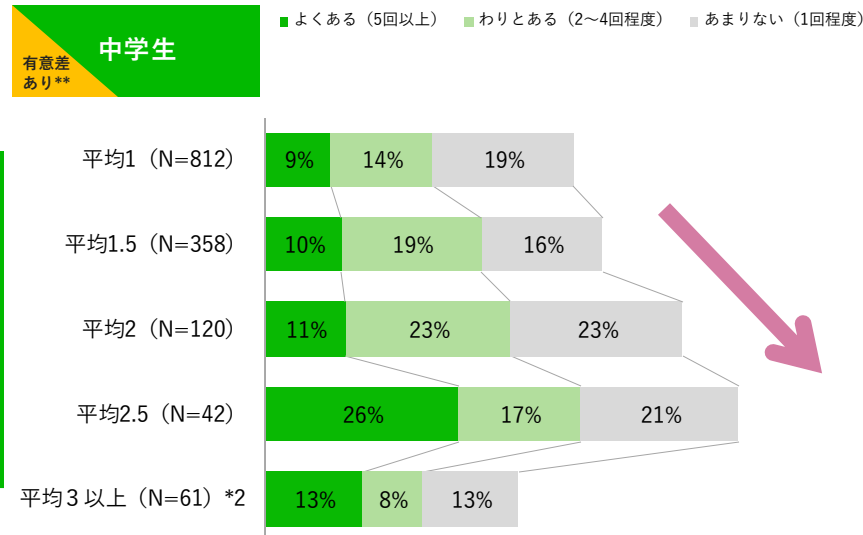
4-10 携帯電話利用のマナー意識とメッセージ受信頻度 <校種別>

知らない人からのメッセージの受信経験の頻度は、マナー意識（回答番号を得点化して平均を利用。値が大きいほどマナー意識が低い*1）の度合いで比較すると、マナー意識が低いほど、小学生と中学生では高くなります。

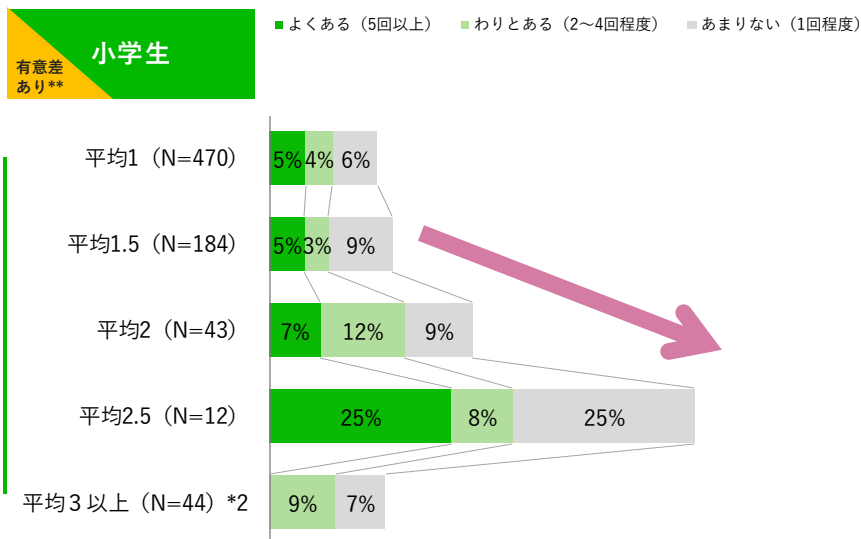
（メッセージ受信頻度）問：この1年間にネット上で、知らない人からメッセージが届いたことがありますか。

（マナー意識）問：あなたは、携帯電話の利用のマナーについて、次のような行動をどう思いますか。

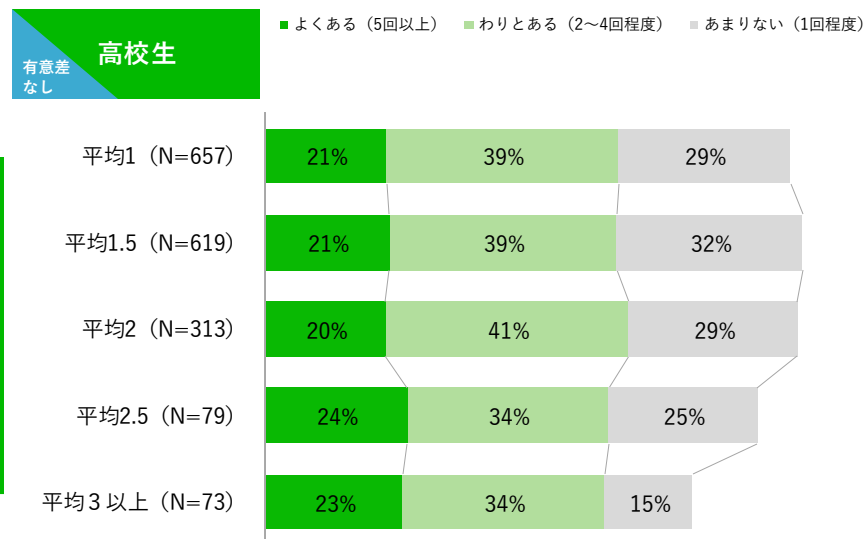
メッセージ受信頻度



メッセージ受信頻度



メッセージ受信頻度



*1 マナー意識の得点は、問の各設問をの回答に関して、1.とても悪い、2.少し悪い、3.あまり悪くない、4.全く悪くない、5.わからないを、それぞれの選択肢の番号を数値として利用し、平均値をマナー意識として利用した。得点が高いほど、マナー違反に対して「悪くない・わからない」という割合が高くなる。

*2 マナー意識の点が3以上の場合は、無回答やいい加減な回答が含まれているケースが多々あり、受信頻度が低くなっている可能性がある。

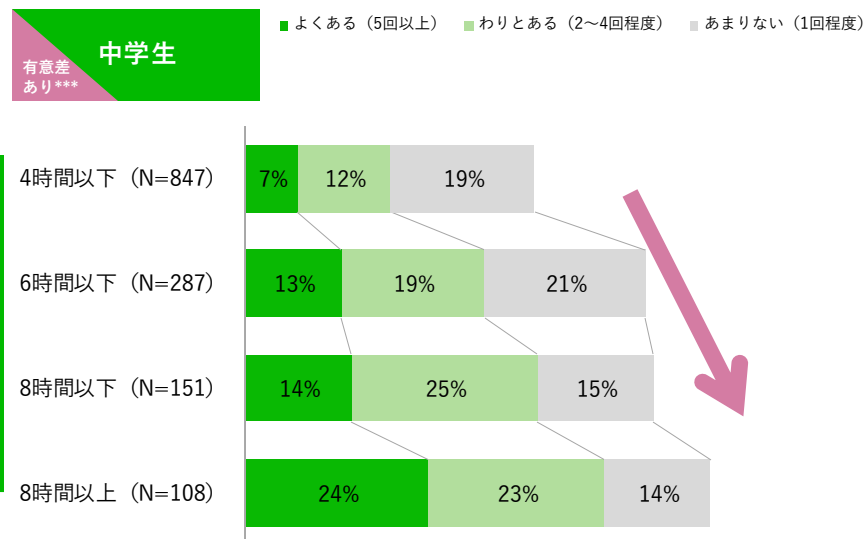
4-1-1 携帯電話の利用時間とメッセージ受信頻度 <校種別>

知らない人からのメッセージの受信経験の頻度は、スマートフォンなどの携帯電話の利用時間が長いほど、小学生と中学生ではかなり高くなり、高校生では高くなります。

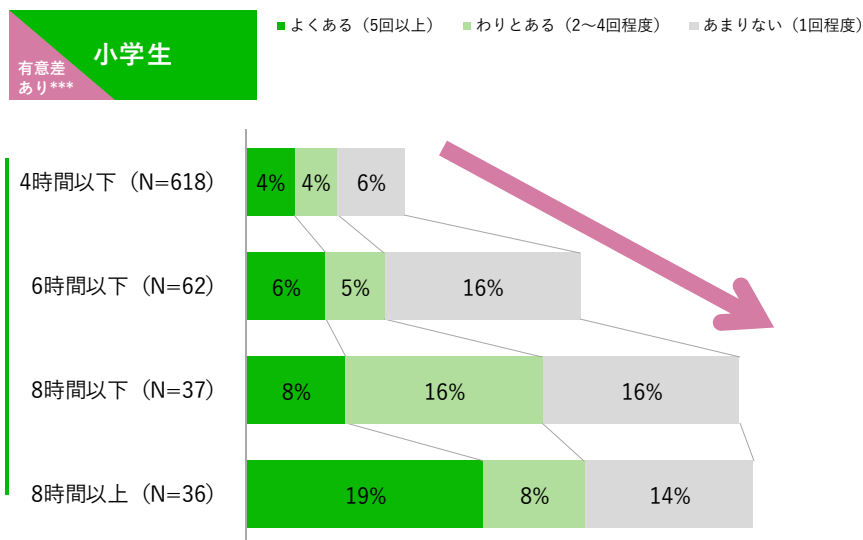
(メッセージ受信頻度) 問：この1年間にネット上で、知らない人からメッセージが届いたことがありますか。

(スマホ時間) 問：あなたは携帯電話を1日に何時間ぐらい使っていますか。

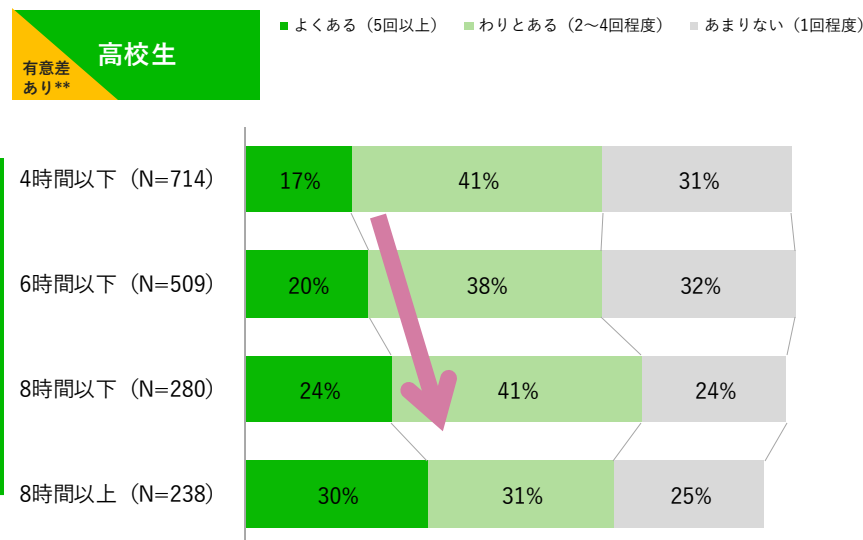
メッセージ受信頻度



メッセージ受信頻度



メッセージ受信頻度



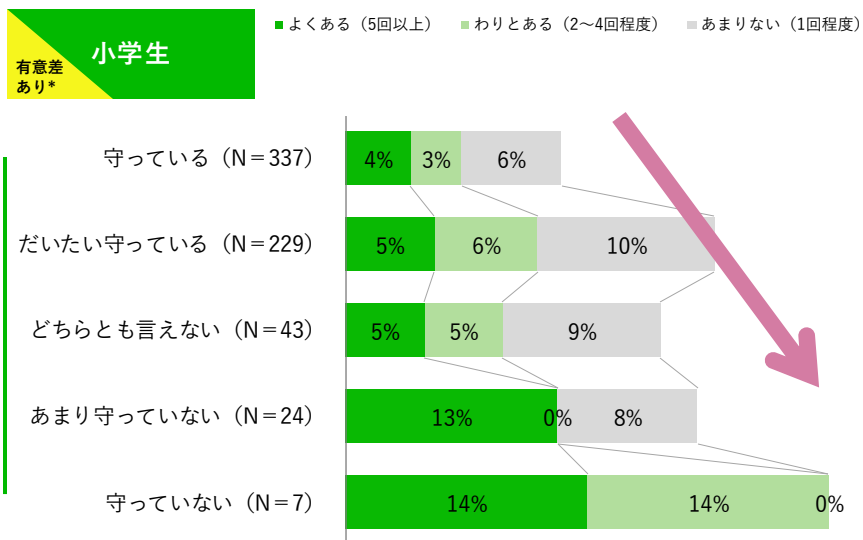
4-12 家庭内ルールの順守割合とメッセージの受信経験<校種別>

知らない人からのメッセージ受信経験の頻度を、家庭内ルールの順守割合で比較すると、ルールを順守していない程度が高いほど、中学生では受信の頻度が高く、小学生と高校生ではやや高くなります。

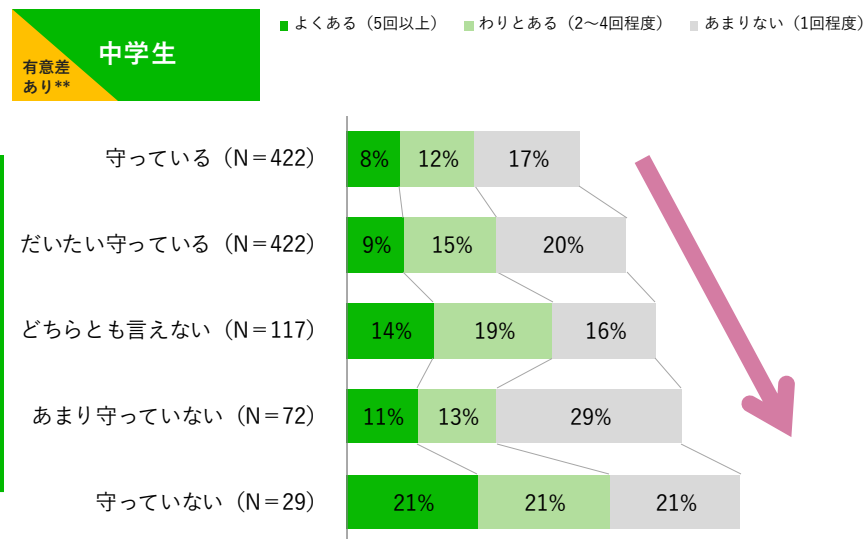
(メッセージの受信経験) 問: この1年間にネット上で、知らない人からメッセージが届いたことがありますか。

(家庭内ルールの順守割合) 問: あなたは家庭内で決められた携帯電話やパソコンを利用するときのルールを守っていますか。

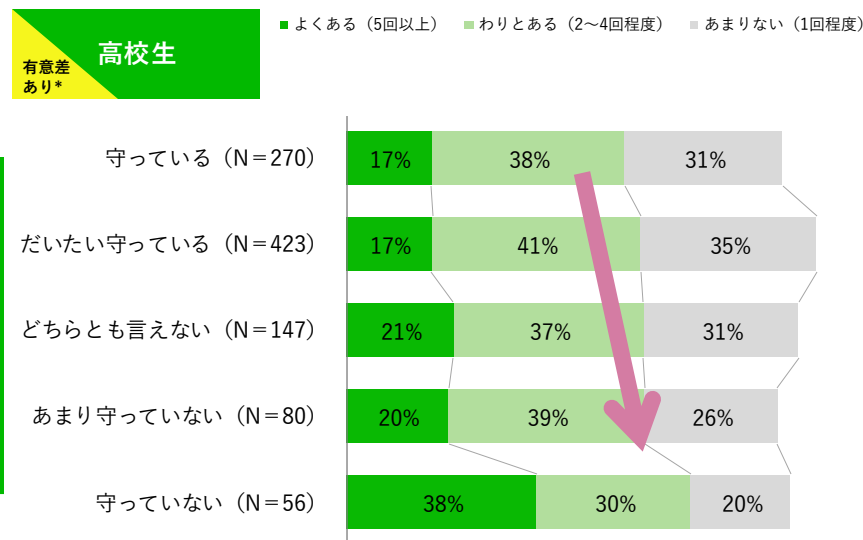
メッセージ受信頻度



メッセージ受信頻度



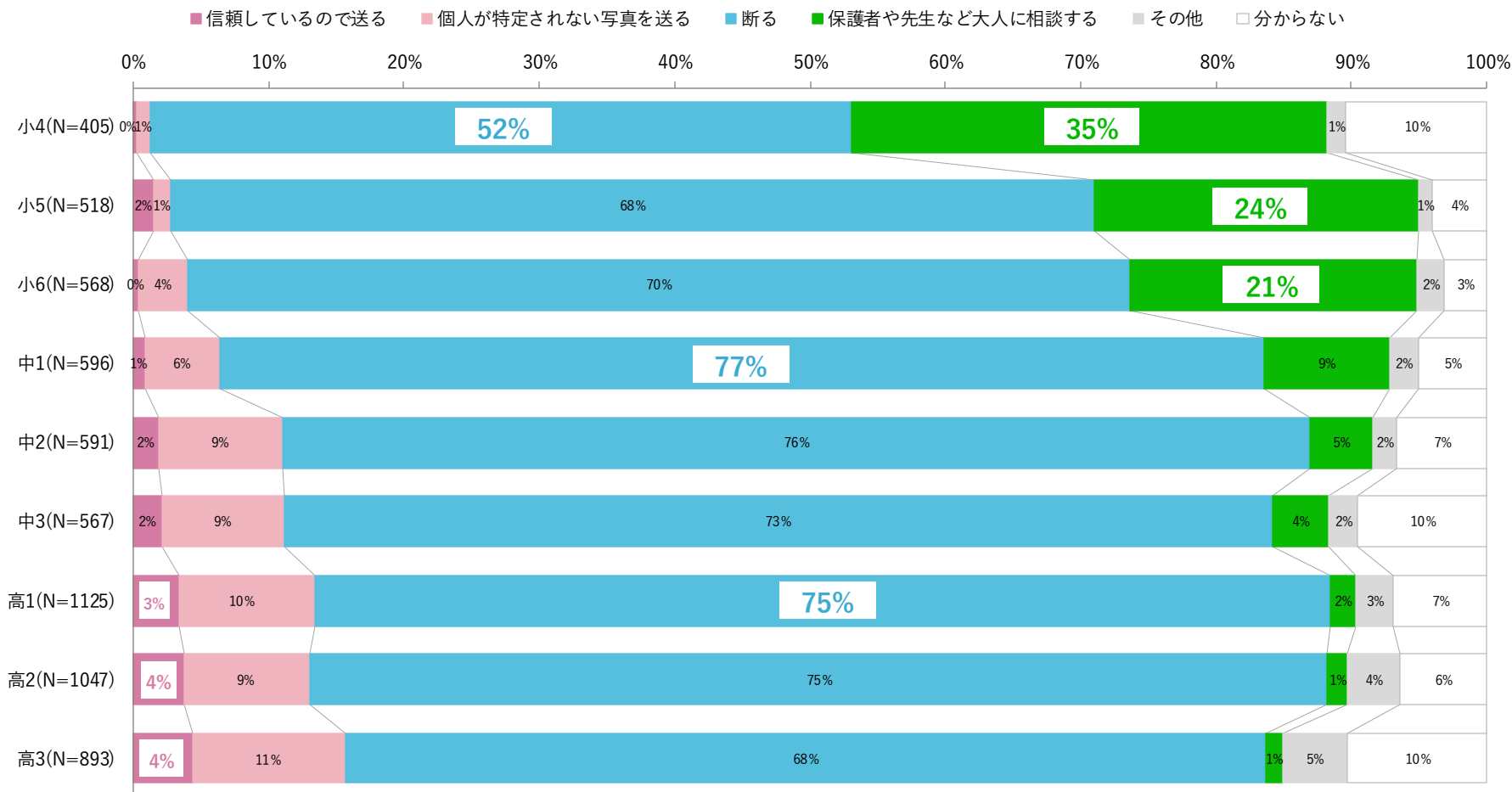
メッセージ受信頻度



4-13 写真を要求された場合の行動<学年別>

ネット上で親しくなった人から写真を要求されたときの対応は「保護者や先生などの大人に相談する」は小4で35%、小5で24%、小6で21%と小学生で割合が多くなっています。「断る」は小4で52%、中1で77%、高1で75%と小学生から中学生までは上昇するものの、それ以降は75%前後で推移しています。一方「信頼しているので送る」という回答も高1で3%、高2で4%、高3で4%と、特に高校生では低いものの一定の割合でいます。

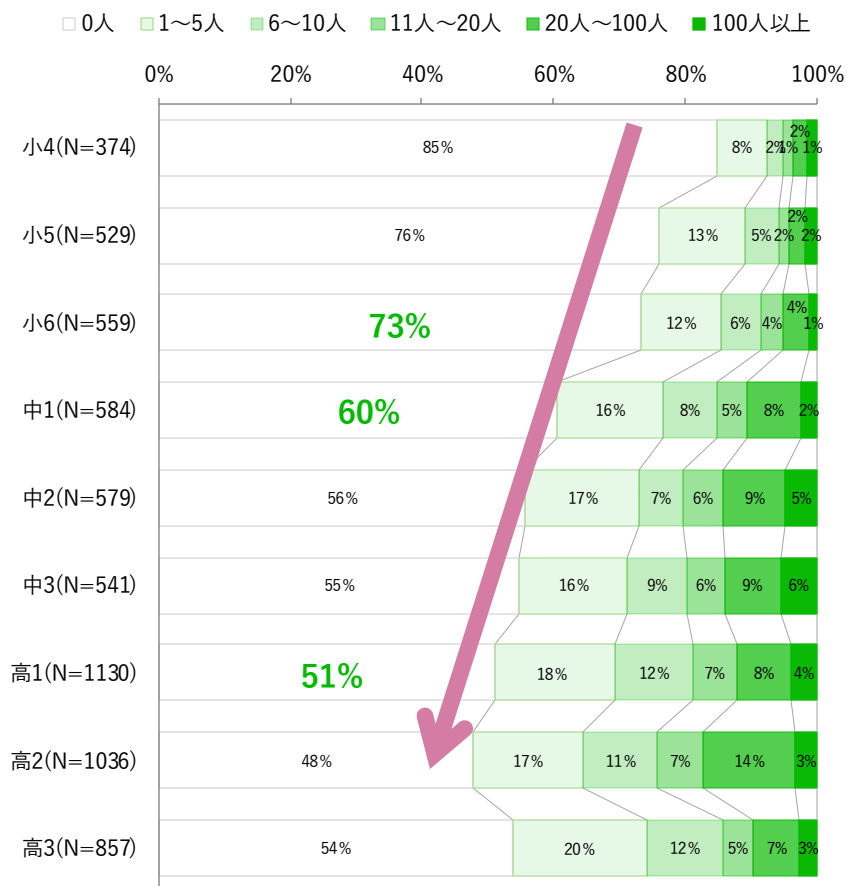
問.ネット上で親しくなった人から自分の写真を要求されたら、どうしますか？



4-14 ネット上で知り合った友達数<学年別>と性別<高校生>

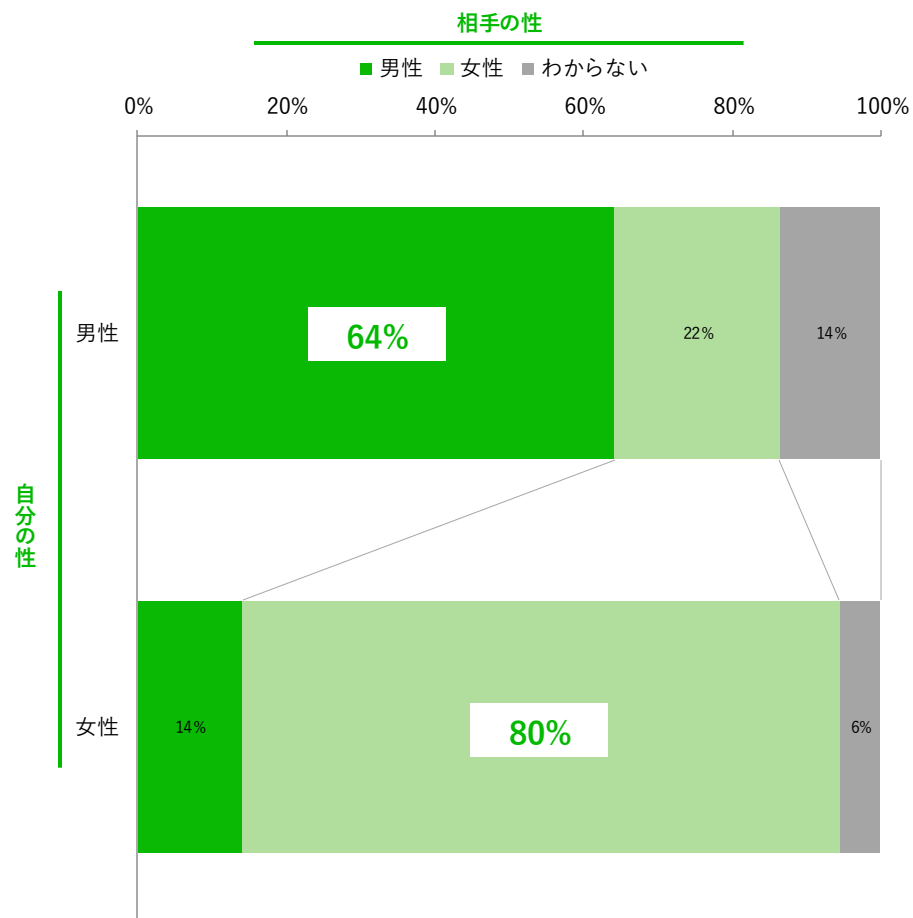
ネット上で知り合った友達数は、学年が上がるにつれて増える傾向があり、小6では0人が73%ですが、中1で60%、高1で51%です。出会う属性は性別ごとで見ると、同性間（男性は男性（64%）と、女性は女性（80%））で知り合う傾向にあります。

問：あなたには、ネットがきっかけで知り合った友達は何人ぐらいいますか。



(縦軸) 本人の性別

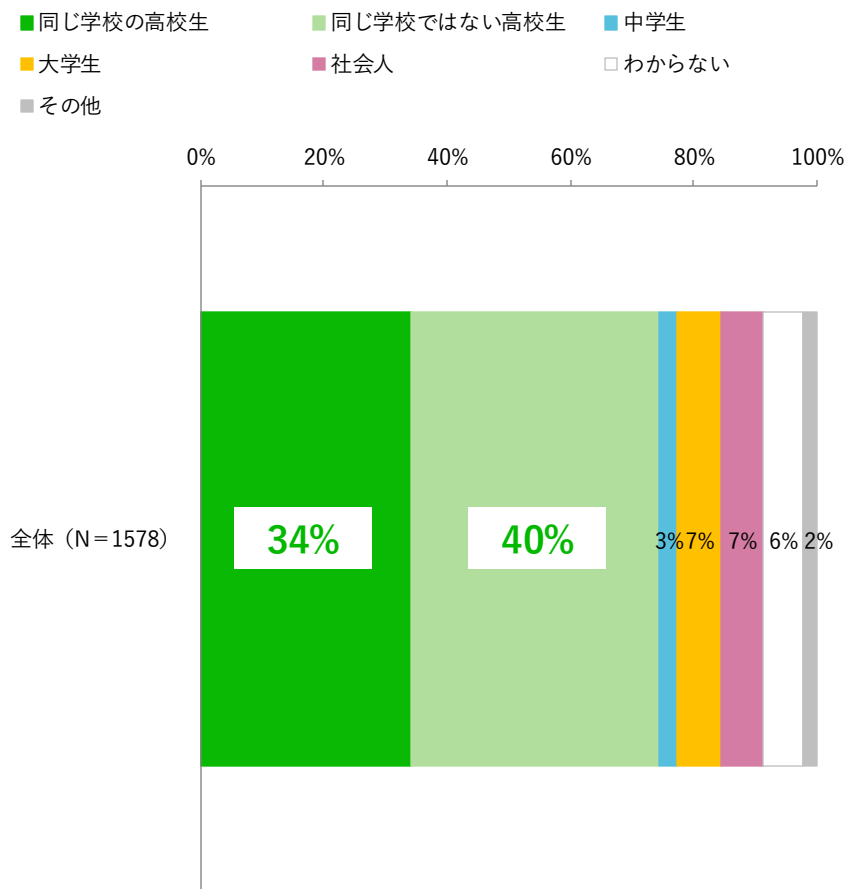
(横軸) 問：ネットで知り合って、最も親しくなった友達はどのような人ですか。



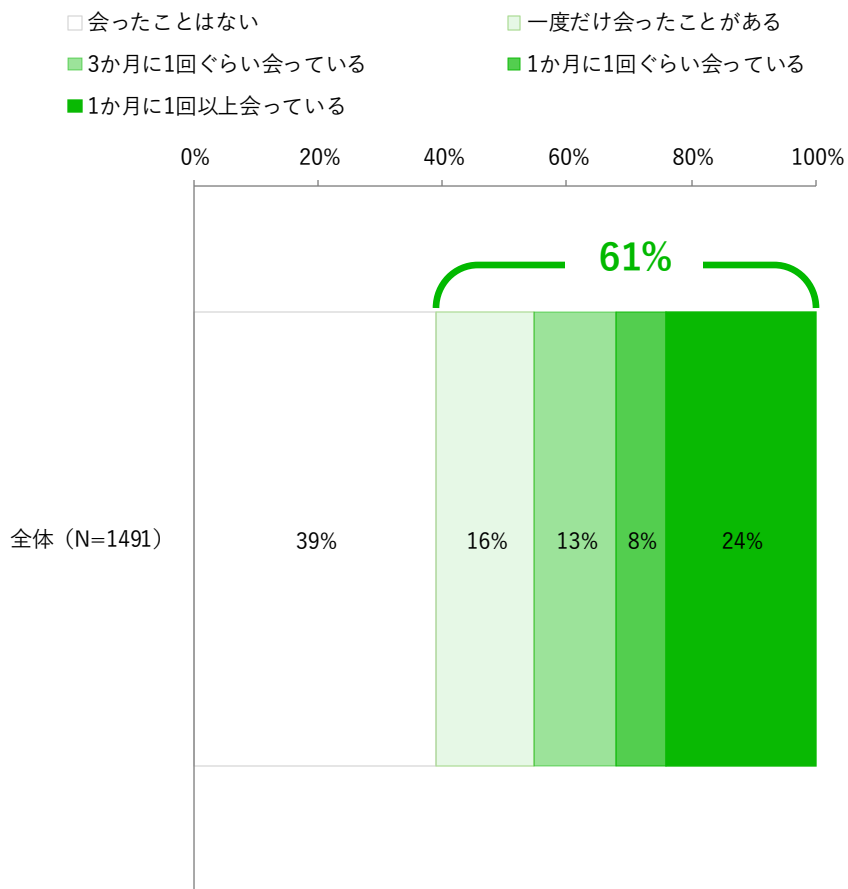
4-15 ネットで知り合った友達の年齢層と会った経験<高校生>

(高校生のみの質問) ネットで知り合った友達の年齢層は、同じ学校の高校生が34%、別の高校の高校生が40%と同年代の高校生と会う割合が高くなっています。ネットで知り合った友達と実際に会った経験は61%となっています。

問：ネットで知り合って、最も親しくなった友達はどのような人ですか。



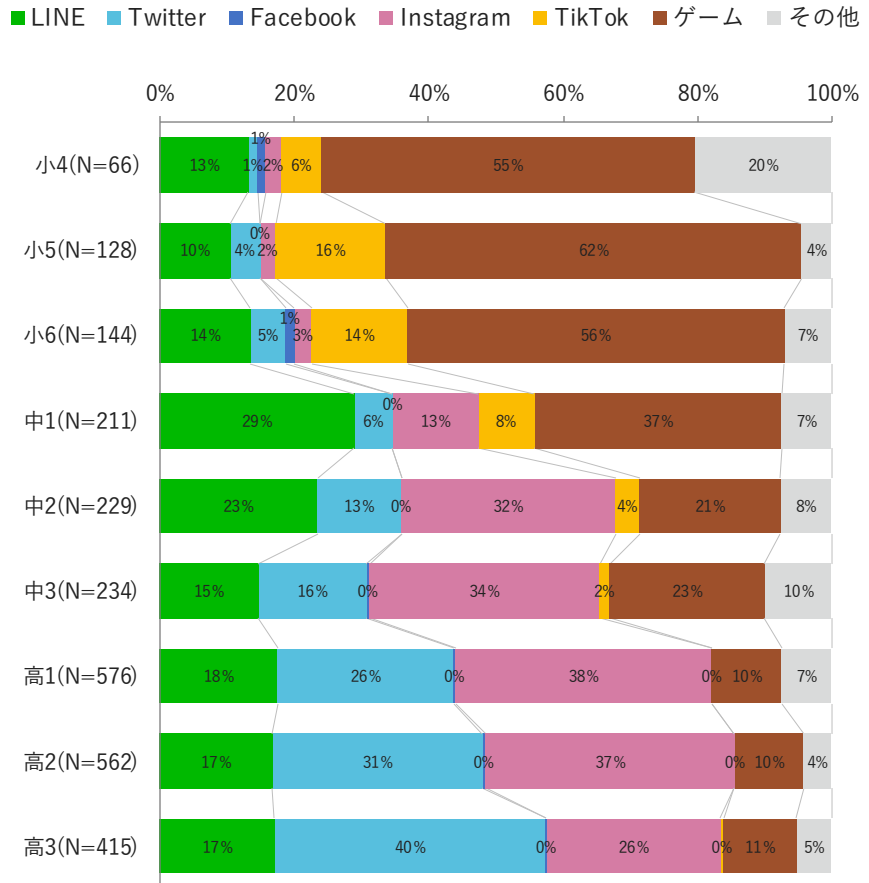
問：ネットで知り合った友達の中で、最も親しい人との1年間に会ったことはありますか。



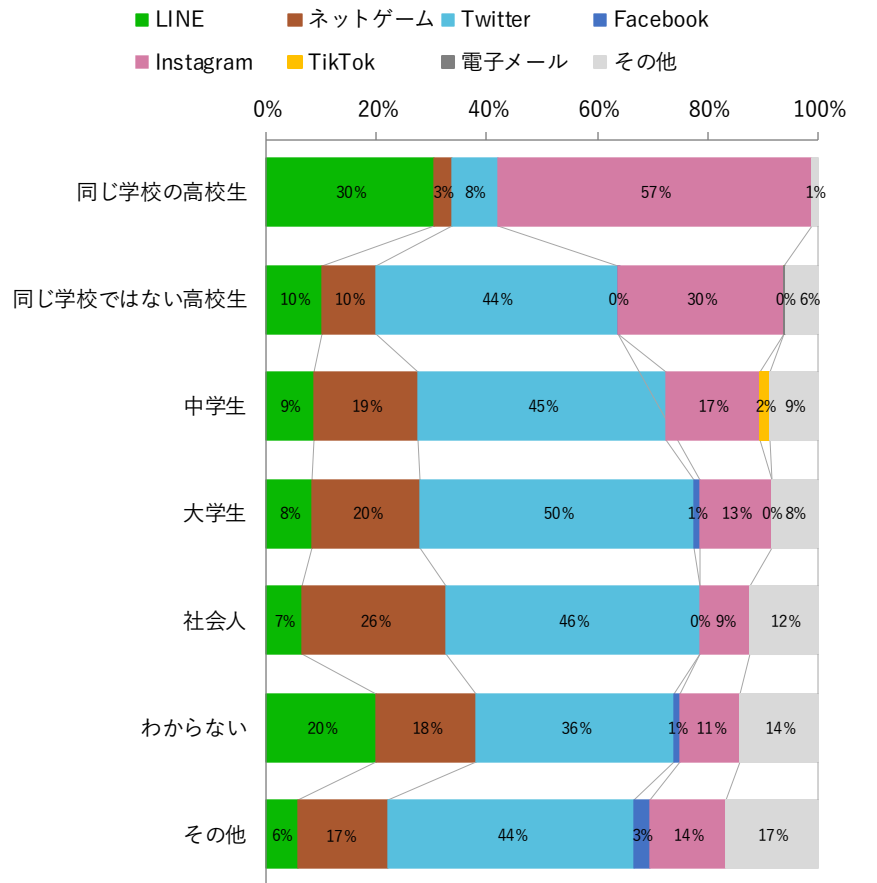
4-16 ネット上で最も親しくなった人と知り合ったきっかけのサービス<学年別>と相手の年齢層との関係<高校生>

ネット上で最も親しくなった人と知り合ったきっかけとなるサービスは、小学生はゲーム、中学生からはInstagram、高校生になるとTwitterの割合が高くなります。（高校生のみの調査で）出会った相手の年齢層ときっかけとなったサービスを比較すると、同じ高校の高校生はInstagramが高く、ほかの高校や大学生・社会人などはTwitterが高くなっています。

問：ネットがきっかけで知り合った友達の中で、「最も親しくなった人」と知り合ったきっかけのサービスはどれですか。



問：ネットがきっかけで知り合った友達の中で、「最も親しくなった人」と知り合ったきっかけのサービスはどれですか。
問：ネットで知り合って、最も親しくなった友達はどのような人ですか。



4-17 ネット上で最も親しくなった人と知り合うきっかけとなったサービスの変化 ＜高校生＞

2018年と2019年の調査で、ネット上で最も親しくなった人と知り合うきっかけとなったサービスを比較すると、同じ高校の高校生では、2018年はLINEが54%でしたが、2019年はInstagramが59%となりました。大学生・社会人・不明では、2018年はTwitterが56%でしたが、2019年には48%とやや減少しています。2019年の調査では、選択肢にネットゲームを追加したところ、ネットゲームが23%となりました。2018年の「不明」の大半はネットゲームだったと推察されます。

問：ネットで知り合って、最も親しくなった友達はどのような人ですか。

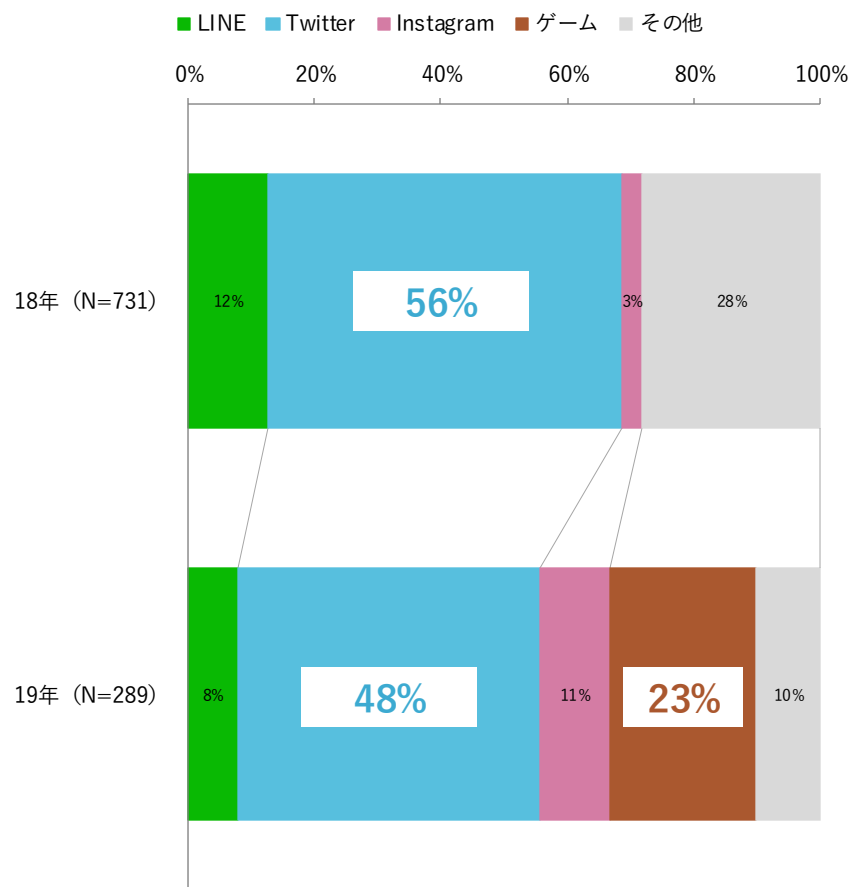
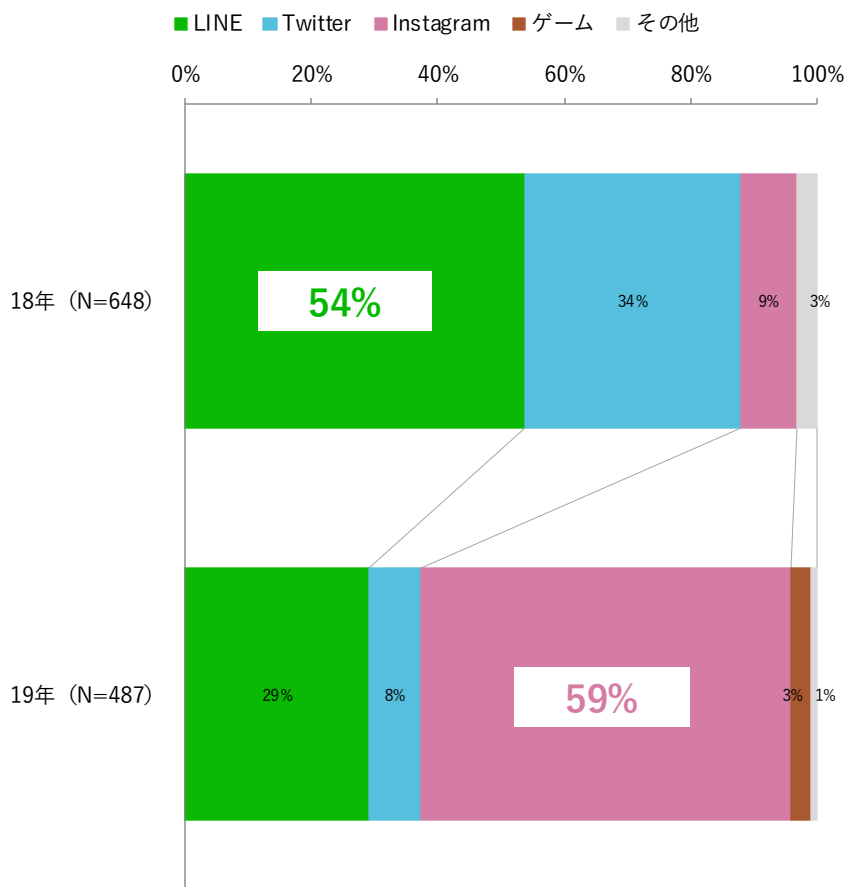
(同じ高校と回答した人のうち)

問：ネットがきっかけで知り合った友達の中で、「最も親しくなった人」と知り合ったきっかけのサービスはどれですか

問：ネットで知り合って、最も親しくなった友達はどのような人ですか。

(大学生・社会人・不明と回答した人のうち)

問：ネットがきっかけで知り合った友達の中で、「最も親しくなった人」と知り合ったきっかけのサービスはどれですか

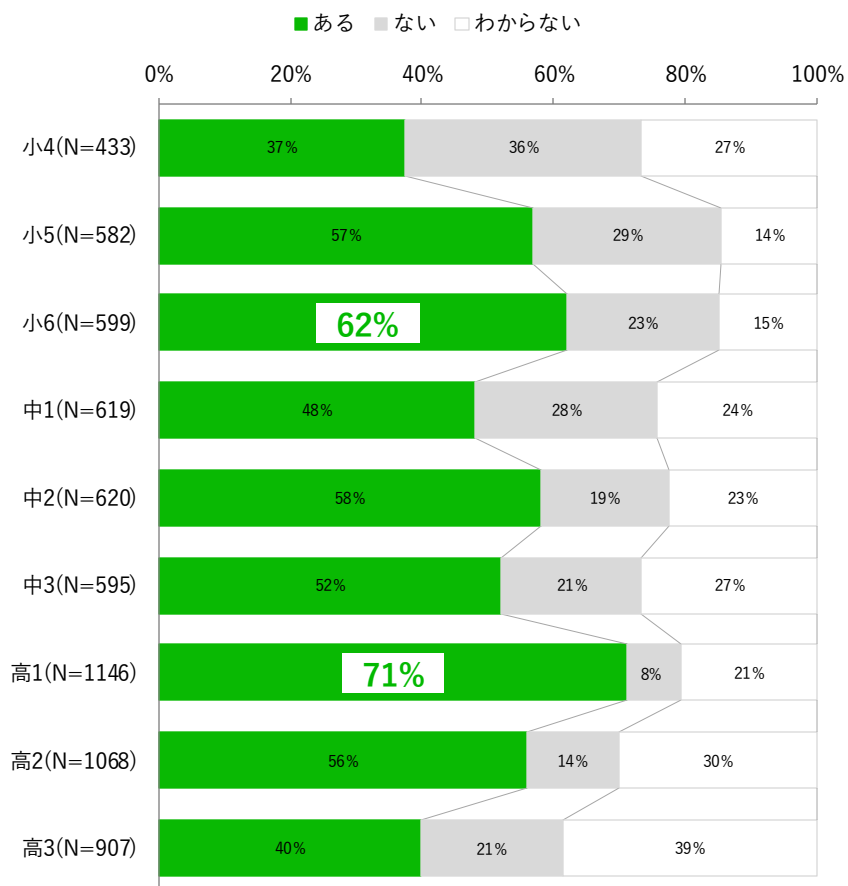


5 情報モラル教育に関する分析

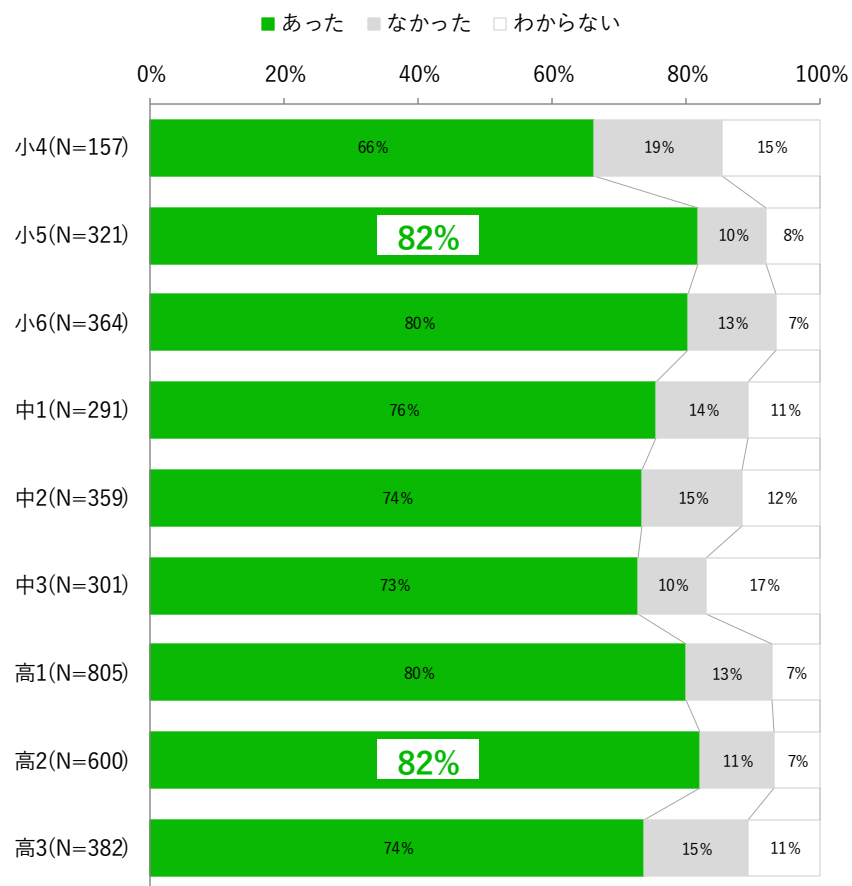
5-1 情報モラル教育の受講経験と気づき < 学年別 >

情報モラル教育の受講経験は、小学生は学年が上がるほど高くなり、小6で62%となります。学年を通じて高1で71%と最も高くなります。気づきの有無は、学年問わず総じて高い傾向にあり、小5、高2で82%と最も高くなります。

問：この1年間で、学校などで携帯電話やネットに関する講習を受けたことがありますか。



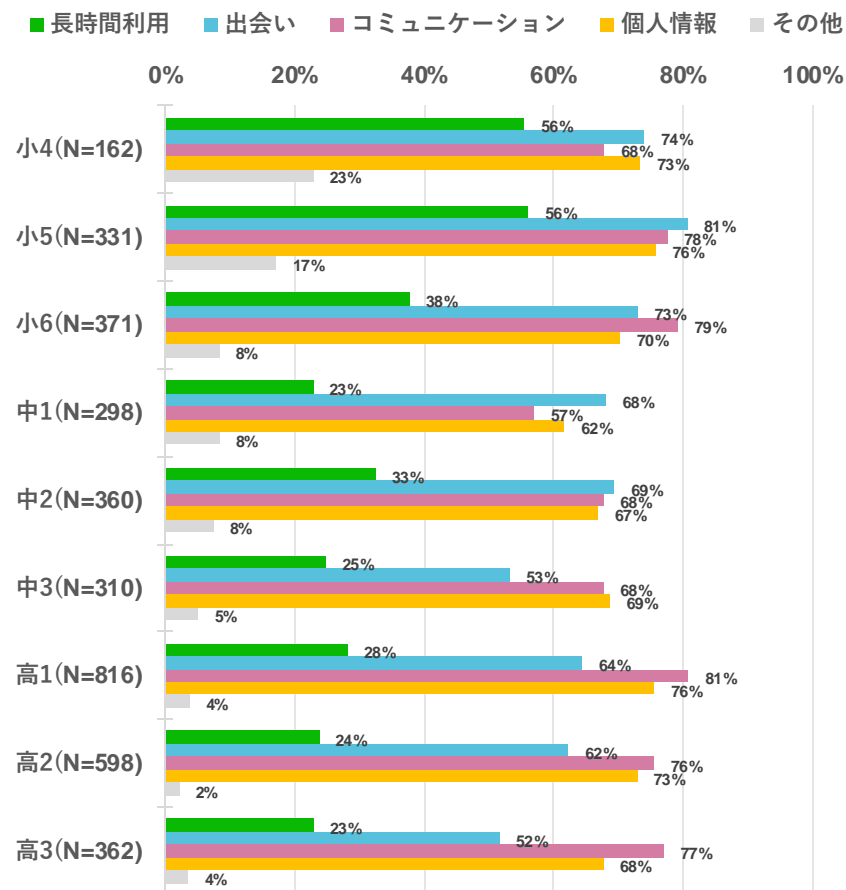
問：講習を受けて、気づいたことはありました（受講経験者を抽出）



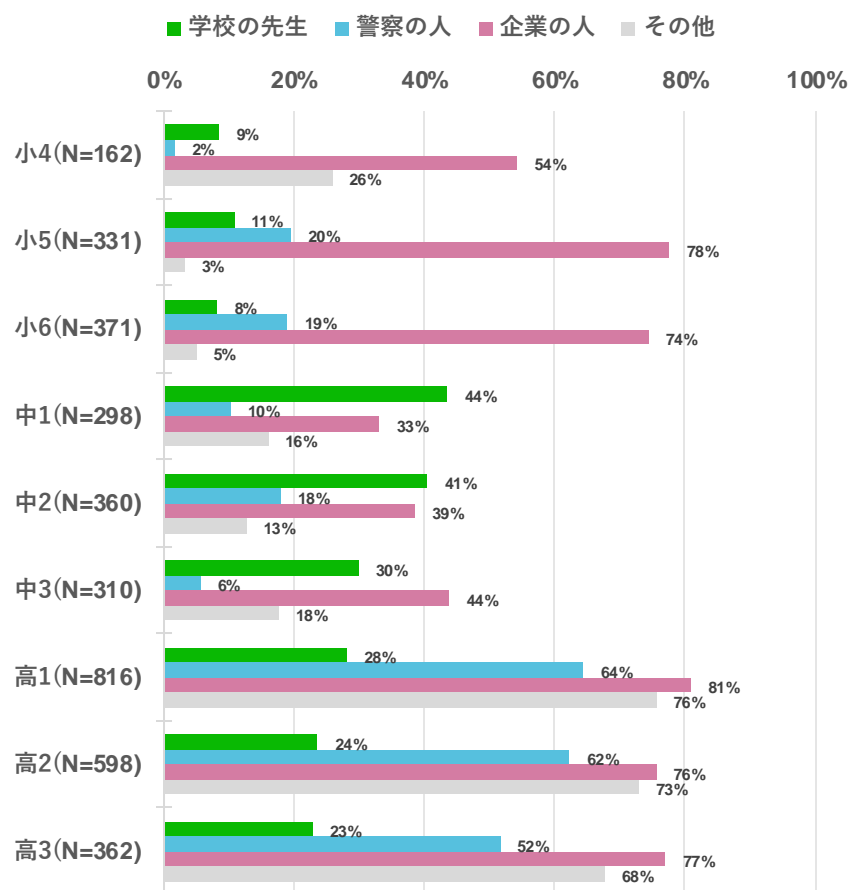
5-2 情報モラル教育の内容や実施者<学年別>

情報モラルの教育経験は全般的に高い傾向にあります。小学生では高い割合の「長時間利用」をテーマにした教育は、中学生以上になると低くなる傾向があります。その他のテーマは学年問わず高い傾向にあります。また、授業実施者は小学生では企業の割合が高いですが、中学生では学校の先生、高校生では企業や警察・その他の割合が高くなります。

問25. 受けた講習は、どのような内容でしたか。



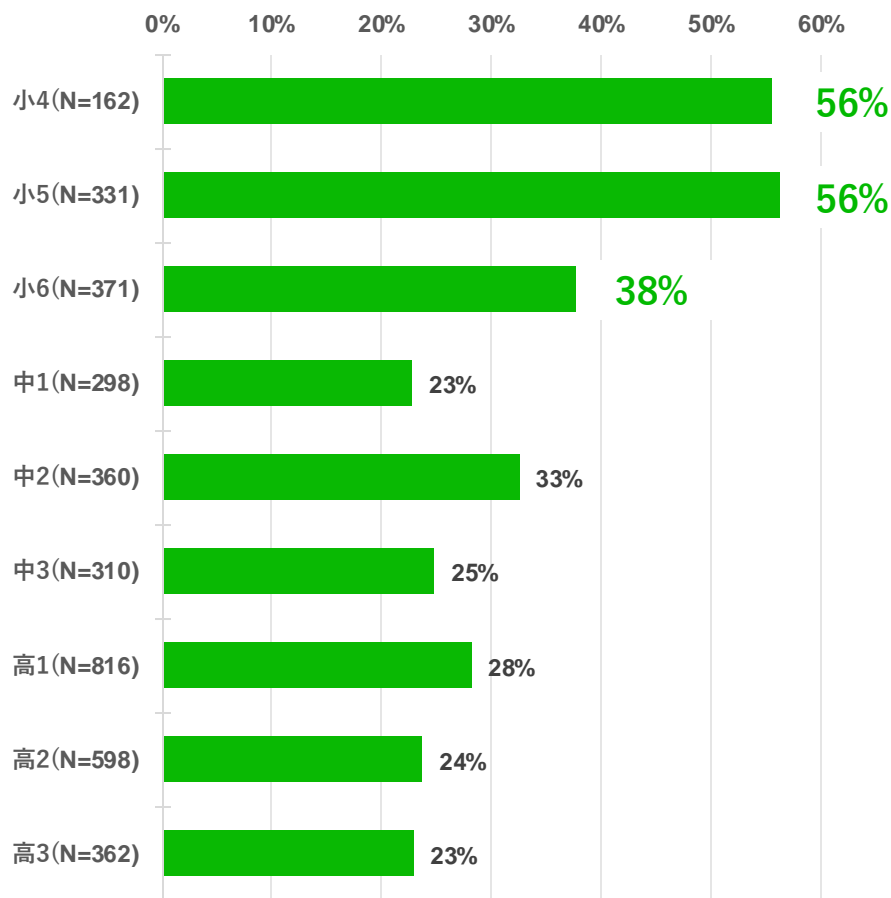
問26. 受けた講習で、話していた人は誰でしたか。



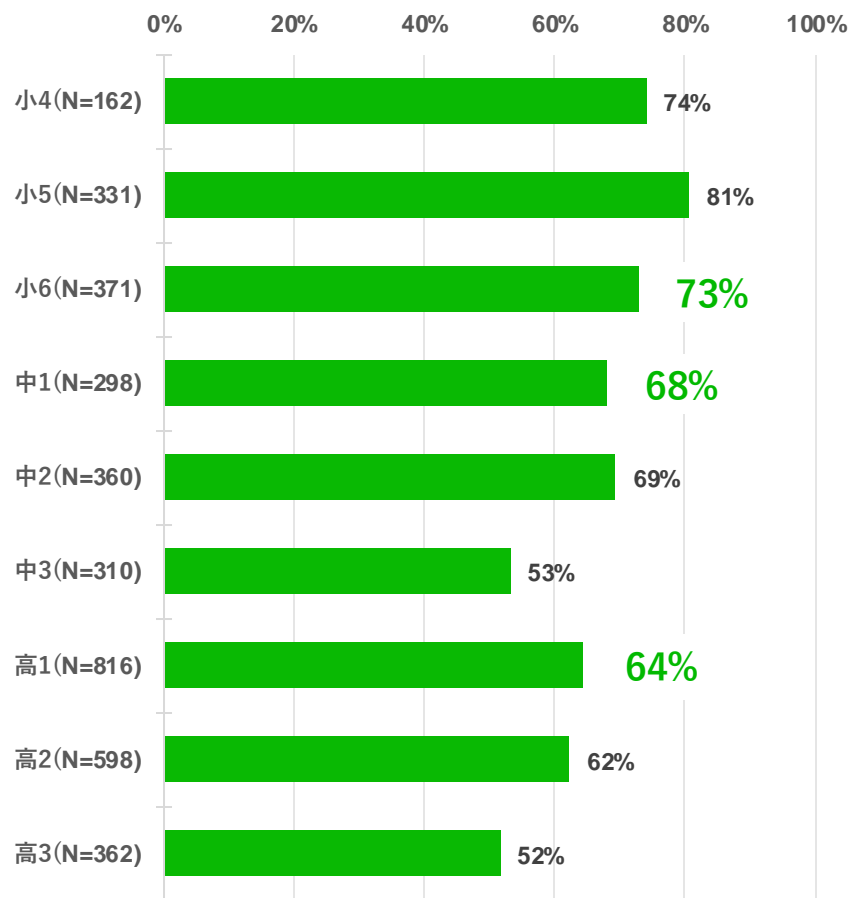
5-3 情報モラル教育の内容：長時間利用・出会い<学年別>

情報モラル教育の内容は、「長時間利用」は小4で56%、小5で56%、小6で38%と、他の学年と比べ、小学生で割合が高くなっています。「出会い」については全般的（小6で73%、中1で68%、高1で64%）に割合が高くなっています。

長時間利用



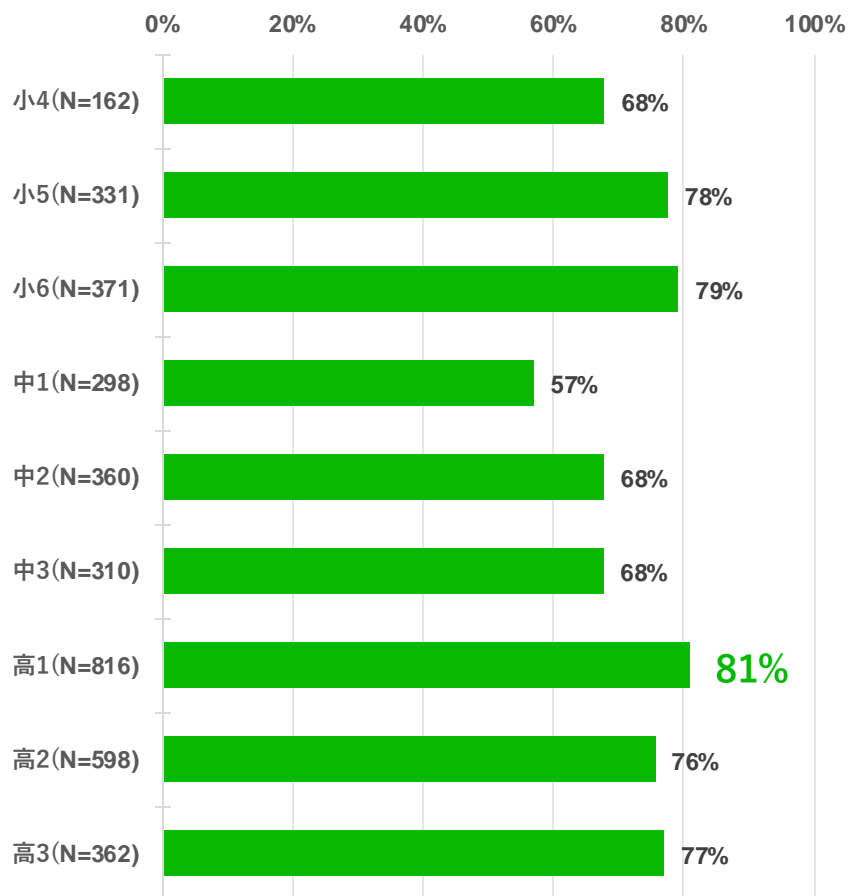
出会い



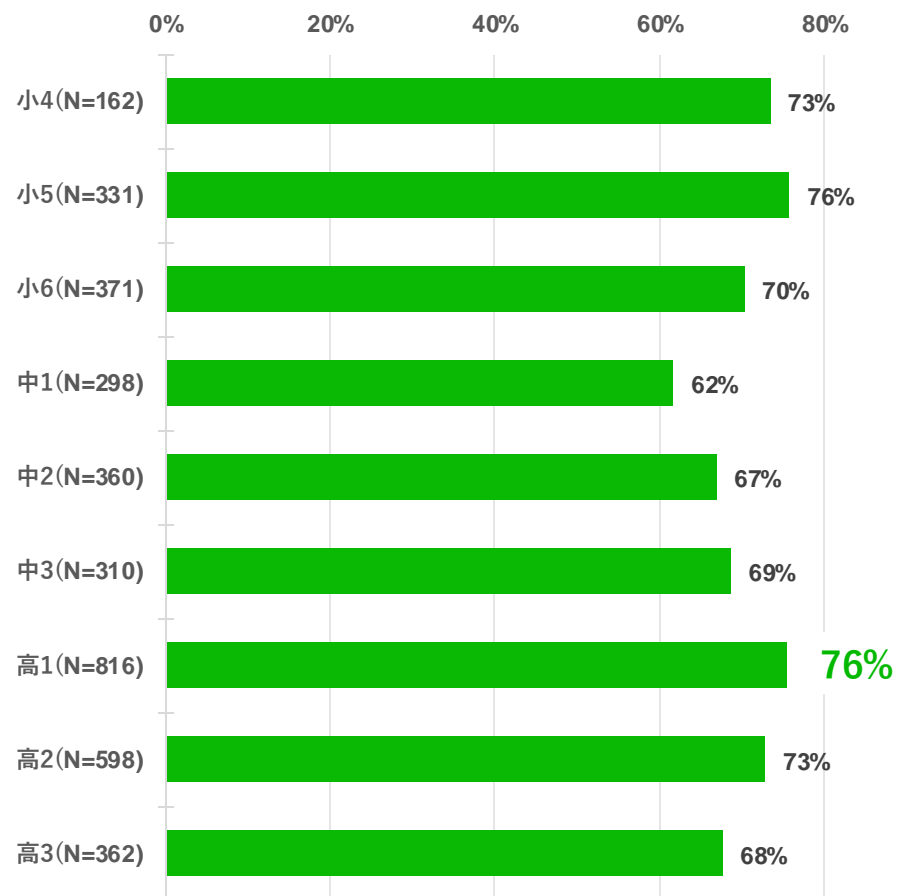
5-4 情報モラル教育の内容：コミュニケーション・個人情報＜学年別＞

情報モラル教育の内容は、コミュニケーション、個人情報に関するものは、ともに全般的に高くなっています。特に、コミュニケーション、個人情報ともに高1が高い割合となっています（コミュニケーション→81%、個人情報→76%）。

コミュニケーション



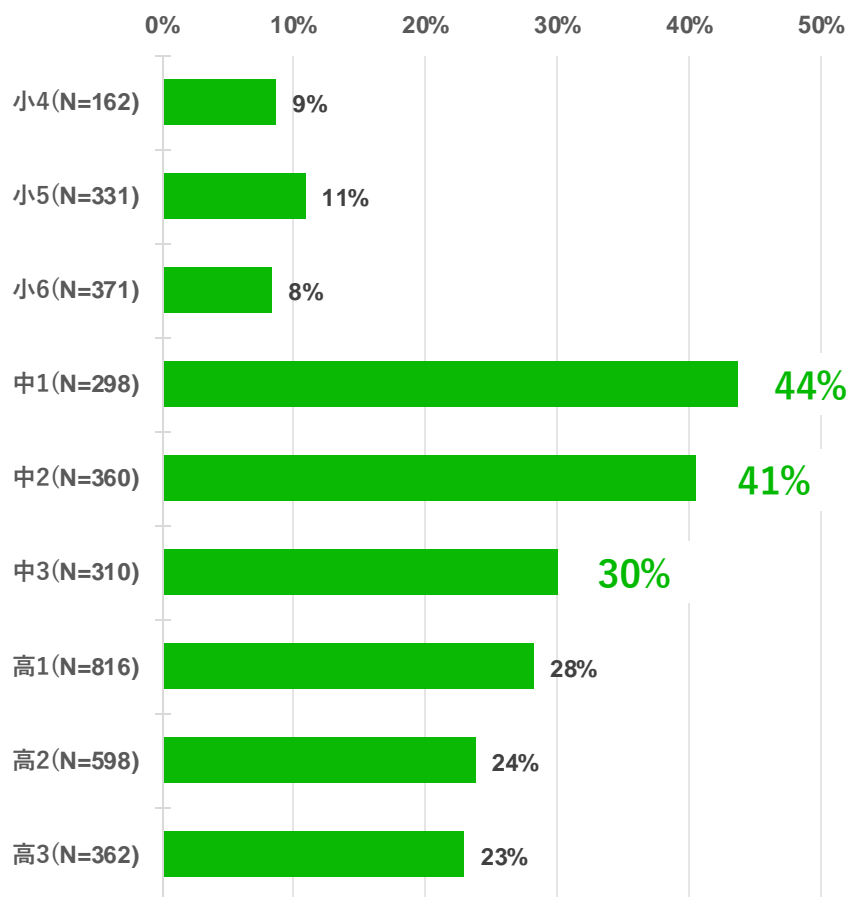
個人情報



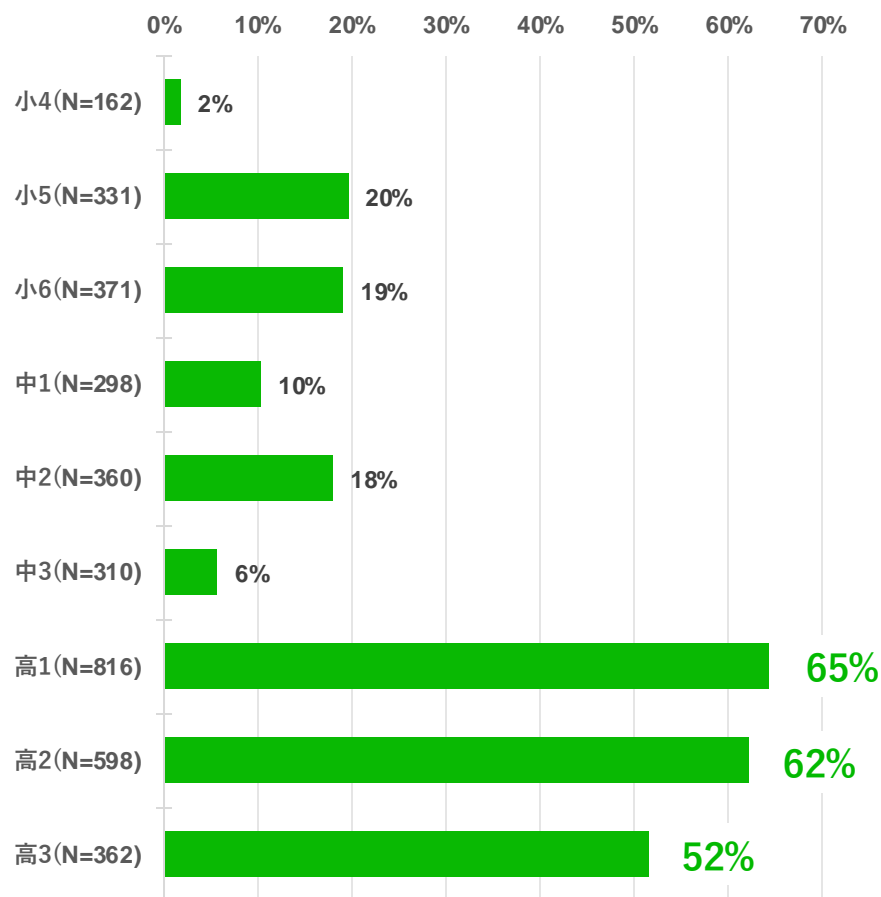
5-5 情報モラル教育の実施者：学校の先生・警察<学年別>

情報モラルの教育実施者は、学校の先生は中1で44%、中2で41%、中3で30%と中学生で高く、逆に小学生はどの学年も10%前後と少ない割合です。警察は高1で65%、高2で62%、高3で52%と高校生で高く、小学生、中学生は多くても20%と、その差が顕著となっています。

学校の先生



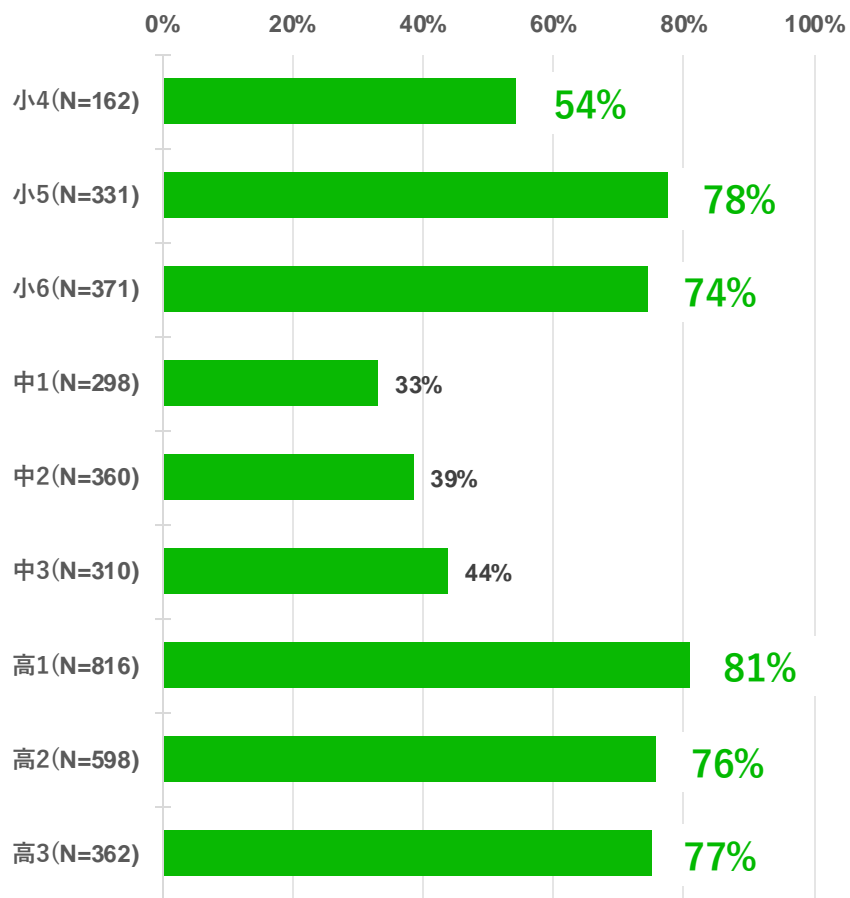
警察



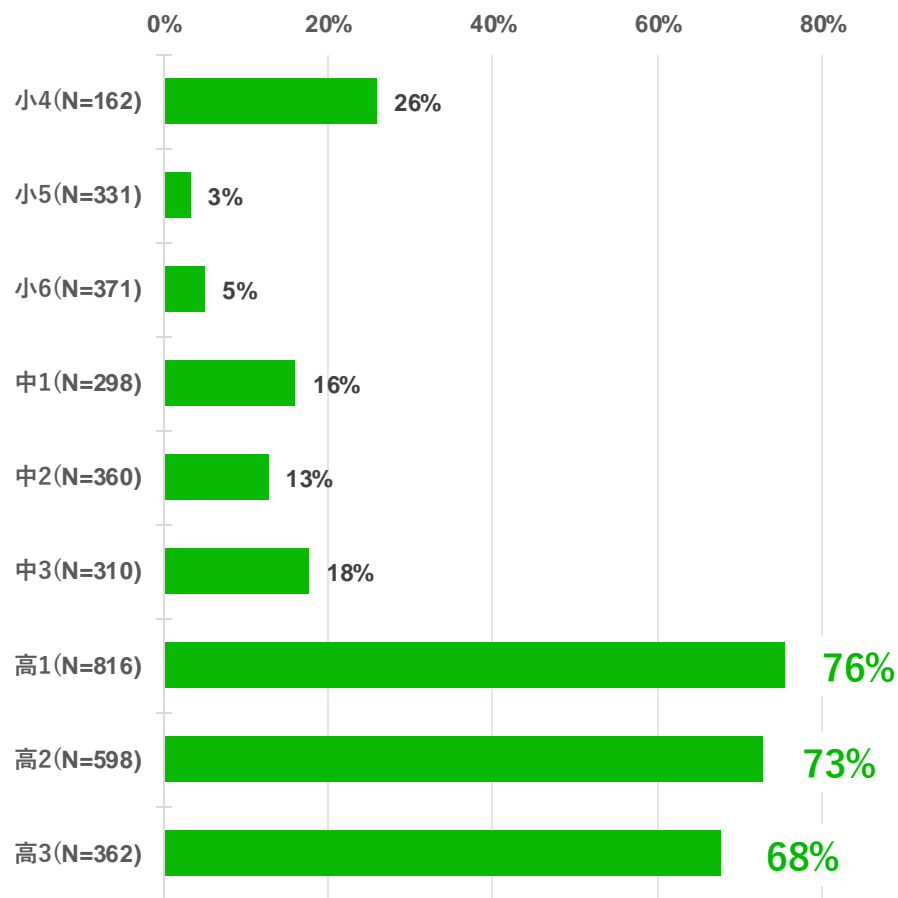
5-6 情報モラル教育の実施者：企業・その他<学年別>

情報モラルの教育実施者は、企業は小4で54%、小5で78%、小6で74%、高1で81%、高2で76%、高3で77%と小学生と高校生で高くなっています。その他は、具体的な内容は不明なもの高1で76%、高2で73%、高3で68%と、小学生、中学生に比べ高校生で顕著に高くなっています。

企業



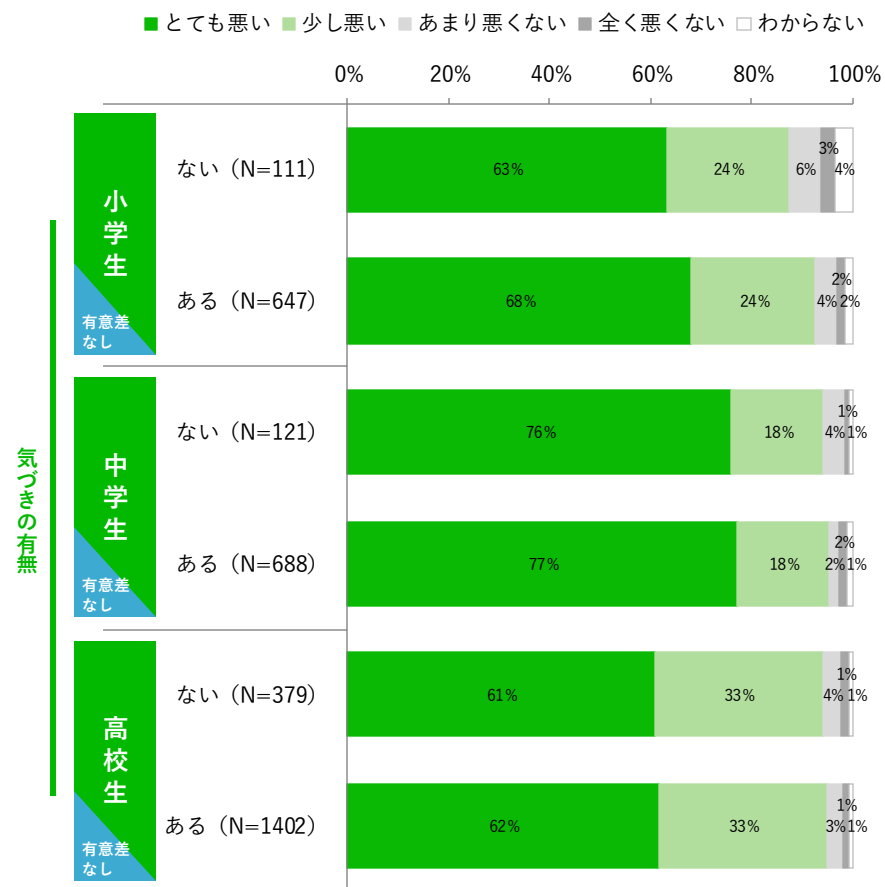
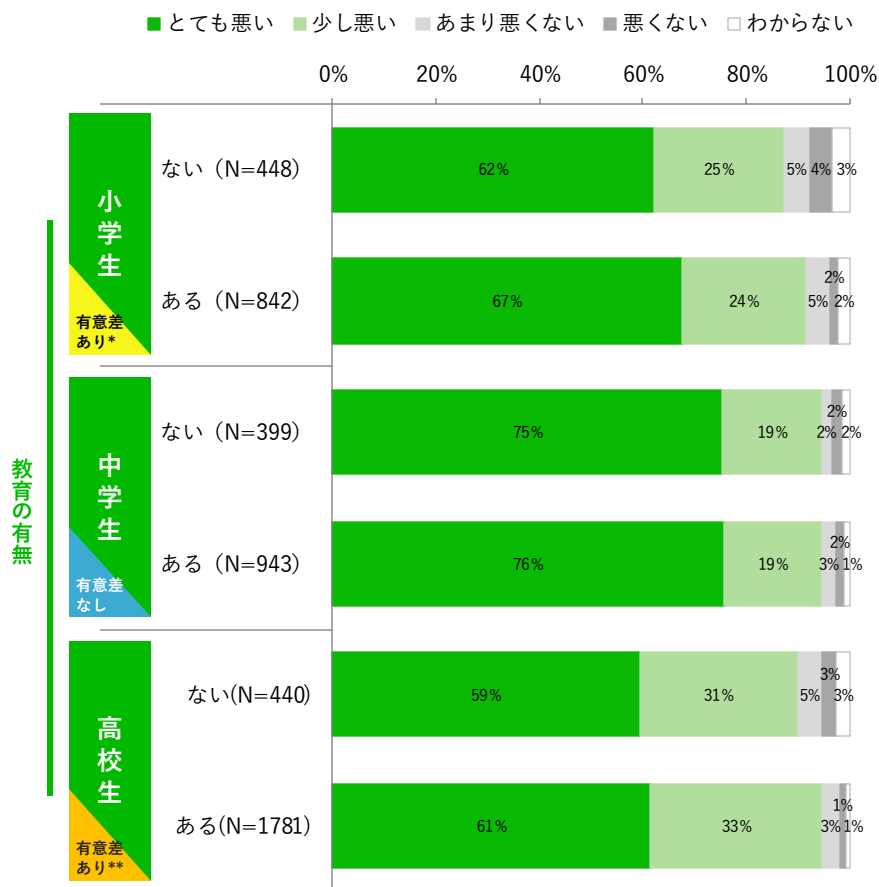
その他



5-7 情報モラル教育の経験や気づきと、携帯電話の利用マナーの意識との関係<校種別>

「電車やバスの中で携帯電話で通話をする事」への意識は、情報モラル教育の経験があると、「とても悪い」「悪い」と答える割合が、小学生ではやや高く、高校生で高くなります。一方で、情報モラル教育における気づきの経験で比較した場合は、差がありません。

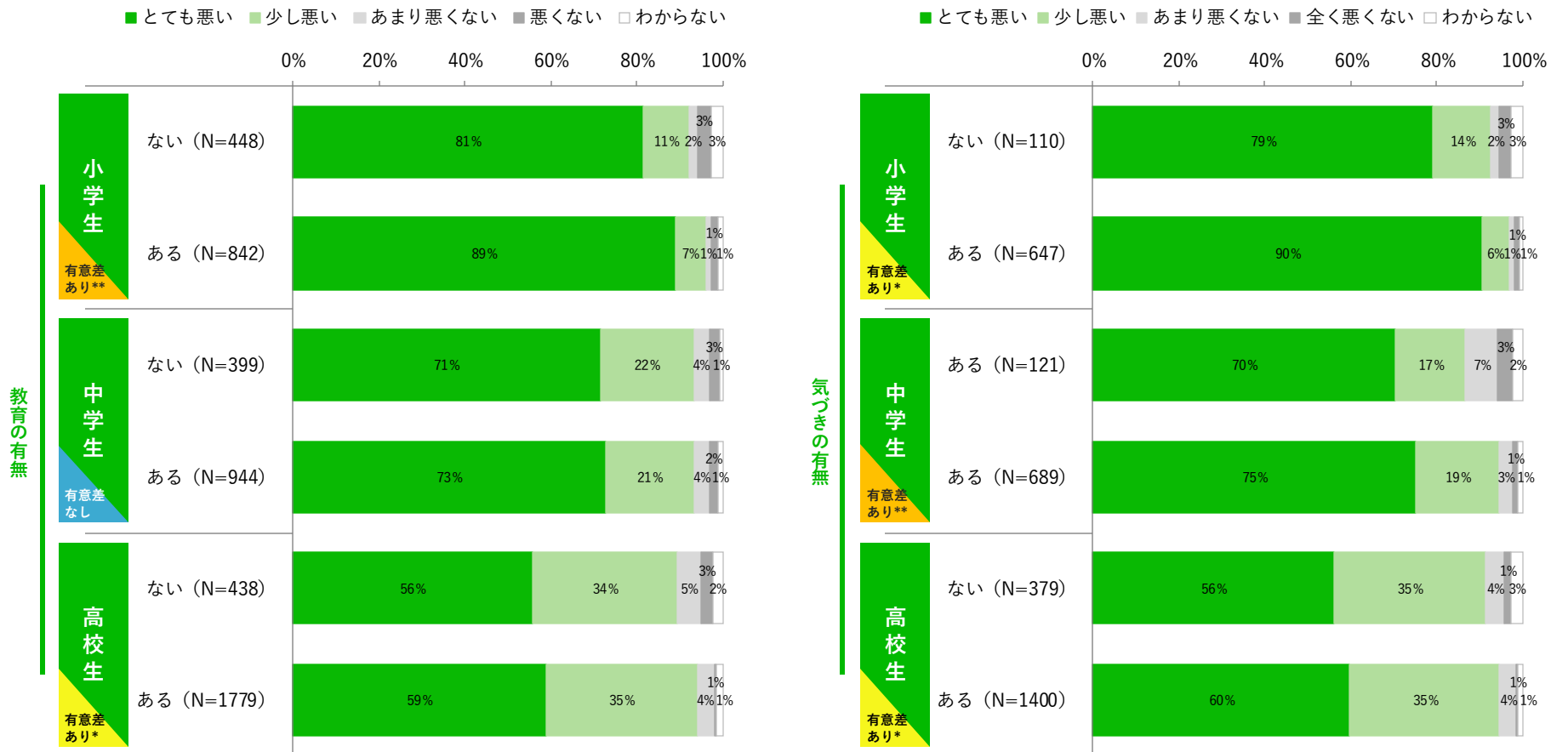
問：あなたは、携帯電話の利用のマナーについて、次のような行動をどう思いますか。電車やバスの中で通話すること



5 - 8 情報モラル教育の経験や気づきと、携帯電話の利用マナーの意識との関係2 <校種別>

「携帯電話を使いながら歩いたり、自転車を運転したりすること」に「とても悪い」「悪い」と答える割合は、情報モラル教育の経験があると、小学生では高く、高校生でやや高くなります。気づきの経験があると、小学生と高校生ではやや高く、中学生では高くなります。

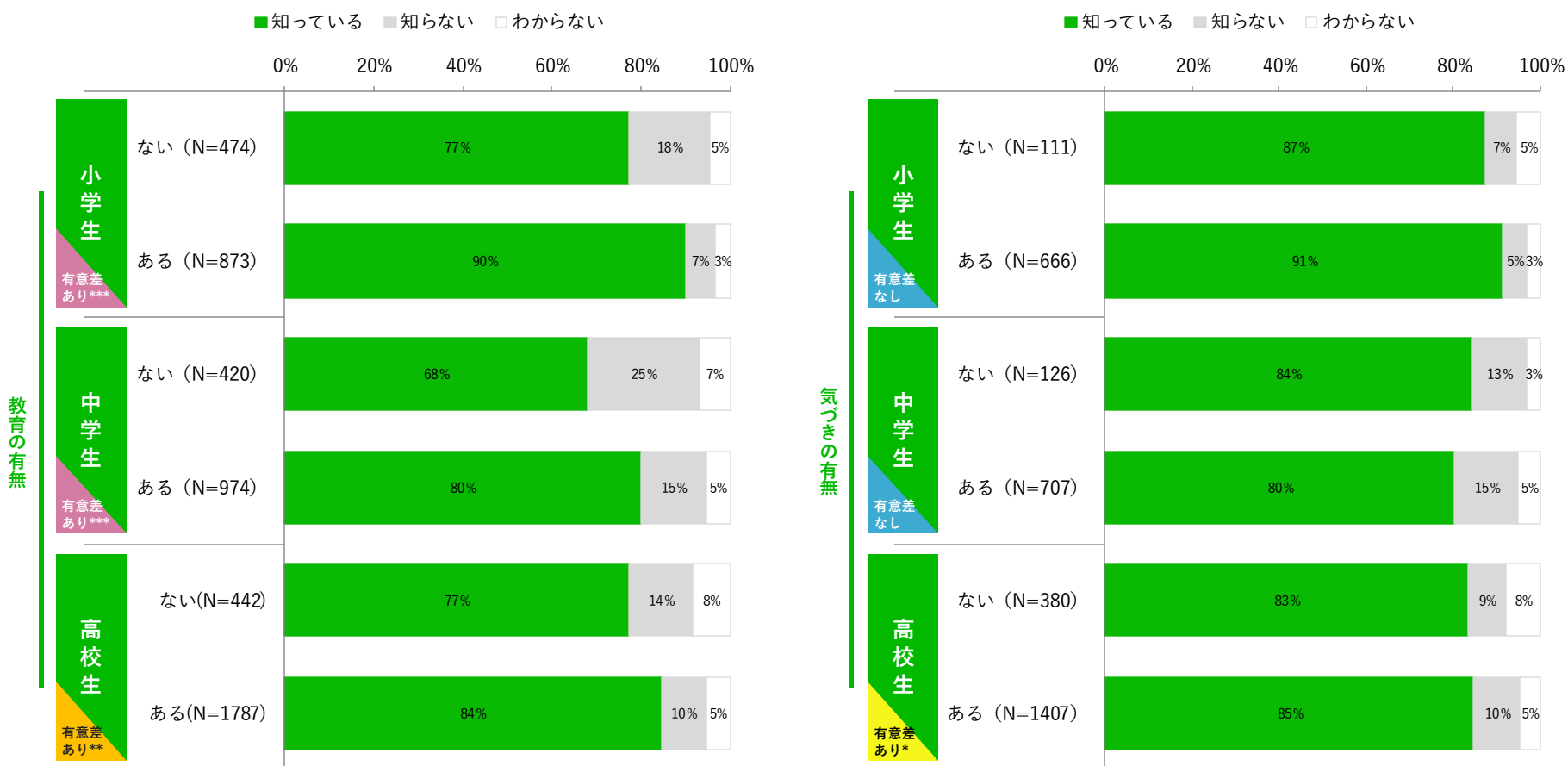
問：あなたは、携帯電話の利用のマナーについて、次のような行動をどう思いますか。携帯電話を使いながら歩いたり、自転車の運転をすること



5-9 情報モラル教育の経験や気づきと、法的理解度との関係<校種別>

「ネットに、他人の悪口などを書き込んだり、いやがらせのメッセージを送ったりすることは、その内容によっては犯罪にあたることを知っていますか。」に、「知っている」と答える割合は、情報モラル教育の経験があると、小学生と中学生ではかなり高く、高校生で高くなります。気づきの経験があると、高校生ではやや高くなります。

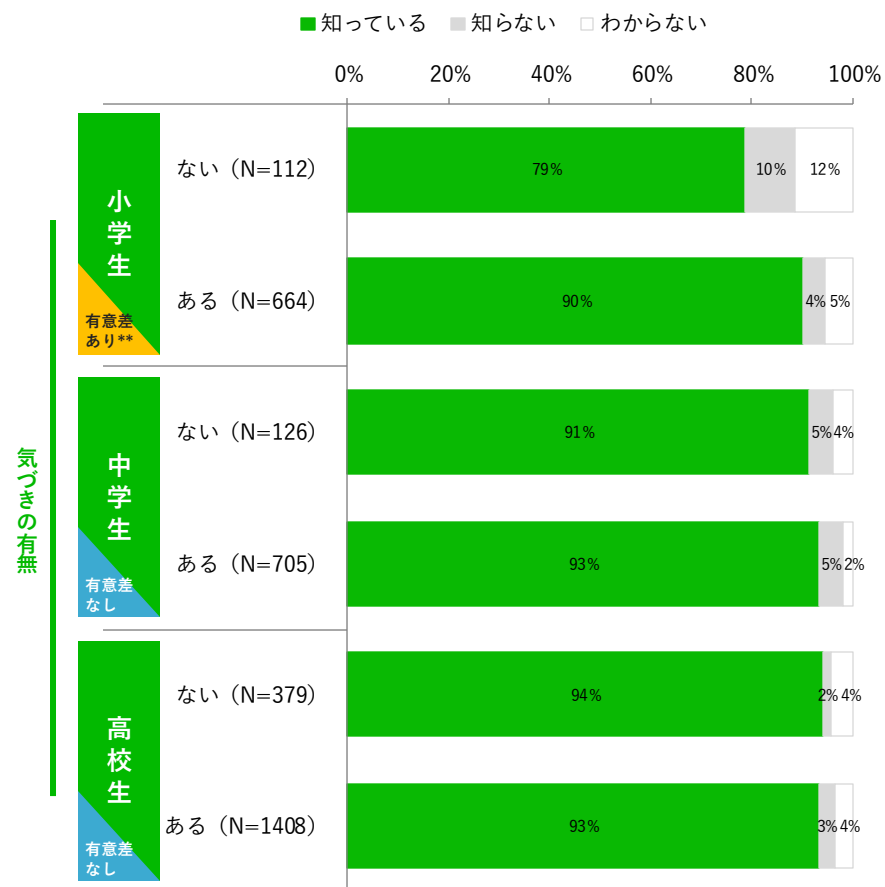
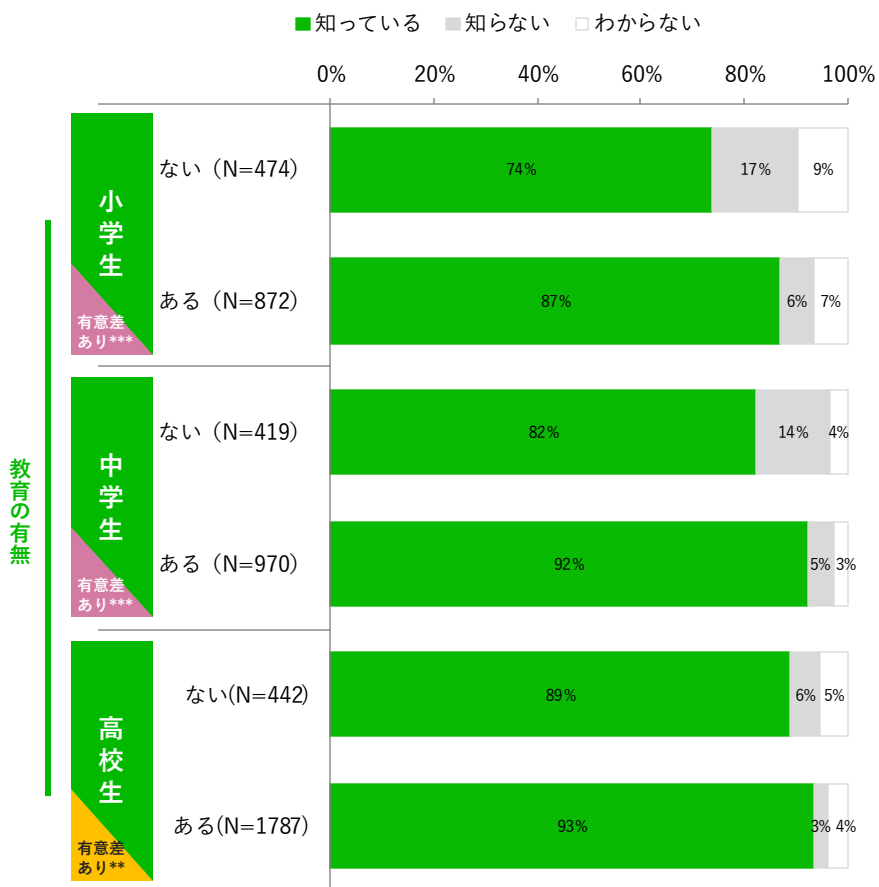
問：ネットに、他人の悪口などを書き込んだり、いやがらせのメッセージを送ったりすることは、その内容によっては犯罪にあたることを知っていますか



5-10 情報モラル教育の経験や気づきと、法的理解度との関係2 <校種別>

「他人の写真を勝手に撮ることやその画像をネットに掲載することは、他人の権利を侵害する可能性があることを知っていますか。」に、「知っている」と答える割合は、情報モラル教育の経験があると、小学生と中学生ではかなり高く、高校生で高くなります。気づきの経験があると、小学生で高くなります。

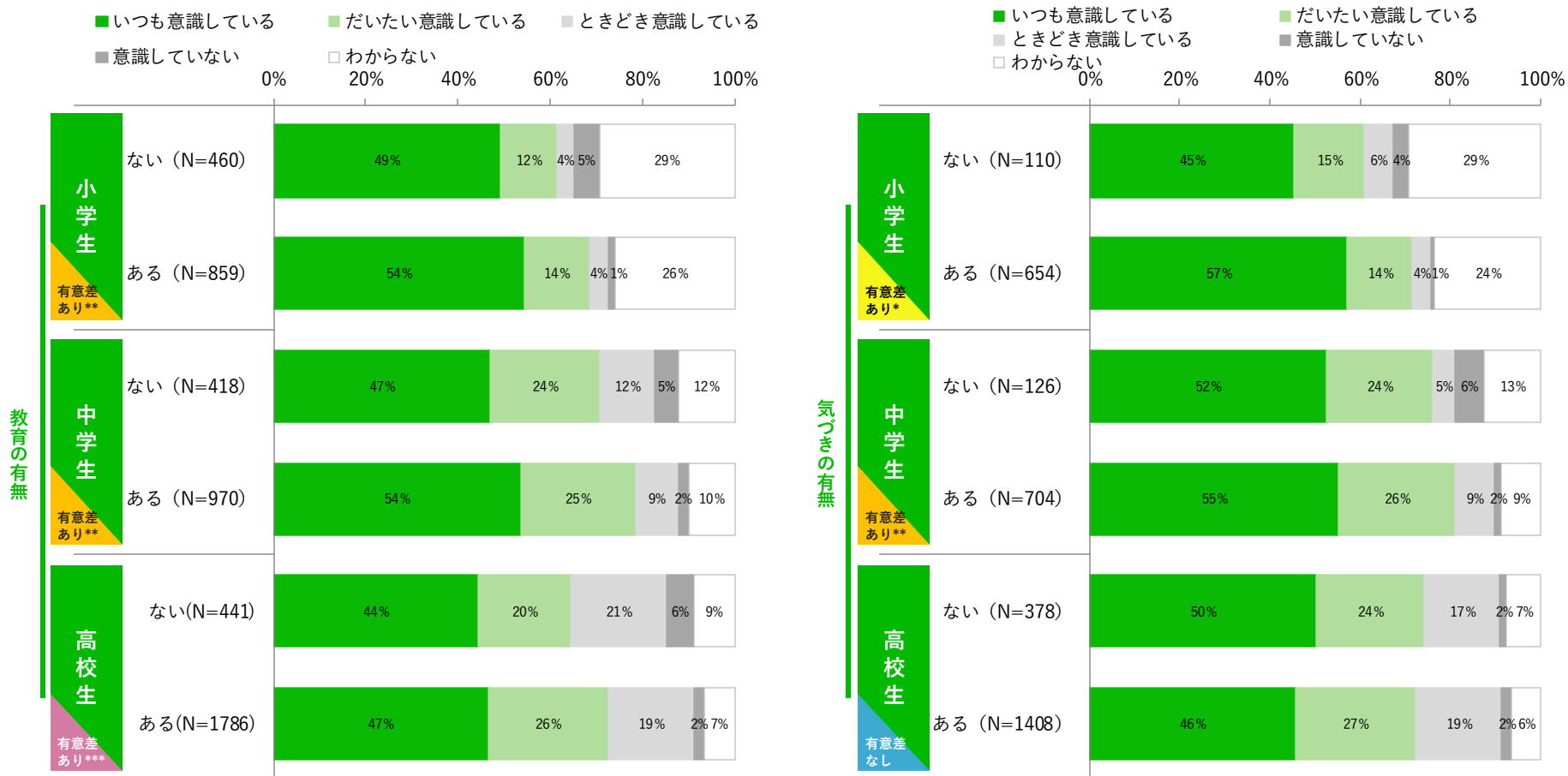
問：他人の写真を勝手に撮ることやその画像をネットに掲載することは、他人の権利を侵害する可能性があることを知っていますか。



5-11 情報モラル教育の経験や気づきと、他人の個人情報への配慮との関係<校種別>

「ネット(SNS、メッセージサービス等)の書き込み等、情報を発信するときは、個人情報保護の意識や他人への気配りをしていますか」に、「いつも意識している」、「だいたい意識している」、「意識している」と答える割合は、情報モラル教育の経験があると、小学生と中学生では高く、高校生でかなり高くなります。気づきの経験があると、小学生ではやや高く、中学生で高くなります。

問：ネットの書き込み等、情報を発信するときは、個人情報保護の意識や他人への気配りをしていますか。



5-12 情報モラル教育の経験や気づきと、メッセージ受信経験<校種別>

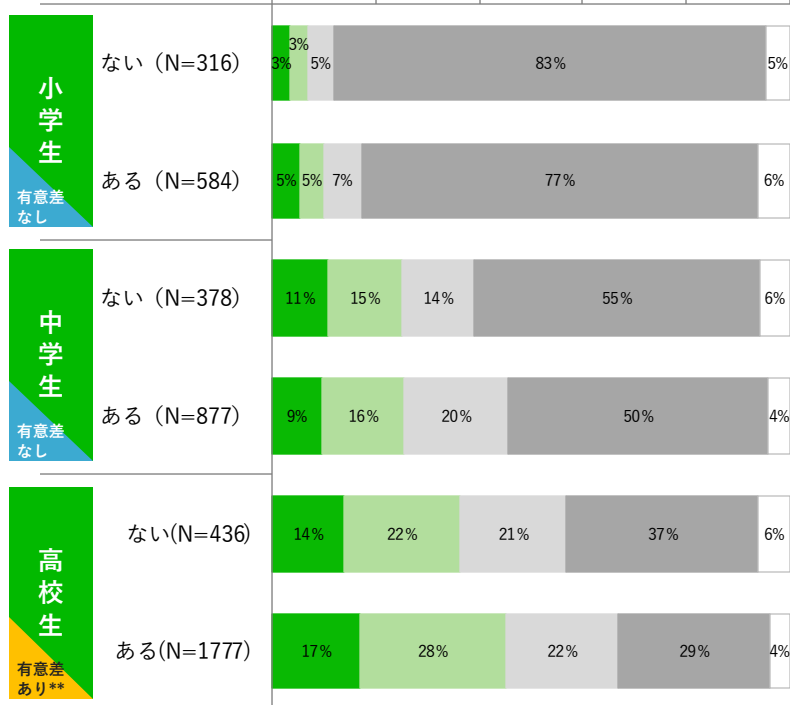
「この1年間にネット上で、知らない人からメッセージが届いたことがありますか。」に、「よくある」、「わりとある」と答える割合は、情報モラル教育の経験があると、高校生で高くなります。これは、教育によって意識が高まり、発見する機会が増えたという可能性が考えられます。一方気づきの経験があると、小学生と高校生では、「よくある」、「わりとある」と答える割合は低くなります。

問：この1年間にネット上で、知らない人からメッセージが届いたことがありますか

■よくある（5回以上） ■わりとある（2～4回程度）
 ■あまりない（1回程度） ■まったくない
 □わからない

0% 20% 40% 60% 80% 100%

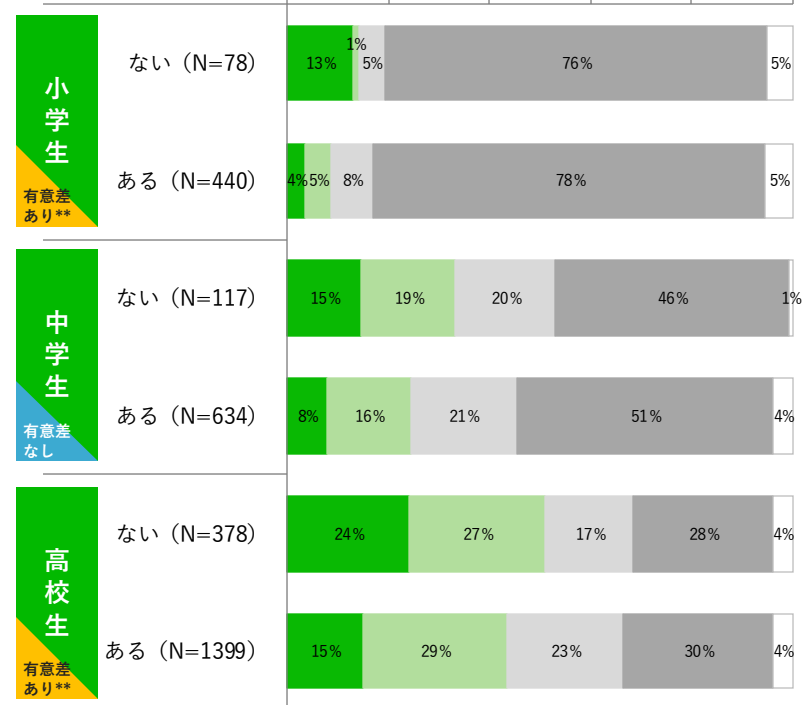
教育の有無



■よくある（5回以上） ■わりとある（2～4回程度）
 ■あまりない（1回程度） ■まったくない
 □わからない

0% 20% 40% 60% 80% 100%

気づきの有無



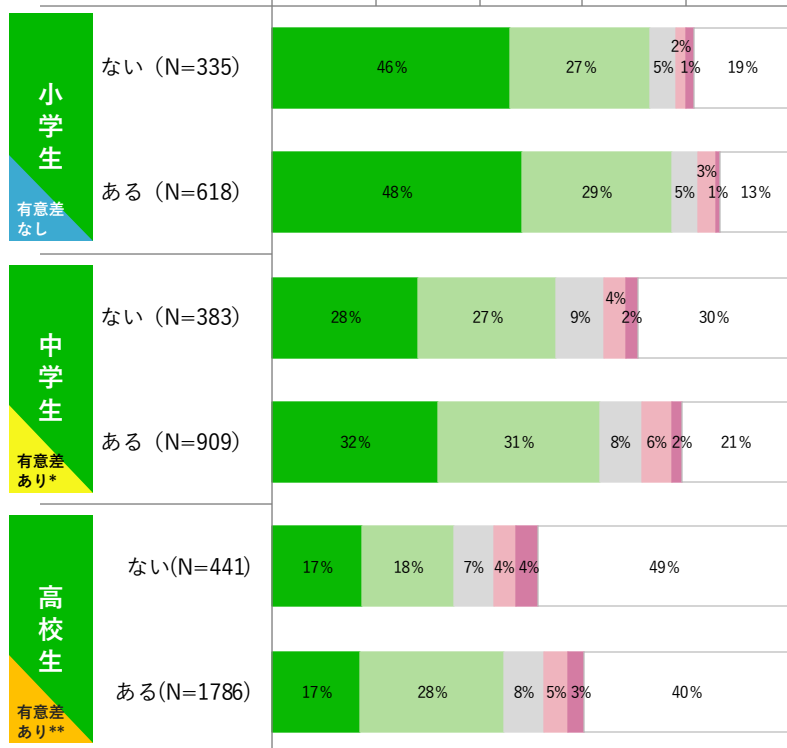
5-13 情報モラル教育の経験や気づきと、ルール順守との関係<校種別>

「あなたは家庭内で決められた携帯電話やパソコンを利用するときのルールを守っていますか。」に、「守っている」、「だいたい守っている」と答える割合は、情報モラル教育の経験があると、中学生でやや高く、高校生で高くなります。気づきの経験があると、小学生と高校生で高く、中学生でやや高くなります。

問：あなたは家庭内で決められた携帯電話やパソコンを利用するときのルールを守っていますか。

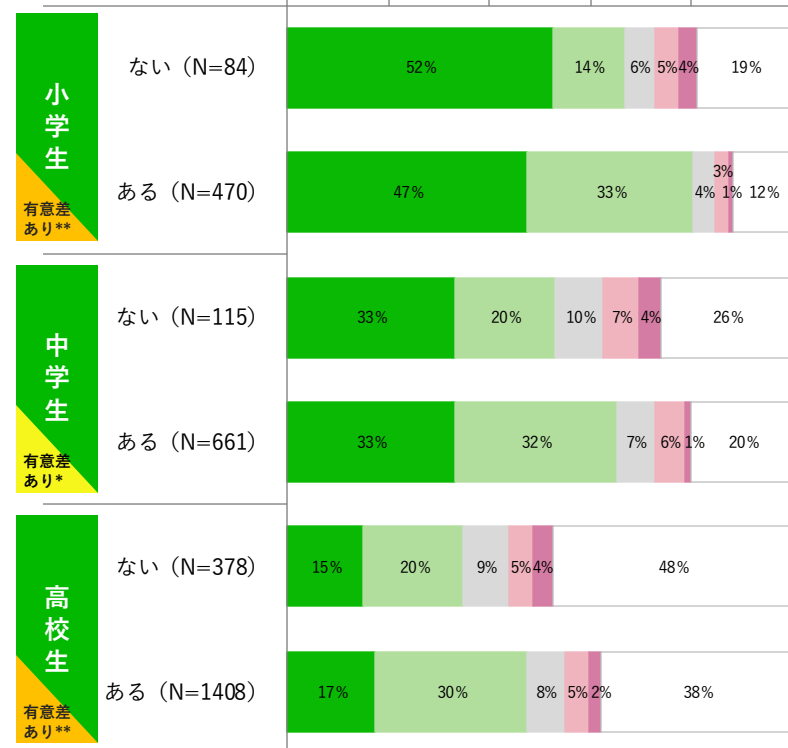
■ 守っている ■ だいたい守っている ■ どちらとも言えない
 ■ あまり守っていない ■ 守っていない □ ルールがない

0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ 守っている ■ だいたい守っている ■ どちらとも言えない
 ■ あまり守っていない ■ 守っていない □ ルールがない

0% 20% 40% 60% 80% 100%



5 - 1 4 情報モラル教育の経験や気づきと、暴力的表現等（加害経験）との関係 <校種別>

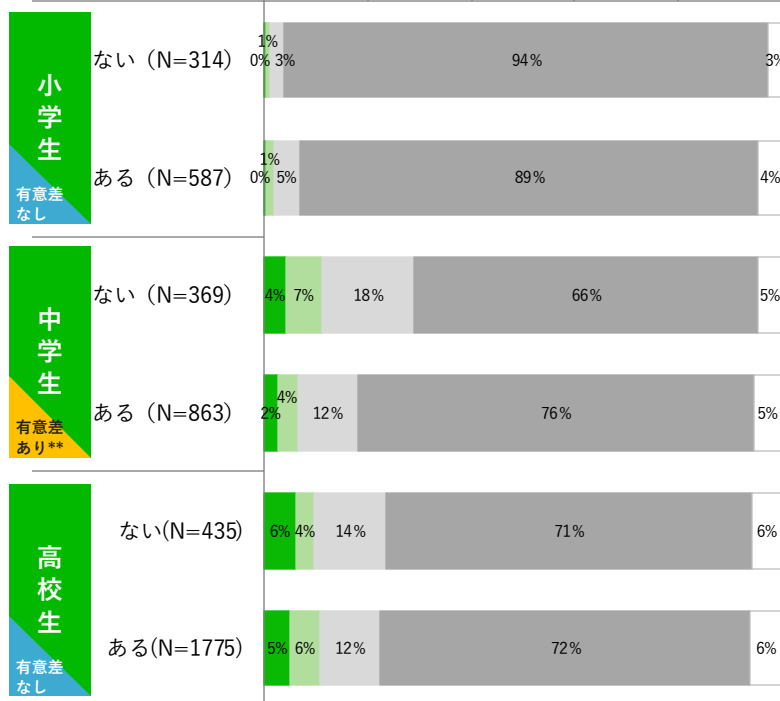
「この1年間で、あなたは、暴力的表現や、悪口やいやなことなどを、ネットに書き込んだり、送ったりしたことがありますか。」に、「よくある」、「わりとある」と答える割合は、情報モラル教育の経験があると、中学生で低くなります。気づきの経験があると、高校生でかなり低くなります。

問：この1年間で、あなたは、暴力的表現（「殴るぞ」など）や、悪口やいやなこと（画像を含む）などを、ネット(SNS、メッセージサービス等)に書き込んだりしたことはありますか。

- よくある（5回以上）
- わりとある（2~4回程度）
- あまりない（1回程度）
- まったくない
- わからない

0% 20% 40% 60% 80% 100%

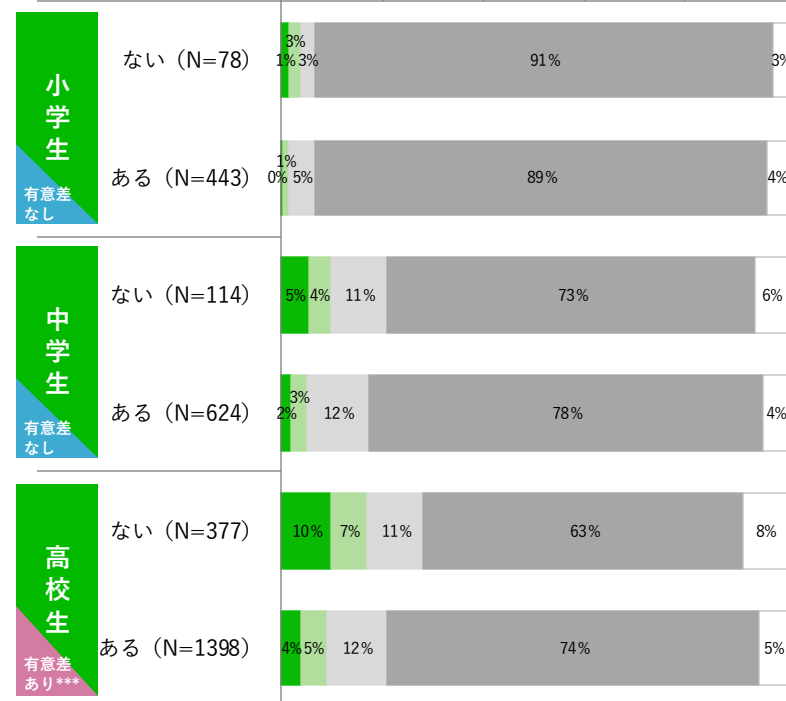
教育の有無



- よくある（5回以上）
- わりとある（2~4回程度）
- あまりない（1回程度）
- まったくない
- わからない

0% 20% 40% 60% 80% 100%

気づきの有無



5 - 1 5 情報モラル教育の経験や気づきと、暴力的表現等（被害経験）との関係 <校種別>

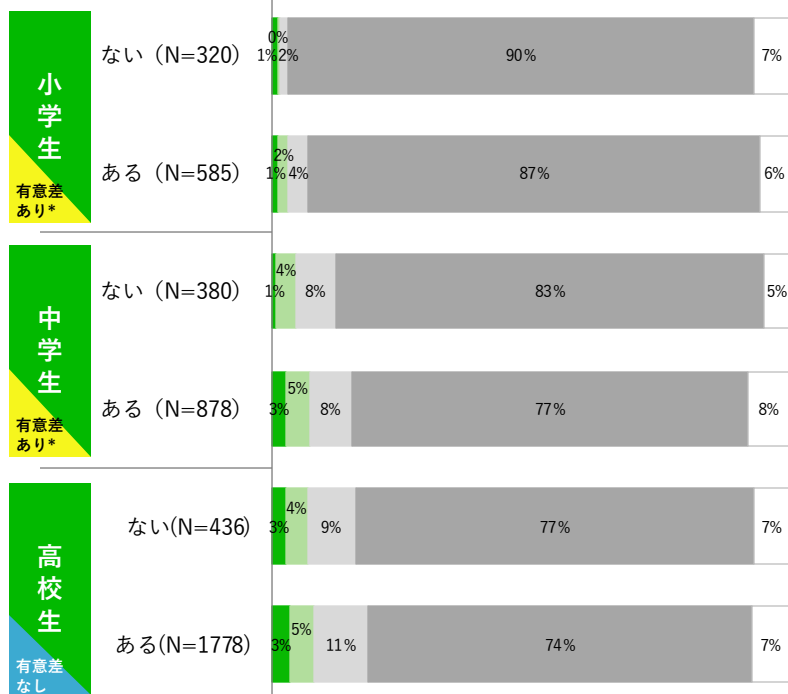
「この1年間にネット上で、暴力的表現や、悪口を書き込まれたりしたことがありますか」に、「よくある」、「わりとある」と答える割合は、情報モラル教育の経験があると小学生と中学生でやや高くなります。これは、教育によって意識が高まり、日常のコミュニケーションの中に暴力的な表現を発見する機会が増えたという可能性が考えられます。気づきの経験があると、高校生でかなり低くなります。

問：この1年間にネット上で、暴力的表現(「殴るぞ」などや、悪口やいやなことを含む)を書き込まれたりしたことがありますか。

- よくある (5回以上)
- わりとある (2~4回程度)
- あまりない (1回程度)
- まったくない
- わからない

0% 20% 40% 60% 80% 100%

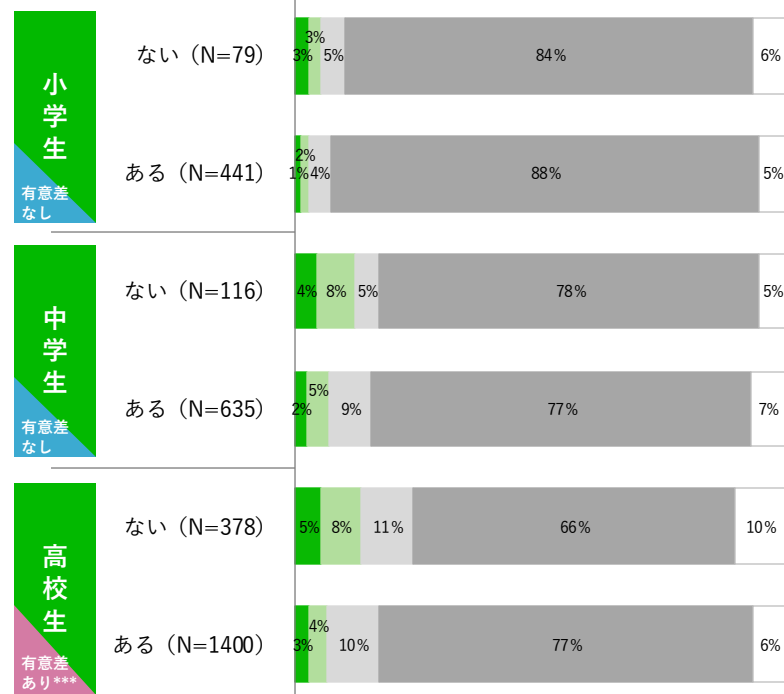
教育の有無



- よくある (5回以上)
- わりとある (2~4回程度)
- あまりない (1回程度)
- まったくない
- わからない

0% 20% 40% 60% 80% 100%

気づきの有無



5-16 情報モラル教育における授業実施者と、気づきの内容との関係<校種別>

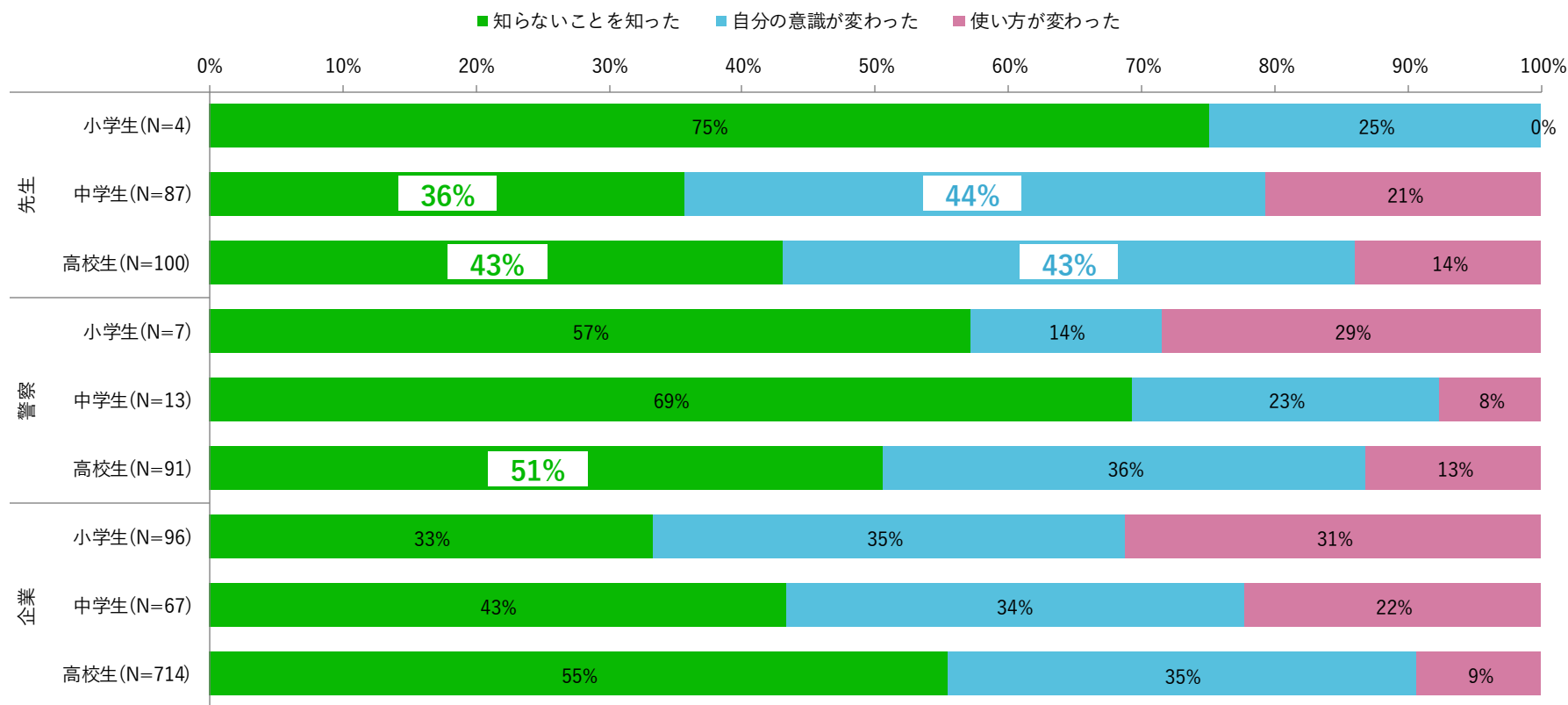
情報モラル教育に関するそれぞれの授業実施者だけを受講した人（重なりがない）を抽出し、気づきの内容とクロス集計したところ、全体的には、「知らないことを知った」という知識獲得面の割合が最も高く、次いで「自分の意識が変わった」という意識変容面と続き、最も少ないのが「使い方が変わった」とする行動変容面となっています。

学校の先生が授業主体者の教育を受けた人は、小学生は4人のみですが、中学生87名、高校生100名となります。中学生と高校生では気づきの内容に差はなく、「知らないことを知った」「自分の意識が変わった」がそれぞれ36%～44%となっています。

警察が授業主体者の教育を受けた人は、小学生は7名、中学生は13名と少数です。高校生は91名ですが、「知らないことを知った」が51%と過半数を占めています。

企業が授業主体者の教育を受けた人は、「知らないことを知った」は中学生、高校生となるにつれて高くなり、「使い方が変わった」は中学生、高校生となるにつれて低くなります。「自分の意識が変わった」はあまり変化がありません。

問：受けた講習で、話していた人は誰でしたか。
問：講習を受けて、気づいたことはありましたか。



5-17 情報モラル教育における教育内容と、気づきの内容との関係<校種別>

情報モラルに関するそれぞれの教育内容だけを受講した人（重なりがない）を抽出し、気づきの内容とクロス集計したところ、全体的には、「知らないことを知った」という知識獲得面の割合が最も高く、次いで「自分の意識が変わった」という意識変容面と続き、最も少ないのが「使い方が変わった」とする行動変容面となっています。

長時間利用に関わる教育では、進学するにつれて「知らないことを知った」の割合が小学生40%、中学生56%、高校生96%と高くなります。

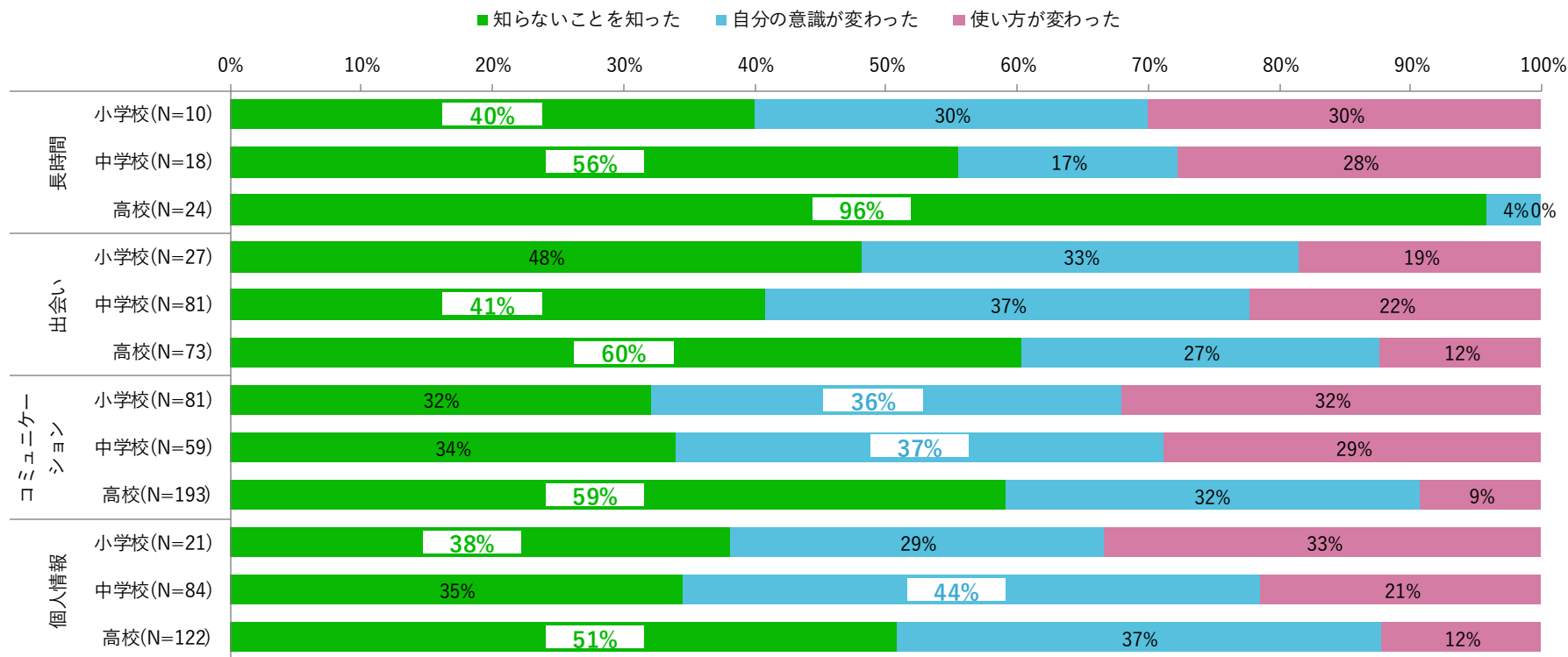
出会いに関わる教育では、「知らないことを知った」が特に中学生（41%）から高校生（60%）になると高くなります。

コミュニケーションに関わる教育では、小学生と中学生では「自分の意識が変わった」が小学生36%、中学生が37%と最も高いですが、高校生になると「知らないことを知った」が59%と最も高くなります。

個人情報に関わる教育では、小学生では「知らないことを知った」が38%で最も高いですが、中学生になると「自分の意識が変わった」が44%で最も高くなり、高校生では「知らないことを知った」が51%と最も高くなります。

問：受けた講習は、どのような内容でしたか。

問：講習を受けて、気づいたことはありましたか。



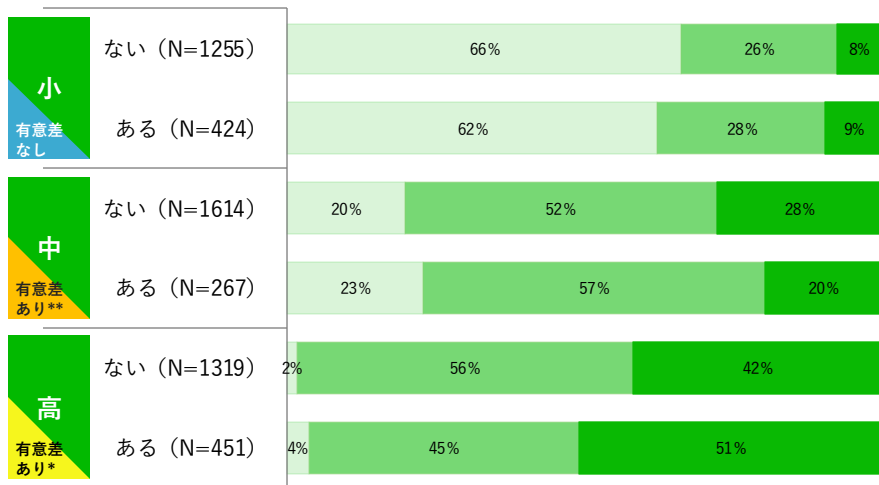
5-18 ネットやゲームの長時間利用の教育の有無による比較

ネットやゲームの長時間利用に関する教育の有無で比較すると、家庭内ルールを守る割合は小学生と中学生で高くなりますが、フィルタリング設置率には差がありませんでした。利用時間そのものは中学生では短くなりますが、高校生ではやや長くなる傾向があります。

問:受けた講習は、どのような内容でしたか。ネットやゲームの長時間利用

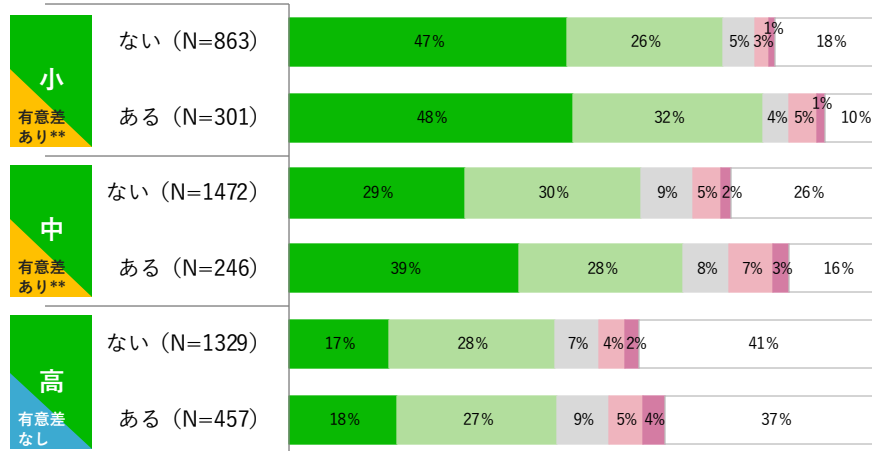
問:あなたは携帯電話を1日に何時間ぐらい使っていますか。

■ 1時間以下 ■ 1~5時間 ■ 5時間以上



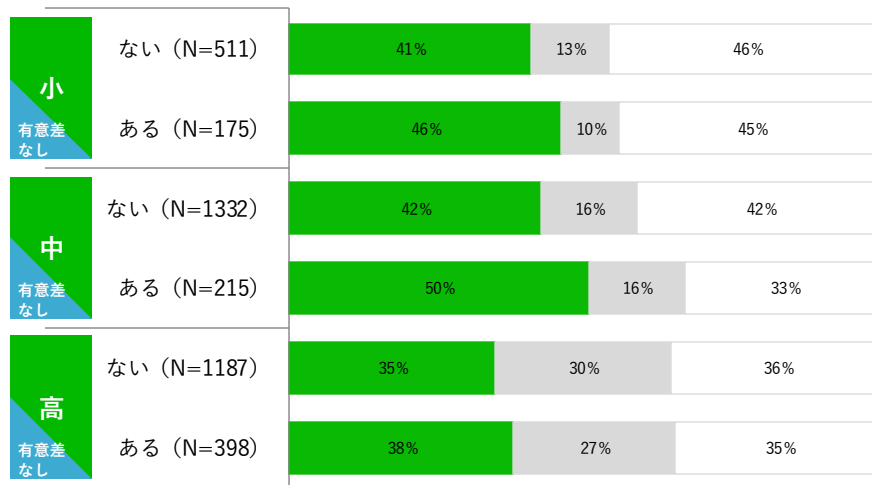
問:あなたは家庭内で決められた携帯電話やパソコンを利用するときのルールを守っていますか。

■ 守っている ■ だいたい守っている ■ どちらとも言えない ■ あまり守っていない ■ 守っていない □ ルールがない



問:あなたの携帯電話には、フィルタリング（有害なサイトが見られないようにする機能）が設定されていますか。

■ 設定されている ■ 設定されていない □ わからない



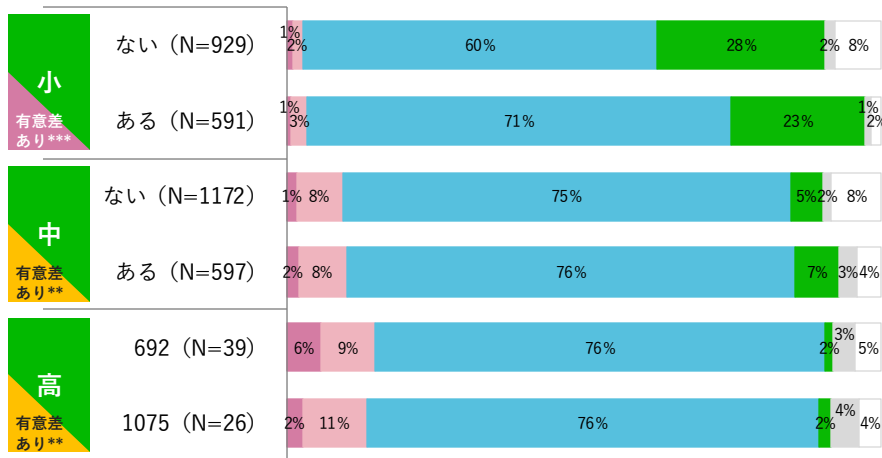
5-19 ネット上での出会いに関する教育の有無による比較

ネット上の出会いに関する教育の有無で比較すると、知らない人からのメッセージ受信頻度には差がありませんが、知らない人から写真を送れと言われたときに「断る」を選択する割合が小学生ではかなり高くなります。フィルタリング設置率も中学生、高校生で高くなります。

問: 受けた講習は、どのような内容でしたか。ネット上での知らない人との出会い

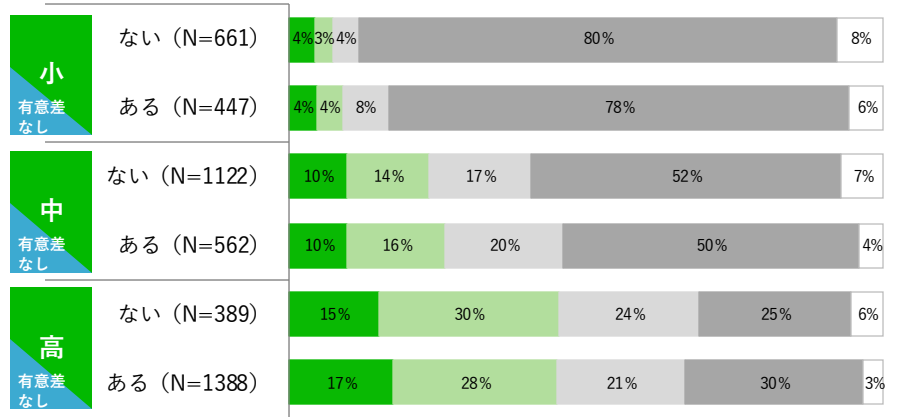
問: ネット上で親しくなった人から自分の写真を要求されたら、どうしますか?

■ 信頼しているので送る ■ 個人が特定されない写真を送る ■ 断る
■ 保護者や先生など大人に相談する ■ その他 □ 分からない



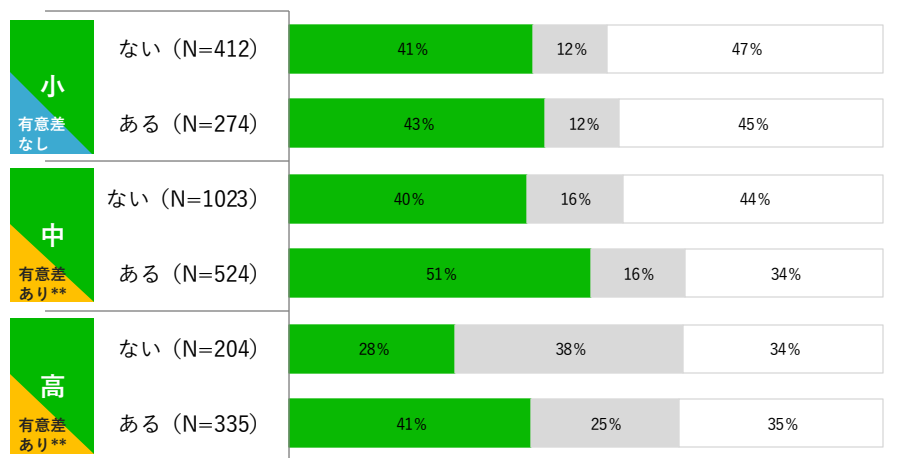
問: この1年間にネット上で、知らない人からメッセージが届いたことがありますか。

■ よくある (5回以上) ■ わりとある (2~4回程度) ■ あまりない (1回程度) ■ まったくない □ わからない



問: あなたの携帯電話には、フィルタリング (有害なサイトが見られないようにする機能) が設定されていますか。

■ 設定されている ■ 設定されていない □ わからない



5-20 ネット上のコミュニケーションに関する教育の有無による比較

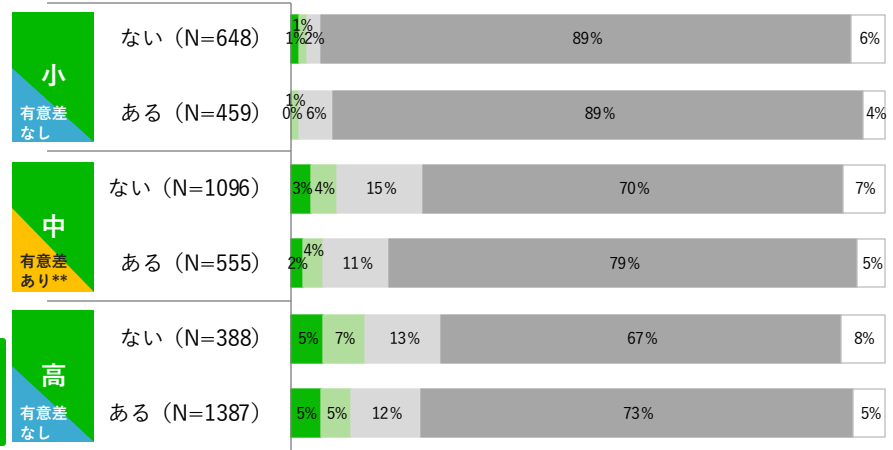
ネット上のコミュニケーションに関する教育の有無で比較すると、教育経験があると、暴力的表現の加害経験は中学生で低く、知らない人から写真を送れと言われたときに「断る」を選択する割合が小学生ではかなり高くなります。法的理解度も小学生、中学生でかなり高くなります。

問: 受けた講習は、どのような内容でしたか。ネット上のコミュニケーションのトラブル

問: ネット上で親しくなった人から自分の写真を要求されたら、どうしますか?

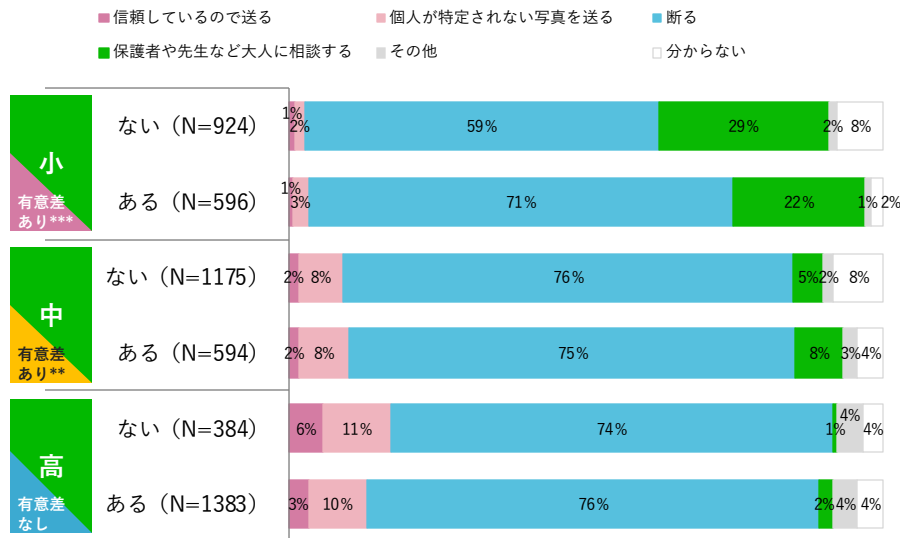
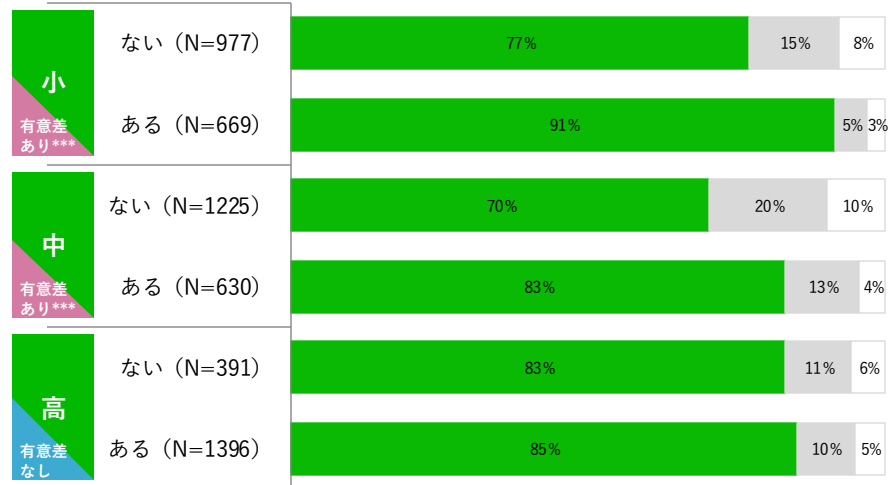
問: この1年間にネット上で、知らない人からメッセージが届いたことがありますか。

■ よくある (5回以上) ■ わりとある (2~4回程度) ■ あまりない (1回程度) ■ まったくない □ わからない



法的理解度: ネットに、他人の悪口などを書き込んだり、いやがらせのメッセージを送ったりすることは、その内容によっては犯罪にあたることを知っていますか。

■ 知っている ■ 知らない □ わからない



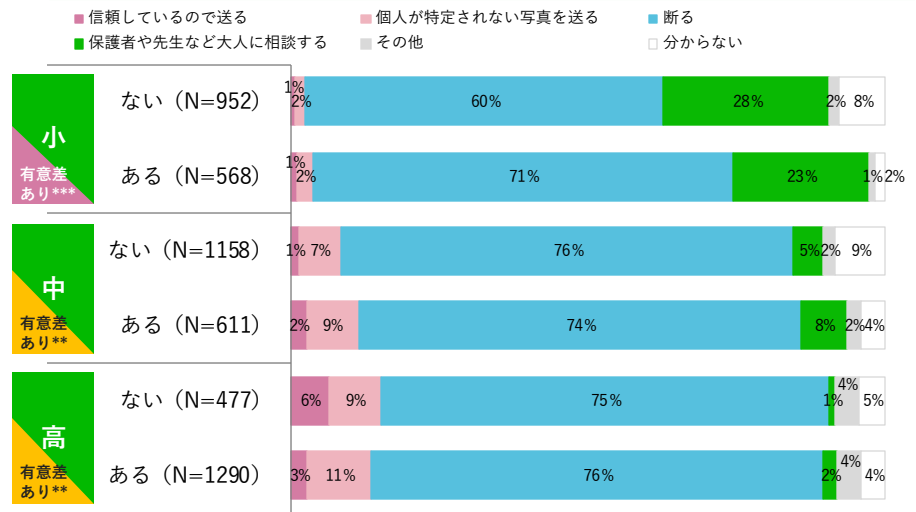
5-21 ネット上の個人情報の教育の有無による比較

ネット上の個人情報に関する教育の有無で比較すると、個人情報の発信（SNSへの顔写真）では差がありませんが、写真要求に対する対応は、小学生で断ると回答した割合がかなり高くなります。法的理解度は小学生、中学生でかなり高くなります。

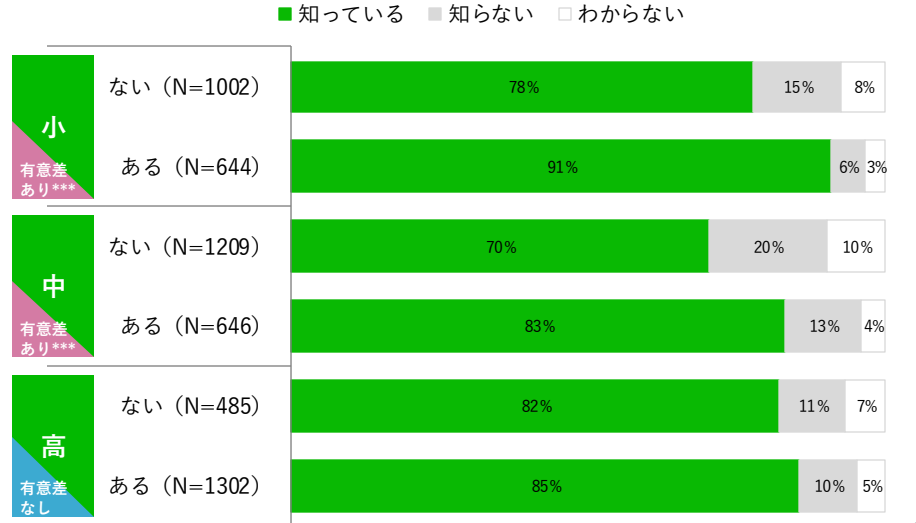
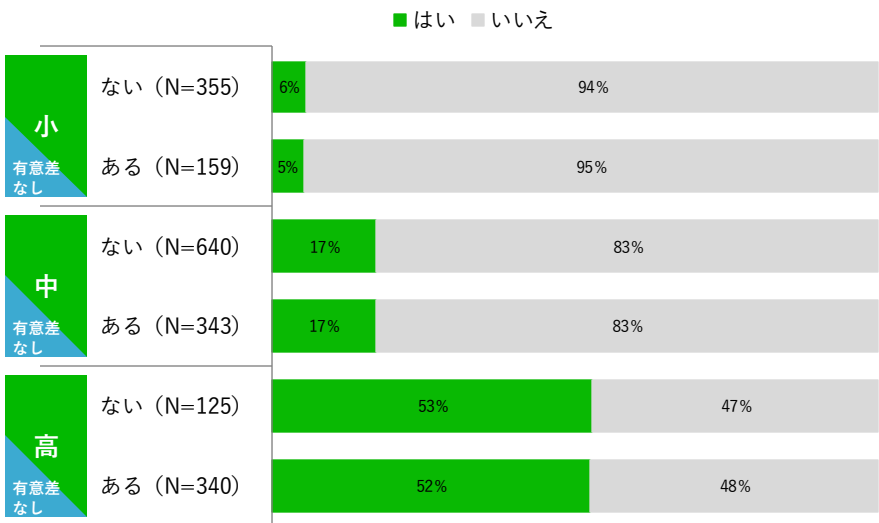
問: 受けた講習は、どのような内容でしたか。ネット上の個人情報（写真など）の発信

問: 「あなたは、SNSやメッセージサービスで、自分の個人情報を公開していますか?」のうち、SNSの利用に関して、プロフィール画面に自分の顔写真を使っているか。

問: ネット上で親しくなった人から自分の写真を要求されたら、どうしますか?



法的理解度: ネットに、他人の悪口などを書き込んだり、いやがらせのメッセージを送ったりすることは、その内容によっては犯罪にあたることを知っていますか。



Appendix

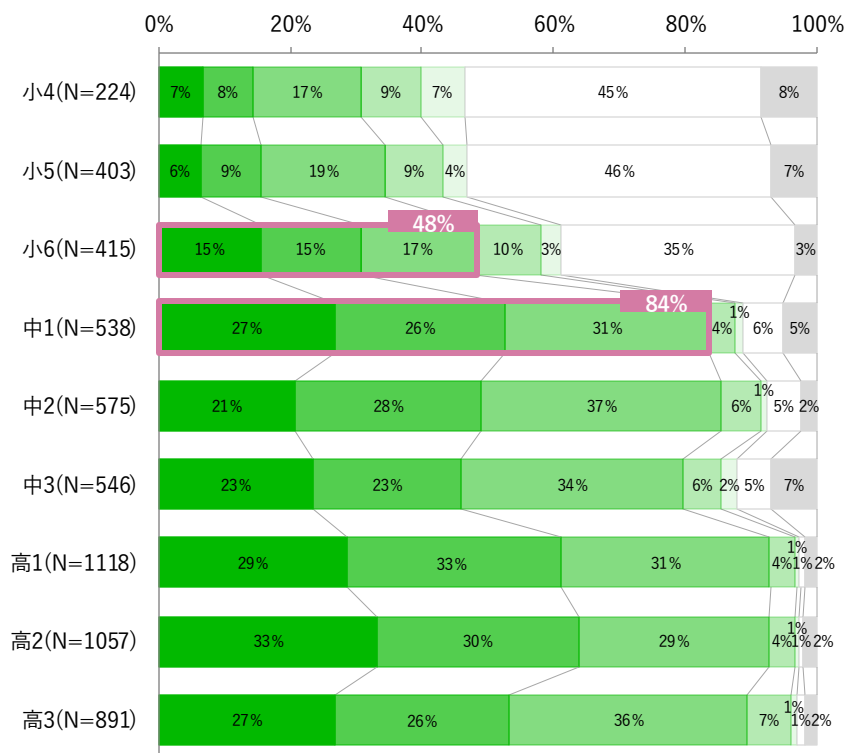
6 サービス別利用状況

6-1 LINE・Twitterの利用頻度〈学年別〉

各サービスの利用頻度（1日1回～20回の合計）を比較すると、LINEは小6で48%から中1で84%と中学から利用頻度が急激に高くなっています。Twitterは小6が11%、中1が16%、高1が53%と学年が上がるにつれて利用頻度が高くなっています。

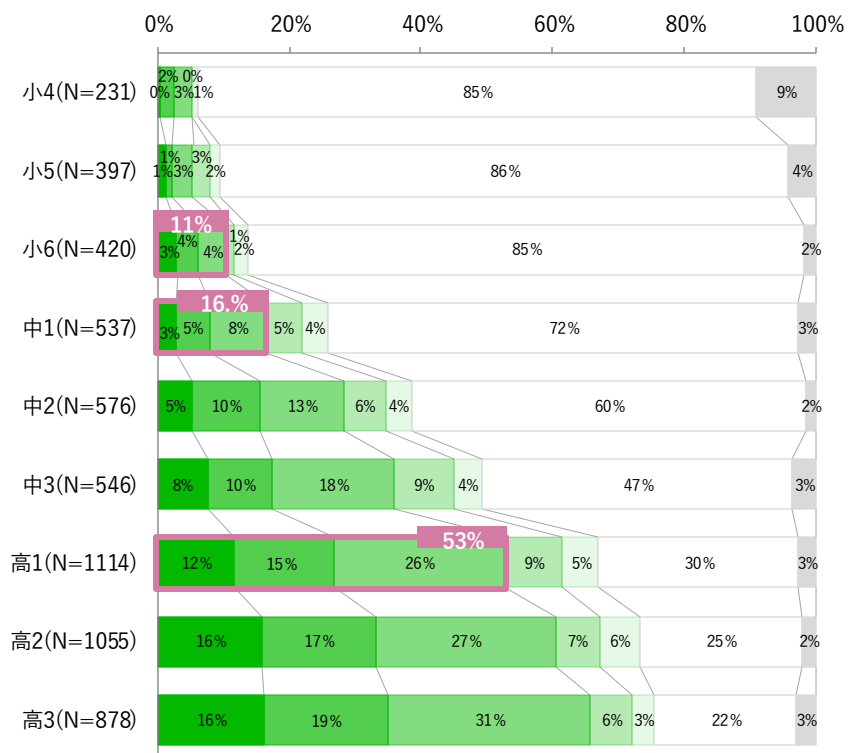
問. あなたが利用しているサービスの利用回数を教えてください。LINE

- 1日20回以上利用する
- 1日10回以上利用する
- 1日1回以上利用する
- 1週間に1回以上利用する
- 1か月に1回以上利用する
- 利用していない
- わからない



問. あなたが利用しているサービスの利用回数を教えてください。Twitter

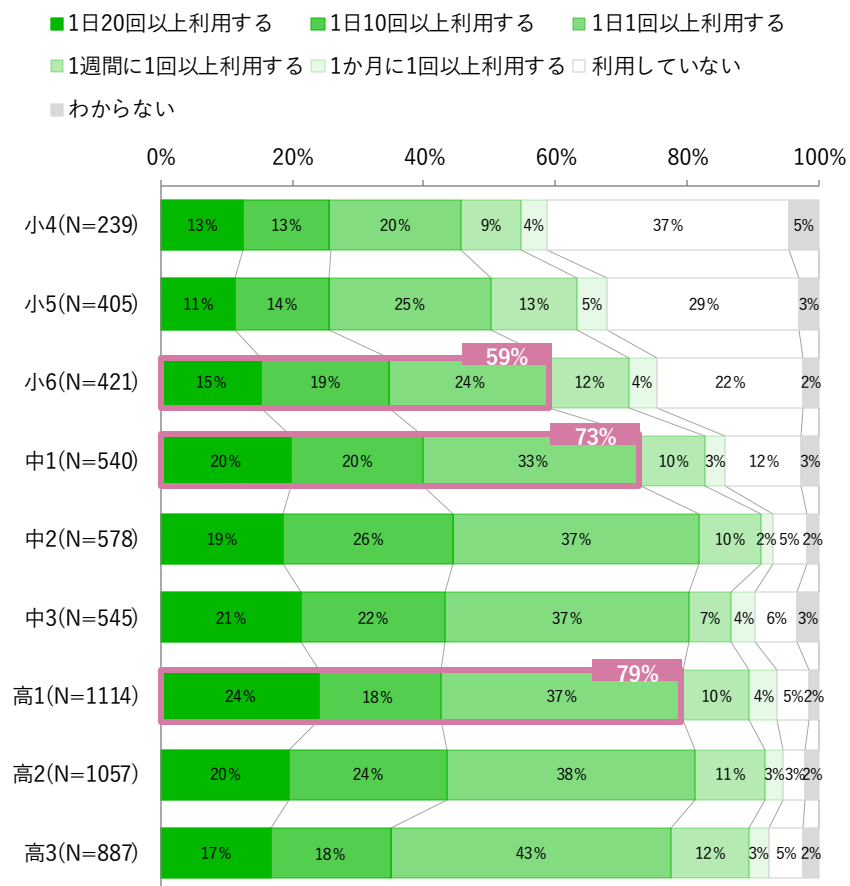
- 1日20回以上利用する
- 1日10回以上利用する
- 1日1回以上利用する
- 1週間に1回以上利用する
- 1か月に1回以上利用する
- 利用していない
- わからない



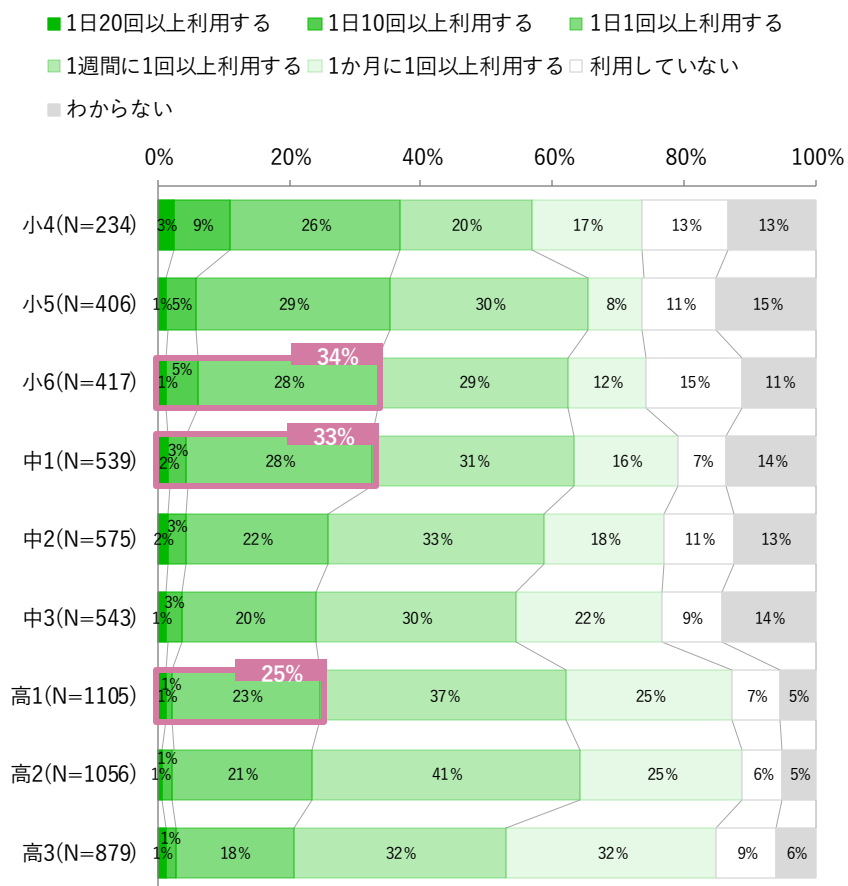
6-2 YouTube・通話の利用頻度〈学年別〉

利用頻度（1日1回～20回の合計）は、YouTubeは小6が59%*、中1が73%、高1が79%と小学生から中学生にかけて利用頻度が高くなっています。通話は、小6が34%、中1が33%、高1が25%と、学年が上がると利用頻度がやや低くなる傾向があります。

問. あなたが利用しているサービスの利用回数を教えてください。YouTube



問. あなたが利用しているサービスの利用回数を教えてください。通話

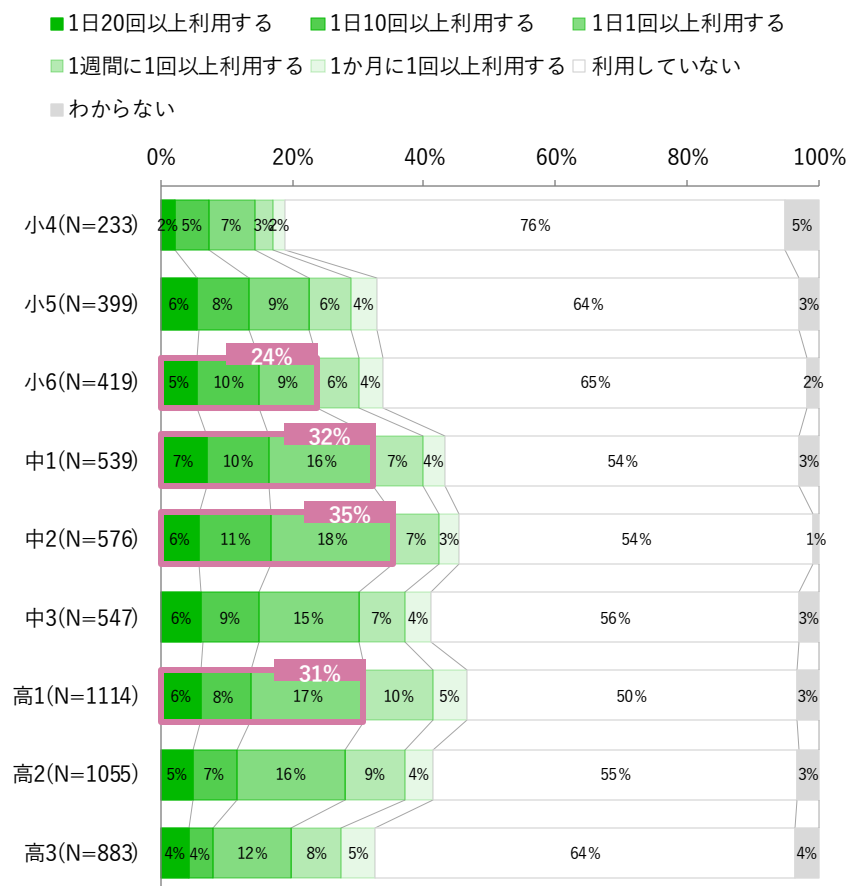


* 値は小数点1桁目を四捨五入しているため、グラフの数字の合計が違うことがあります。

6-3 TikTokの利用頻度 < 学年別 >

TikTokの利用頻度（1日1回～20回の合計）は。小6が24%、中1が32%*、高1が31%で、最も利用頻度が高いのが中2の35%です。TikTokは中学生が最も利用頻度が高くなっています。

問. あなたが利用しているサービスの利用回数を教えてください。 TikTok



* 値は小数点1桁目を四捨五入しているため、グラフの数字の合計が違うことがあります。

7 サービス利用の経年変化（高校生）

※2017年度、2018年度の調査結果と比較しています。

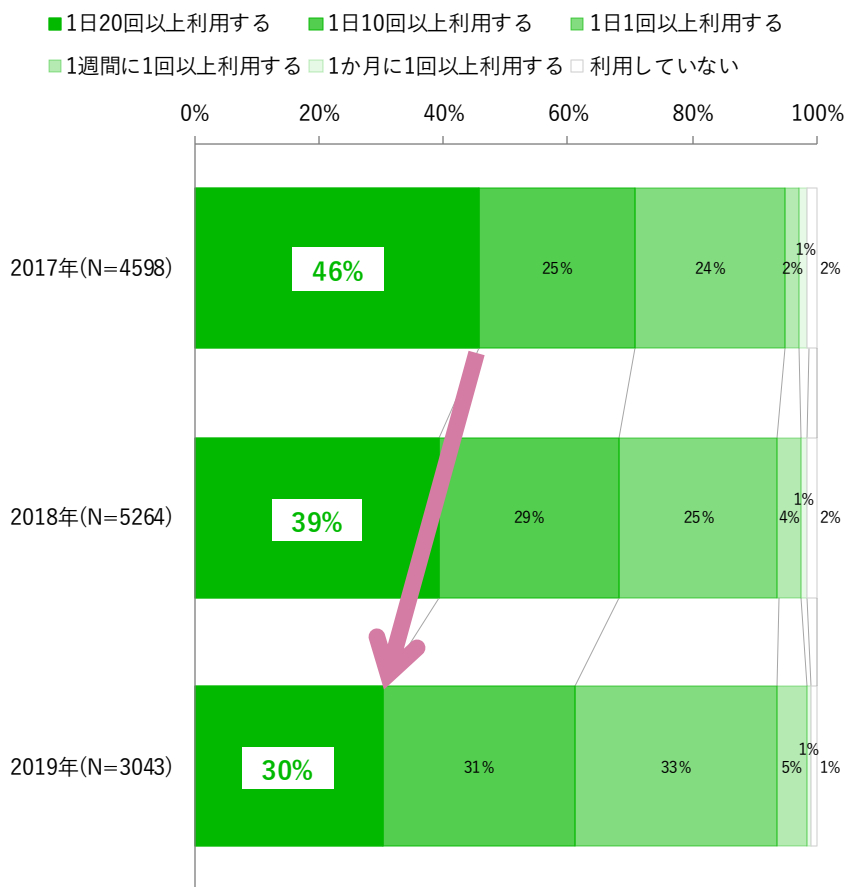
青少年のネット利用実態把握を目的とした調査 平成29年度（2017年度）最終報告書
<https://linecorp.com/ja/csr/newslis/ja/2018/156>

青少年のネット利用実態把握を目的とした調査 平成30年度（2019年度）最終報告書
<https://linecorp.com/ja/csr/newslis/ja/2019/205>

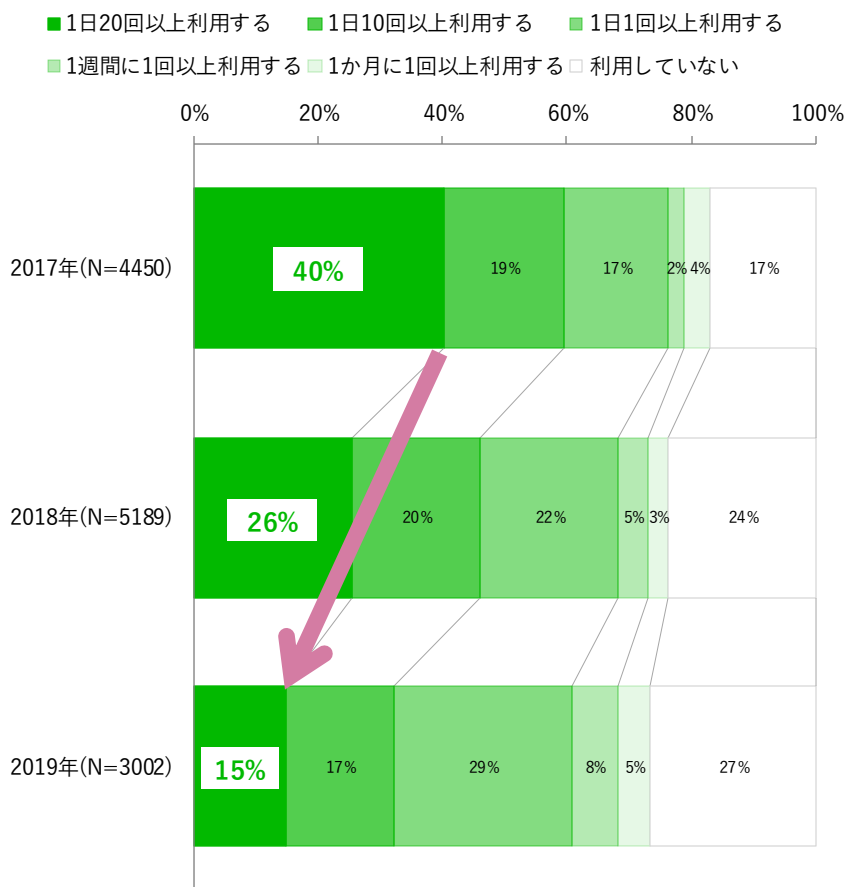
7-1 LINE・Twitterの利用頻度の経年変化<高校生>

LINEやTwitterは、依然として利用頻度は高いですが、「1日20回以上利用する」で比較すると、LINEは、2017年度46%、2018年度が39%、2019年度が30%、Twitterは、2017年度は40%、2018年度は26%、2019年度は15%と徐々に低くなってきています。

問：あなたが利用しているサービスの利用頻度を教えてください。LINE



問：あなたが利用しているサービスの利用頻度を教えてください。Twitter



7-2 Facebook・Instagramの利用頻度の経年変化<高校生>

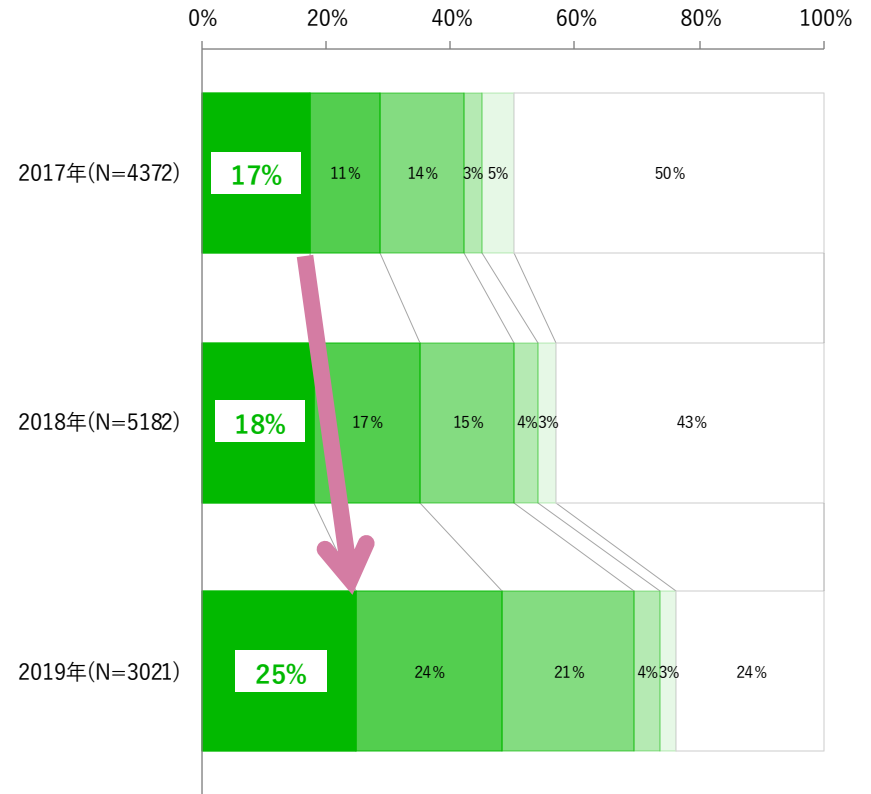
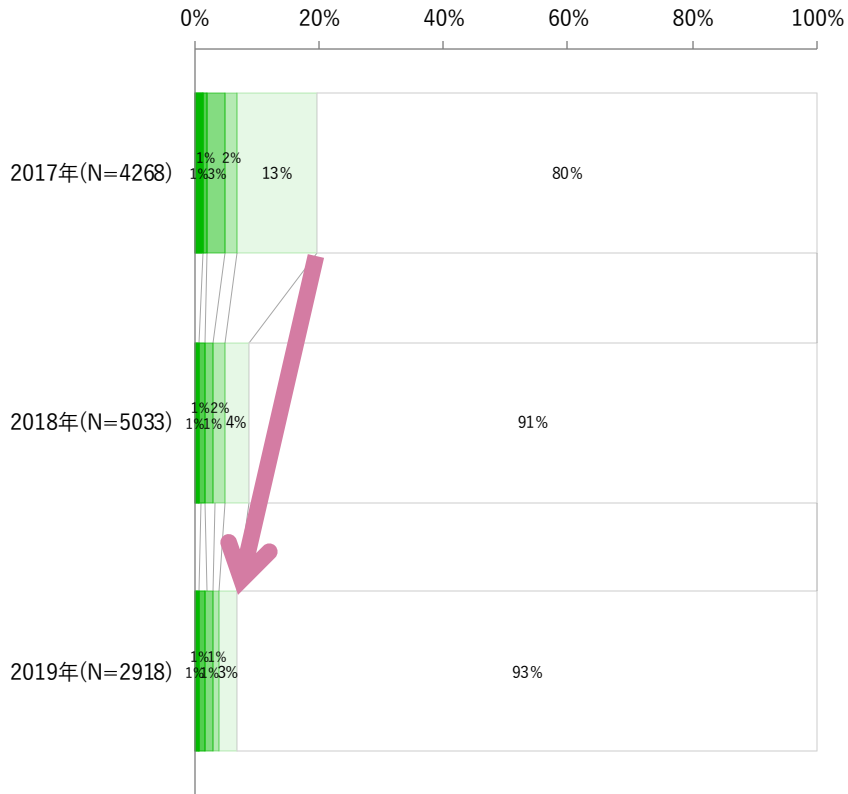
Facebookは、2017年度～2019年度まですべて利用頻度が低いですが、Instagramは、「1日20回以上利用する」で比較すると、2017年度が17%、2018年度が18%、2019年度が25%と利用頻度が高くなっています。

問：あなたが利用しているサービスの利用頻度を教えてください。Facebook

問：あなたが利用しているサービスの利用頻度を教えてください。Instagram

■ 1日20回以上利用する ■ 1日10回以上利用する ■ 1日1回以上利用する
■ 1週間に1回以上利用する ■ 1か月に1回以上利用する □ 利用していない

■ 1日20回以上利用する ■ 1日10回以上利用する ■ 1日1回以上利用する
■ 1週間に1回以上利用する ■ 1か月に1回以上利用する □ 利用していない

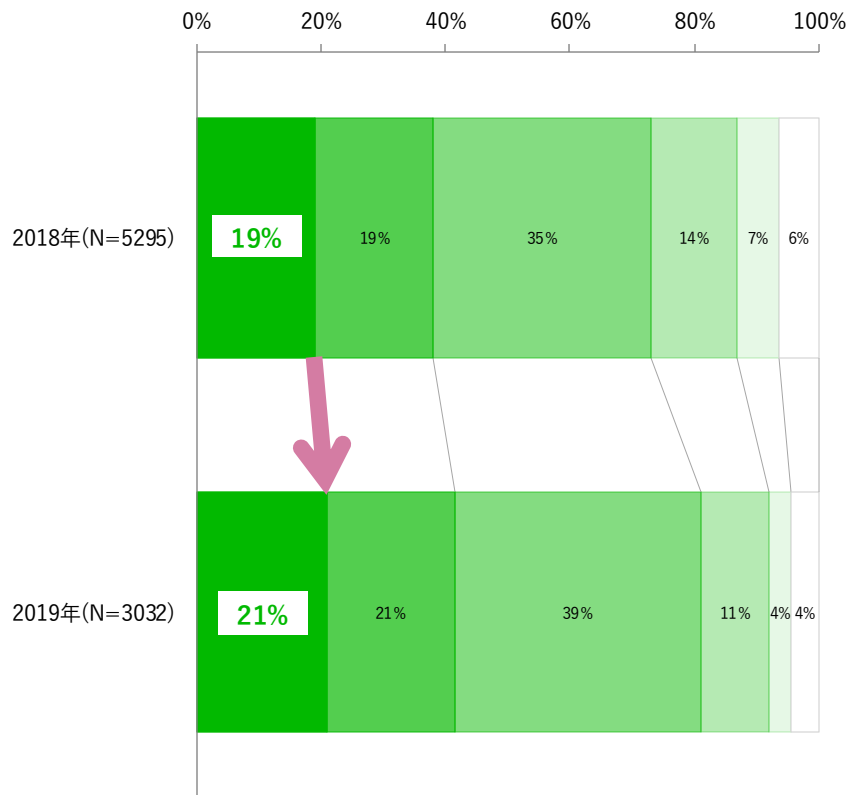


7-3 YouTube・スタディサプリの利用頻度の経年変化<高校生>

YouTubeの利用頻度を「1日20回以上利用する」で比較すると、2018年度が19%、2019年度が21%と利用頻度が若干高くなっています。一方で、スタディサプリアは1週間に1回以上～1日20回以上の合計でも、2018年度は7%、2019年度は9%と、利用頻度が10%以下の低いままになっています。

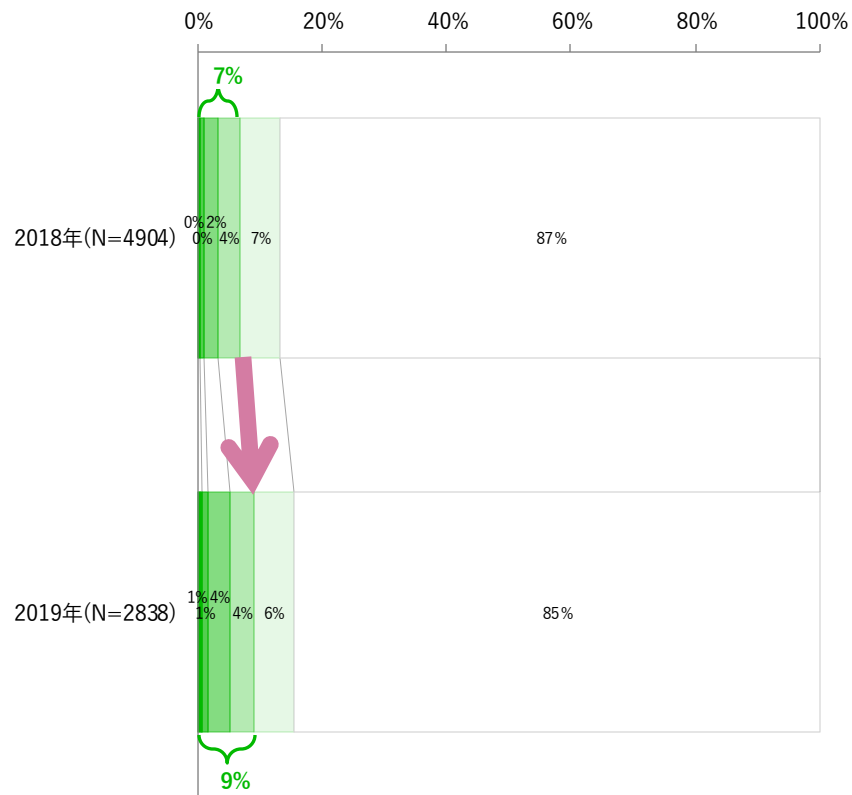
問：あなたが利用しているサービスの利用頻度を教えてください。YouTube

■ 1日20回以上利用する ■ 1日10回以上利用する ■ 1日1回以上利用する
■ 1週間に1回以上利用する ■ 1か月に1回以上利用する □ 利用していない



問：あなたが利用しているサービスの利用頻度を教えてください。スタディサプリア

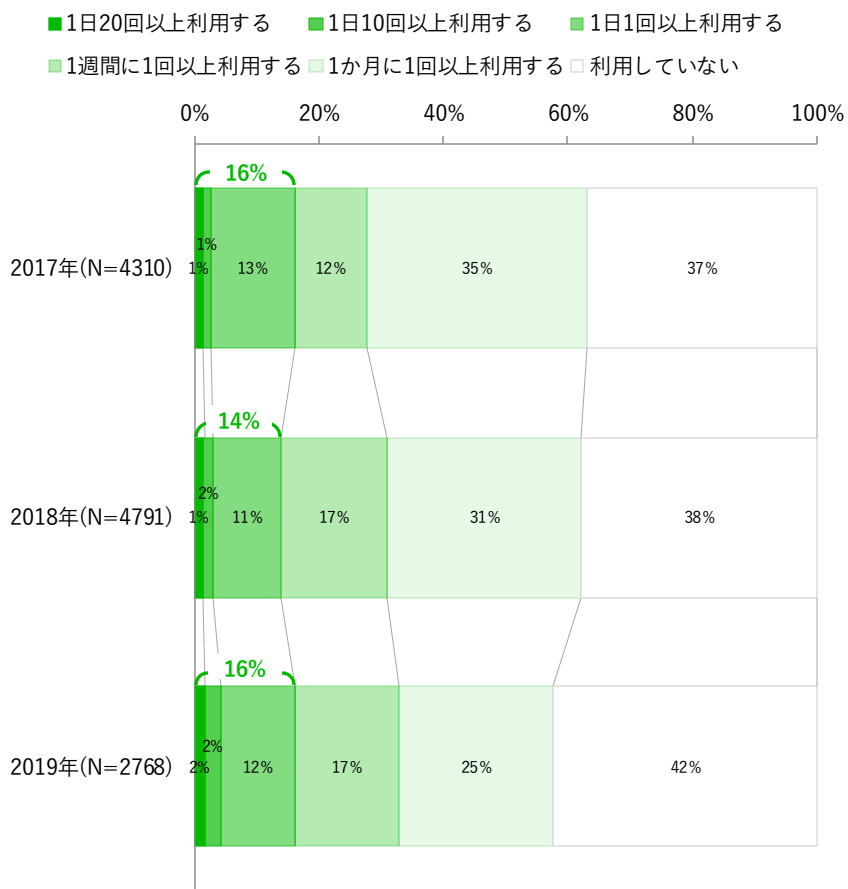
■ 1日20回以上利用する ■ 1日10回以上利用する ■ 1日1回以上利用する
■ 1週間に1回以上利用する ■ 1か月に1回以上利用する □ 利用していない



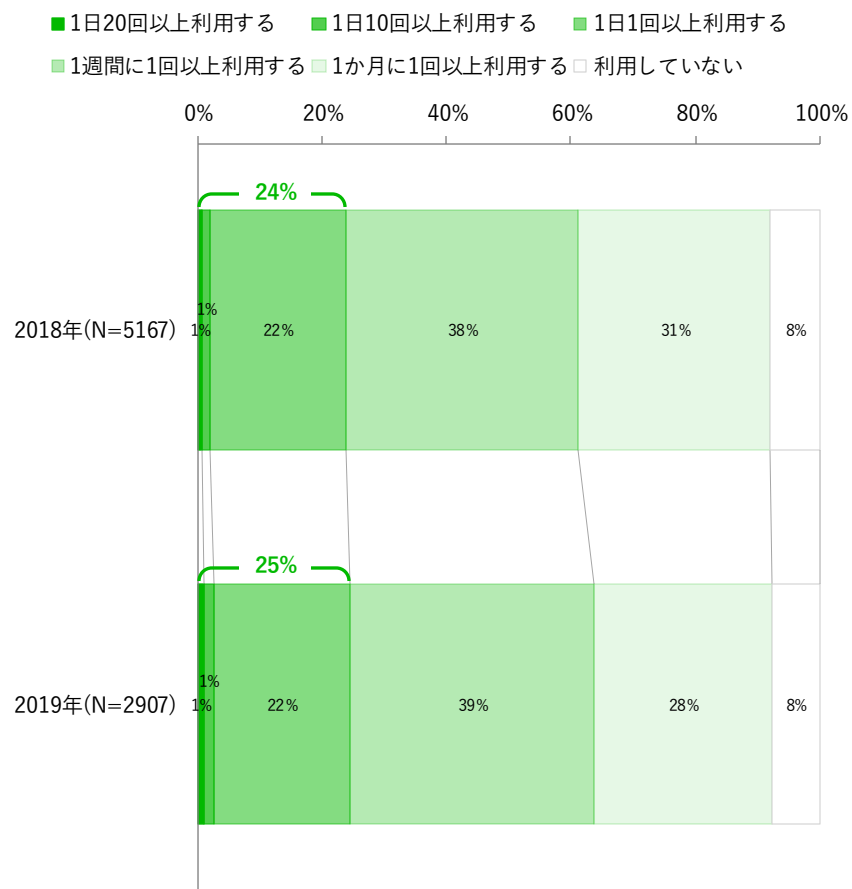
7-4 電子メール・通話の利用頻度の経年変化<高校生>

電子メールの利用頻度は、1日1回以上～1日20回以上で比較すると、2017年度は16%、2018年度は14%、2019年度は16%と、大きな変化はありません。通話も、1日1回以上～1日20回以上で比較すると、2018年度は24%、2019年度は25%と、大きな変化はありません。

問：あなたが利用しているサービスの利用頻度を教えてください。電子メール



問：あなたが利用しているサービスの利用頻度を教えてください。通話



7-5 新しい友達や友人関係維持のためのサービスの経年変化<高校生>

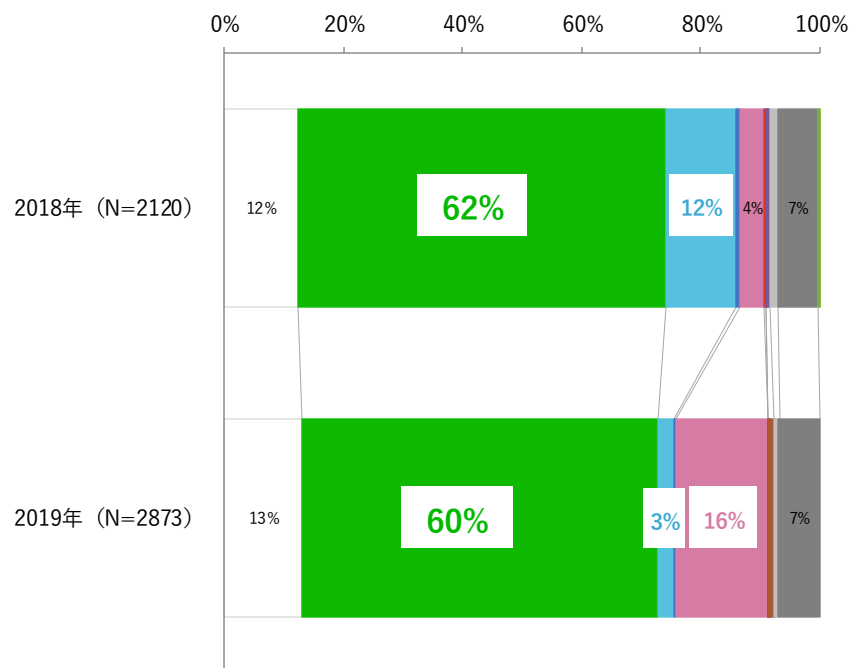
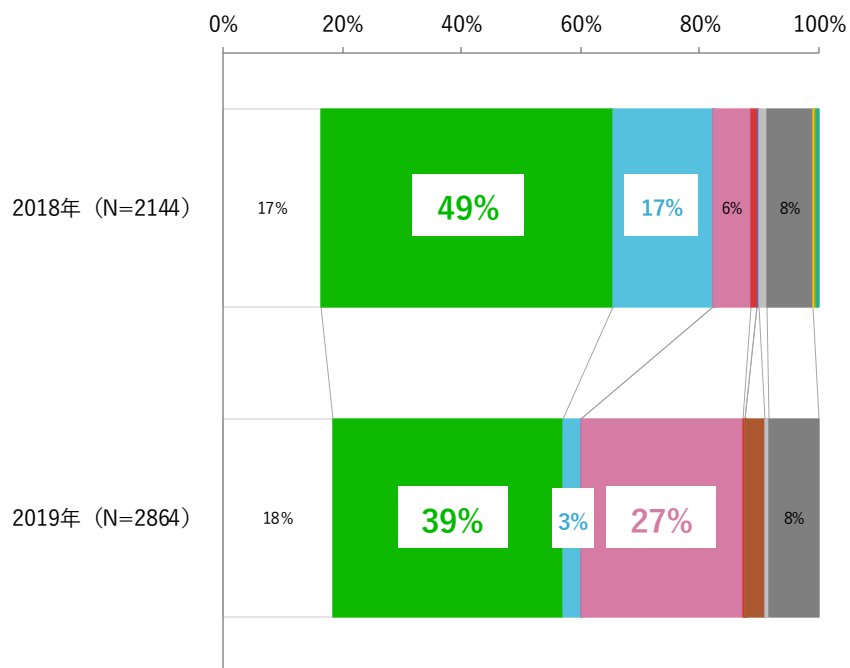
新しい学校やクラスで友達が増えたきっかけのサービスは、2018年度はLINE（49%）とTwitter(17%)が主に利用されていましたが、2019年度はLINE(39%)とTwitter(3%)は減少する一方で、Instagram(27%)の割合が高くなっています。離れ離れになった友達と仲の良い状態が続けられたサービスも、2018年度は、LINE（62%）とTwitter(12%)が主に利用されていましたが、2019年度は、LINE(60%)とTwitter(3%)は減少する反面、Instagram(16%)の割合が高くなっています。

問.この一年間にネットを使っていて、次のようなことはありましたか。

①新しい学校やクラスで友達が増えた

問.この一年間にネットを使っていて、次のようなことはありましたか。

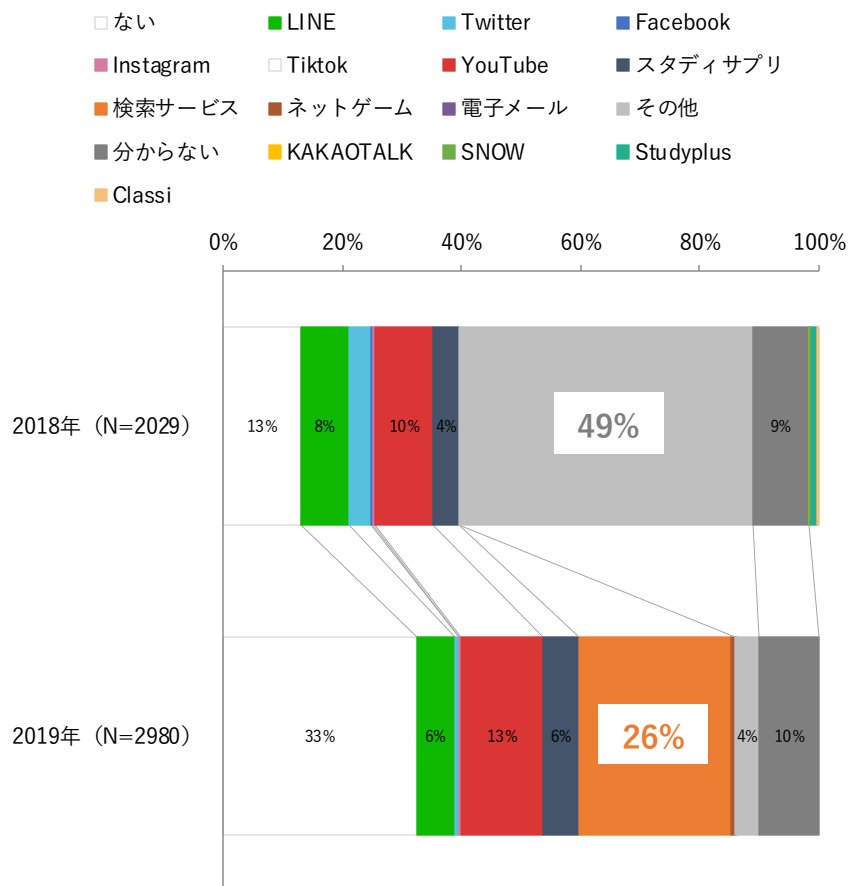
②離れ離れになった友達と仲の良い状態が続けられた



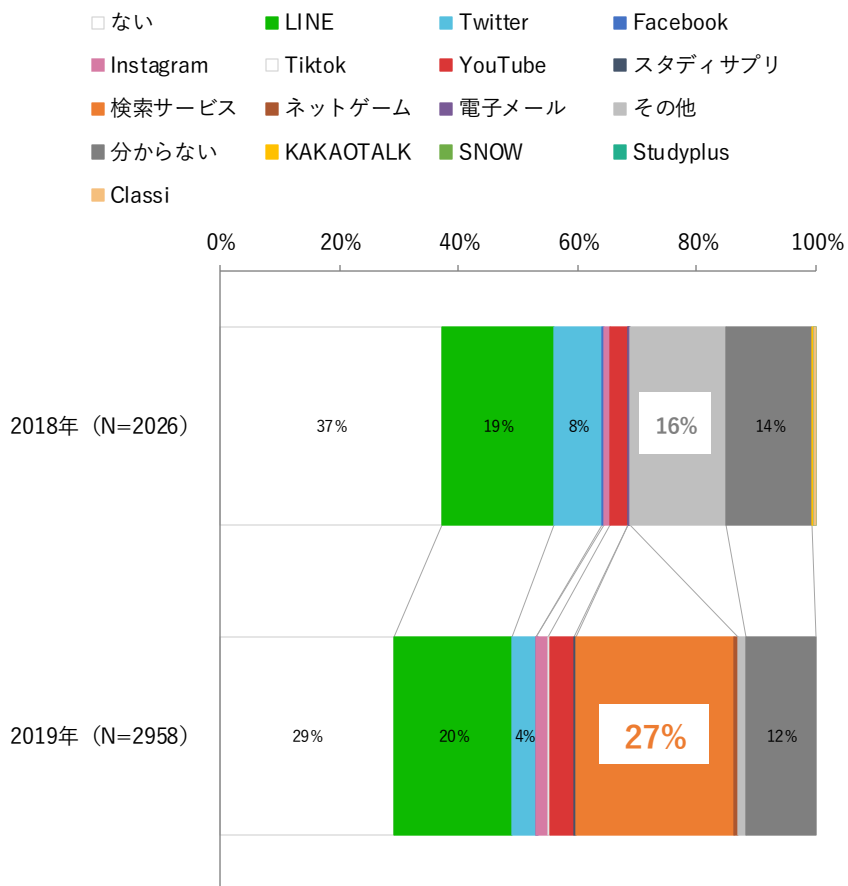
7-6 勉強や悩み解決のためのサービスの経年変化<高校生>

勉強が捗ったサービスと悩みが解決したサービスに関して、2019年度から検索サービスを新たな選択肢に入れたところ、勉強が捗ったが26%、悩みが解決したは27%と最も高い割合（「ない」を除く）となりました。2018年度のその他（勉強が捗ったは49%と悩みが解決したは16%）は、検索サービスが含まれていたものと考えられます。

問.この一年間にネットを使っていて、次のようなことはありましたか。
③勉強がはかどった



問.この一年間にネットを使っていて、次のようなことはありましたか。
④悩みが解決した

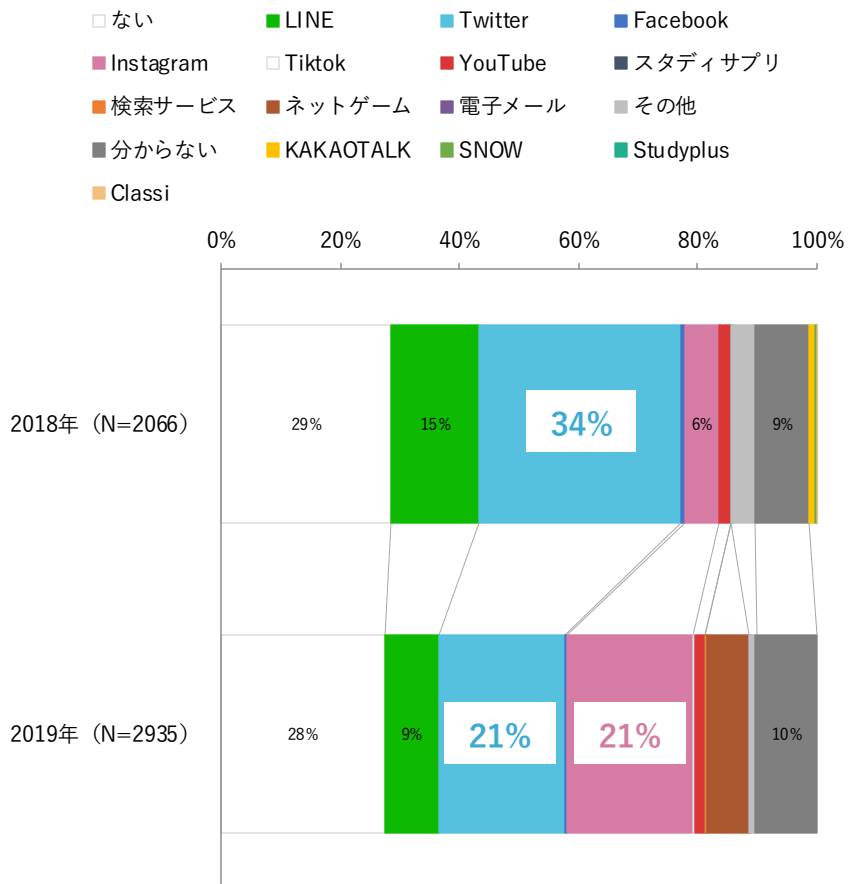


7-7 趣味によるつながりや学校からの連絡用サービスの経年変化<高校生>

同じ趣味の友達を得ることができたサービスは、2018年度はTwitterが34%でしたが、2019年度はTwitterが21%と減少する反面、Instagramが21%と大きく増加しています。学校からの連絡は、電子メールが2018年度が21%、2019年度が21%と大きな割合を占めています。

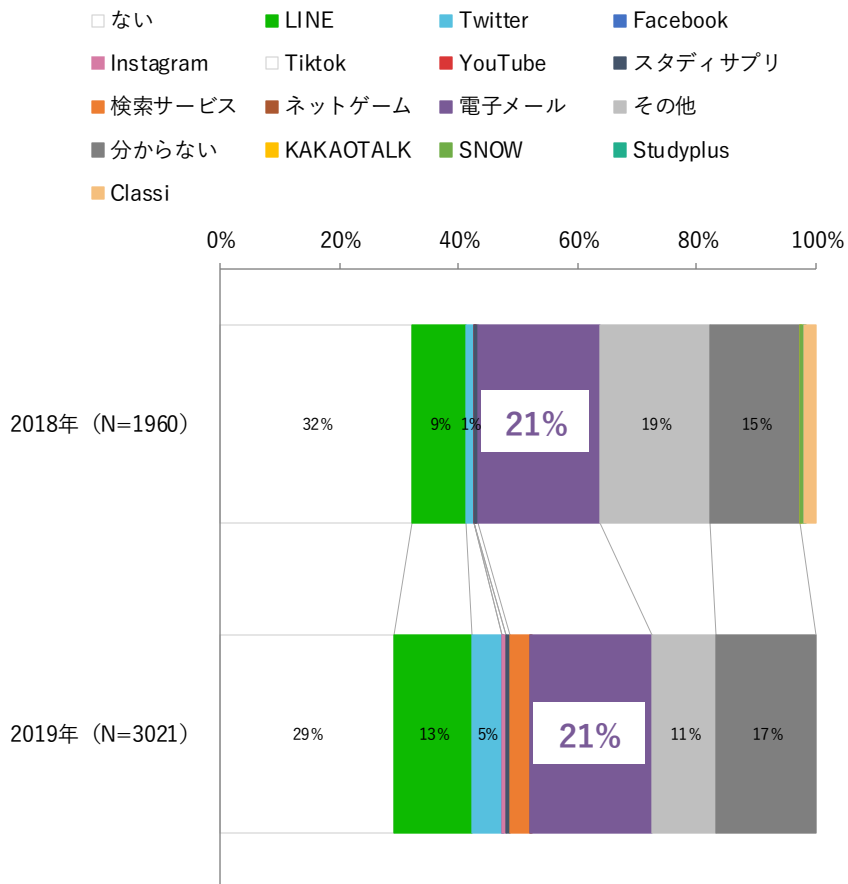
問.この一年間にネットを使っていて、次のようなことはありましたか。

⑤ 同じ趣味の友達を得ることができた



問.この一年間にネットを使っていて、次のようなことはありましたか。

⑥ 学校からの連絡を受け取った

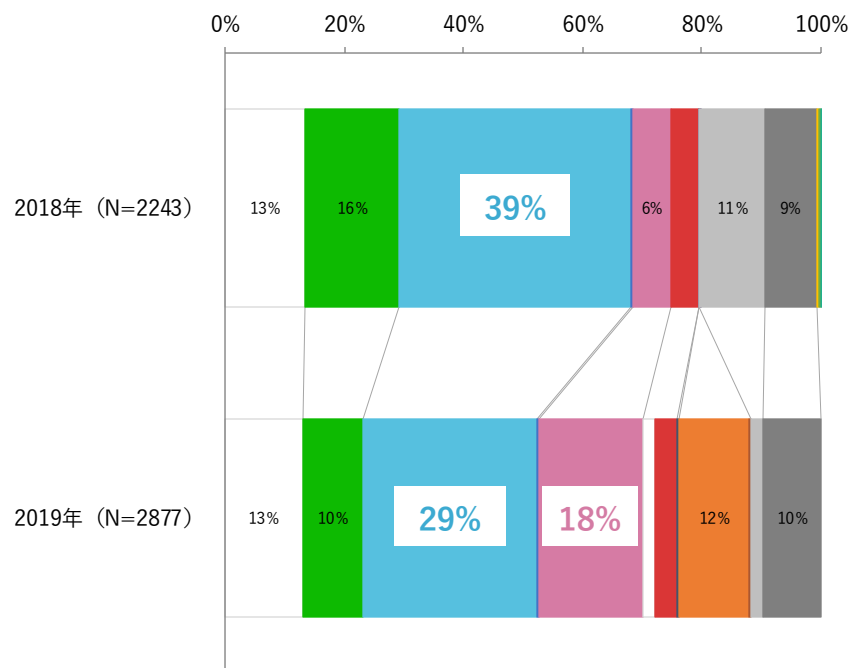


7-8 話題についていくためのサービスの経年変化<高校生>

ニュースや流行の話題についていけたサービスの割合は、2018年度はTwitterが39%と最も高い割合でしたが、2019年度はTwitterは29%と割合が減り、Instagramが18%と増加しています。

問.この一年間にネットを使っていて、次のようなことはありましたか。

⑦ニュースや流行の話題についていけた



8 LINEで経験したトラブルの傾向

8-1 LINE上での嫌なことの比較<高校生・調査年度別>

LINE上で、「経験した嫌なこと」「されたら嫌なこと」「他人がされていたら嫌だと思うこと」を比較すると、経験した嫌なことは既読スルー・未読スルー、知らない人からの友達追加が比較的高い割合となっています。

しかし、経験したしないを問わず、嫌なことを聞くと、自分の嘘を広められることや悪口や陰口、自分の写真の無断利用などが上位にあげられます。この傾向は、2018年度、2019年度ともに同じで、今年度新たに質問した「他人がされていたら嫌だと思うこと」もほぼ同じ傾向です。

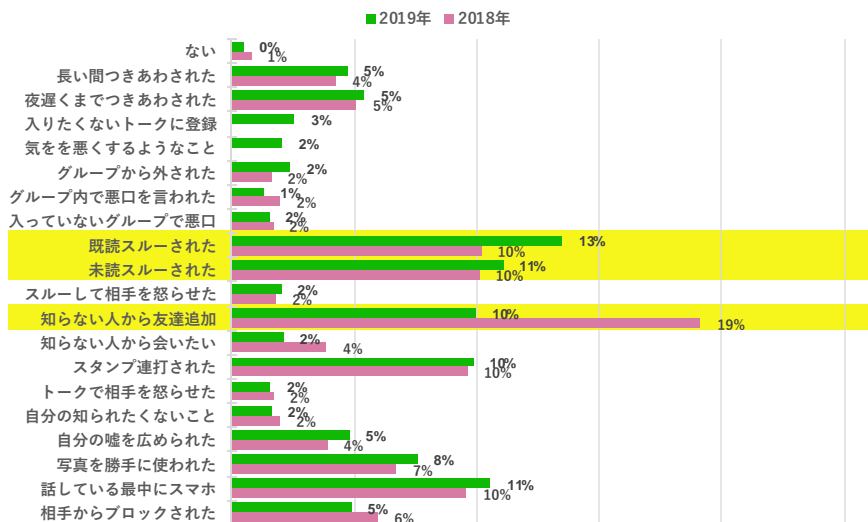
問：この1年間でLINEを利用しているときに、以下の事柄をされたことがありますか。

(経験した嫌なこと) 問：「問A」の中で、あなたが経験した事柄のうち、嫌だと感じたものはどれでしょうか。

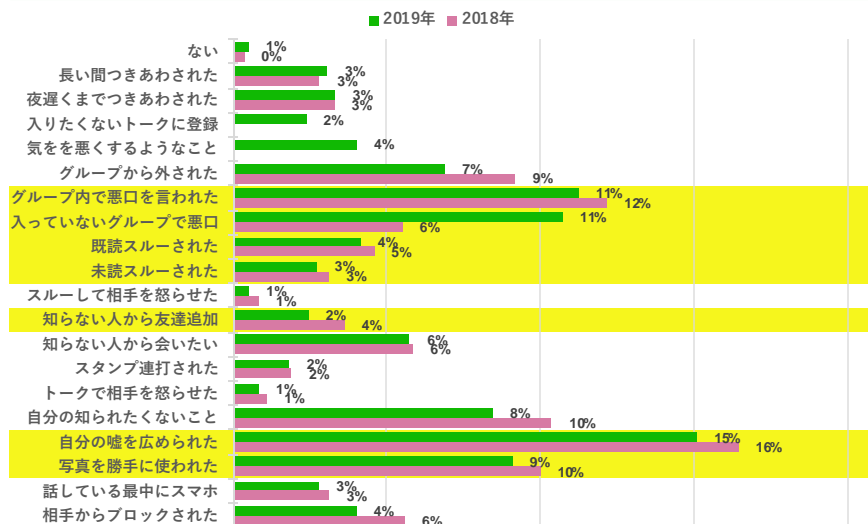
(自分がされたら嫌なこと) 問：「問A」の中で、もしあなたがされたとしたら、嫌だと感じるものはどれでしょうか。

(他人がされていたら嫌だと思うこと) 問：「問A」の中で、どれが他の人々にとって嫌だと感じさせる行為だと思いますか。あなた自身ではなく、他の人々が感じる迷惑の程度を推測してください。

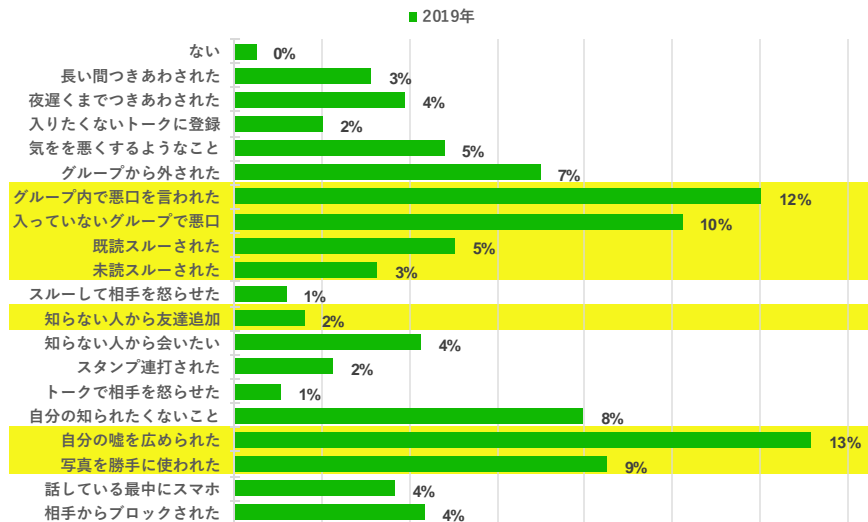
経験した嫌なこと



自分がされたら嫌なこと



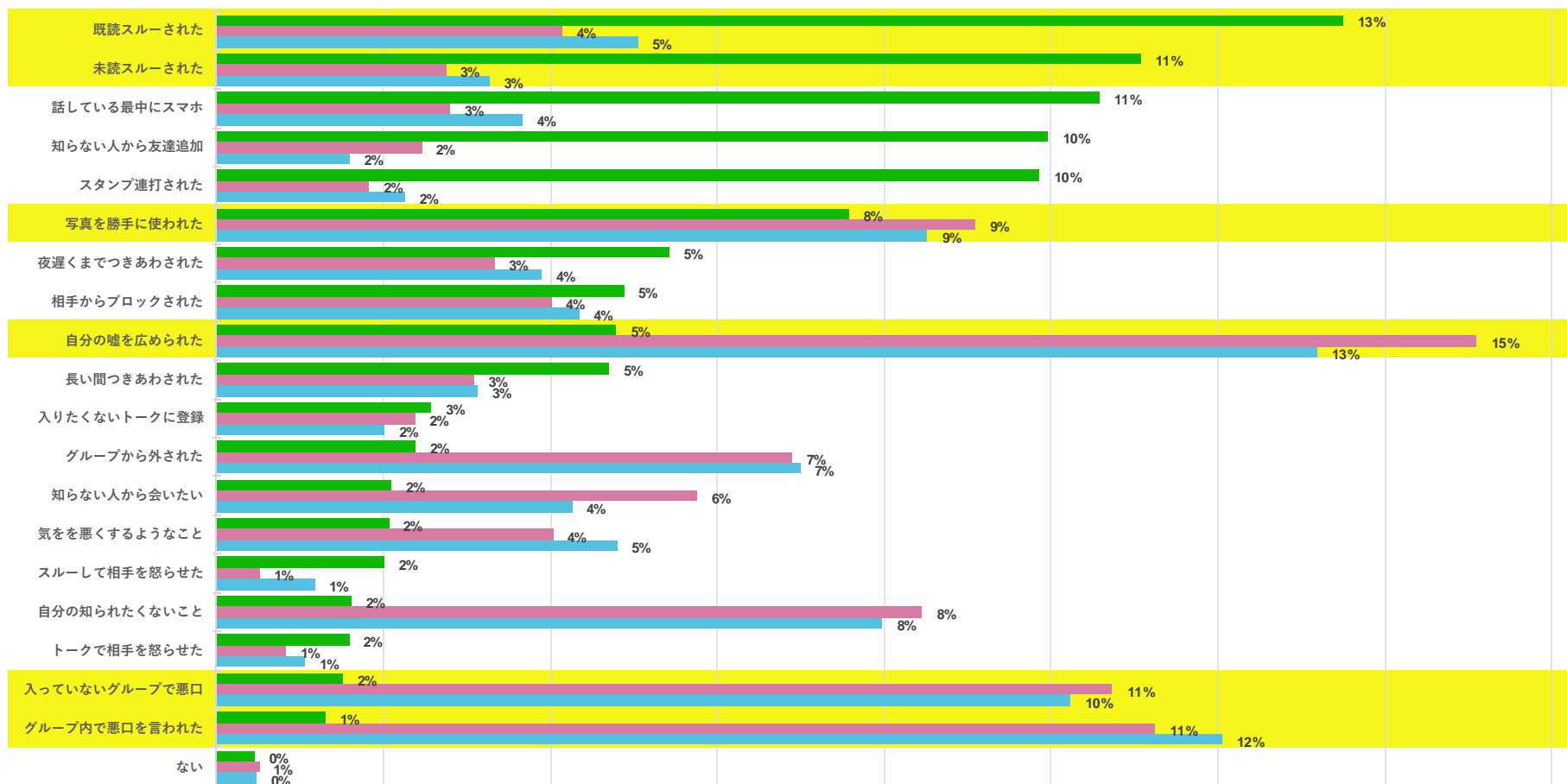
他人がされていたら嫌だと思うこと



8-2 LINE上での嫌なこと<高校生>

「LINEで経験した嫌なこと」「されたら嫌なこと」「他人がされていたら嫌だと思うこと」を1つのグラフで比較し、「LINEで経験した嫌なこと」の割合を高い順に並べると、以下のグラフのようになります。既読スルーや未読スルーは上位ですが、「されたら嫌なこと」では上位ではありません。嘘を広められる、悪口を言われる、陰口を言われるは、「されたら嫌なこと」の上位になります。また写真を勝手に使われることは、3つすべてで、割合が高くなっています。

■ LINEで経験した嫌なこと ■ されたら嫌なこと ■ 他人がされていたら嫌だと思うこと



1位を3点、2位を2点、3位を1点として集計し、累計から割合を算出

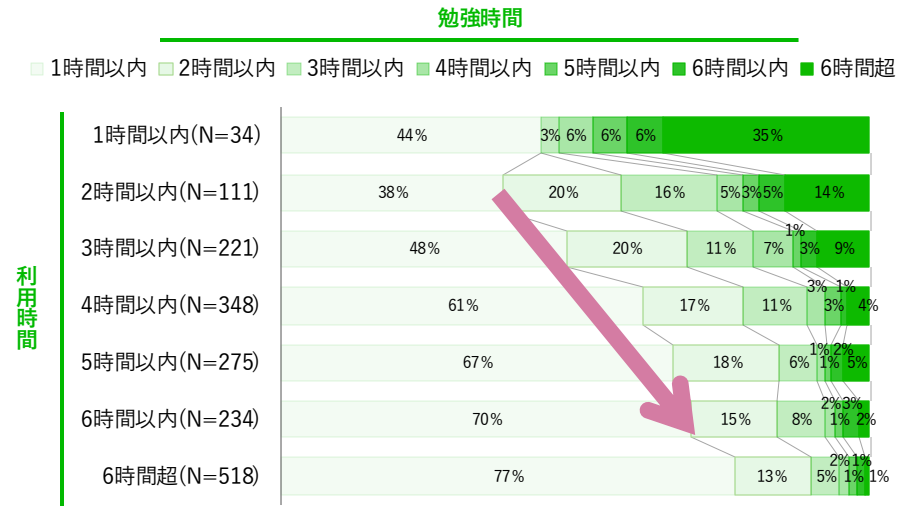
9 生活時間（勉強時間・睡眠時間・自由時間）と 携帯電話及びゲームの利用時間との相関分析（高校生）

9 - 1 携帯電話の利用時間と生活時間の関係 < 高校生 >

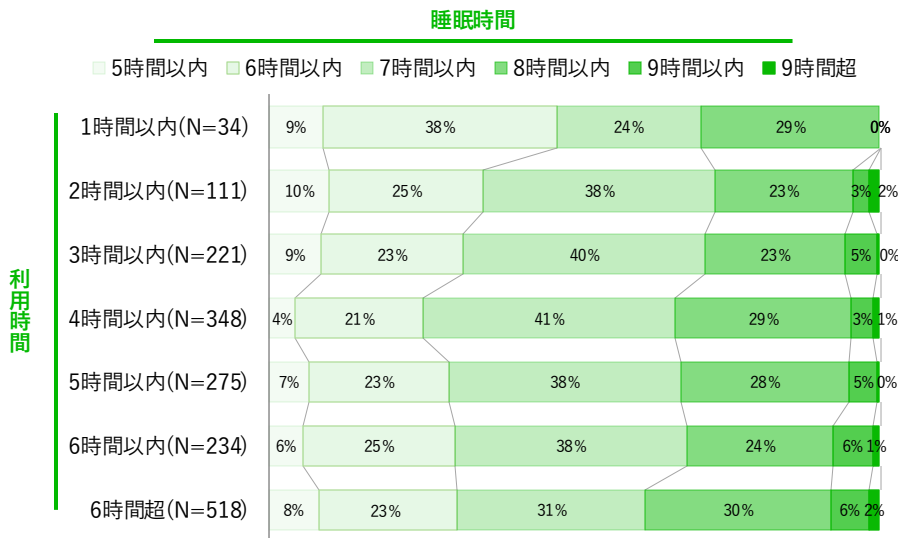
生活時間（勉強時間・睡眠時間・自由時間）と携帯電話の利用時間をクロス集計すると、携帯電話の利用時間が長くなると、勉強時間はやや短くなる傾向で、自由時間は長くなる傾向があります。睡眠時間は利用時間にかかわらず一定です。

- (利用時間) 問：あなたは携帯電話を1日に何時間ぐらい使っていますか。
- (勉強時間) 問：あなたは学校の授業以外で、勉強を、1日に何時間ぐらいやっていますか。
- (睡眠時間) 問：あなたの睡眠時間は1日に何時間ぐらいですか。
- (自由時間) 問：あなたの自由時間は、1日に何時間ぐらいですか。

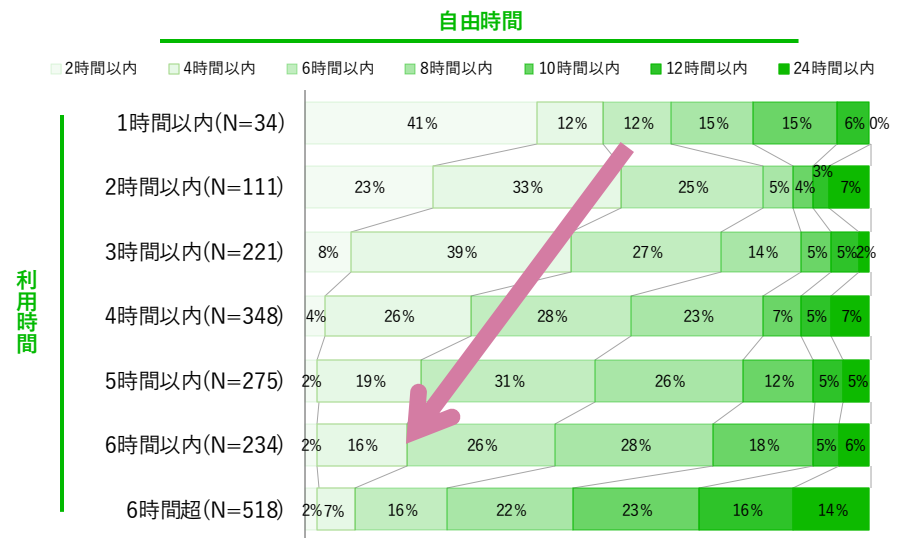
勉強時間と携帯電話の利用時間



睡眠時間と携帯電話の利用時間



自由時間と携帯電話の利用時間



9-2 携帯電話の利用時間と生活時間の関係 <大学・短大進学希望者の高校生>

生活時間（勉強時間・睡眠時間・自由時間）と携帯電話の利用時間を、進学希望別で分析すると、大学や短大に進学希望の層では、携帯電話の利用時間が長くなるほど勉強時間は短くなる傾向で、自由時間は長くなる傾向があります。睡眠時間は利用時間に関わらず一定です。

（利用時間）問：あなたは携帯電話を1日に何時間ぐらい使っていますか。

（勉強時間）問：あなたは学校の授業以外で、勉強を、1日に何時間ぐらやっていますか。

（睡眠時間）問：あなたの睡眠時間は1日に何時間くらいですか。

（自由時間）問：あなたの自由時間は、1日に何時間くらいですか。

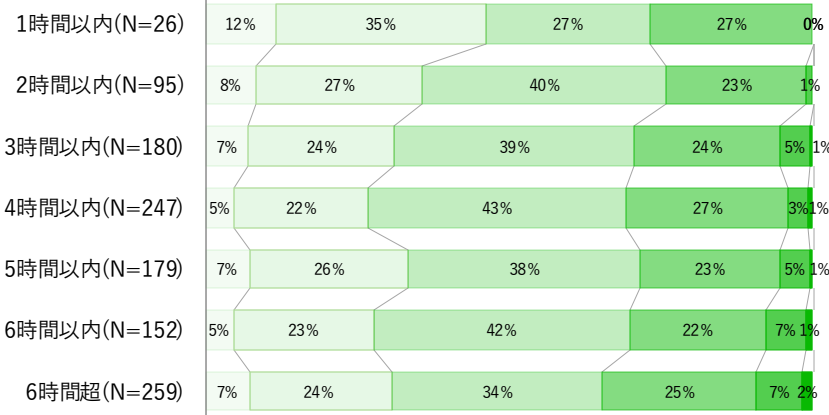
相関なし

睡眠時間と携帯電話の利用時間

睡眠時間

5時間以内 6時間以内 7時間以内 8時間以内 9時間以内 9時間超

利用時間



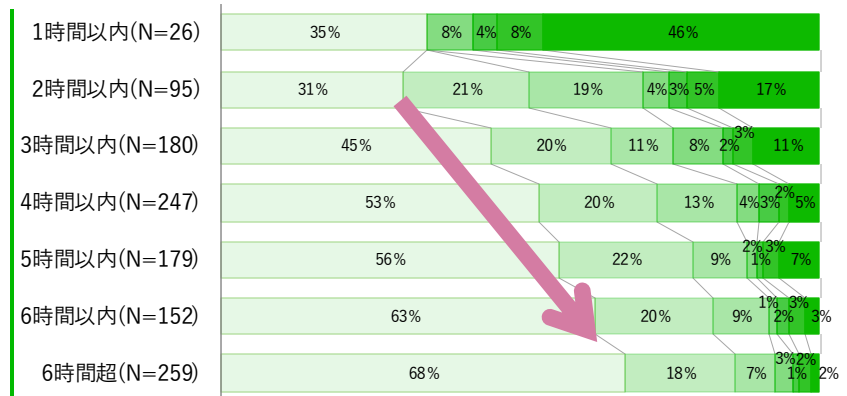
弱い相関*

勉強時間と携帯電話の利用時間

勉強時間

1時間以内 2時間以内 3時間以内 4時間以内 5時間以内 6時間以内 6時間超

利用時間



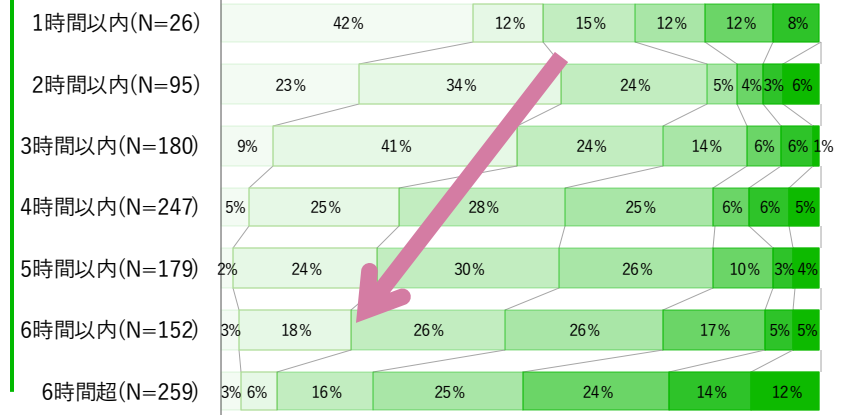
相関あり**

自由時間と携帯電話の利用時間

自由時間

2時間以内 4時間以内 6時間以内 8時間以内 10時間以内 12時間以内 24時間以内

利用時間

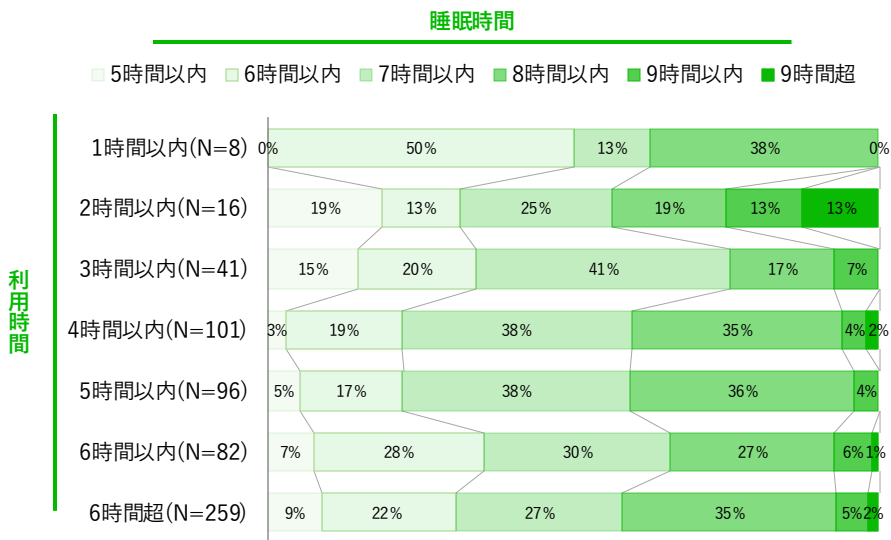


9 - 3 携帯電話の利用時間と生活時間の関係 <就職・専門学校・その他の高校生>

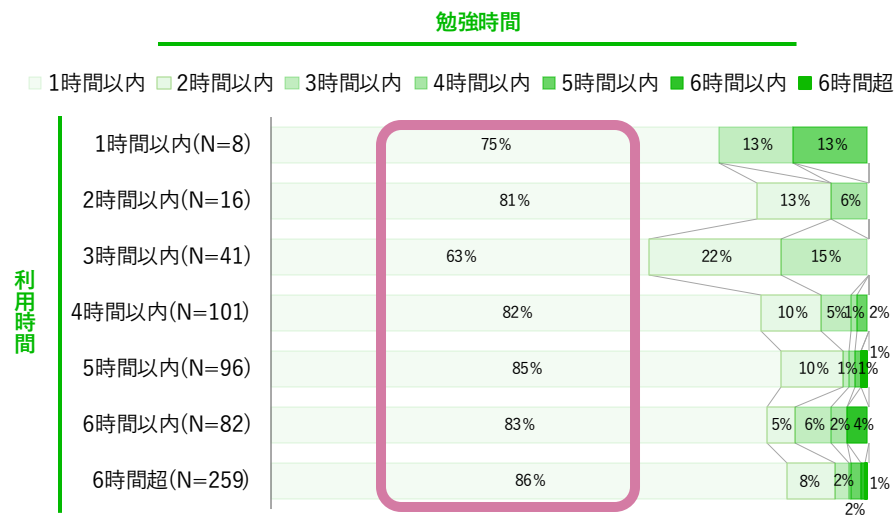
生活時間（勉強時間・睡眠時間・自由時間）と携帯電話の利用時間を、進学希望別で分析すると、就職・専門学校・未定など大学進学希望以外の層では、利用時間に関わらず勉強時間と睡眠時間は一定です。大学進学希望以外の層は、勉強時間が0時間が大半であるため、利用時間の長さに影響は与えませんでした。利用時間が長くなると、自由時間は長くなる傾向があります。

- (利用時間) 問：あなたは携帯電話を1日に何時間ぐらい使っていますか。
- (勉強時間) 問：あなたは学校の授業以外で、勉強を、1日に何時間ぐらいやっていますか。
- (睡眠時間) 問：あなたの睡眠時間は1日に何時間ぐらいですか。
- (自由時間) 問：あなたの自由時間は、1日に何時間ぐらいですか。

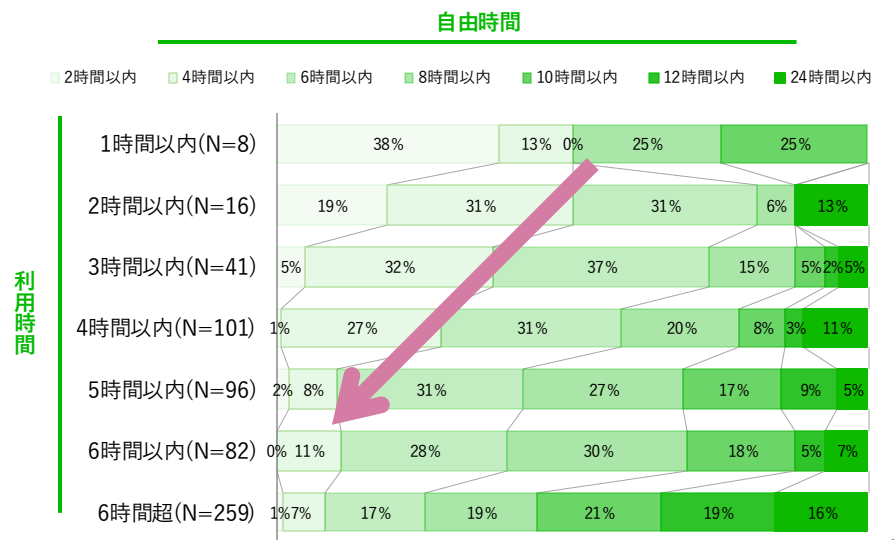
睡眠時間と携帯電話の利用時間



勉強時間と携帯電話の利用時間



自由時間と携帯電話の利用時間

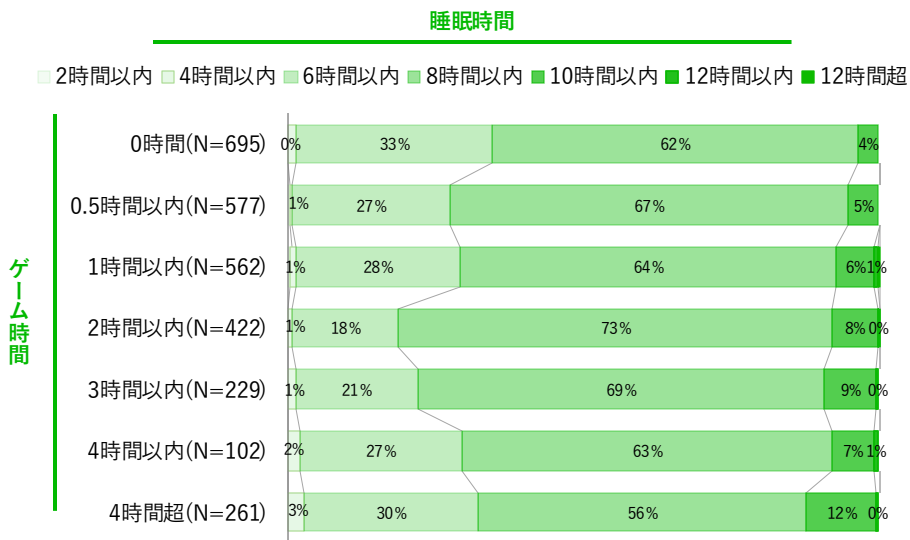


9 - 4 ゲーム利用時間と生活時間の関係 < 高校生 >

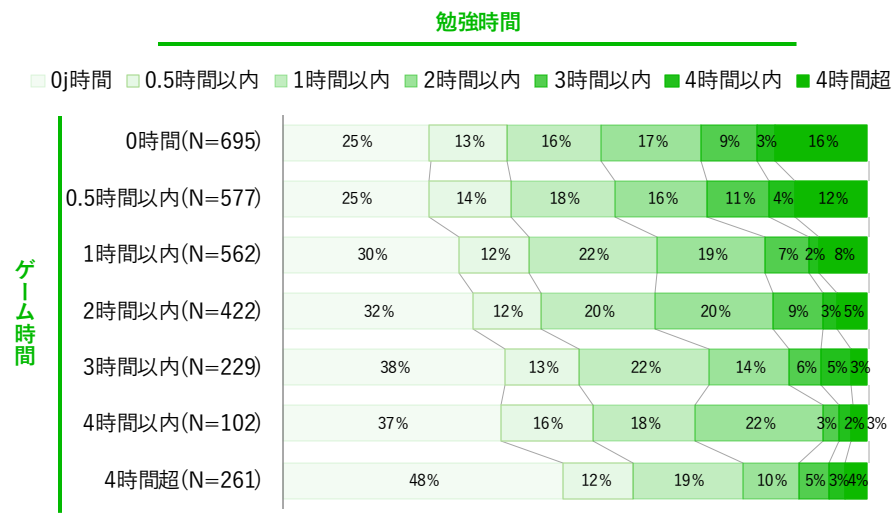
生活時間（勉強時間・睡眠時間・自由時間）とゲーム利用時間の関係を分析すると、ゲーム利用時間に関わらず睡眠時間と勉強時間は一定です。ゲーム時間が長くなると自由時間がやや長くなる傾向があります。

- (利用時間) 問：あなたは携帯電話を1日に何時間ぐらい使っていますか。
- (勉強時間) 問：あなたは学校の授業以外で、勉強を、1日に何時間ぐらいやっていますか。
- (睡眠時間) 問：あなたの睡眠時間は1日に何時間ぐらいですか。
- (自由時間) 問：あなたの自由時間は、1日に何時間ぐらいですか。

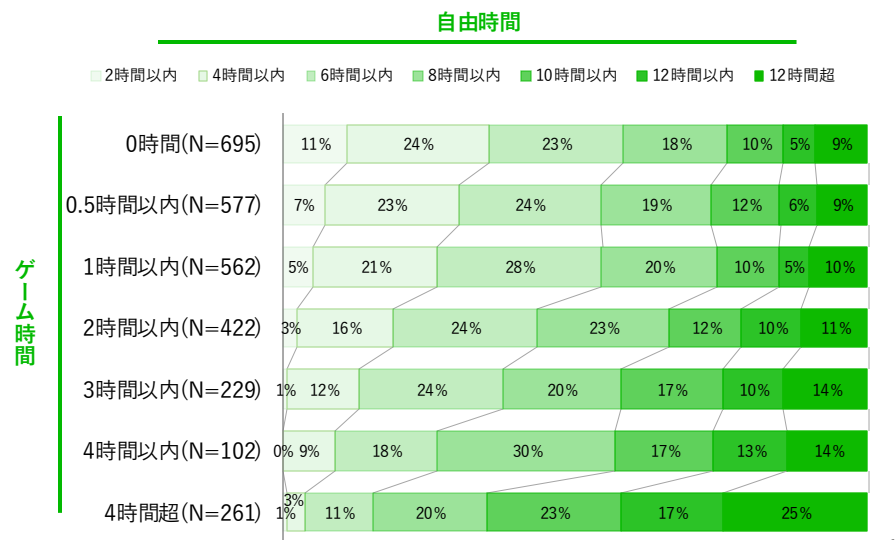
睡眠時間とゲーム時間



勉強時間とゲーム時間



自由時間とゲーム時間



9 - 5 ゲーム利用時間と生活時間の関係 < 大学・短大進学希望者の高校生 >

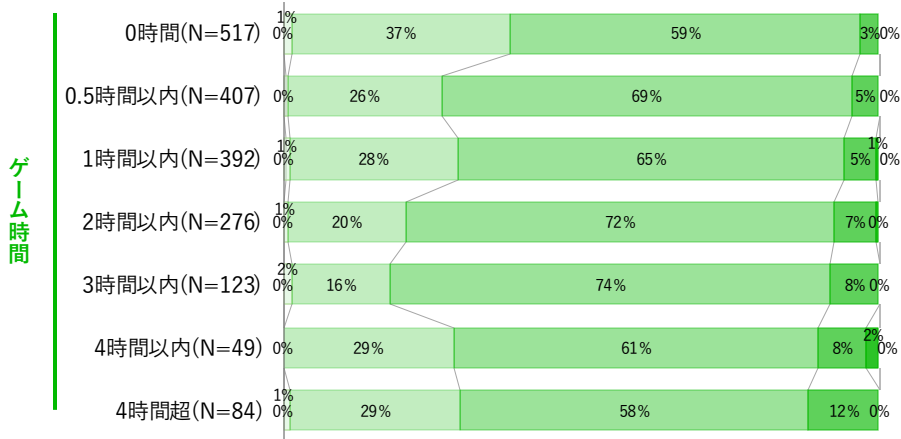
高校生の大学進学希望層を抽出して生活時間（勉強時間・睡眠時間・自由時間）とゲーム利用時間の関係を分析すると、ゲーム利用時間に関わらず生活時間は一定です。

- (利用時間) 問：あなたは携帯電話を1日に何時間ぐらい使っていますか。
- (勉強時間) 問：あなたは学校の授業以外で、勉強を、1日に何時間ぐらいやっていますか。
- (睡眠時間) 問：あなたの睡眠時間は1日に何時間ぐらいですか。
- (自由時間) 問：あなたの自由時間は、1日に何時間ぐらいですか。

睡眠時間とゲーム時間

睡眠時間

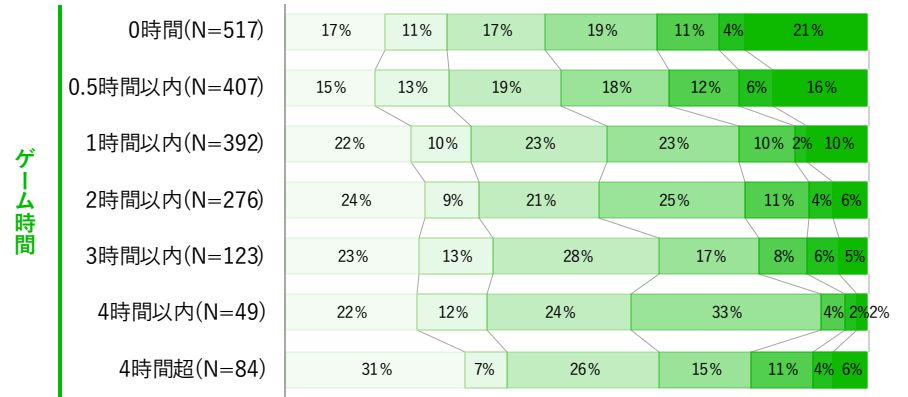
0時間以内 2時間以内 4時間以内 6時間以内 8時間以内 10時間以内 12時間以内 12時間超



勉強時間とゲーム時間

勉強時間

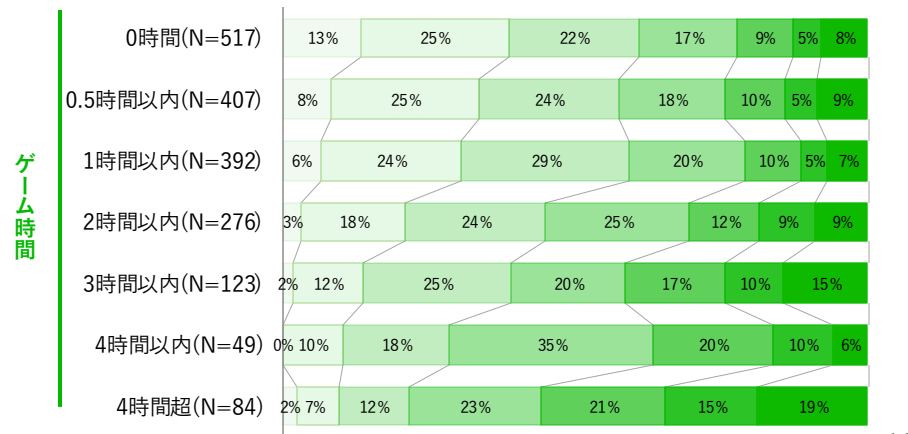
0時間 0.5時間以内 1時間以内 2時間以内 3時間以内 4時間以内 4時間超



自由時間とゲーム時間

自由時間

2時間以内 4時間以内 6時間以内 8時間以内 10時間以内 12時間以内 12時間超



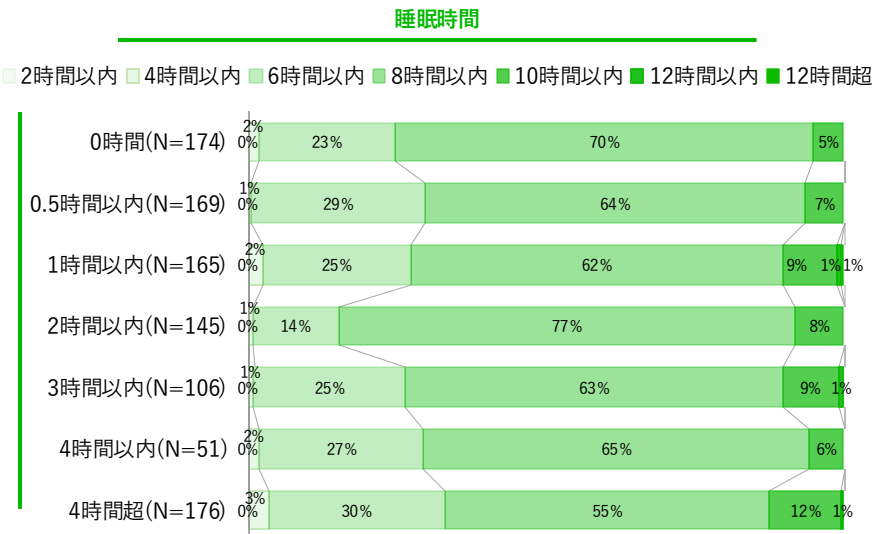
9 - 6 ゲーム利用時間と生活時間の関係 <就職・専門学校・その他の高校生>

高校生の大学進学希望以外の層を抽出して生活時間（勉強時間・睡眠時間・自由時間）とゲーム利用時間の関係进行分析すると、ゲーム利用時間に関わらず睡眠時間と勉強時間は一定です。ゲーム利用時間が長いと自由時間は長くなる傾向があります。

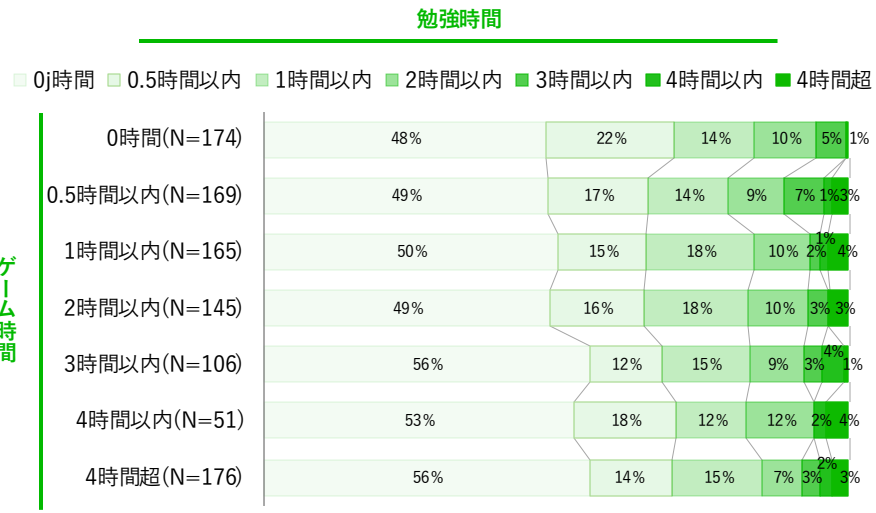
大学進学希望以外の層は、自由時間が長く、一定の割合でゲームの時間に使っている実態がわかりました。

- (利用時間) 問：あなたは携帯電話を1日に何時間ぐらい使っていますか。
- (勉強時間) 問：あなたは学校の授業以外で、勉強を、1日に何時間ぐらいやっていますか。
- (睡眠時間) 問：あなたの睡眠時間は1日に何時間ぐらいですか。
- (自由時間) 問：あなたの自由時間は、1日に何時間ぐらいですか。

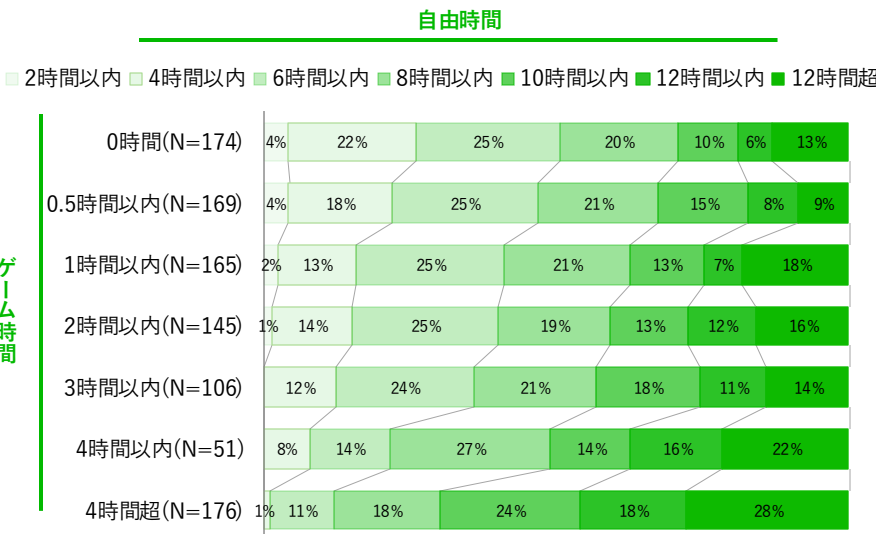
睡眠時間とゲーム時間



勉強時間とゲーム時間



自由時間とゲーム時間



青少年のネット利用実態把握を目的とした調査

令和元年度最終報告書

発行日 2021年4月16日

発行者 一般財団法人 LINEみらい財団
〒160-0004
東京都新宿区四谷一丁目6番1号 四谷タワー23階

共同研究 多摩大学 情報社会学研究所
教授・所長代理 山内康英
客員教授 小松正
教授 田代光輝

調査協力 神奈川県教育委員会

装丁・デザイン アラサキデザインスタジオ